THE TAIWAN JIHO

臺灣時報

三月號

內容目錄記入濟
EAST ASIATIC ECONOMIC INVESTIGATION BUREAU
APR 5 1927
SOUTH MANCHURIA RAILWAY CO., LIMITED.

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣時報發行所

臺灣時報發行の趣旨

政事、時事、農事、工事、商事、學術技藝、統計等の報道評論特に臺灣に於ける統治狀態及び諸般の情況竝に南支南洋に關する事項を周知せしむる爲め臺灣時報を發行す。（發行規定第一條）

臺灣時報發行所役員

評議員長　後藤文夫

評議員（以下イロハ順）

石坂荘作　今井周三郎　井村大吉　伊藤猿吉　岩本多助　西川利藤太　醫學博士 堀內次雄　宮田松彥　富地近思　陳鴻鳴　陳中和　林熊徵　林獻堂　林烈堂　林鶴壽　李延禧　大竹勝一郎　農學博士 大島金太郎

大越大藏　太田吾一　渡邊金造　川崎軍治　簡朗山　片山三郎　吉岡荒造　楊吉臣　醫學博士 高木友枝　高橋親吉　田村武七　田村藤四郎　田賀奈良吉　高山仰　瀧田傳吉　武田英一　津田毅一　津久井誠一郎

鼓包美　妻木栗造　永田隼之輔　宇賀四郎　草鹿砥祐吉　醫學博士 倉岡彥助　久米孝藏　松岡富雄　牧山清砂　松本晃吉　藤野幹　古木章光　小松吉久　吳昌才　辜顯榮　古賀三千人　黃欣　吳汝祥　黃春帆　後藤和佐二　枝德二　鄭神寶　赤石定藏　赤司初太郎　後宮信太郎

荒卷鐵之助　相原祐彌　近江時五郎　坂本素魯哉　佐々木紀綱　柵瀨軍之佐　皿谷廣次　桑蓮舫　齋藤透　佐藤得太郎　木村久太郎　木村泰治　許廷光　喜多孝治　木下信　三好德三郎　三浦碌郎　生野團六　白勢黎吉　徐杰夫　遠藤所六　平山寅次郎　森廣藏　本山文平　鈴木重臣

編纂委員

猪股松之助　今川淵　生駒高常

服部武彥　原口竹次郎　大澤清高

常務員

大竹勇　和田一次　和田博　鎌田正威　橫光吉規　田端幸三郎　中瀨拙夫　中田榮次郎

中田秀造　內田隆　深川繁治　古山榮三郎　淺野安吉　佐藤續　水越幸一　城間垣人

編輯係　秦滿　鷹取田一郎　泉芳德　葉山石雲

眞倉民治　安藤泰夫　鈴木重男　伊藤憐之助

昭和二年三月十三日印刷（每月一回）
昭和二年三月十五日發行（十五日發行）
（定價一部郵稅共金三十五錢）
（廣告料一頁金二十圓）

發行所　臺灣總督府內　臺灣時報發行所
振替貯金口座臺灣二〇七〇番
電話總督府內第八九番

臺北市東門町一五八番地
編輯兼發行人　伊藤憐之助

臺北市本町一丁目十九番地
印刷者　中村誠道

臺北市榮町一丁目二十七二十八番地
印刷所　松浦屋印刷部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大阪市高麗橋

株式會社三十四銀行

資本金五千萬圓

各地支店
東京、京橋（東京）、京都、神戸、兵庫、尼崎、尼崎東、西宮、姫路、
廣島、德島、阿波池田、奈良、伊丹、傳法、臺南、高雄、
（大阪市内）南天滿、雜喉場、堀江、日本橋、九條、朝日橋

本行之特色
銀行一般の業務の外擔保附社債信託法に依り信託事業を兼營す
事業資金部を置き工業資金の供給を爲す
外國爲替は香港上海銀行の代理店として最も便宜に取扱を爲す

臺北支店　臺北市本町二丁目
（電話三四、五六、二一九五）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣時報 昭和二年三月號目次

口繪　芝山巖記念祭

時言

林務打合會議に於る訓示……片山殖産局長……一

植民地の教育政策……山本美越乃……六

我が工業の發達經過……吉野信次……一三

時報

芝山巖記念祭　御大喪遙拜式　恩赦　總督諭告　紀元節儀式休止　社會事業奬勵御下賜金　慈惠救濟資金下賜さる　總督諭告　青年會處女會へ奬勵金下附　總督の官民招待午餐會開催　外米輸入關税免除　島内各銀行預金利下げ　林務打合會議　全島中等學校長會議　臺北市主催蔬菜家禽品評會……二〇

「財政讀本」を紹介す……長谷川茂雄……二三

寄書

植民地に於ける教育制度……淺香末起……二六

舊套を捨て、新しいメートル法へ……山口鈕五郎……三六

講演

刑政の本義……後藤和佐二……四〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

D218

說苑

行旅雜抄……石川欽一郎……四九

フイリッピン雜感……戸田龍雄……五六

新高山を中心として……青木繁……六三

調査研究

臺灣動植物探究略史(二)……堀川安市……七四

一九二六年及一九二七年の世界砂糖市場……山岸祐一譯……八九

林業勞働部落造成の必要を論ず……矢田貝寛……一〇四

島情

臺灣金融統計……財務局金融課……一二〇

臺灣貿易統計……總督府稅關……一二六

文苑　漢詩　俳句……一三三

臺灣日誌　人事消息　任命……一三八

支那及南洋情報……總督官房調查課……一—七三

支那　比律賓　佛領印度支那　暹羅　英領馬來　蘭領東印度

支那及南洋其他海外重要記事索引……總督官房調查課……一—一九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支店出張所

臺灣

基隆　新竹　臺中　嘉義　臺南
高雄　宜蘭　淡水　桃園　南投
屏東　臺東　花蓮港　澎湖島

株式會社 臺灣銀行（臺北）

支店出張所

支那

上海　漢口　福州　廈門
汕頭　香港　廣東　新嘉坡

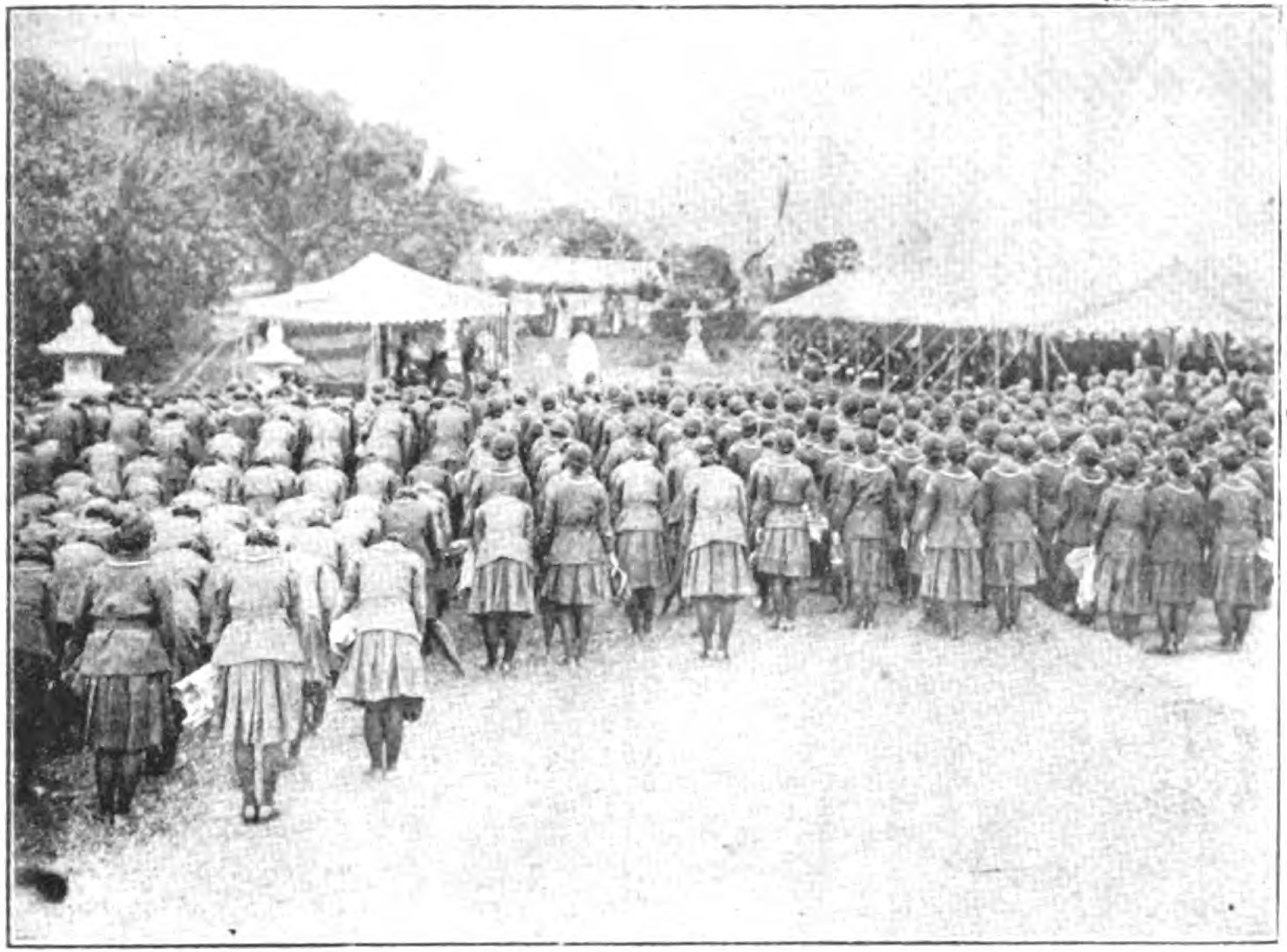
其他

スラバヤ　スマラン　バタビヤ　孟買
カルカッタ　倫敦　紐育

内地

神戸　大阪　横濱　東京

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



芝山巖祭典と參列の上山總督

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

三月號

林務打合會議に於ける訓示

片山殖産局長

今回營林所各出張所竝各州廳林務主任の會同を求め山林經營竝民林奬勵事務の打合を爲すに際し一言所懐を述べて各位の留意を乞はんとす本島に於ける林野は其の面積に於て全土の約七割を占め其の地積廣大なるのみならず立體的には熱帶より寒帶に亙る各森林帶を包有し從て樹種の多種多樣に亙るのみならず其の地況は概ね山嶽重疊急斜地多く爲に山林の經營の複雜多難なるは言を俟たざる所なり加ふるに本島に於ては重要の意義を有する理蕃關係の伴ふものありて更に一段の工夫を要するものあり此間に處し交通不便の地方に出入し實地に直接して山林經營の職にある各位の勞苦は深く多とする所なり、今本島山林の現狀を通觀するに

島民は古來の習俗に依り愛林の思想極めて乏しく且蕃地に於ては蕃人の尙未だ定地耕に進むの域に達せず爲に林野の荒廢は到る處甚だしきものありて復舊改善を要するもの極めて多き現狀に在り是寔に本島の林政上遺憾に堪へざる所なり、惟ふに山林經營の眞義は治水保安の目的を達すると同時に合理的なる林業の經營に依て林產の增殖を期するに在り各位は宜しく其の任務の重大なるを自覺し能く實地に親み深く地方の民情と立地の關係を攻究し以て其の經營又は指導に遺憾なきを期せらるべし以下項を分ち聊か各位の留意を乞ふべき事項に付一言せん。

一、森林計畫事業の創始

本島の山林が前述の如く極めて患ふべき現狀にあるは如何なる原因なるや一は山林に對する愛護の念乏しき民族性に因ると雖も古來曾て林政に意を用ゐず國家として確固たる方針の樹立せる所なく有限の林地に對し恰も無盡藏の寶庫を開發するが如き誤れる觀念を以て山林に對したる結果に外ならず卽ち林政の基本計畫を定むるは本島全體の經營上根本的施設の一たることを認められ昨年度以降森林計畫事業を創始せられたる所以なり當初は十五箇年を以て完成するの計畫なりしも本島林野の現狀と諸般の事情に鑑み來年度より更に擴張の計畫を定め向ふ十箇年を以て之を完成せんとする計畫なり本事業に於ては特に治水關係に重きを置き治水調査と相俟て其の計畫を樹立するの方針を採れり之れ本島に於ては山林經營上特に治水に重きを置くの必要を認められたる結果に外ならず本事業は固より總督府直營の事業なりと雖も各地方に於ける各位の助力に俟つべき所多きを以て各位は宜しく其の任務に應じ本業の進捗と完成に助力せられんことを望む。

一、山林の保護取締

本島林野の被害中保護取締の困難にして被害の大なるものは無斷開墾、火災及び盜伐なりとす而も取締機關の未だ不備なる結果其の弊習著しく改善するに至らざるは遺憾に堪へざる所なり殊に最も遺憾に感ずる所のものは無斷開墾と造林地の火災にあり、取締機關の充實に關しては固より當局に於て攻究中に屬すと雖も各位は常に地方の實情に應じ最も適切なる方法を攻究し可及的周到の取締を行ひ以て其の被害の減少、弊風の矯正に努力せんことを望む。

一、造林事業の改善

造林事業に關しては各位の熱心なる研究と努力とに依り逐年改良の實を擧げつゝあるは最も喜ぶ所なり然れども之を既往の成績に鑑むるときは其の失敗の事例亦甚だ少なしとせず殊に樟樹造林に於て最も甚だしきものあり今之が原因を考ふるに固より各種の事由ありと雖も就中其の最大なる缺點は深く立地の關係を考慮せずして所謂一齊造林を行ひたるに基因するものと認む適地適木は造林上動かすべからざる原則なるが殊に本島の如き地形最も複雜なる山嶽林の經營上に於ては一層重きを措かざるべからざる所なり各位は宜しく造林に關しては向後必ず適地適木の主義を守り能く立地の條件を攻究し以て造林の成績を擧ぐるに遺憾なきを期せんことを望む。

一、林産利用の改善

本島に於ける林産の利用は一般に極めて粗放なるは各位の知了せる所の如し之が利用を集約ならしめ以て天然資源の活用を充分ならしむることは又目下の急務なりとす、而して利用の集約を期するの途固より種々あるべしと雖も就中其の最重要なるものは運搬設備の改善にあり、營林所直營の作業所に於ては夙に此の點

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に意を用ゐ專ら之が改善に力めつゝありと雖も立木拂下の箇所並一般民林に於ては殆んど之に留意せざるものゝ如く爲に林木の著しく低位にあるのみならず天然資源の利用粗放の域にあるは遺憾に堪へざる所なり、今次の會同を期とし太平山作業所の視察を行ふなどゝなしたるは主として之等の點に關し攻究の便を供せんとするに外ならざる次第なり、各位は能く此の點に留意し林木利用率の增進を圖るに關し一層の攻究を望む。

一、民林奬勵の促進

本島民林の植伐關係は最近の統計に徵するに大正十三年に於て伐採面積七千甲に對し造林面積七千四百甲大正十四年には伐採面積七千三百甲に對し造林面積九千三百甲に達し多年植伐跛行の狀態に對し一新記錄を作るに至れり、之れ民林奬勵上大に喜ぶ所なり然りと雖も本島島民は尙山林に對する合理的の觀念を有せず一歩を誤れば益々山林荒廢の結果を來たし患を百年の後に貽すの虞なしとせず民林奬勵の局に當る者は宜しく島民の實情に鑑み益適切なる指導に力むると同時に島民の山林愛護の思想を養成するに努めん事を望む。

一、營林と治水との關係

臺灣に於ける天然資源中其の第一位を占むるものは東西の兩岸殊に西部海岸に於ける平野に存することは諸君熟知せる所の如し然るに本島の地形より來たる急流の河川は到る處亂流の狀を呈し之等富源の開發に著しき障害を爲せるは又諸君の既に知了せる所なり近時治水工事の進捗と共に漸次其の慘害の度を減じ次第に耕地面積の增加を見つゝあるは最も慶すべき所なりと雖も之と相應じて山林の經營宜しきを得るにあらざれば到底充分なる成果を收むるを得ず治水に對する治山の關係は大陸に於ける夫れと異なり其の密接なることは唇齒の關係も啻ならざるものあり此の點より見れば臺灣に於ける山林は其の全部が一大保安林の意義を有

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

すと謂ふも過言にあらず、惟ふに臺灣は其の地形と地質竝雨量の關係に鑑むるときは治山を以て直に治水の效を奏し難きは見易きの理なり世上往々之を以て臺灣に於ける治山の要を輕視せんとするものなきに非ず山林の經營に當る者の間にも往々にして尚且斯の言あるを聞くは最も遺憾とする所なり治山のみを以て治水の效を奏し難き程の地形なるが故に治山の要は更に一層切實なるものあるなり、山林經營の任に在る者は啻に林地の利用に依る直接の生產のみならず一面に於て最多數の生民と最大の富源を保護するの觀念と抱負を以て其の局に當らんことを望む。

一、山林開發の意義

終りに臨み一言せんとす世上往々臺灣森林の現狀を見て其の開發の急務なることを唱ふる者あり達觀的に之を見れば臺灣の山林は尚未開發の狀態に在るを以て其の開發の緊要たることは固より滿腹の同意を表するものなり然れども此の同意には一箇の條件あり他なし其の開發の意義は必ずや眞實なる山林の開發ならざるべからざること是なり、眞實なる山林の開發とは何ぞや立地の關係を研討したる合理的山地の利用是なり若し夫れ單に現在の林木を利用して更新の途を講せず急斜地を開墾して將來の荒廢を意とせざるが如きは畢竟名を山林開發の美名に藉りて一身一時の私益を圖るのに過ぎず是れ資源の掠奪なり、山林の荒廢なり斷じて眞の山林開發にあらず吾人の斷乎として排斥せざるべからざる所なり此の間の區別深く留意を要す、以上は本島の山林經營に關し最重要と認むる諸點に關し所懷の一端を述べたるものなり、言簡にして意を盡さゞる點多し詳細に亙りては各主務課長との間に於て充分なる打合と研究とを希望する。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

植民地の教育政策

法學博士　山本美越乃

帝國議會の開會と共に政治、經濟、産業、社會各方面の幾多の審議すべき問題が、例によりて議會を賑すことであらうと思はるゝが就中、多年の懸案として毎年論議せらるゝ題目の一は、植民地の統治に關する問題である。我國の植民地の統治は明治二十八年に臺灣の領有を以て初まり、その後樺太の領有、關東州の租借、朝鮮の併合、南洋諸島の委任統治等過ぐる四半世紀間に移植民的活動の世界的潮流に乘じて、兎にも角にも外延的には世界における一植民國たる地位を獲得する所まで漕ぎつけたが、さて内省的にその間における我國のこれ等の地方に對する統治方法如何を考察する時は、遺憾ながら双手を擧げて賛成することの出來ないものが少からずある。

かつて植民地の原住民を奴隷視して彼等の人格を認めず、また事實上においてもこれを牛馬の如くに驅使することを以て、あたかも母國民の特權なるかの如くに考へこゝに一種の民族的優越感に對する滿足を求め得たる時代には、彼等をして愚ならしむべく貧ならしむべからず、これをして依らしむべく知らしむべからずといふ主義も通用したものであるが、かゝる時代はすでに去り、殊に教育の普及及び進歩したる宗教的信念の感化に加ふるに、歐洲戰爭後ウイルソン等によりて主張せられたる民族自決主義の理想は、次第に植民

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

地原住民の思想上にも大なる反響を與へて彼等の自覺心を促さしめ過去におけるが如き專制威壓の屈辱に甘んせずして、却て反對に自治自由を强要せんとするの風を生ずるに至つた。この事は將來の植民地の統治策を考ふるに當たつて我爲政者の特に注意せねばならぬ點である。

生れて當歳の幼兒も十年を經過せば十歳となり、二十年を經過せば成年となる、幼少年時代には父母の威壓に服したるものも、すでに成年期に達する時は假令父母の威力を以てしても、これを如何ともすることを得ない自信力によつて自由行動を採らんとするに至ることは、日常の生活においても絶えず實驗せらるゝ所である。況んや產みの親子の關係でなく、いはば養ひ親子の關係に過ぎざる植民地の原住民等が、兎にも角にも自立し得べき實力と、內外よりの諸種の刺戟によりてその自覺心を促さるゝ時は、こゝに自治自由を要求するに至るといふ事は自然の勢ひであつて、毫も怪しむに足らぬ。ゆゑに母國の植民地に對する平素よりの心懸けは、恰も親のその子に對するが如く、何れはその子の成年期に達する時期のあるべきを豫想し、かかる場合にたとへ自立することありとも、親密なる親子の關係はなほこれを持續しつゝ、互にその隆昌繁榮を計らんとするには如何にすべきかといふことを常に念頭に置いて諸般の政策を講ずるに在る。この根本精神より論ずる時は、少くとも我國が從來植民地に對して採り來りし母國延長主義を基礎とせる政策の如きは誤れるものであるといはねばならぬ、何となればかゝる主義を以て植民地に臨む時は諸般の政策は勢ひ自から母國本位とならざるを得ないからである。母子兩國の親密なる關係を持續して相互の發達隆昌を望むことが植民地統治の最終の目的であつて、母國風に植民地を仕立て上げんとするが如きことはその目的でも理想でもないのである。

然らば母子兩國の親密なる關係を持續して相互の發達隆昌を期せんと欲せば、如何にせば可なるやといふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に、その要諦はこれを一言にして盡くせば、植民地原住民をして先づ衣食を足らしめ、然る後徐にこれに禮節を知らしむるの道を講ずる事である。「衣食足つて禮節を知る」とは千古の名言であつて、未だ衣食を足らしむる道を敎へずして、徒らに禮節に倣はしめんとするが如きことは、本末を顚倒せるものといはねばならぬ。しかして植民地の富源の開發によりてその住民に衣食を足らしめんとせば、根本において考慮せねばならぬ最も大切なる問題は、いはゆる植民地原住民の敎育問題である、詳言せば植民地の原住民に對しては如何なる敎育を授けなば、その敎育の結果が眞に彼等の血となり肉となり、小にしては一身一家を幸福ならしめ、大にしては母子兩國の福祉を增進せしむることを得るかといふ點に深く注意し、「如何にこれを敎育すべきかとの方法問題」よりも「如何なる敎育を必要とすべきかとの目的問題」に重きを置いてこれを決定する事が何より肝要である。

尤もこの事は獨り植民地のみならず、母國においても近時の如くに敎育の結果が往々國民の血となり肉とならずして、寧ろその血を絞り肉を殺ぎ、高等なる敎育を受けたる者の間に却て衣食足らざる者を續出せしめ、一種の敎育中毒の弊に陷りつゝある所にありては、等しく愼重に攻究されねばならぬ大問題であるが、併し母國における敎育問題は、多年の歷史と諸種の關係より一朝にしてこれを改むることは容易でないとしても植民地においては全く事情を異にし、何等かゝる歷史的又は相關的の事情を顧慮するの要なく、全然新なる敎育方針を定めて自由にこれを實施することを得るのである。ゆゑに最初植民地の原住民に對する敎育はこれを如何にすべきかといふ大方針を決定する場合に、特に上述の點を愼重に攻究すべきで、これをなすには植民地は母國と全く事情を異にせるものあるより、爲政者及び敎育者等は廣く植民學者の意見をも徵してこれを參考とすべきである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

これを植民政策上の見地よりせば、從來一般に教育者によりて頗る重大視せられたる母國語教育の如きは、植民地原住民の教育問題としては寧ろ末であつて、用語の如きは必ずしもこれを母國語に一定せしめねばならぬといふ要はない。母國語教育を偏重視することそれ自體が母國延長主義又は本國本位主義より派生せる誤れる一種の教育觀たるに過ぎぬ。かくの如きことは吾人のいはゆる「如何にこれを教育すべきかとの方法問題」であつて、それよりも更に緊切且重大なる問題は、植民地原住民には「如何なる教育を必要とすべきかとの目的問題」、卽ちいはゆる衣食を足らしむるに必要なる教育如何の問題である。この根本問題には多く觸れずして、寧ろ枝葉の問題とも稱し得べき用語の習得の爲に多くの時間と勞力とを捧ぐるが如きは、植民地原住民に對する教育の眞意義を解せざるものといふべきである。しかしかゝる事を植民政策上の知識に乏しき一般の教育者に責むることは寧ろ無理であつて、植民地の教育問題については爲政者及び教育者等は、よろしく植民學者の意見を徵してこれを參考とすべきであるといふゆゑんは實にこゝにある。

顧つてこれを我植民地教育の現狀に鑑みるに、以上の缺點をすでに今日に至るまで暴露し居るのみでなく、近時高等教育機關の設置は一層この缺點を大ならしむるが如き傾きがある。ゆゑに若し現狀のまゝにして進まば、我植民地は誤れる教育政策のために母國との親善はおろか、遂には相互の意思の疎隔を愈々大ならしむるに至る恐れがある。以上吾人は多少抽象的且一般的に植民地の教育問題を論じたのであるが、之より更に進んで今少しく具體的にその然る所以を述べて見ようと思ふ。

等しく植民地と稱するも、樺太には少數のアイヌを除いては原住民は殆ど居住せずといふも不可なき位に僅である。從つて彼等に對する教育政策の如きは最初より問題とはならぬ。また準植民地たる關東州は純然たる植民地とは多少本質を異にするより之を同一に論ずることを得ないものがあるし、今日に至る迄は大體に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

おいて教育政策上特に批評を加ふべき程のものはない、もし强ひて希望を述ぶれば、ひとり關東州内のみならず滿鐵沿線の教育機關の如きも、能ふべくんばこれを關東廳の統轄の下に置き、現在は鐵道沿線の教育、土木および衛生に關する行政は滿鐵の管掌に屬するも、少くとも教育行政については關東廳をしてこれを統一せしむるを可とせずやと考へらるゝ。しかしこれ等の問題よりも吾人は朝鮮及び臺灣における原住民に對する教育政策の頗る重大視すべきものあるがゆゑに、これについて卑見を述べよう。

朝鮮及び臺灣の原住民に對する教育は、如何にせばこれ等の地方に於ける天然資源の開發を全ふし、これを以て彼等の經濟上及び社會上の地位を向上せしめ、ひいて母子兩國の隆昌繁榮をもたらさしむることを得るかといふ點に著眼してその教育方針を定むべきで、換言せば彼等に衣食を足らしむる教育を授くることを以て最先の急務となし、爾餘の教育はこの第一目的を達したる後に、徐にその必要の程度及びこれが一般的の效果を攻究して施否を決すべきで、植民地原住民に對する教育の根本方針は、實にこゝに置かれねばならぬ。更にこれを詳言せば、彼等の習得したる知識は直にこれをその富源の開發に應用し得べき性質のもの例へば農、林、鑛、水産及び各種の工業等に關する教育を授くるを以て主眼とし、さなきだに空想に耽り空論を喜ぶの風ある植民地原住民に、やゝもすれば徒らに空理を弄ぶの弊に陷り易き抽象的の知識例へば法政文科等に關する知識を率先して授くるが如きは誤りであるといはねばならぬ。かゝる方面に關する教育は、必ずしも巨額の國費を投じ植民地原住民のために特別の教育機關を設けてこれを教授せねばならぬ必要はない若し植民地住民にしてこれ等の教育を受けんと欲せば母國に來遊せば可なりで、母國における公私の教育機關は彼等の希望を十分に滿たし得るのである、のみならずこの種の教育は一度これを誤る時は、民族的自覺心を極端なる方向に導き、母子兩國の親善を維持するよりは、却つてこれを傷ふに至る危險をさへ伴ふものである。

以上の主旨より吾人は朝鮮大學に法文科を率先して設置したることは植民地原住民に對する教育の根本方針より贊意を表することは出來ぬ（たとへこれは朝鮮人のための教育機關でなく、寧ろ内地人の爲の教育機關であるとしても、この種の大學は我國の現狀においては最早過剰の狀態にある）。朝鮮及び臺灣においては下は普通の教育より上は高等の教育に至るまで農、工、理、醫等に關する教育機關を充實せしむることは極めて必要なるも、其他の諸學科に關しては特にこれを急設するの要なく、況んや財政上において未だ自立自給の地位に達せず、年々少からざる母國の補助を仰ぐにあらずんば、植民地政府の財政を維持することを得ない狀態にある朝鮮において、かゝる不急の教育機關のために少からざる國費を投ずるが如きことは誤れりといはねばならぬ。吾人は今や新設の途上にある臺灣大學において、たとへ財政上は自立自給の狀態にありとしても、かくの如き誤れる教育政策を再び繰返さゞるやう政府當局の省慮を促してやまぬものである。

（大阪每日新聞新年號附錄論說轉載）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

我が工業の發達經過

商工書記官　吉野信次

我が經濟界特に工業界に於ける不振不況の聲は久しい。政府に於ても民間に於ても如何にして局面打開の方途を講ずべきかが喫緊焦眉の問題であらう。之等の方策を究明樹立するに當り第一に心得ねばならぬことは、我國の工業は明治維新以來如何なる沿革を經て發達して來たかの點である。簡單ではあるが大體の概念を得るの資とならば幸である。

一　產業革命と工業

工業といふものは精確な定義ではないが、常識上の概念としては原料や材料に加工を施して其經濟的價値を增す行爲である。此意味に於ける工業の實體は古代中世に於て既に存在して居た。例へば織物工業の如く、人類の日常生活に密接な關係を有するものは可成り古くから其製造の技術が發達して居つたのである。紀元一世紀に「ヴェスビアス」火山爆發の爲に埋沒せられた「ポムペイ」の發掘の遺跡などを見ても水道の鐵管の布設せられてある所を見ると鐵工業といふやうなものも今から二千年も前に既に存在して居つたことが判る。「バビロン」の發掘などに付て見ると今日の硝子が今から四千年五千年も前に存在して居つたといふことである。

法なりは古代中世と今日とでは大なる相違がある。一言にして云へば古代中世に於ける工業企業の經營の形態は家内工業又は手工業で、今日見るが如き工場組織の經營は全くない。工場經營は近世になつて始めて行はるゝに至つたので、其行はるゝに至つた原因も種々複雜して居る。要するに近世政治、社會經濟上の大變化の結果製品の販路がこれ迄のやうに地方的の一局部に限られず廣くなつた結果、之れが生產も家内工業や手工業的の小規模では到底間に合はぬことゝなつて大量生產の必要が生じた。そこで工業の經營方法が從來と全く面目を一新して大規模の工場經營となつたのである。此變化を學者は產業革命といふ。產業革命の由來沿革に付ては一の廣汎なる研究の題目であるから茲には述べぬ。只歐米何れの國に於ても時の早い遲いこそあれ、又はその程度の大小深淺こそあれ、皆產業革命を經て今日の工場經營の工業の發達を來したことを申せば足りる。而して我國に於ける工業發達の沿革を明にするには先づ如何にして我國の產業革命は行はれたか。換言すれば昔風の家内工業や手工業的の經營方法の經營方法より如何にして工場組織の近代工業に移つたか。又移りつゝあるかの事情を明にせねばならぬと思ふ。

二　我國の產業革命

我國に於ける產業革命は歐米諸外國に比すると餘程趣の異つた所がある。之は獨り產業上の事のみではないが、我國は德川幕府の鎖國の爲めに世界の舞臺に現はれ出でたのは諸國よりも、ズツト遲れて居る。遲れて來て人並に追隨して行かうといふのが維新後明治年間に於ける我々の先輩の各方面に於ける努力奮鬪であつた。產業の事に付ても同樣である。外國に於ては政治上なり社會上なり殊に經濟上なりの種々の原因事情が輻輳し、どうしても從來の家内工業や手工業的の小規模經營方法では實際の要求を充すことが出來ぬ。夫

れ故に機械を應用利用し分業を廣く行ひ、大量の生産を爲す工場組織といふ企業の一形態を工夫考案して、所謂産業革命の實を招致するに至つたのである。然るに維新當時の我國の事情は産業革命を生せしめねばならぬ。經濟上及社會上の理由があつたかと云へば、あつたことはあつたが、左程差迫つて居つたと云ふ譯ではない。即ち人爲的に之を促進するやうな方策に出でずして、之を自然の狀態成行に放任して居つても當時産業上の革命が我國に行はれるといふ程に一般事情が熟して居らなかつたと思ふ。只人より遲れて國際場裡に出たのだから人並に追付かうと云ふ念慮に燃えて居る。それには自然の發達に放任して置いては手緩いといふ譯で政府自らが産業革命成就の音頭をとることゝなつた。此點は外國に於ける産業發達の沿革と趣を異にする所であつて、先進國に於ては大體民間企業が先づ起つて政府奬勵補助は之に追隨するのである。明治維新政府は諸外國から諸種の近代工業を移植せんとし、所々に官營の工場を建設した。一般民衆には未だ近代工業の理解などはないから民間企業が勃興するのを待つては所謂時勢に遲れる。されば政府自身が外國から機械設備を買入れ、外國の技術者を雇入れて新規の企業を起すより外途がない。此意味に於て明治初年から十一、二年頃迄は盛んに官立工場を起した。其外國から移植せんとした工業の種類も生絲、紡績、造船、毛織物、硝子、セメント、煉瓦、機械等各種のものに及んで居る。生絲などは我國固有の工業であるから民間企業として自然に今日の發達を來したやうに思へるが、實は工場經營の器械製絲工業は明治三年群馬の富岡機械製絲工場を政府が設けて外國技術者の指導を受け漸次發達したのである。今日堂々たる民間企業として榮えて居る東京地方の工場に就て見るも例へば深川の淺野セメント工場、石川島造船所、品川白煉瓦工場などいふものも前身を洗つて見れば官立工場を拂下げたものである、中央政府が旣にかくの如く諸種の官立工場を設置經營したから、各地方廳に於ても之に倣つて其地方地方に適當なる工業の種類を選んで所謂模範

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

工場といふやうなものを作つた。今日の大日本麥酒の前身たる札幌麥酒の如きも北海道開拓使廳が設けた官立工場の一つである。之等中央地方の官廳の努力に依つて兎も角も我國に於て、外國から近代的の新しい工業を移植することの端緒が開けた。言葉を換えて言へば我國に於ける產業革命は官の力に依つて其緒に付いたのである。かくて明治十三年に至り、時の政府は千住製絨所丈は陸軍の被服材料供給といふ特別の目的を有するが故に之を除いて其他一切の官立工場は民間に拂下ぐる方針をとり官營工場拂下規則を制定した。何れは民間に拂下げて民間企業として產業の發達を企圖せねばならぬのであるが明治十三年頃に既に此方針を採用したことは果して適當の時期であつたかどうかは今日から論ずれば疑がある。今少し官の手で育て上げて然る後に民間に移した方が我國產業の健全なる發育の爲には寧ろ利益でなかつたかと思ふ。其議論は暫く措き、十三年拂下の方針を確立したけれども當時財界が不況であつたといふ事情もあつて民間から拂下を希望して來る者は仲々少い。十七、八年になつてぼつぼつ拂下が行はれたが、それでも大觀するに我國工業の發達は日清戰爭迄は殆んど云ふに足らない有樣であつた。

三　我工業の勃發期

日清戰爭の結果三億五千八百萬圓といふ償金を支那からとり、而も其大部分は之を產業開發に振向くることになつた。當時の政府の施設にして產業の伸展を目的とするものは種々あつたが、就中二十九年には勸業銀行法、農工銀行法を制定して不動產金融の制度を設けた。各府縣の農工銀行などは償金から八百四十萬圓を支出して縣の持分としたと記憶して居る。造船奬勵法の制定も同じく二十九年であつた。三十年には生絲輸出奬勵法や重要輸出品同業組合法の制定を見た外、我國の貨幣制度は金本位制を採用することに決定した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

民法商法は三十一年の制定である。會社組織が工業企業の經營の形態として個人企業に比して種々の利益が存することは云ふ迄もない。個人の生命又は財産には限りがあるが會社組織とすれば法人格を付與せらるゝから其生命は會社の存續する限り何時迄も存在し又多數の人から假令零碎の出資を集むるとしても必要なる資金は何程でも集め得らるゝ仕組である。それ故に會社組織の制度も明治維新直後早くから外國より之を輸入することを政府は盡力したのであつて、工業會社の嚆矢は既に明治五年抄紙會社の設定に之を見ることが出來る。之は今日の王子製紙の前身である。商法が制定せられて會社に關する權利義務の關係も明確になつたから其後會社組織が一般産業界に盛に設立せらるゝことになつたことは想像するに難くない。之を統計に徵するも工業會社の數は舊商法時代の二十七年頃には千に足らなかつたが三十二年には二千二百五十三に達して其資本額も漸次膨脹したことは勿論のことである。

かやうの次第で日清戰爭後日露戰爭の始る時迄に我國の工業は一大飛躍をなした。此の間に於て民間企業が大に勃興したのであるから眞實の意味に於ては所謂産業上の革命は日清戰爭以後に行はれたと云つても差支はあるまい。官立工場の時代は寧ろ其前驅と見るべきであろう。工場の數も日清戰爭の始る頃は六千足らずであつたが三十二年には六千七百、三十六年には八千二百有餘を算して居る。而して之等の種類はドンナものが進歩したかと云ふと紡績、製紙、人造肥料、皮革、毛織物、造船、製麻、モスリン、麥酒、製粉等は當時の工業の錚々たるものである。臺灣の領有以來製糖事業も漸く發達の緒に付いた。其以後の我國の工業の發達に付ては多く云ふべきものがない。日露及歐洲大戰役の二大戰爭を轉期として急激なる進歩を遂げたことを注意すれば足りる。殊に最近の歐洲大戰に際しては所謂戰爭成金がうようよ國内に出來たことは未だ吾人の記憶に新なることである。何せ歐洲戰爭は之に參加した國の數は非常に多い。工業の先進國は殆んど

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

凡てが之に參加したから何れも國內の產業を悉く擧げて、戰爭の遂行に餘念がない。それだから平常の如く工業製品を國外に輸出するなど云ふことは思ひもよらぬことである。反對に種々なる物資を外國の供給に待たねばならぬ必要が頗る大であつた。其結果は世界市場に於ける物資の供給の平衡は破られ、甚しき缺乏に苦むことゝなつた。

此處に於ても比較的戰爭の影響の少い國を目掛けて世界各國の需要は殺到せざるを得ぬ。我國の工業界はかくの如き理由で戰時中は一時黃金時代を現出した。商品を製造しさへすれば工業家は利益を得る。商人は之を豐つてさへおけば値段は天井知らずで刻々騰貴してゆくから必ず儲かる。そこで我國の工業は既設のものは悉く其規模を擴張したのみならず、諸種の新規工業が雨後の筍のやうに續出した。戰爭前は久しく貿易も輸入超過で我兌換券發行に對する正貨準備の心細さを泌々感じて居たものが戰爭中年々輸出超過で二十億圓からの正貨の輸入を見たなど云ふことは丸で夢のやうであつた。これ程ではなかつたが、日露戰爭の終る當時も財界好況の有様で、種々の工業企業が一時に企てられた。然し乍らかくの如きは全く僥倖である。千載一遇の好機會と云ふべきものだ。此秋に當つて國民殊に工業家が自覺して自分のためにも國家のためにも百年の計を樹つることが出來たならば恐らくは我國の工業は今日よりも確實に且健實に發達して居つたらうと思ふ。惜しいかな我國に於ける產業革命は先進國に比して一世紀も遲れ、而も其の實現力も甚だ緩漫である。維新以後年を閱すること僅に數十年で工業の經營に對する國民的の經驗訓練が乏しい。故に日露、歐洲戰役を期として非常なる好機會に遭遇し乍ら國家百年の計を立せずして之を逸し去つたのは返す返すも遺憾此上ない。

四　工業の特質と工業家の覺悟

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

元來工業企業と云ふものは僥倖を覘ふ分子が殆んどないと云つてよい。極めてじみな仕事である。今日或る事業を始めて明日直ぐ利益があるといふものではない。工業の經營には實際やつて見ると色々の故障が出て來る。例へば實驗室で長年の間研究してもう大丈夫と思つて愈々之を工場作業に移して見ると思はぬ障碍が澤山に現はれる。之を一つ宛解決し乍ら結局成功の途を辿らねばならぬ。それ故に工業家に取つては可成り辛抱が要る。今日損失に損失を重ねても將來を樂しみに仕事を繼續する心がなければならぬ。又現に相當の利益を擧げて居るとしても現狀に滿足してはならぬ。工業技術は時々刻々に進むのであるから相當の利益を得たら其一部を割いて更に技術の發達研究に費したり、設備機械の改良や、工場經營方法を改善したりして多少でも製品品質の向上と生産費の低廉とを圖らねばならぬ。かくて其工業は始めて將來長きに亘つて其基礎を確立して榮えて行くのである。普通の商業であれば今日仕事を始めて明日に相當の利益を得れば、之を他に賣却してもよい。利益の存する所に從つて轉々して差支ない。之が工業と商業と經營者の覺悟の異ならざるを得ぬ點である。然るに我國多數の工業家には此工業家としての自覺が足りなかつた。例へば歐洲戰時中財界好況に際してはどんな事業を始めても儲かつた。工業の經營に丸で素人の人迄他人の利益を見ては之に手を付けるといふ有樣であつた。それでも利益がある。そこで眞に工業企業を以て自分の半生の仕事としやうと思ふならば其利益の一部を事業の進歩發展に投じなければならぬ筈である。戰爭景氣は一時的のものであるから戰爭がすんで、平和經濟の時代になつても自分の仕事を永續せしむるには景氣の良い時代に覺悟して準備せねばならぬ。機械其他の工場設備の充實を圖るとか、工場經營方法の改良を試みるとかして他の同業者に比して、少しでも良質の品物を安く供給することを工夫せねばならぬ譯である。然るに我國の多數の工業家は千載一遇の機會に遭遇し乍ら[illegible]

事業其物の改善伸展を圖らなかつたから、一度戰爭終了後の反動期に入るや當年の繁盛は槿花一朝の夢と化して今や我國の工業は何れも氣息奄々たる有樣を呈するに至つたのである。

之を要するに我國の工業は產業革命が未だ徹底しないから、工場組織の近代工業の外尙舊來の家內工業手工業の如きものに毛の生へた位の群小の小規模の工業も雜然として存する。其近代工業も根底が甚だ强固でない。戰爭の如き一時偶然の機會に漫然として起り其終了するや忽ち衰靡し一高一低常ない有樣である。今日の工業不振を叫ぶのも蓋し當然の成行と思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時報

芝山巖記念祭

我が本島教育の發祥地たる芝山巖の遭難六教育家及爾來本島に於て物故せる教育家の記念祭は例年の如く二月一日午前十時から同所に執行されたが、當日は上山總督を始め教育會長代理木下內務局長・後藤檢察官長・吉岡知事・竹屋・生駒兩秘書官・太田市尹・田端州內務部長・赤堀州教育課長・その他文教局職員・谷本博士・各高等專門學校長及中小學校長・遺族關係者等列席、臺北市一帶の各學校生徒も參集した。

御大喪遙拜式

二月七日夜、新宿御苑葬場殿に執り行はせらるゝ大正天皇御大喪の神儀を遙拜し永遠の御幸を悼み奉らん爲、臺北に於ては新公園に三間四方高さ三尺の齊壇を築き齊竹に注連繩を張つて圍まれた遙拜式場を設け同日午後十時より官民一同遙拜式を行ふた。參列者一萬餘、定刻神官の嚴肅なる祓式に式は始められ御饌を奠じ次で奉悼歌を奏して一同禮拜し、總務長官代理木下內務局長・勅任官總代後藤檢察官長・奏任官總代上內檢察官・判任官總代田邊技手・外國領事總代米國領事・民間總代大越大藏氏夫れぞれ玉串を捧げて禮拜し、神式奏樂裡に撤饌の儀を行ひ、十時二十五分森嚴なる式を終つた。

尙、各學校に於ても七日夜各々遙拜式を行ひ、又臺南、臺中、馬公をはじめその他全島各市街に於てもそれぞれ官民の遙拜式が行はれた。

恩赦

二月七日　大正天皇御大喪の儀を行はせらるゝに當り、畏くも　聖上陛下には恩赦の大詔を下し給ひ、卽日法相はこの恩赦につき訓令を發したが、同日上山總督は左記の諭告を發し、又、告示第十三號を以て赦免につき告示する所あり、刑務所に於ては直に恩命の傳達が行はれた。

諭告

昭和二年二月七日恩赦ノ令ヲ下シ給フ恭シク惟ルニ
今上陛下英明仁慈夙夜儆兆ヲ念ト爲シ踐祚改元ノ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大詔ヲ以テ之ヲ宣明シ給ヘリ今
大正天皇大喪儀ノ日ニ當リ此ノ仁恕ノ典ヲ布カセラ
ル是レ洵ニ愼終追遠ノ　叡慮ニ出ツ
天恩優渥誰カ感泣セサラム本島官民謹テ　聖旨ヲ
體シ無窮ノ　鴻恩ニ奉答セムコトヲ期セヨ

昭和二年二月七日

臺灣總督　上山滿之進

紀元節儀式休止

二月十一日紀元節は大喪中なるを以て各官衙及學校はその儀式を行はず、一般銀行會社等も同樣に事務を廢するのみに止められた。

社會事業奬勵御下賜金

恒例による社會事業奬勵御下賜金は紀元節當日その御沙汰があつたが、告示第十四號を以て發表され、本島に於いては臺北仁濟院以下二十七團體が總額九千四百圓、最高五百圓より百圓迄の御下賜金を拜受することになつた。

慈惠救濟資金下賜さる

御大喪に際し畏きあたりでは全國の慈惠救濟事業の資を補はせらるゝ思召を以て百五十萬圓を下賜あらせられたが二月十日官報號外を以て地方の頒賜額決定され、植民地割當額五十萬圓中、臺灣は七萬九百圓を下賜さるゝことになつた。（諭告是報）

諭告

今般國憂ニ丁リ
天皇陛下ハ博愛仁慈ノ思召ヲ以テ特ニ內帑ヲ發シ慈
惠救濟ノ資ニ充テシメ給フ深恩洪澤誰カ感戴セサラ
ム爰ニ御下賜金ヲ以テ恩賜財團大正救濟會ノ資金ニ
加ヘ長ク天恩ニ霑ハシメムトス本島官民謹テ聖慮ヲ
體シ以テ報效ヲ期セヨ

昭和二年二月十八日

臺灣總督　上山滿之進

青年會處女會へ奬勵金下附

二月十一日、臺灣總督名を以て青年會及處女會の事業奬勵のため全島各地の青年會及處女會へ各百圓宛下附されたが、右奬勵金を受けた者は臺北州四、新竹州二、臺中州二、臺南州四、高雄州三、臺東廳二、花蓮港廳二、合計十九團體である。

總督の官民招待午餐會開催

上京中の上山總督は二月十一日、總督府東京出張所に於て御大喪儀參列の爲上京せる臺灣官民諸氏三十餘名を招待して午餐會を開き、今回の御大喪及新帝御踐祚に際しての感想を述べて挨拶さるゝ所があり、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

後藤總務長官來賓を代表して答辭を述べ、御大喪儀の活動映寫等あつて散會した。

外米輸入關稅免除

二月十五日より勅令第十七號米穀法第二條の規定により米及籾の輸入稅は昭和二年十月二十一日迄之を免除さるゝことゝなり、臺灣も昨年より米穀法第二條の施行さるゝに至つた結果內地同樣の適用を受けるのであるが、本島に於る今後の外米輸入は增加するものと觀測されて居る。

島內各銀行預金利下げ

昨年銀行貸出金の利下げの行はると共に預金利下げの問題も金融界の注目する所となつたが既に內地東西各組合銀行に於ても預金利下を發表したので、本島組合銀行も二月十五日から左記の通り預金利下げを實施する旨、二月十日本島組合銀行から正式發表された。

臺灣銀行及內地銀行支店(三四、勸銀)定期預金六箇月以上年六分、當座預金日步七厘、小口當座預金日步一錢二厘

地方銀行(商銀・華南・彰化)定期預金六箇月以上年六分五厘、當座預金日步七厘、小口當座預金日步一錢三厘

尙、貯蓄銀行及各信用組合に於ても、之に伴ひ引きつゞき貯金、預金利下を行ふた。

林務打合會議

二月十四日、總督府會議室に於て、全島營林所各出張所主任及各州廳林務主任を會同して山林經營並に民林の奬勵等につき打合會議を開いたが、殖產局長より別記(本號卷頭)の訓示があつた。

全島中等學校長會議

全島中等學校長會議は二月十五日午前九時から總督府會議室に開催總務長官代理木下內務局長・若槻・山口兩視學官・古山・土性兩編修官、及全島各中等學校長列席、長官代理の訓辭に次いで諮問事項、一、本年度に於て學校經營上特に努力せる事項及其實績如何、二、寄宿舍に於ける訓育施設の實際的良法案、等に就き夫々校長より答申あり。新入學生徒選拔の良方法の研究問題の討議あり第一日を終り、十六七日に引つゞき右研究問題の審議を行つた。

臺北市主催蔬菜家禽品評會

臺北市主催一市四郡蔬菜家禽品評會は同市新公園に宏大なる會場を設け二月十八日開會された、出品者二千五百を超え、出品物も頗る優良に且豐富であつたが、同日市內樺山小學校に於て褒賞授與式を擧げ、太田市尹の式辭朗讀、梶原技師の審查報告、吉岡知事の告辭あり、來賓代表片山殖產局長の挨拶、出品者總代の答辭等あつて式を終り一同會場を觀覽したが、會場は同日午後から一般に公開され盛況を呈した。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

下村宏氏著「財政讀本」を紹介す

長谷川茂雄

本書は財政に關する一般知識の普及を目的として書かれたものである。近來國民が國家的に覺醒して國家の組織とか作用に付ての議論が仲々喧しい、殊に普通選擧に依つて一般國民は國家の政治に或程度まで參與し得る樣になつてからは財政が國民知識として極めて必須のものとなつた。本書は此要求に適したもの〻內極めて理想的な教科書であると云へる。

財政に關する一般知識としては單にその原理原則丈では滿足が出來ない。我財政の現狀が如何なつて居るか、それが財政の原理乃至本質に對して如何であるか、又如何にすればその本質に還へることが出來るか、卽ち我財政の將來は如何にすべきかと云ふ樣な政策に關した事まで知りたい、而して斯ふ云ふ樣な財政の全般を知るには廣く政治經濟に論及されねばならない。著者曰く「經濟と財政は相結んで離れない、經濟と財政は骨と肉である、財政と政治は相表裏してる、財政と政治は肉と血である」であるから「本書は單なる財政學の讀本ではない、日本財政の描寫であり解剖である、財政といふ眼鏡をかけて見たる日本現狀の縮圖であり日本財政批判の目標である」。

從つて本書の內容はなかなか豐富である、それは「財政の內容が如何にも多種多樣である」と云ふこと以外「內外を通じ日に月に動いてゆくのみならず財政の事たる一から十まで吾々の實生活に接觸してゐ

る」からである。

本書の内容は十八講五十七章に分れて居る。その大要丈を紹介した處で充分本書の内容を盡したことにはならぬが、單なる財政學の讀本でなく立憲治下の國民讀本として推賞すべきものであると云ふ點から、以下特長と思はれる點を述べて見る。

第一講には財政の概念に次でその批判がある。實際上の知識としては極めて必要な事であつて、稅が重いとか輕いとか批判する場合の標準卽ち見方を說いたものである。第二乃至第四講は經費論である。經費の意義種別は勿論膨脹の大勢及原因等が著書の見解をも交へて明確に說述されてあるのみならず、經費各論に於ては我國現時の軍事教育、產業及社會上の諸問題及丁解決策が豐富な資料と共に提供されてある。第五講以下第十講までは租稅論である。我國の稅制は這般の改正に依つて廣い範圍に亘つて變動した、その大要及改正の理由をかいつまんで承知して居ると云ふ事は極めて必要な事であるのに拘らず適當に書かれた雜誌なり書物なりを見ない。本書は凡て改正される稅法の說明であるのみならず、現今政界の問題となつて居る地租の委讓とか今協議中の日支關稅問題と云ふ樣な將來の重要な稅制問題には殊に詳しく論ぜられてある。第十一及十二講は官有財產及官業收入の說明であり、第十三及十四講は公債論である、茲では內外公債の現況が新しい統計と共に一目瞭然と示されてある點を特色とする。第十五講は財務論である、卽ち豫算の概念からその民衆化を說き更に豫算の審議、一般會計と特別會計及特別會計殊に大藏省豫金部の正體、決算及國庫金の取扱、明治以來の財政史までを含んで居る。第十六及十七講は地方財政論である、從來比較的閑却視された問題であるが近來都市の發展に次でその財政も膨脹し吾々の生活に密接の關係があるのみならず、這般の稅法の改正に依つて地方稅にも變動を來したので相當に評論されてある。

要するに本書は財政に關する凡ての問題を網羅し

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て居ると云つてもよい。その説明は單に無趣味な抽象的な論法ではなく實際の生きた事實から立論されてあるので頭に入り易く且興味が深い。又政策に關しては著者の學者實際家としての主義主張が力强く高唱されてある點に於て極めて生色ありと云ふべきである。尙看過することの出來ないのは欄外にある註である。内外の統計、諸法規、諸制度等の説明で資料が新しい上に外國との比較上廣い範圍に蒐集され、本文の了解に極めて效果があるばかりでなく興味深い挿話まで入れてあり、讀者の倦怠を救ふに充分である。著者は序文に「面白く分り易く讀んで貰ふと云ふ事と廣く知識慾を滿足させたいと云ふ事はその間に可成の隔りがある。あると知りつゝ相竝びがたき二つの註文を滿足すべく努力した。のみならず其間に我國がとるべき當面の對策につき筆者の主義主張が到る處に織り込まれた。數多い注文を滿足せんとしてあらゆる方面に無理が出來る事はどうも遺憾だが仕方がない」。然し吾々は著者の明快な筆勢にも依らうが一氣に讀んで尠しも倦怠を覺えぬのみか著者の以上の希望が要領よく實現せられてあるのみならず此丈の内容を僅々三百餘頁に織り込まれた著者の腕前には敬服もし感謝もする。敢へて拙文を錄して江湖の購讀を薦む。

植民地に於ける教育制度

臺北高商教授　淺香末起

（一）

近世列強の植民的活動が植民地原住者の生活に及ぼした影響は功罪共に全く革命的のものがある。罪惡として擧ぐべきもの丶中最も積極的徹底的なるものは所謂絶滅政策であり、之に次ぐは或は追放政策であり或は奴隷政策である。然して植民國が斯く直接に酷遇の手を下さゞる場合でも植民國民の植民地への移住及植民地よりの利益獲得が自から原住者の生存を脅威し植民者のために其福利を犧牲とするの結果を生じた事實は枚擧に遑ないであらう。斯かる事實は特に文化低き原住者の居住する植民地に於て顯著である。原住者は植民者の入り來ると共に土地其他の生産手段を或は沒收され、或は其無智に乘じて詐欺的に買上げらるゝ場

合あり（アルジエリーに於ける佛國の政策に其顯著なる一例を見る）然らずして正當の代價を支拂はるゝも貯蓄心少き未開の原住者は忽ち之を濫費し盡すこと多く（西印度諸島蘭領東印度に其例を見たることあり）此生産手段の喪失は原住者の生活を困難ならしめ、又植民者より高度の文化を急速に移植せられしめ、原住者の生活慣習の變化を來し、其心身を破り、之により原住者の人口減少を來す場合頗る多く、殊に植民者による病毒の傳播及阿片・酒類の移入は原住者の自然的人口減少に大なる力を及ぼした。

（二）

然し一方植民國の功績も認めざるを得ない。眞の植民活動の使命は實に此功蹟の方面に於て求むべきである。植民活動が原住者に與へたる有利なる影響の中看逃すべからざるは平和と組織である。印度やアフリカを始め今日列國の植民地となれる地方の大部分は從來未開人獨得の慘虐なる戰鬪と内亂に苦しんで居た處であるが、之に平和を與へ秩序ある組織を構成せしめた事は列國の植民活動の最大の功蹟である。

次には經濟的開發、例之交通機關の建設、産業開發等により未開社會に頻々たる飢饉を根絶した事である。更に各種の衛生設備により原住者固有の疫病特にマラリア病を減じ其死亡率を低下した事實を認めざるを得ない。

要するに列國の植民的活動の原住者に與へたる最大の功蹟は彼等に文化の價値を理解せしめ、多少なりとも向上進歩せんとする意思を喚起せしめた事である。然して此等の作用を支配し其動機を與へしものは實に植民地に於ける教育である。植民地教育の良否は直に其植民地を領有せる植民國の植民活動の功蹟の大小を定むる基本であり、從て其植民國の世界の文化に貢獻したる程度のバロメーターである。此見地より我々は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

植民地に於ける教育制度が如何に重要であり、單なるおざなりや・虚榮や・出鱈目や・行がかりの問題として取扱ふ事の如何に誤れるやを知るのである。

(三)

母國に於ては教育は多年の歴史と傳統に捉へられ、且固定せる國民的意識の支配を受けて容易に其根本的改革を期し難いが、植民地に在りては教育は全く自由に其方針を決定することが出來る。故に其結果は最も顯著に且一定の型に嵌つて現れるのである。然し乍ら教育の效果如何に大なりと雖も教育の行はるゝ場所の社會環境を全く離脱することは絶對に不可能である。此社會環境に適應し之と相扶け合ふ教育方針が最も自然的であり、教育の本來の效果を他のモメントに妨げらるゝこと無くして最大限にまで發揮し得るのである。故に植民地教育の根本的要素となるものは植民地の社會環境に適應する教育を與へることである。凡そ人は其現に生活せる社會に直接關係ある事象、卽最も自己の感覺を刺戟すること多き事象について最大の興味を覺へ、從て斯かる事象を正當に明瞭に理解せしむべき教育は其效果最大である。植民政策研究の世界的權威たるラインシユ博士の云へる如く、「儒教や佛教の思想は其發祥地たる東洋に於ては最大の教育的效果を發揮し得るが、歐洲の社會に於ては環境の相違は此教義を其教育制度に移入せしめないであらう、同樣に羅馬の古典や英國歴史やロックの哲學等は假令之を東洋人に教ふることを得るも之が研究により如何なる教育上の價値を發揮し得るであらうか。」(Reinsch, Colonial Administration, pp. 39)

故に植民地原住者教育には其社會に適合せる植民地獨自の教材を採用すべく、本國同樣若しくは類似の教材を採用することは教育の效果を比較的薄弱ならしむと云はれて居る。同じく犧牲獻身の道義觀念を養成せ

んとする場合にも、例之我臺灣に於て内地の佐倉宗五郎と本島の吳鳳と二つの題材の何れによる方が其效果大なりやと問はずして明であらう。教育の終局の目的は同一なりとするも之に到る手段は能ふ限り合環境的合社會的たるを必要とする。

植民地固有の傳統と社會環境とを尊重し急速に之を破壞することなく、徐々に之を文化的に向上せしむべきことは、獨り教育のみならず、總ての原住者政策に最高の原理とせらる。ラインシュは「歐米の既に完成せる制度や習慣や信念を靜的に(Static)其儘移植するも有效なる結果を見ることは不可能である、之よりも寧ろ動的に(Dynamic)斯かる高度の文化を完成するに至りし過程を植民地に移植すべきである、植民政策の奧義は實に氣長な且自然的方法に依つて社會進化の方向を更改するに在る。」と云つて居るが、全く至言である。(Ibid., pp. 24—26)

（四）

次に植民地教育に於て問題となるは植民地原住者に形而上の知識を開發する所謂文化的又は文學的教育を與ふべきか、或は形而下の學問を目的とする所謂實業教育或は産業教育を主とすべきかの問題である。形而上教育の第一の缺陷は植民地原住者をして事物の直接の實驗より離れて、想像と直覺と云ふ不確實なる作用を過度に働かしむる點にある。今日東洋人及阿弗利加人に對して最も必要なるは空想的の思索と迷信的信念とを打破せしむるに在る。然るに文學的教育は此種の弊害を反つて助長するものである。

第二に文學的教育は原住者に筋肉勞働を嫌忌するの惡習慣を生じ、唯官吏・教師・辯護士其他の手足を勞せざる職に就かんことを目的として教育を受くるに至る。此等の事實は原住者の福利を眞に增進する所以では

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無い。故に山本博士の云へる如く「稍もすれば徒に空想に耽り、空論を喜ぶ風ある植民地原住者に、徒に理を弄ぶの弊に陷り易き抽象的の知識例之法政文科等に關する知識を率先して授くるが如きは誤りであると云ひ得る。

第三に此種教育は稍もすれば原住者の權利思想・自由思想を發達せしめ、植民地の自然に辿るべき發達の經路を一足飛びに飛び超へて、本國に對する絕えざる反抗運動を生じ、之がために母國と植民地の利益の衝突を來たすに至る恐あるべきことを豫期せねばならぬ。此點に就いて印度の教育は參照に價する。印度に於て英本國と同樣の文學的教育が行はれたのは印度人を歐洲の形而上の文化に接せしむることにより、彼等の傳統的觀念を容易に廢除し得べしとの考に出たものであつて、印度の多數の大學や高等學校に於ては印度の文學哲學歷史等には何等注意を拂ふこと無く、歐洲風の文化を與ふることに主力を注いだ。此事は印度人より其固有の民族意識を破壞し、一方傳統・習慣・環境の相違は之に代るべき新しき思想をも理解せしめず、所謂知識的半可通の弊害を生じ、且つ英國の民權史を學ぶにより反つて英國に反抗する者を生じ、所期の目的を達し得なかつた。泉哲博士は「印度人が英本國に對して反抗をするのは英國の教育制度の罪に非ず、印度人間に於ける民族自覺の結果なり。」(泉哲博士、植民地統治論二五六―二五七)とするも、之は不當である。印度人間の民族自覺は其が正當なる自覺なるや、誤解に基くものなりやは別として、英國が最初に目的とせし處と相反する自覺を發生せしむるに與つて力ありしは其教育制度であり、結局教育制度が反抗的精神を養成したと云ふことが出來やう。印度人にして進んで斯かる教育を受けた者は知識を進めんとする熱意に動かされたものは少く、唯官公吏たらんとする手段として入學したに過ぎなかつた。錫蘭・緬甸・ジャマイカ・埃及等に於ても同樣の弊が生じた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

要するに文學的教育は唯それが植民地社會固有の歴史や哲學や藝術宗教等に對して完全なる理解を與へ、原住者をして明確に自己の地位を自覺し得るに至る程度に於て是認すべきであり、其結果や眞の民族的自覺を生じて正當なる經路を經て自主的團體を構成し、植民者と原住者の相互扶助に到達すべきことこそ、植民地教育の理想である。此場合假に植民地が獨立する結果を生ずるとするも、そは所謂良友として別るゝことであつて怨敵として結合するよりは遙にまさるであらう。故に母國と同樣の教材を採用して劃一的同化主義により、母國の精神的文化を其儘植民地に移すことにより、原住者に母國人と同一の國民的意識を有せしめんとするは全く痴人の夢に過ぎず。印度に於ても近時は劃一的同化主義教育の弊を覺り、印度獨得の文化を研究する回教學校が盛に起つて居る。

（五）

原住者の福利のために最も必要なる教育は彼等の經濟上の地位を向上せしめ生活を豐ならしむべき產業教育である。山本博士の所謂「住民の血となり肉となる教育、彼等に衣食を足らしむる教育」之である。今日世界の植民地原住者の大多數は未だに原始的の產業を行ひ其生活は頗るみぢめである。彼等に高尙深遠なる形而上的の理想を教ふることは殆んど意味をなさない。それよりも彼等の耕せる土地より如何にして大なる收穫を擧げしむべきやを教ふべきである。

實業教育に於ては教材を母國本位とすべきや、植民地本位とすべきやと云ふ問題は殆んど起らないであらう。蓋し產業の開發の手段は何れの場所に於ても大なる相違はないからである。然し乍ら同じく產業教育と云ふも植民地に於ては大體工業や商業よりも農業に主力を注ぐ必要が大なる處が多いであらう。農業に於て

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

も特に其植民地に於て必要なるものと然らざるものとを區別する必要がある。又商工業に於ても植民地は近代的大規模商工業よりも寧ろ手工業的及び家内商業的の教育を與ふる必要が母國よりも特に大であらう。而して原住者に産業教育を與ふるに當りては唯理論的に優れたることを理由として歐米の完全なる制度を移すも效を奏し得ざる場合が多い。先づ原住者社會の資金狀態或は各種生産手段の相違を考慮して實際に適切なる産業教育を授くることが必要である。

近時各國に於て植民地教育は文學的教育より産業教育に趨り行く傾向がある。南阿に於ては授業時間の半以上を手工及農業的教育に宛てゝ居る學校に對してのみ政府の補助金を與へて居る。ジャマイカは文學的教育により多數の高等遊民を養成したことに於て有名なる處であるが近時は全然方針を改め、時間の大部分は進歩せる農業方法を授くることに費されて居る。アフリカ各地に於けるミッション教育ももと所謂ミッション生の人(Missionary made man)なる勞働嫌惡の文化人を作つた誤れる教育の顯著なる一例となつて居たが、今日は全く方針を改め、地方語によつて産業の習性を養成するに努めて成功して居る。

要するに植民地に在りては下級の教育には出來得る限り實際的の産業上の智識を教ふべきであり、高級の教育に在りては科學的要素を多くすべきである。泉博士は植民地に於ける文化的教育を辯護し、單に植民地に限らず、各文明國が一度は何れも形而上學に重きを措き純粹科學又は應用科學の如き物質を基礎とする學問を嫌ふ傾向があつたことは否定し難い。我國に於ても明治初年は文化的教育のみ盛んで工業・農業等の教育は不振であつたではないかと云ふ意味を其植民地統治論中に述べて居られるが此考は誤であると思ふ。今日の各文明國に於て教育制度が一通は出來上つた頃に於ては其産業狀態又は産業技術は幼稚極まるものであつて特に學問として研究すべき對象をなすに至らなかつたのである。之が教育の目的となり得るに至つたのは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

産業革命によつて大規模生産と大工場組織が發生し、次で農業の上にも大農制度が行はるゝに至り、引續き産業技術上の無數の改革が實行せられて以後のことであつて最近數十年間に於ける現象である。故に今日の文明各國に於ては最初には産業敎育を行ふことは不可能であつて當然文化的形而上學に偏したのであつて産業敎育が其時期を後にするのは自然の成行きである。今日は既に産業敎育の對象物は充分に存在するのであるから、之を主とする敎育を植民地に施行すべきであり、文化敎育は第二次に置くべきである。

（六）

次に植民地に於ては高級の敎育よりも下級の普通敎育の普及を急務とする。然し敎育を一般的に普及する政策に對しては反對論が多い。ハーバート・スペンサーは智的敎養と道德的進歩とは相伴ふものなりと云ふ通説を排して「性格を顧ることなくして單に人工的に智識を增加することにより社會は何等得る處なく、寧ろ損害を受く」と云つて居る（Herbert Spencer, Facts and Comments, pp. 84）。又或は單なる敎育普及政策は半可通の弊を生じ、原住者に怠惰なる習性を生ぜしめて、眞の智力を與ふることなしとし、又は敎育は唯一部上流階級に與ふるだけで充分であつて、之を通じて必要なる智識が自然に下級の者にも浸潤して行くと論ずる者もあるが、此等の反對論は何れも事實と反して居る。一般に普通敎育は農業に對する原住者の愛著心を害することなく、反つて良好なる耕作方法を移入することにより土地の生産を增し、一方自己の行爲に對する他人の不法なる干渉を除去する力ありとせられて居る。比律賓にては村落寡頭政治より個々の農民を自立せしむる目的より一般普通敎育を行つて成功して居る。

普及せる普通敎育が高級の學校よりも其必要大であるとするも之を以て直に原住者に義務敎育制度を施行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

するを可なりとはせられない。蓋し之がために原住者社會より缺くべからざる勞働力を奪ふ結果を生じ其生活に脅威を與ふる恐あるためである。故に義務教育は植民地の開發が充分に行はれ原住者の生活も改善せれ、經濟力も充實したる後に始めて强制的に實施すべきである。

(七)

次に植民地の教育に於て重要なる問題は其用語を如何にすべきやである。植民者が其植民地の地方語を習得する代りに、原住者をして母國語を習はしむることは植民國民にとり便宜なるは云ふまでも無き處である。更に歐洲其他植民國の進歩せる使用範圍廣き言語を習得することは如何なる場合にもアフリカ人や亞細亞人にとり利益ならざることなしと云ふ論者もある。然し乍ら一方母國語を教育用語として採用する事は原住者間に於ける知的竝に道德的發達を彼等の過去の歷史より全く分離すると云ふことを意味す。文明の要素が時代より時代へと傳へられて行くのは全く其言語を通じてゞある。而して前に述べたる原住者固有の藝術宗教或は哲學が一層完全に造りあげらるゝためには教育用語として植民地の地方語を採用することは最も必要である。此見地より多くの熱帶植民地に於ては今日其地方語を以て普通教育を施して居る。西印度諸島、南阿、比律賓は之を例外とす。從來母國語を以て普通教育を行ひし事例は多く失敗を以て終り、原住者中の不良分子は多く母國語教育を受けたるものより出づとせられ、今日は次第に地方語教育に移りつゝある。

然し乍ら玆に考慮を要することは多くの植民地に見る如く土語が數多の方言に分れて統一を缺き、或は極めて狹隘なる地方に其通用が局限せられて居る如き場合、又は其語が餘りに單純であつてヴォカブラリーを缺き、之を使用するのみにては必要なる教材を充分に說明し難き場合には土語を教育用語として使用するこ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とは教育の目的を達する上よりも原住者の福利のためにも反つて不可とせらる。比律賓が英語による教育を施せるは全く其土語が無數の方語に分れて統一を缺くためである。又熱帶植民地の多くに於て高等専門教育は大抵母國語による教育を行ひ、從て普通教育に於て地方語を使用せる處に在つては、高等専門教育と連絡の必要上特別に母國語を教授する學校を經過する必要があるのは、全く高等専門の學理が比較的單純なる土語を以てしては表現困難なるためである。我國植民地の教育用語は此等の多くの點を比較考慮して決定すべきであり、唯世界の趨勢なりとして今日行はれて居る母國語教育を非難排斥するのは餘りに早計である。

舊套を捨てゝ新しいメートル法へ

世間が思ふほど困難ではないメートル法實行進渉の現況

山口鈕五郎

昭和の新春を迎え、天地も氣分も新らしく此の氣鋭を以つて舊套は之れを捨てゝ新しい文化の世界へとお互に努めねばならぬ。

度量衡のメートル統一も亦文化促進上に至大な關係があり、此の統一に因り産業・工藝・學術・敎育・交通・貿易・國防を初め日常生活に至る迄一大向上進展を來たすのである。メートル法度量衡は現世界中最も合理的に至利至便であるから總ての方面とも其の能率が倍加し國富の振興上最も緊急を要する施設である。

一般に何人も其の必要は之れを認めてゐるが唯實行に付て大なる不安を懷き遠き將來に期待してゐる人が多いのは餘りに舊慣に捕はれた甚だしい謬見である。其の實行至難とする理由は異口同音で是れ迄永年尺・貫・ヤード・ポンドで馴れ來つた國民が之れを捨てゝメートル法に因ることは習慣上出來ない新舊の移り代りには永い年月を要する。

先づ吾々の時代には不可能である。今の小學校生徒がメートル法で馴致され之れが社界へ出た先きである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何故に左樣困難かと云へば日常の計量に當り何寸何分が何メートルで何瓦が何匁何分と一々換算することが煩累であるから出來ない。家庭で買物をするのに米何キログラム酒何リツトル肴何グラムでは見當が立たない。又裁縫をするにセンチメートルでは判らない一々舊のものに換算しなければ仕事が出來るものかと誰も云ふ。一寸尤ものようであるが、夫れが大きな間違で何も換算の必要はない。舊式を頭に入れずメートルに直入すれば宜敷い。例を擧ぐれは軍隊の訓練は總べてメートル式である。そこで新兵を敎育するに一メートルは是れ丈けの長さであるぞと實物で示す、決して三尺三寸が一メートルとは云はない、舊の長さとは關係なしにメートルに直入し、夫れから步測・目測で練習し敵は何キロメートルと譯がなく覺ゆる。是と同樣米を買ふごはんを炊くのに、一斗とか何升何合と云はなくとも米一キログラムとは是れ丈けの分量、一日の炊く量は是れ丈け即何グラムと見定むればよい、此間に何斗何升と舊式に換算して使ふ必要はない、一度實物に當つて見れば直ぐと判る、砂糖・醬油其他何でも同樣である。世間で最も心配されてゐる裁縫も、鯨尺・曲尺の寸法を全く打捨てゝ頭に置かず舊の物指がないものとして考へると早い。此の寒さに著ないで震へてゐられぬから以前の衣服を廣げ、丈何センチ行何センチメートルとメートル尺で當つて縫ふことゝなるのが當然で、一度びメートル尺で寸法を採り手帖に控えて置けば後には一々當る必要がない。最初は記憶がないので一寸不便でも直ぐ馴れる、現に藥が何グラムと家庭で一般に通用してゐる。寒暖計も將來華氏を止め攝氏許りとなるが、是れとて現に體溫を攝氏で三十七度の平熱四十度の高熱と誰も克く知る。

斯樣に舊度量衡を一旦忘れて、直ちにメートル法に移る小學校兒童の現在の敎育と、又前述の新兵敎育と少しも異ならぬ。假りに法令で猶豫期間がどうあつても、便利なもの興味のあるものは自然移り代りが容易で且つ早い。メートル法のものは在來の尺・貫・ヤード・ポンドと異なり總べて十進法で、又長さと容量と重量

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とが密接の關係で結び付けられてゐるので、メートルとかセンチメートルと長さの觀念だけあれば直ぐ容も重量も判る、殊に便利なことは眼で見た許りで物の重量を知ることが出來る。例へば爰に角石がある、其幅、厚、長さを各五・七・十デシメートルと目測せば、其相乘積が容量三百五十リットルで是れ丈けの水重が三百五十キログラム、石の重量は水の觀二倍六であるから其角石の重量は三百五十キロの二倍六卽ち九百十キログラムと目測で判る。

メートル法が實施されて二箇年半外觀上一向目立たゝぬが第一官廳方面では非常な努力を以つて進捗しつゝある。各省とも今尙ほ内部關係の改正及外部關係に對する準備時期に屬し、諸法令の改正公布又は其準備、度量衡器の更新改造、陸海軍・鐵道・遞信では艦船・兵器・砲熕・機關・管船の製達及同上の工作機械一切メートル法に改まり、一般需品の購入も同樣又上記何れの工場でも職工は從前のヤード・ポンドを捨てゝメートル法でやり、其他各省も略同步調で土木・測量・工作・設計等著々進行しつゝあり。大正十五年十月商工省告示で鐵板・ボート・鐵管を初め主要工業用材料品十三種の規格が統一され、將來官廳にて購入する同材料品は同規格に適合するものに限られ、木材・木炭其他各種の材料に付ても引續き規定さるゝ由にて其公布を急ぎつゝある。

外部關係卽ち鐵道の運輸、郵便物の料金、課稅、專賣品の量目等一般民衆に對する改正は、内部の準備も八分通り出來たので爰一兩年中に改正實行の筈。

畏くも皇室に於かせられても、昨年十月二十一日附を以つて皇室令第十號皇室陵墓令中、皇室・皇族の御陵墓の兆域に關しては、メートル法を採用せられたることは、世の進步に努めさせ給ふ深き御叡慮の程畏くぞ仰ぎ奉る。

最近內地で一般民衆のメートル法に對する理解が著しく進步した、主要都市の府市立公設市場で日用品の賣買がメートル法に依れる處が少なくない。三越・高島屋・白木屋等のマーケットは申合せメートルで販賣し、最も注目さるゝのは穀類の小賣が重量取引而かもキログラムで實行されつゝある。熊本・大分・靜岡等の各地は既に行はれてゐたが、昨年九月に大阪・京都・兵庫の穀類同業組合の規約で一齊に實行した。當初は一斗と云ふ買手に對し十四キログラム何にがしと換算して賣つたのが、一と月とたゝぬ內に買手の方から十キロ・二十キロと端數なしに又舊桝目を稱へず買ふ樣になり、何の苦痛もなくキログラム賣買に習慣付けられた。米の重量賣買は桝目と異なり正確であるから勢ひ早く改まつた。今は米屋の店頭に掲ぐる定價は何れもキログラム建値である。又大林區署から發賣する官營の木炭、其他民間業で藥種・牛乳・紙類・化粧品等部分的には夫れ〳〵同業組合の申合せて實行されてゐるのが甚だ多くなつた。

何處でも最も早く進んだのは學校教育である。小學校生徒は總べて敎化され、女學校の和洋裁縫も同樣メートルで行つてゐるから、家庭へ歸つて父母には判らない、家庭と學校との聯絡がとれないとの非難も多少聞くが時代の趨勢は致方ないから父母も幾らかメートルを味つて見る。

早道はマーケットや公設市場で日用品を買つて見ると、キログラムではあるが定價は極まつてゐるし、牛肉でも米でも品物を見た許りで一キログラムとは是れ丈けの分量、一回の使用量はどの位と直覺し得ることであり敢て換算の必要がないことを感知する。以上の經路で學校教育が勢ひ一般の理解を早からしめた。本島にはマーケットとか又は內地の如く完全な同業組合はないが、少くとも購買組合等で先づ手近の米・豆・砂糖等からメートル法で行つたら正確であり又メートル法に付て家庭の理解を求むる早道ではなからうか。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

刑政の本義

高等法院検察官長　後藤和佐二

私の演題は唯今御紹介になりました如く刑政の本義と云ふ題であります。茲に所謂刑政と申しますのは刑事政策詰り犯罪に關する政治と云ふことを現はしたのであります。犯罪に關する政治は犯罪を撲滅するにあり、犯罪を防止するにあり、豫防するにあるのであります。犯罪が起らない前に、卽ち未然に之を防止する、言ひ換へれば、豫防すると云ふことであります。豫防すると云ふことに就きましては、犯罪の據つて起る原因を探究しまして、之に應ずる政策を講じなければなりませぬ。或は貧民を救助するとか、資本家と勞働者[illegible]の政策は、所謂社會政策に屬し、

故に國家は刑罰を科するのであるか、或は懲役を科して刑務所に容れたり、罰金を科して財產を取り上げたりするのか、此の事に就いてお話をしたいと存ずるのであります。

此の事に就きましては古來色々の說がありまして、先づ第一に算ふべきものは、應報主義と稱へて居る說であります。夫れはどう云ふことであるかと申しますと、お互人間は是非を辨別する力を有つて居る、然るにも拘らず、善を捨てゝ惡を擇ぶ、玆に惡因を、惡い原因を起す、然らば必ずや之に對して惡果、惡い報いが出なければならぬ、所謂因果應報の理であります。刑罰は、惡因を與へたる者に惡報として之を科するのである、刑罰を科すること其の事が唯一の目的であつて、他に目的は存しないと、斯ふ說明して居るのであります。

此の說の結果と致しまして、惡因と惡報とは、均衡を保たねばならぬと云ふことになります。人を殺せば殺した者も殺される、人を傷ければ傷けた其の者も亦傷けられることになります、之は古き刑法、殊に歐羅巴に於きまして、羅馬帝國時代の刑法にそう云ふ規定が澤山に御座いました。我國に於きましても、古き刑罰法は此の應報主義に據つて居たのであります。唯今の刑法は、明治四十一年に施行になりましたが、其の以前に行はれて居た刑法、今日では舊刑法と稱へて居りますが、其の舊刑法は、大分に應報主義を取り容れて居つたのであります。其の一例を申しますれば、人を毆打創傷し、兩眼を盲にし、兩耳を聾にし、又は兩腕か兩脚を折り、及び舌を斷ち、其の他知覺精神を喪失せしむる樣な重傷を負はした者は、輕懲役に處すとあります。舊刑法の輕懲役と云ふのは、六年以上八年以下監獄に拘禁されるのであります。其の次には、其の一眼を潰し、片方の耳を聾にし、片腕か片脚を折り、其の他人を不具（カタワ）にした者は、二年以上五年以下の重禁錮に處すとあります。此の樣に傷の大小に依つて、刑罰の輕重を定めたのであります、惡因に對する惡

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

報が、均衡を保たねばならぬと云ふ精神に據つたものであります。其の他舊刑法に於きましては、等しく竊盜でありましても、兇器を携へて竊盜した者は、普通の竊盜よりも、即ち單純竊盜よりも重くして居る、或は二人以上で竊盜した者は、之亦一人で竊盜した者より重くし、或は錠が施してある、其の錠を破り、或は門戸墻壁を乘り超へて、他人の邸宅に入つて竊盜した者も、單純竊盜より重くしてあります。斯樣に細かく、犯罪行爲の大小に應じて、應酬たる刑罰の輕重を定めたのであります。之等は皆應報主義に出でたものであります。

第二の主義は豫防主義と稱へるものでありまして、犯罪は公の秩序を害し、善良の風俗を破るものである、吾人の共同生活を脅かすものである、社會の敵である、社會を蠹毒するものは、之を撲滅しなければならぬ、社會から斯る犯罪と云ふものを、無きものにしなければならぬ。隨て之を豫防しなければならぬと云ふ立場から觀まして、惡い原因を與へたから、惡い結果を以て之に報ゆると云ふべきものでない。罪を犯した者に對し、之に制裁を加へて、そして其の犯罪が更に現出することを防止しなければならぬものである。是が刑罰を科する目的なのである。斯う說明するものであります。既に犯罪が犯されて、例へば人が殺され、若くは傷けられる、此の結果は最早如何ともすることは出來ない、元通りに之を回復すると云ふことは出來ないのである、所謂覆水盆に還らずであります。只之に惡報を科すると云ふのでは、吾人の共同生活と何等交涉が無いことになる、宜しくそう云ふ公安を害したり、美俗を紊したりする者に對しては、制裁を加へ、再左樣な犯罪が現はれない樣に、社會は努めなければならんのであります。此の說は、吾人の共同生活を維持する上に於て、洵に合理的なる說明であります。

此の豫防主義に於きましても、又二通りの觀方があるのです。其の一は、一般豫防主義と稱へるものであ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

りまして、既に罪を犯した者に對して、制裁を加へても、其の者の與へた害惡は、之を除去することは出來ない。然るに其の者に對して、制裁を加へるのは、此の樣な罪を犯した者には、斯ふ云ふ制裁が加へられるぞと云ふことを、世間一般の者に示して、斯る犯罪を爲してはならぬと云ふことを、警告するのである。それでありますから、此の主義を、一般警戒主義と稱へて居ります。他の觀方は、特別豫防主義と稱ふるもので、之は一般豫防主義に對する名稱であります。罪を犯した者に、刑罰を科するのは、之に依りて、其の者を改過遷善せしめ、將來再罪を犯さない樣にするのである。犯罪者其の者に就て、犯罪の發生を防止せんとするものであります。斯く二樣の觀方がございますが、夫は一つのものを、兩面から、各別に觀た違ひに過ぎないのであります。

此の豫防主義は、一般豫防と、特別豫防との、兩つの目的を併せ有するものと云ふのが、當つて居ると思ひます。現に刑法其の他の刑罰を規定して居る法規は、其の法規自體が、既に一般に對し、斯る行爲を爲したる者に對しては、斯る刑罰を科するぞと云ふことを、先づ以て示して居ります。そして、玆に犯罪が起りますれば、其の罪を犯した者に對して、法律に定めてあるところの、一定の刑罰を科し、其の犯人に對しては、將來犯罪を再びすることなき樣に改善し、又一面に、一般世人に對して、斯る行爲を爲した者であるから、此の通り法律に照して、刑罰を科したのであると云ふことを示し、以て一般を警戒するのであります。此の兩方面に亘つて、犯罪を豫防するのが、刑罰の目的なのであります。

以上述べました、應報主義と、豫防主義とを比較致しますと、應報主義は、正義の觀念を強く表はして居ります。犯人の性質素行が、假令善良でありましても、苟も罪を犯せば、之に報ゆる丈けの刑罰を科して、一歩も假籍しないのであります。之に反して、豫防主義では、犯人の性質素行に重きを拂ひ、社會を蠧毒す

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る性質、學者は之を反社會性と申して居りますが、其の强き者は之を嚴罰し、其の弱き者は之を寛大に取扱ふのであります。それは犯罪を防止すると云ふ點に、立脚して居るからであります。それでありますから、此の主義は、犯人に刑罰を科するのは、之を苦しめてやらふか、苛めてやらふとかと云ふ趣旨は無く、之を改過遷善せしめ、良民として、吾人の共同生活に、伍せしめ樣と云ふのであります。洵に人道的であり、社會的であります。

我國現行刑法は、固より豫防主義に據つて居るのでありますが、さればとて、全然應報主義を捨てた譯ではありませぬ。何故かと申しますれば、刑罰の目的より、正義の觀念、因果應報の原理を、除き去ることは出來ないからであります。殊に一般警戒の役を爲す法規が、その點を能く表はし居ります。例へば刑法に於きまして、竊盜罪よりは强盜罪が重く、傷害罪よりは殺人罪が重く、同じ殺人罪でも、普通の殺人罪より、尊族親を殺した罪の方を、重く罰すべきものと規定してあります。此等は、應報主義を取り容れて居ると云ふことが出來ませう。併し、現に犯人に刑罰を科するに當つては、豫防主義に據らねばならぬのであります。刑法は、同じ犯罪でも、其の刑罰には、懲役なれば長期又は短期を定め、罰金なれば最大額か最小額を定め、其の間に於て、裁判官の裁量に委ねて居ります。夫れでありますから、裁判官が事案を審判して、之に刑罰を科する上に於て、一般豫防と特別豫防、此の兩方面を充分に考慮して、そして、其の豫防の目的を達するに、適當なる刑罰を科すると云ふことになつて居ります。而して如何なる場合に、一般豫防の方に重きを置くか、或は特別豫防に重きを置くかと云ふことは、中々至難の問題でございます。

之に就て、私が經驗した事例がございます。或地方に、賭博が非常に流行して居る、其所は、昔から賭博が盛に行はれて居て、立派な親分株も、多數に居りました。其の地方の、小學校の兒童までも、賭具を弄ん

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

で、賭博の眞似をやつて居ると云ふ風でございました。斯る場合に、其の親分株が賭博罪で檢擧せられたのであります。普通賭博罪は、餘り重く罰せられて居らないのであります。併ながら、そう云ふ風に、賭博が非常に流行する地方、而も其の犯人たるや、親分株の者である、刑罰の裁量は、大に考慮しなければならぬのであります。賭博罪に就ては、御承知の方もございませうが、常習として賭博をした者に對しては、刑法では、懲役三年が最長期になつて居ります。又其の賭博の再犯、累犯者に對しては、其の倍の六年迄、懲役に處することが、出來ることになつて居ります。それで、其の事案に於きまして、確か懲役五年、犯情稍輕い者でも、懲役三年二年と云ふ、重刑を科したのであります。勿論犯人等は、皆累犯者でありました。之は一般豫防、特別豫防、兩方面に重きを拂ひ、其の地方、其の人に對して、賭博罪防遏の目的を達するには、斯くせねばならぬと決したのであります。果然、此の裁判は、非常な影響を與へまして、其の地方では、爾來賭博が激減いたしました。之は其の後、其の地方の警察署長に會ひました際、署長の話でありまして、大に喜んで居ました。

又新刑法實施せられて、間もない時のことでした。掏摸が大分檢擧されまして、其の常習者で、累犯のものは、懲役十五年、十二年、十年と云ふ樣に、嚴罰され、その爲め、掏摸が跡を絶つたことがありました。舊刑法時代には、掏摸の如き、屋外で竊盗した者に付ては、刑法以外に、特別の法律がありました。夫は、明治二十三年法律第九十九號で、大分古い法律であります。其の法律に依りますと、建造物以外に於て、他人の財物を竊取せんとして、未だ遂げざる者、所謂未遂のもの、又は之を遂げても、贓額五圓に滿たざるものは、十一日以上二月以下の重禁錮に處すと云ふ、特別法であります。夫でありますから、掏摸の常習者でも、仕事を仕損ずると、一番重くても、重禁錮、今の懲役二月以上に、罰することは出來ない。尤も再犯で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ありますれば、舊刑法では、二月の四分の一を加重することになつて居りますが、それにしても、僅に二月十五日の重禁錮であります。又澤山金を持つて居ると見込んで他人のポケットに手を突き込んで盜つて見た所が、僅に四圓なにがし、畢竟五圓未滿であれば、夫が立派な掏摸の親分株であつても、矢張り重禁錮二月か、二月十五日より、餘計に罰せられることはない。夫故に、掏摸が跋扈したのは、無理でなかつたのであります。新刑法は、其の弊を矯めまして、御承知の通り、今日では、屋外竊盜であらうが、屋内竊盜であらうが、又竊盜の既遂であらうが、未遂であらうが、兇器を持つて居ても、持たなくても、其の他、先に述べた舊刑法の條件の有無に拘らず、總て懲役十年以下に處することになりました。又累犯者は、其の長期の二倍、即二十年迄、處罰することが出來ます。新刑法によつて、そうなりましたから、先に述べました掏摸檢擧の際、親分株も大分檢擧されまして、今でも記憶して居りますが、仕立屋銀次なども、此の時檢擧された一人です。之等が新刑法の重き刑に依つて、夫れ〳〵處罰されたのであります。之も亦一般豫防、特別豫防の效果を、極度に發揮せしめた一例であります。

概して申しますれば、流行する犯罪、彌蔓し易き犯罪に付ては、特に一般豫防に重きを置き、犯罪の常習者・累犯者に對しては、特別豫防に重きを拂ひ、そして犯罪の防遏を圖るのが、現今の刑事政策であります。夫れでありますから、犯罪に因る損害が、左程大きくなくとも、又犯人の惡性が、餘り強くなくても、傳播し易き犯罪に付ては、隨分重く罰することがあると同時に、犯罪が重大であつても、犯人の性質並に素行が善良であり、犯罪の動機が同情すべき場合には、比較的輕く罰することがあります。殺人罪を犯しても、極く輕く罰せられたり、時には執行猶豫になることがあるのは、右の理由によるのであります。

本島に於きましても、犯罪は年毎に增加しつゝあります。最近の調査に依りますと、警察官署の即決處分は

別としまして、増加率の一番多いのは、傷害罪であります。其の次が阿片令違反、其の次が賭博、其の次が竊盗、斯ふ云ふ順序に殖へて居ります。其の他の犯罪も、皆殖へて居りまするが、以上述べましたものは、其の重なるものでありまして、相撲の番附で申せば、まづ三役と云ふ所であります。斯様の傾向でありまするから、どうしても、一般警戒に重きを置き、特別豫防を顧みながら、幾分重く處罰すると云ふ傾向になつて居ります。殊に治安維持法、或は暴力行爲處罰法の如きは、從來の法律に定めてある刑では輕い、犯罪豫防の目的を達するに、適當せぬと云ふ所から、法律に定めてある刑を、重くせんが爲めに、あゝ云ふ法律が制定されたのであります。近頃無政府主義とか云つて、我帝國の國體を、變革せんと企たつる者や、共產主義に深醉して、私有財產制度を否認せんとする者、其の他、甚多いことでございますが、皇室に對する罪を敢て犯す者まで現はれ、而かも漸次蔓延する徵候が見へるのであります。此等の犯人に對しましては、一般豫防の上より、又特別豫防の上から致しましても、嚴罰に處しまして、其の根絕を圖らねばなりませぬ。

斯の如く犯罪を豫防し、之を撲滅せねばならぬのでありますが、其の目的を達しまするには、猶司法機關が働きましても、一般世人が無關心では何もなりませぬ。否世人が協力一致して、犯罪の豫防を講じなければ、到底其の目的を達することは出來ないと、確信して居ります。此の赤誠會は、是迄の講演で、諸君も既に御承知の通り、國民精神の作興と云ふことを、モットウとして居る會であります。茲に御出でになりました諸君は、此の赤誠會の主義綱領に、御賛成の方々のみであらうと思ひまするが、此の赤誠と云ふ、誠の道を以て、他を感化し、そして法に觸るゝ者が出ない樣に、能く警戒を與へて下されたならば、此の犯罪の豫防と云ふ目的を達するに、庶幾いであらうと思ふのであります。能く申すことでありますが、犯罪は社會の一つの病氣である、而かも傳染し易き病氣である、傳染病であります。此の病氣を治療するは、醫者の役で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あり、之を防止するに警察官あり、此等の人々が、大童になつて働きましても、一般の側に、衞生思想が普及されなければ、此の傳染病を防遏することは困難であると等しく、一般世人が、國家の犯罪人に刑罰を科する目的は、どう云ふ所にあるかと云ふことを、諒解したならば、之は他人事ではない、自分等の共同生活を脅かす、一つの傳染病であるから、御互に氣を附けて、自分が其の病氣に罹らぬことは勿論、他人も其の病氣に罹らざる樣に、してやらなければならぬと云ふことが、判るであらうと思ひます。犯罪の豫防は、吾人の共同生活の目的たる、共存共榮を圖る、一つの道でございます。

甚だ簡單ではありまするが、刑罰の目的と云ふ事に就いて、御話した次第であります。永く御清聽を煩しまして、恐縮でございました、之を以て終りと致します。

（赤誠會に於ける講演速記）

行旅雜抄

石川欽一郎

□美術館

奈良の博物館を觀た時、受附の番人が却々威張つて居たので、私は試めしに、札を渡す時帽子を取つて一禮をして見た。ところが彼は愈々傲然たるものであつた。成程田舍は田舍だなと思つた。

倫敦のブリチシユ、ミユジアムを這入ると、入口に埃及藝術に關する官催講演の揭示が出て居た。私は受附の番人に、この講演は誰でも聽かれるのかと尋ねたら、丁寧な言葉で、誰でも隨意に傍聽して可いと親切に敎へてくれた。成程イギリスはイギリスだなと思つた。

北京の美術館を觀た時、入場料一弗を拂つて札を買つた。門を這入つて、文華殿までの途を行く時、あとから札賣人が追ひかけて來て、今の銀貨はこの通り僞せ物だから、本物と交換して呉れと要求された。勿論そんな筈は無いが、爭ふのも愚だし言葉も出來ぬからモ一弗拂つた。ヤハリ支那は支那だなと思つた。

□ヴエニスの船頭

ヴエニスの停車場の改札口を出ると、其處には方方の宿屋の客引が並んで居て、家號を呼び上げる。私はインタナシヨナルと云ふのを赤帽に賴んで置いたので、其宿の男が列の中から飛び出して荷物を受取つた。驛の直ぐ前の河岸からゴンドラに乘る。乘

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る時に舟が動かぬやうに陸から棹で押へて居る男があつた。愈々船頭が櫓き出す時に、今の男が、押へた駄賃を呉れと要求する。船頭は五月蠅いとそれを押し除ける。宿屋の男も怒鳴り付けてる。頼みもせぬことをして、錢をよこせと言ふところ、成程イタリヤはイタリヤだなと思つた。

□ナポリの赤帽

ナポリの停車場へ著いた。赤帽は日本人と見れば、他の國人の呼ぶのも耳にかけず、競爭で窓際へ駈け寄つて荷物を受取る。後に付いて私は改札口を出る。その外には跣足の穢ない子供等が大勢立つて居て、傘でも手下げでも我勝ちに持たうとして押し寄せる。それを拂ひ除け乍ら宿の馬車へ乘り込んだ。私には北京に居るやうな氣がした。

□東京ステーション

東京驛の夕、神戸行三等急行列車の中に私は座はつて居る。あとから私の前に若い女が一人腰かけた。それを送る二三人の者が窓の前に立つて、いろ〳〵旅行中の注意を女にして居る。汽車の中には何處にスリが居るか分からぬから少しでも油斷は出來ないなぞゝ戒める。女はそれを聞き乍ら不安な顏付で時々私を盜み見る。私は女に何とか言ひ譯でもしたくなつた。

□食 堂 車

東海道の夜行で一等車と二等車の間に食堂車が結がれて居る。二等に乘つて居る私は、一等に乘つて居る知人を訪ねるべく食堂車を通り拔ける。その度びにボーイはいらつしやいと丁寧に挨拶をする。とう〳〵しまひに飲み度くも無い珈琲を飲んだ。

□倫敦バスの飛び乘り

永く倫敦に居る私の友人が、ある時私を日本人倶樂部へ案內して日本食を御馳走しやうと言ふので、シチーのその人の會社まで私は約束の時間に出かけた。一緒に倶樂部へ行く途中、恰度あとからバスが來た。友人は逸早くそれに飛び乘つたが、私は飛び乘るわけには行かなかつた。何故ならば、友人と並

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

んで歩るきながら、友人が先きに飛び乘れば、それだけバスは私を追拔してしまふ。それをあとからアタフタと駈け付けて飛び乘るのは、倫敦ではさう云ふことを人がやらぬだけに目に立つて可笑しい。先づ私が一二間先きへ行つて居て、あとから友人が飛び乘つて、やがてバスが私に追い付いた處で飛び乘れば具合が可い。併し流石の友人にもそこまでは氣が付かなかつたらしい。友人は仕方なしに一二丁先でまた飛び下りてヅボンに少し泥を付けた。氣の毒であつたが、私は自分が飛び乘らなかつた理由を斷はるのも面倒だから遂に默まつて居た。

□葵の紋付

夜汽車で朝の六時前にフロ−レンスへ著く。アルノ河岸の宿へ行けば、起きて居るものは玄關番ばかり。先づ部屋へ落付いたが、その時ふと隣の部屋から廊下へ現はれ出たものは、黒縮緬葵の五ツ紋の日本服に帶の結目を小脇に垂らした背の高い金髪美人。朝の薄暗い光の裡に幽かに浮き出した姿にはギヨツとしたが、あとで帳場で聞けばアメリカあたりの女優であつたさうだ。

□金　鎖

臺灣で目に付くものは本島人の金鎖である。その堂々と長く太く垂れて居る有樣は金鎖よりも寧ろ金紐と言はれる。この金紐が、内地では段々細く短かいものとなる。併しやはり目に付くことは付くが、倫敦や巴里ではそれが餘り目に付かない。多くは鎖なしに時計だけをポケットにぶち込んで居るやうである。金鎖と煙管の長さには何か關係があらうか知らぬ。兎に角國の文化の度が時計の鎖に依つて計られるのが面白い。

□列車内の掲示

内地の汽車や電車に乘つて掲示を見る時面白いのは、太もゝを出すことを禁じた文句である。これは臺灣でも和服の人に限つて必要な注意であらうが、本島人には先づ用は無い、支那でも又た勿論西洋でも用は無いことだから、全く内地の車内に限る特殊

の文言で、しかもそれがれい〳〵しく書いてあるだけに迷惑なやうにもある。野蠻人は知らず、苟くも文化の國民に、太もゝを出す奴が日本には居ると云ふことを態々斷はつた形ちだ。若し掲示道德とでも云ふものがあるとすれば、恁う云ふ類は取り除けて然るべきものであらう。倫敦の電車内に、懷中物御用心の掲示があつたので、やはり倫敦にもスリが居ることを知つたのと同樣である。巴里にもスリが居らぬことは無からうが、電車には掲示を見かけぬだけに綺麗な感じである。

□純　朴

佛蘭西の汽車中、田舍から出たてのやうな老人夫婦が私の前に座はつて居た。その婆さんの方が、連りに水が飲みたいと爺さんに訴へる。爺さんは空罎を持つて水を汲みに降りやうとするうちに旣う發車してしまつた。次の停車場へ著くと婆さん又た水が飲みたいと言ふ。爺さんは降りて見たが又た引返へして、水のある處はズツト遠くの步廊で迚ても汲んで來る間が無いからと宥めるやうに斷はるが婆さんいかな承知しない。爺さんは甚だ手古摺つて居る。その時私は不斗汽車辨當に付いて居た葡萄酒の罎がそのまゝ殘してあつたのに氣が付いて、それを爺さんに遣つた。爺さんは遠慮はしたものゝ他に婆さんの渴を醫する手段も無いので欣んで請けてそれを婆さんに飮ませた。罎を皆明けてから、そのまゝ腰掛の下にでも放り込めば可いものを、その空罎をまた態々私に禮を言つて返へしたのを見て他の乘客は皆思はず笑つた。田舍者の純朴さは何處でも變はることが無いと思つた。

□車内の挨拶

東海道の汽車の中、私は妻と二人で入口の近くに腰かけて居た。食堂へ行くらしいフランス人と思はれる老紳士が、入口の戶を開けて中へ這入るや否や私の妻に向かつて帽子を取つて行き過ぎた。なるほどこれが正しい作法かと一つ學問をしたが、私は伊太利で、停車場からホテルの馬車に乘らうとする時、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

既う先きにアメリカ人らしい二人の女客がその馬車に乘つて居た。その時私はかの東海道の外國紳士を想ひ出して、二人の婦人に向かつて帽子を取つた。女客の方でも默禮を返へした。一寸そら〴〵しいやうでもあつたがまた何となく親しみも感ぜられた。鄕に入つては鄕に從へである。

□ポリースマン

内地の或る都會で、派出所の巡査に道を尋ねたら、側の駐車場に客待をして居た車夫にその巡査が又た聞いて居る。迂遠な巡査だなと思つたが、その車夫のお蔭で道は解かつたから結局文句は無い。

北京の停車場から日本の宿屋まで車に乘つた時、正陽門を這入つて日本守備隊を通り過ぎたあたりへ來ると、車夫は梶棒を下ろして、芝居モドキに身振をし乍ら何か言ふ。つまり强請である。十錢遣つたら又た引出したが、水門の少し先きまで行くと又た梶棒を下ろしてやり出した。通りすがりの支那人等は立ち止まつて私に同情するやうな面持ちで見て居たが、道の向側に立つて居た巡査は見て見ぬ振りである。私は支那人に聞いて、其處から他の車を雇つて事なく宿へ著いたので結局言ふことは無い。

巴里のエトワールで地下電車を出て、巡査に日本大使館を尋ねたら、手帳を出して調べ乍ら敎へて吳れた。但しそれは、行つて見れば元の大使館で今は大使の官邸であることが解かつた。しかしこれは穴勝ち巡査の不用意とも見られぬ。

□風　呂

私が今日まで這入つた風呂のうちで最も愉快と思ふのは、明治三十八年の四月、旅順の何とか云ふ日本宿屋の風呂である。小高い丘に倚つて、港内一圓を見晴らす家であつたが、殊にその宿の風呂場の眺めが好かつた。まだ日の高い午後、私は靜かに湯壺に浸り乍ら、眼下に橫はる露國の擊ち沈められた數多の軍艦を夢の如うな氣持ちで見下ろした時に、流血の慘禍は想ひから消へて、只だ繪の美しさを感じた。その光景は今も忘れることが出來ない。そしてそ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の時ほど躰軀が綺麗になつたと思つたことは無い。

倫敦で私の泊まつて居た家庭の風呂は、瓦斯と水道とが一緒に小形の銅製のタンクに通じて居る。マッチ一本で、一寸栓を廻はせば熱湯が滾々と湯氣を立てゝ湯桶へ落ちる。五分と經たぬうちに、手も付けられぬ熱い湯がなみ〳〵と溜まる。冷水栓を廻はして適度にうめてから這入る。便利で愉快で、風呂好きの日本人には持つて來いである。

北投の湯は臺北附近の名泉に相違ないが、出る時可なりよく躰軀を洗つても硫黄の匂ひが二三日は抜けない、それが着て居るシャツにまでも移つて、やがて鼻の習慣から何處を嗅いでも皆硫黄臭くなる。これが嫌らいな人には困る。いつそ慣れてしまつたら氣にならぬかも知れない。

食　堂

馬耳塞から巴里へ行く間にヲローシュと云ふ停車場がある。乘換驛で一寸大きい。私はこの邊の風景が佛蘭西の代表的のものであるので面白く思つたが、それよりも思出の懷みは此處の朝食である。馬耳塞を夕方に出る巴里行きの急行は翌朝このヲローシュに着いて、此處で朝食時間として十分間停車する。私も他の旅客の後に附いて驛の食堂へ這入つた。幾列かの食卓には、烟の立つて居るショコーラのコップにパン三箇皿に入れてバタも付いて居る。食卓の中央には處々に札が立つてそれに一法半と大きく記るされて居る。皆大急ぎで腰をかけて手早く食べはじめる。私の隣に座はつた婆さんは、一法半の紙幣を片手に確かり握り乍ら食べて居る。濟んだ者は皿に一法半を置いた儘さつさと車へ還へる。あとからボーイが皿を片付けてまた新らしい用意をして廻はる。客も給仕も慣れて居るから、十分間に百人以上の取扱ひも出來るが、日本ではよし斯う云ふことを遣つて見やうとしても巧まくは行くまゐ。併しこんな食堂もあると可いと思つた。大急ぎで食べ了はることが日本人の氣分に合ふからである。ホテルの食堂なぞは、こんな簡單な食事では無いから、さう手つど

り早くは行かぬが、それにしても日本のホテルの如うに悠々緩るりと食べさせるのでは無く、急がうとすれば早く持つて來る。日本では反つて安西洋料理屋などが進行が早い。これは緩るりと食べることを品位のあると考へる一種の西洋通の弊かも知れぬ。

□車夫の意見

仙臺の停車場で、車に乗り乍ら、何處か靜かな良い宿へ連れて行つて來れと車夫に頼んだら、このころ建て増しをした靜かな親切な宿があると、委細承知で引張つて行かれた。著いて見れば、古るい家を修繕したもので、成程お世辭は可い。場末の町だけに靜かには相違ない。併し夜になつてから番頭が、申兼ねましたが一人お合宿を願ひ度いと言つて來た。仕様がない。その一晩は我慢して翌日は芭蕉の辻の何とか云ふ大きな宿へ移轉した。

伊勢から名古屋へ著いたのは夜の十一時、停車場前は騒がしくて寢られぬから少し距れた良い宿をと車夫に頼んで乘つた。新らしく開業した勉强する家があると車夫は答へ乍ら引出したが、着いて見て驚いた。寄席か安料理屋を改造したもので、シャツに半ヅボンの主人が斡旋して居る有様は宛るで滿洲の田舎宿へ這入つたやうだ。巧まくゴマかして早々退出、かねて知つて居る清駒と云ふ宿へ落付いて一安心した。

什うも意見の標準が違ふのだから仕方が無い。

□宿　屋

日本の宿では番頭女中がお世辭よく斡旋してくれる代はりに、一つ家に泊まり合はせ乍ら客同志は廊下で會つても宛るで仇敵の觀がある。西洋のホテルでは、番頭女中の空お世辭は無い代はりに泊り客同志は親しみがある。この方が旅行の感じは好い。アルプスの下の乘換驛で一晩田舎ホテルに泊まつた時、女將には英語が解からぬ。押問答をして居ると、向ふに居合せた泊まり客がやつて來て親切に通辯をしてくれた。旅は道連れの味は日本よりも西洋の宿に豐かなものがある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

比律賓雜感

戸田龍雄

住民に就いて　現在比律賓群島住民の元祖は「ネグリトー」と稱する短軀醜黑、平鼻厚唇の馬來人種であるとの事であるが、西班牙三百幾十年の統治の間に西人と混血し、此の混血は又混血を生み遂に今日に至つたのである。故に今日比律賓人と稱せられる者は多少共に西班牙の血を交へざるはなく、上は西班牙人と見違へるばかりの白色比人あると思へば、下は蕃人に近い黑色獰猛の比人あつて、果して之れが同じ國に生れ、同じ國に育つた物かと疑はしめる程である。又此間に支那人、日本人の血も交つて世界に類のない混血國が出來上つてゐるのであるが、大體に於て白色比人は敎養に於て優り黑色比人は體力に於て秀れてゐて、オリムピックに出場する選手は多く後者である。例へばビコール地方のカタロンなど其れである。

此の混血國中最も其の甚だしいと云はれてゐるのはパンパンガ州であつて、此處に行けば比律人の人種展覽會の觀がある。

日本人の中にも呂宋孫左衛門、島右近等の勇者があつたのであるから、可成多くの血を交へてゐるものと豫想されるが、一見しても二見しても比人は我等に非常に類似してゐるので其判別に苦しむのである。イロコス・スールのビイガン附近には薩摩利左衛門の遺趾があるとの事であり、又憂國の志士リサールも日本人の血を受けてゐるとの事で、筆者の寡聞にして之れだけの事を容易に掲げ得るのであるか

ら、研究すれば如何に日本人が盛に活動してゐたかといふ事を判別し得、其の比人に與へた血の分量なども或は計られないとも限らない。

然し比律賓人といつても其種族は非常に多くイゴロテ、タガロ、ビコール、バターン、ビサヤ、モーロー等々枚擧するに遑がない。今日政界の中心人物である、ローハス、ケソンはタガロであり、オスメニャはビサヤである事は周知の事實であるが、此間之の種族の異つてゐるといふ事卽ち小さな民族意識は實に交錯し、比島獨立の暁に於ても之がために今日支那に於て見る有樣を現出しないかと思はれる。然し此等民族の事に就いては項を改めて他日詳述する積りである。

風俗に就いて　風俗も非常に區々であつて開化せる比人は清洒なる服裝をなし美靴を穿ち、頭髮を梳り、社交に長じ、舞踏音樂を好み大體平和愛好人種であるが、ラテン文明の影響を受けてゐる結果非常に見識高く、殊に女尊男卑の風は殊に甚しい。一方米領になつて以來言論は極端に自由であるが爭鬪を演ずるといふ樣な事は至極稀で、唯婦人關係に於て屢々刄傷沙汰を見る位なものである。

然し開化せざる比律賓人卽ち行政上非基督敎徒族と呼ばれてゐる北のイゴロテ、南のバコボ、モーロー等は前にも云つた樣に今猶原始的な風俗をしてゐて臺灣の蕃人とよく似てゐる。御山育ちの結果勤勞にはよく堪へダヴァオ麻山の麻挽等は皆モーローである。而して其宗敎は回々敎徒或は偶像崇拜敎とも名附くべきものであつて、一夫多妻の習慣或はタブーなどが依然として行はれてゐる。ホーローに於けるダトの如きは十四人の妻を藏してゐると云はれてゐる。モーローは性甚だ狂暴にして屢々發狂殺人する。又或る時はホリメントウと云つて出來るだけ殺人して自分が人に殺されるのを待つといふ矢張宗敎上から來た常識で判斷出來ない樣な事をする。之れは屢々惹起する事であつて市場だとか又人通りの多い所に行つて殺すが、其對象物は白人は稀であつて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

重に比律賓人及支那人である。

言語に就いて　標準語として第一に擧ぐべきは西班牙語であつて上流下流いずれを問はず程度の差こそあれ之れを知らない者はない有樣である。英語は米國の政策宜しきを得今日教養ある青壯年者は多く英語を使用する。

西班牙語が如何に此の國の重要語であるかといふ事を知るにはタガロを研究すればすぐ分明するそうである。タガロは土人語中の標準語とされてゐるのであるが文明が低級であつて、語數少ないために西班牙語から其骨となる物を借用してやつてゐる樣な氣がする。タガロ人に御前達は不完全な文法を有してゐるなど問へば必ずや Oh no, we have complete grammar といふに極つてゐるが事實が之れを證明してゐるから仕方がない。

又彼等の使用してゐる英語もフイリツピナイズしたものであつて、初めて行く者には聞取りにくい事夥しい。

女尊男卑の例　エレベーター內にては婦人でさへあれば脫帽し、電車內にては女子に席を讓るのは男に當然の義務であつて、野球場では一等席（一等一比二等二十比）に無料入場するの特典を與へられて居る。家庭內の主婦の權利も亦之の例に漏れず財政の大權を握り男子には其一物さへも觸れしめないといはれて居り、主婦は鍵の數の多いのを誇つて居るのである。又間々男子を毆打する事があつても男子は絕對に抵抗を法律上禁せられ居るので、只遁走あるのみで三十六計逃ぐるに如かずといふのは其の儘當てはまる。

住民の傾向　概して筋肉勞働を厭ひ財政經濟に得手でない。學問に志す者は多く法律醫科に赴いて、農科經濟科に向ふ者は尠い。大體農業立國で米作などは重要事業にして且つ收穫豐富であつても住民の耕作を厭ふの結果は年々多額の外米小麥粉の輸入を促してゐる有樣で實に比律賓のために惜みても餘りある。マニラ麻の麻挽きも又相當に勞力を要し比人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は就業を好まず　之は重にタガロ、ピサヤを指す――ダバオ方面に一時一萬人の日本勞働者就業の盛況を呈した理である。

偉人傑士が居ない　リサール博士アギナルド將軍等二、三著名の人士無いといふわけでもないが醫科・法律・財政・文藝・音樂・繪畫・發明界等何の方面を見るも世界に名聲を馳する如き大家の輩出せるを聞かない。此れ氣候年中温暖であつて島民の精根續かず智力を大成せしめないのであるまいか?、兎に角事實偉人傑士の出たのを餘り聞かない、と云つても常識に於ては文明國人に劣る事は絶對になく寧ろ日本などと比較すると優つてはゐないかと思はせる。

賭博　賭博を好むは各國人の通有性であるが、比人には此弊深く、政府も島民の强要を制し難く、マニラ市外竝に地方各地に多數の闘鶏場公開を許し、日曜祭日には群集は悲鳴歡聲を揚げ現金勝負を爭つてゐる。之と關連して波止場人足の白晝金錢强奪竝に電車内掏摸などがあるが之は當國に執り最も恥づべき現象と稱すべきである。

交通巡査　警察制度は必ずしも完全有效であると申し難いも交通巡査は最も成功せるものゝ一であつて、行人の規則命令に服從すると同時に巡査の態度又懇切叮嚀にして街頭常に和氣藹々たるの感がある。

獨立問題に就て　島民は前述した樣に純正種族ではない。最もそれの國民でも純正民族といふのは稀であつて、例へば英國にしても、又我が日本にしても純正種族といふのは程度の差こそあれ皆混血したものであると人類學者は云ふし又史實にも明かな事である。然し最も混血した民である比島人民が、而も自國語を有してゐない民族が曾て西班牙に對し、現在米國に對し獨立を絶叫してゐるのは聊か奇觀の呈であるが、數十年來の大聲疾呼であるから疑問の餘地のない重大な事實であるに相異はないのである。

今より十一年前ハリソン總督時代――卽ち米國民

主黨時代——にジョーンズ・ローなるものが當地に施行され自治制の根本をなしたが、米國の共和黨の天下になるに及び獨立問題は前途に望なきに至つたのである。

然し一九二四年の大統領選擧に望を懐いてゐた比島民は完全にクーリッヂの再選により破壞せられ一時猛烈な運動があつたが、最近は戰に疲れた觀があり、大した運動もないが最近注目すべき事件としては

一、ベーコン案の提出
二、キーエス案の提出
三、官業監督會議の廢棄問題
四、トムソン報告の提出

などがあつた。

政治的獨立と經濟關係　米國が共和黨の治下にある限り比島獨立の望なき事前述の通りであるが、今玆に將來何等かの機會にて獨立すると假定して、其の結果としての比島の財政經濟は如何なるであらうかといふ事を少し研究して見たい、比島が獨立したからといつて其の全輸出の七割を吸收する米國が比島重要產物に對し課稅するが如きことはあるまいが、若し課稅するとすると其結果は實に寒心すべきものではなからうか？假令ば比島產砂糖の如き現在無稅であるから辛うじて米國市場に於て他國糖と競爭し得るのである。が一度課稅を見れば年產四百七十五萬噸を產する玖馬糖、近距離にありては五十萬噸を產する布哇糖を控へて比島糖は殆ど米國市場に販路を保有し得ざるに至るのである。それだといつて元來生產費の不廉なる比島糖は支那印度市場に於ても灣糖、爪哇糖との角逐に堪へる事は出來なからうし、遂には比島糖業の自滅を招き比島の一大生命である糖業は其影を沒するに至るであらう。然して比島より糖業を失へば比島立國の基礎はなくなつてしまふといつても過言ではないのである。

其他コプラ、椰子油、タバコ、木材、刺繡品等も課稅を蒙れば當然現在よりは賣行減退し、獨りマニ

ラ麻のみは比島特產品として誇り得るも此れとても課税の結果米國市場にて價格騰貴を見れば勢ひ墨西哥サイザルの需要增加を促がしてマニラ麻の販路は縮少するの餘儀なきに到るとしなければならぬ。米國が比島品に課税すれば、比島も又全輸入の六割を占むる米國製造加工品に課税する事となるが、其結果は一時的政府の關税收入の增加を來す樣であつても、全島民に對して、高價なる物品を使用せしむる事となるべく、輸入の減退と相俟つて、民富を低め購買力を弱め國勢の衰退を招くの結果となる。

何か製造工業が皆無であつて、農林立國の比島が農林產物の有利廣汎なる販路を維持する事は絶對必要であるのに、急進黨一の表看板たる卽時且つ完全なる獨立は此の絶對必要事に障碍となる物ではなからうか。急進黨首領マニエル・ケソン氏は政治的獨立を措きて經濟的發展のあるべき筈なしと高唱し居るも、一部識者間には經濟的獨立第一にして次に來るべきが政治的獨立なりと唱ふる者があるが、吾人は此れに賛成したい。最も政治的に獨立をなして國情窮迫に陥れば全國民の發奮を促がし遂には國勢の發展を齎らすものなりとの形而上的見方が無いでもない。

比島國勢一般　火力水力等動力の自給乏しく勞働者小數であつて勤勉ならず熟練ならず加ふるに賃銀不廉が原因をなしてか當國に於ては製造工業全く與らず鑛業としては金・銀・銅・鐵・石炭・石油・アスファルト何でも御座れの吹聽であるが其實一として經濟的に經營し得るものはなく、政府にて全力傾注の石炭鑛業すら失敗に失敗を重ねて五百萬比を投せるマランガス炭鑛の如きも殆んど廢坑に等しくなり又同時に政府にて全力經營のセブー・セメント等も既に三百五十萬比を投下せるも製品は不良不廉であつて日本品(重に淺野セメント)の競爭に堪へず此の儘にては自滅の外なき形勢である。其他民間の燐寸製造、紡績織布等皆不引合にて結局は休業放棄の外なき有樣であると觀取される。

斯くて當國唯一の經濟資源は依つて農林産物にありと云ふ事が出來る。然るに米、玉蜀黍など國民食料は年々大不足にて外米及び小麥粉の輸入尠なからず加ふるに輸出品卽ち麻、砂糖、煙草、コプラ、椰子油等は多産であつても殆んど其大部の販路を遠く米國市場に求めなければならない始末であつて、一朝米國市場に此等物産不買の事情發生すれば何れに之が販路を求むべきか、之が差當つての大問題となるのである。支那日本等は需要微々として振はず云ふに足らない。忽ちにして過産堆積腐敗の慘狀を見るのは決して杞憂でも何でもないと思ふ。

新高山を中心として（三）

青木繁

此の稿を草するまでに、私は此の道路を試みて居らぬのを殘念に思ふてゐるが、此の新道の案內に就ては「新高が近く成つた」と云ふ標題で書かれた、臺南新報（昨年十一月、十二日）の記事に盡きてゐると思はれる。

で、此の新道が出來て見ると、新高登山口としては、此の新道を表口とすべきは勿論である。從つて水裡坑口は裏口とも云ふべきである。

要するにこゝには、阿里山沼ノ平からする新高登山道は、以上二通りがあることを記すれば足りる。その何れをとるべきやは、專ら登山者の登山の目的にもよるべく、それ等に就ては、後に述べやうと思ふ。

三、阿里山より新高山へ

阿里山より新高山への道は二通りある。其一は阿里山沼の平より水裡坑登山口沿道の東埔へ一旦出て、登上するもので、私がこゝに書かうとする登山道である。新高主山頂上まで十三里半、樂な道、平凡な景觀、二泊の上、つまり阿里山を出て、三日目に頂上し得る。其二は阿里山より兒玉、鹿林西山・前山等の嶺づたひ、險路・峻坂、一泊の上新高主山頂を極むる登山である。後にも記する通り此の登山道は昨大正十五年十一月竣工したもの、臺南州經營、經費一萬圓を要したと云ふ。勿論景觀は雄大で、難行に相違ない。主山頂までの行程七里十二丁餘である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勿論、私の登山の時には、まだ新道は開けてゐなかつたが、從來博物採取家などは危險を冒してこれを歩いてゐた。

で、私も最初は此の道を歩くつもりだつたが、新道路の出來ぬ前故露營をせねばならぬし、生蕃も多く雇入れて登らねばならぬし、それに必ずしも此の道を歩かねばならぬだけの理由が私になかつたので、此の計畫を放棄して、舊道——次に書く道を歩いた次第である。

登山第一日——七月二十八日——晴天

阿里山發東埔著泊——行程七里五町五十三間

平地は華氏八——九十度、酷暑、氷と煽風器の世界だ。が、阿里山は寒い、朝は勿論五十度內外、ほけが立つ。愈々新高へ近づくべく、阿里山沼ノ平林業村を後にA氏の家を出たのは午前七時を過ぎてゐた。前日登山を共にしたいと申込んで來てゐたS氏、を、旅館香林閣に訪れると、もう旅仕度が出來て、玄關に私を待ち受けて居られる。ところが、前夜駐在所に依賴して置いた蕃人の道案內人が、中々やつて來ないので、時間が徒らに經つ。いらだたしくなつて、駐在所に電話を掛けても要領を得ない。で、旅館でも、すぐ前の蕃人の家に出掛けて、直接交涉したりしてゐると、駐在所の巡查君が、本島人を一人伴つて來て、此者を代りに東埔までの案內をさせると云ふ。厚意を謝して早速出發する。時はもう八時を過ぎてゐた。

茲で私は、登山の準備と云つては、言葉が誇大に亙るのを恐れるが、一言を用ひなければならぬ。後にも記するつもりであるが、直接新高山への新道には、休泊所は新設されてゐても、駐在所はない、尙水の便が至つて惡く、途中二箇所しか水の便がないと云ふことでもあるので、阿里山で、一夜分の食糧・水・毛布等の準備をして登山にかからぬと、飛んだ事になる。況や暴風雨に遭遇しやうものならそれこそ大變であるから、天候に付てもよほど念入りに注意

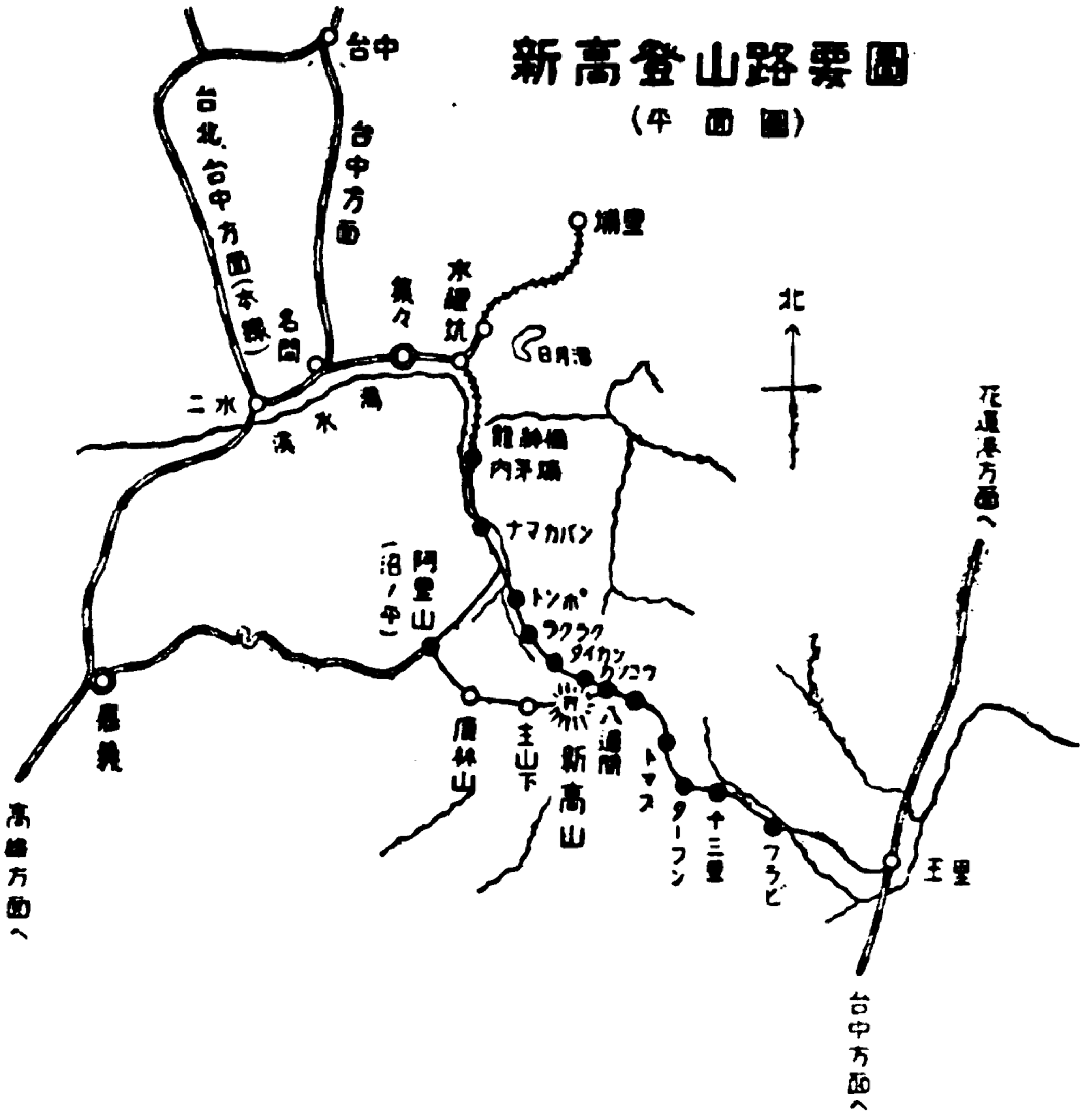
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しなくてはならぬ。その他注意すべき事が多い様だが、後に記することゝする。

ところで、舊道——東埔への道は、途中駐在所はないが一日中に樂に東埔に着くし、途中の溪の水が増さぬ限り、危險はなし、勿論糧食、水その他何等準備を要するものはない。要すれば、キャラメル・氷砂糖、それに晝食、わらじ豫備一足位を準備すればよい。但飲料水は水筒に阿里山から携行するがよい。と云ふのは。途中の溪——和社溪の下方、陳有蘭溪との合流附近になると水中に。マセトーズとか云ふ、咽喉が腫れて往々生命を奪ふ病氣の原菌が居ると云ふことであるからだ。とにかく途中、水を飲まねば氣息がきれる様な難路ではない。

新高登山路要圖

(平面圖)



高度七千五百尺の阿里山から、五里程で約四千五百尺下るので、即ち阿里山から和社溪と陳有蘭溪との合流點、東埔と楠仔脚方との中間までは、殆んど下り一方で、實に樂な道である。合流點から約二里を東埔まではこれ又樂な道であるから、阿里山から東埔への七里餘の一日の旅は至つて樂々な道である。それだけ旅行の樂しみの少ないのは止むを得ぬことである。とにかく舊道は新道に於けるが如く特に登山の準備をする必要はないと云つて

よい。

話は前に戻る。愈々阿里山を出たのは八時過ぎであつた。ところで、案内役の本島人が、道をよく知らない（故意に知らぬ風をしたとも思はれたが）爲め、阿里山の東側——東大演習林の苗圃を過ぎて間もない密林中——で道を迷ひ、東埔に行くのと反對の杣道を、何回か往つたり戻つたりしてゐる内に九時を過ぎた。此の邊の杣道は急坂であるから疲れと腹だたしさとで一杯だ。道案內人はよく選ばねばならぬわけだ。道を迷ふのも然し無理からぬ狀況にはある。と云ふのは、此の邊は杣道が本道で、然も、來た道からだら〳〵に下る樣になつて居り、東埔行きの道は、此の本道から直角的に細徑が急轉直下右折してゐる。で、分岐點に於ける道標のあまり目立たぬのも原因の一つだつた。とにかく、此の道標を發見して、愈々東埔道へと出發したのは、もうかれこれ十時であつた。道を迷ふたのは大損であつたが、よい修養上の經驗を得たわけだ。

こゝからは、約三千尺を、密林中の急轉直下的な細徑で、一度足を辷らそうものなら生命に係はるに相違ない。上り道の苦痛と忍耐を思はせられるに充分だ。樹林は勿論暖帶濶葉樹から成つて、鬱蒼たる繁みだ。で、道はジメ〳〵してゐる、歩くにも汗の出ぬ程度。ひた下りに下る、と最近廢灶したらしい腦寮に出る。巨大な樟が、横えて、胴中を削られかけてゐた。此の一帶、かなり樟の大樹が、樹林中に多い。葉の光澤と色とその容姿とによつて指摘し得られる。溪の水は冷たく清澄である。勿論和社溪の水源地帶である。

茲で特に記して置きたいのは所謂「樟の神木」のことだ。勿論、神木の位置は、此の道からは、かなり距つた和社溪本流の右岸と云ふことである。此の神木は、云ふまでもなく臺灣での樟樹の内での最巨大なるものとされてゐる。記錄によると、樹齡推定千四百年、地上五尺の幹圍五十二尺、樹高百六十八尺、材積二萬一千立方尺。因に記す、日本に於て現時最

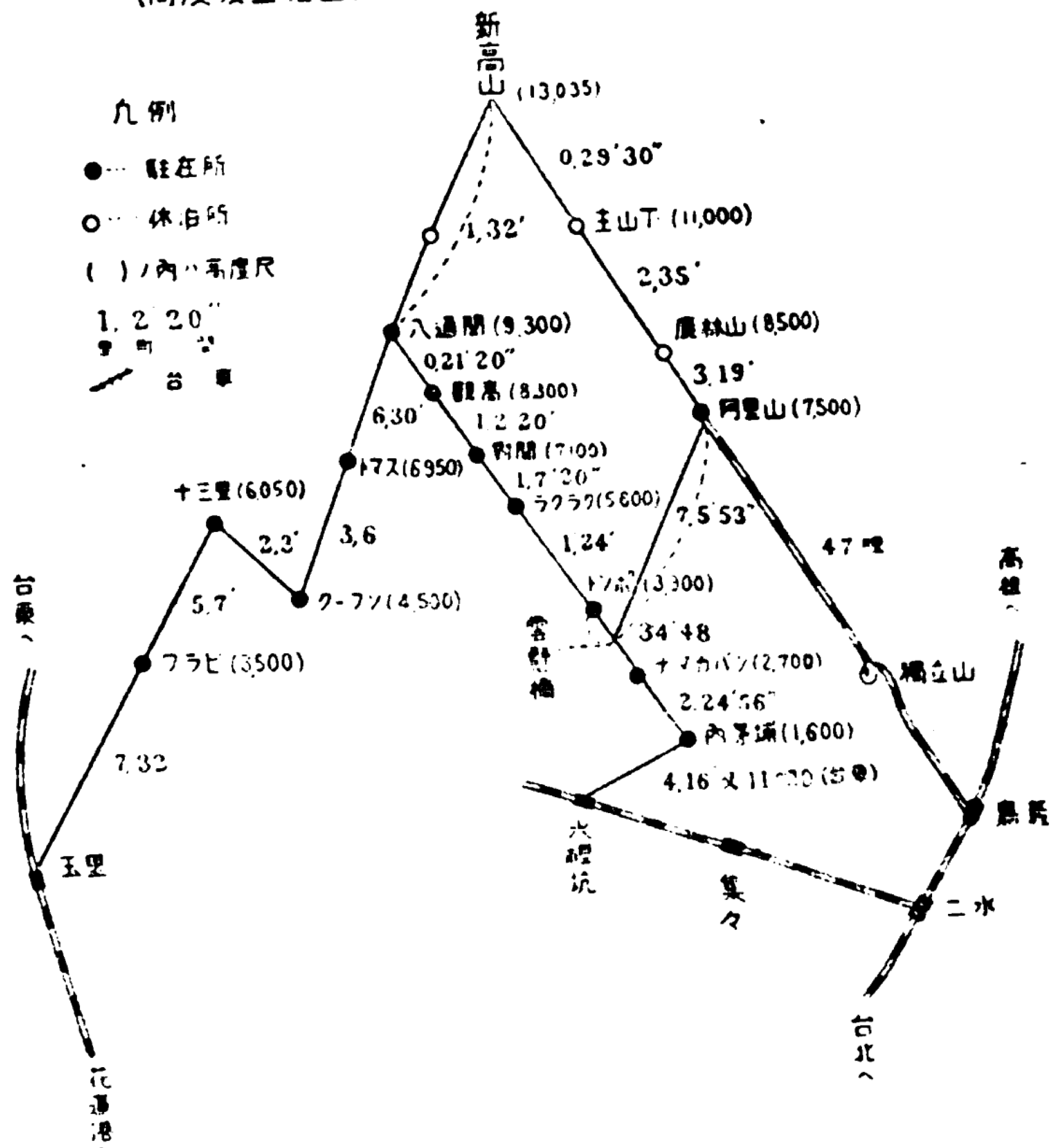
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

巨大なる樹木は地上五尺に於ける範圍六丈三尺八寸、樹高十五間、樹齡八百年の鹿兒島縣蒲生の大樟、阿里山神木は第四位、で、此の神木は、臺灣でも勿論巨木に屬するが、日本全國から見ても第十何番かに當る巨木である。

樟の臺灣、樟腦の臺灣、臺灣特別會計歲入の約一割を年々引き受けてゐた樟腦收入の臺灣に於て、全島百萬町步からの樟の生育區域の中に、此の樟の神木の生命を、永久に保存しやうと云ふ企ては、樹を植える思想と同じやうに、興國的國家の當然の任務である。內地に於ては、既に法律に依つて、獨り此の種樹木のみならず、史蹟・名勝・天然記念物につき、特別の管理をなし、現狀を永久に保存することになつて居り遺憾なきを期してゐるが、臺灣には勿論此の法律の適用もなく、さりとて他に何等の保存の方法をも講じて居らぬのは甚だ殘念である。が、近時臺灣に於ても、臺灣博物學會之を主張し、識者も之を高調しつゝあるから、何れは實現されやう。

話が若干横にそれたが、此の附近の密林中には、黃藤なども生育して居り、喬木には纏繞植物がからまつて、暖帶下部らしい林相をして居る。道の兩側は、脊丈け以上の蔥蘆が、生ひ繁つて、物騷

新高登山路要圖
（高度及里程圖）



な道である。所々、水の涸れてゐる溪床を歩くので、道を迷ひそう。間もなく第二の腦寮に出る。灶には火が燃えてゐて、樟腦の香が一面に湛うてゐた。

此のあたりからの、蒐萱の繁みは更にひどい。けれども、道はもう緩な下り坂である。勿論一律ではない。横ぎる溪流は漸次大きく、水は清澄で冷い。かなり遠くの、和社溪本流の右岸と思はれる高原は、蕃人の開墾地らしく草地である。私共三人の歩く道は、左岸に沿ふて通ふてゐる。雨上りであつたので、道が崩壞してゐて歩くに危險な所もあつた。急流に架つた小丸太の二本橋を、輕業師の綱渡りの態度で、危く渡つたりした。或時は蒐萱の掩ひ被さつた石ころ道を、或時は密林中を、或時は石礫の溪床を横ぎつたり、或時は急轉直下的な道を上つたり、下つたりして、ひた歩きに歩いた。と、小さい、綺麗な流れが、銀色を光らせて、道を横つてゐる。勿論周圍は、深い蒐萱の繁み。時は正午前。この溪水に、腰のカップで、喉を濕しながら、晝食の握り飯を頬張つたことは勿論である。もう此の邊は高度は三千乃至四千尺であらう。熱帶的な氣分が充分に流れてゐる。殊に數時間前までは、高度七千五百尺の阿里山の天地に呼吸をしてゐた身であるから、暑熱の感じの鋭さも當然ではある。照り反す陽光は益々烈しい。で、此所を發つ。

依然道は左岸を今述べた様に續く。只時折り、羊腸たる山腹をも歩くので限界が濶けて來る。

午後一時頃、なつかしいたぶん日本人の住んでゐそうな白壁の家が、蕃地に珍らしく見える。相當長い鐵線橋を渡るとその家だ製腦會社和社詰所である。

來し方をふり顧みると、和社溪本流水源方面も、阿里山方面も、一様に紫紺色の鬱蒼らしい森林に見える。詰所の庭には、芭蕉がよく生育してゐた。蕃人と土人の一團が、何か囁いてゐた。詰所と云つても家は小さい、何の造作もなく裏口から這入つて來た若い奥さんが、入口に立つてゐる私たちに、事務

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

室に當つてゐる土間の椅子をと進められる。名刺を出して挨拶を述べる。腰を卸す。お茶を啜る。主人は留守と云ふ。奥さんと云ふのは三十歳前後であらう。髪は七分三の結ひ立てが顔によく格好して、ゆかたのあらい柄と、締めためりんす帶の赤色の花模樣などが、蕃界に居ると云ふ意識からいつか私の心を遠ざけ消してしまつてゐた。同時に、蕃界の氣分、蕃界の景觀を艶かしいものにしてしまつてゐた。聞けば最近此所へ轉勤になられたと云ふことであつた。勿論日本人と云へば、此所から二里近い東埔か、ナマカバンへ行かねば住んではゐない。本島人もあまりゐない。主人の巡山の時などは、云ふまでもなく、此の若奥さんは、淋しい夜を明かさなければならない。おゝ他人のことのみではない。日月潭の附近、魚池の町から一寸距つた所に在る、今の營林所臺中出張所の派出所、昔專賣局附屬魚池樟林作業所の門札の出てゐたところ、數年前、私の三十歳前の結婚生活當時、此所に勤務してゐた當時。勿論二人きり。私の山へ出發の留守には、必ず短刀を枕の下に敷いて寐た妻の淋しみと、恐怖の心理は、此の若奥さんの心理とあまり違はないだらう。

話が、つい他所へ外れて行つたが、兎に角、日本の領土とは云へ、蕃人の世界の、こんな蕃地の一軒屋でも、若奥さん一人が、留守居をせねばならない例は、山地居住所の職業柄から、避け難き、當然のことではある。蕃地の駐在所と駐在所との距りは、地形や蕃情によるものであらうが、普通は一里位であらうか、尤もその距りの十丁とか二十丁とかの短距りの地方は、即ち蕃情不定の、少くとも危険性に富める地方である。その地方の若奥さんたちの心理を、私は知り得る者である。

殊に此の奥さんは、その時七箇月位の大きなお腹であつたが、立派な病院や産婆のある都の奥さん方に、せめて一度でも、そんなところを見せたい。然し同時に、物質を追ふて寸隙の餘裕をも持たぬあらゆる階級、あらゆる職業を包含してゐる都人に、蕃

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

地の平和な、靜寂な、氣分と、新鮮な空氣とを、一日でも味はせたい。都會に病院があつて、博士がゐて、良藥があつて、注射藥があつて、でも病人は增すばかり、病氣の種類が多くなるばかり。蕃地には總じて、然し病人も病氣も少ない。爭はれぬものではある。都會の人たちは、無理をしてゞも——時間的に、金錢的に——是非共、出來なる丈け山登りや、遠足や、手近の森林に入つてそこの空氣を吸ひ、精神を爽快にし、健康を促進させるがよい。

曾つて私は、ビヤハウ駐在所——森林に名高い太平山の裏側、俗に所謂南奥蕃の最奥地の蕃社——で聞いた事であるが、警察官の奥さんたちのお產の取上げ役は、其主人や、附近の蕃婦が勤めると云ふ。勿論事實に相違ない。

序であるから記するが、此の和社詰所の奥地にも、親子四人とか、臺灣人の股首(腦丁の親方)に若干の負債があつて、動けぬ日本人の腦丁の家族もゐると云ふ。生存競爭の實社會に敗けたと云ふならそれまでゝあるが、生活難が臺灣の蕃地の日本人にも及んでゐるとも云へる。彼等の生活、經濟、文化を、都人の所謂文化に對比するとしても、蓋し、對比するに用ふる尺度がないであらう。前者が小鳥や、山猿の鳴き聲や、溪流の音に朝夕をするものとすれば、後者は、電車・汽車・汽笛のけたゝましい音に驚き、自働車の土煙りに息をつまらせる生活と云ひ得やう。前者が神祕の自然の景觀を眺め、之を觀賞する代りに、後者はコンクリートやレンガに依て出來上つた高層の建物の一隅の箱庭を眺めたり、之を觀賞するであらう。前者が金錢の使ひ場に困る間に、後者はあらゆる慾望を金錢によらねば充されぬ。前者は自由に、朝に星を見、夕に月を眺め得る代りに、後者は自由に人と家とを見られる。前者は、親みある、涙と涙、笑と笑ひの人の集まりであるのに、後者は、猜疑深い、空涙と空笑の人の集りかも知れぬ。

話が突飛に支流に入つた事を許されたい。只、私の記する以所は、此等山地深くに活動して、それが

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

直接であれ、間接であれ、お國の爲になりつゝある人々の心理を、爲政家は勿論、一般人士がよく理解されて、或は經濟上に、或は文化上に利せらるゝ爲め、相應の政策が研究施設さるゝのを祈るにある。彼等の爲に、又國家の爲めに。

詰所の奥さんの辭退さるゝのを無理に、禮を辨へずに、阿里山で仕入れた氷砂糖の一包を、只何の氣もなしに、置き去りにして、奥さんにお別れしたのは、二時過ぎてゐた。

東埔まで二里に足りない。それに道路は殆ど平坦で、幅一間半、最近手入をしたもの、無理もない、軍司令官が此道を通る豫定であつたと云ふ。軍司令官のお通はなくても、お蔭さまである。沿道はやはり草地、兩岸の草地は、山背に近づくにつれて樹林地に變じてゐる。所々枝力らしい群生が、草地を風景化する。番屋も所々に見える。と、もう有名な雲懸橋——鐵線橋長さ六十一間——である。云ふまでもなく、和社溪と陳有蘭溪との合流點。橋は水面より相當高くに架せられてある。流れは濁つて早い。橋上に立つ。前方遙かに新高山彙が高く聳え、右方に和社溪流域——阿里山・鹿林山方面——の森林が、左方に群大山脈が、各々一萬尺內外の高度に於て、覇を爭ふてゐる。かなり雄大の景觀である。此の方面から新高主山を指摘し得ると云ふことであつたが、生憎はつきりわからなかつた。

番地での當然の事ではあるが、番人の小屋や、開墾畑を見たり、番人の通行に出會ふことなどは、自然的景觀を、どれだけ思索的にし、ロマンチックにするか知れはせぬ。臺灣番地の旅行の恐さに、充分の償ひであらう。

雲懸橋を渡ると、陳有蘭溪の右岸、新高への立派な一本道、下駄履き結構である。登山期なので手入も充分に行き屆いてゐる。緩な上り。やがて道の左側に蕃社がある。年老ゐた夫婦らしい番人が、臼に粟を搗いてゐた。側で遊んゐた裸體の番童が、私の與えてやつたキャラメルに仲のよいところを見せる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此の附近は高度約三千尺、沿道には、比叡・六甲・多良・大屯などの諸山の標高標が、順次に立てられてある。登山に興味を添へる一つ。先年見元了氏の建つるところである。蕃人が畑から顔を向ける。今では此附近の蕃人は全然順化してゐて、粟・甘藷・落花生などが畑に栽培されてゐる。勿論芭蕉の生育も立派である。右に陳有蘭溪の流れる音が絶えない。左岸の草地は云ふまでもなく蕃人の開墾跡地、校力の群生が點在する。中腹以上は急傾斜の樹林。沿道の校力の小枝に鳩が止つてゐたり、蝶が路上を遊んでゐたりしてゐた。白百合が純潔を誇る樣に路傍の雜草の中に咲いてゐたりした。

變化のあまりない道を、兎に角四時過ぎに東埔に着く。勿論駐在所に厄介になる。豫め依賴してあつたので心よく迎えてくれる。此の日は、登山の人が多く、團體などもあり、宿舍はどこも一杯らしかつた。門のところにはテント張りの湯呑場も設けられ、蕃人が焚火を圍んでゐたのが、いかにも蕃地らしい。早速、憧憬の靈泉に浸つて充分に疲れを醫し、或警官の宿舍で、夕食を圍む。食後に於ける主人や奥さんの親みある物語りは、中々つきない。明日のこともあるので、六疊の室に、大學生三人と私等二人が雜魚寐の一夜の夢の床に就たのは十二時前でもあつたらう。

東埔は高度三千九百尺、理蕃、交通上の要地に當つてゐて、警部以下警官數名が居られる。蕃童敎育所あり、公醫も居る。註に曰く、公醫は官設の醫者、獨り蕃地に限らず臺灣全島に配置されてゐる。勿論景色を誇る何ものもないが、温泉がある。旅行者にとつて、その温泉に浸る氣分と效能とが、どれだけ有り難いものであるかは、殊に高山旅行の經驗者にはよく知れてゐる。近來登山の盛なるにつれて、自然東埔は著名の休泊所となつてしまつた。温泉と里程の關係と休泊の設備の點に於て當然のこと。で、近く更に登山者の便益の爲め八疊二間、六疊一間の休泊所が建設される筈。(本稿は昨年のもので今頃は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此の休泊所は出來てゐる筈）從來もそうであるから、今後は一層東埔は繁昌するであらう。勿論蕃人の危險は全然なく、マラリヤの心配もない、温泉はある。東埔は確かに此の沿道に於て、最も惠まれたところである。

勿論駐在所は此所ばかりではないが、臺灣蕃地旅行唯一の休泊所であるのは同じだ。都街を自動車驅る偉い人も、金錢を湯水の樣に奢侈觀樂に投散する金滿家でも、蕃地に來ては、水から上げられた魚も同然。休泊と蕃人の爲の警備とは、專ら此等駐在所の人々の力にすがるより外に術はない。都とは違ふて、田舍、殊に蕃地は金錢の世界ではない。金錢の力のみによつて人は動かぬ世界である。心と心の世界である。權勢も金力も無力に近い世界である。吾等旅行者は、此等駐在所の門をくゞる前に、都會的、金錢的俗情を捨てねばならぬ。況や駐在所の主人方や奥さん方の心づくしの食卓を圍む時、しみ〴〵とその有り難味を感得させられる。同時に最高の謝意を表したくなる。夕食後の靜寂、しんみりした話、親みに滿ちた興味多い物語、蕃害の話、人の精神を統一し、心を落ちつけずにはをかぬ。若し同郷同縣ででもあつたとしたら、秋の夜も短かく明けねばならぬ。心と心との話し合ひ。都に於ては到抵期待されぬことである。都では活動寫眞や芝居の幕の下りる頃、カツフエーの盛り時、精神の亂れ、離念、明日の勤務に頭の重いのも當然すぎる歸結。物欲と物欲との集合社會の都人にとつて、蕃地の旅こそ、肉體的にも、精神的にも、千金に値する良藥であらねばならぬ。

（一九二七、二、二七、舊稿を訂正して、於臺北醫院認）

臺灣動植物探究略史（二）

臺北師範學校　堀川安市

第二、動物

動物は其の種類の夥しきに係らず島内の研究機關不備なるより調査は植物に比して著しく晩れたり。

動物中昆蟲類は中央研究所農業部應用動物科（元の農事試驗場昆蟲部と研究所動物學部の併合したるもの）に於て、白蟻と蛇類と魚類等は動物學部にて研究せられ他は內外の篤學者の研究によるのみなり。

動物部門中鳥類の分類的調査が最も進み哺乳類・兩棲類・爬蟲類・陸產・水棲の貝・人體及家畜・寄生蟲は稍明かとなれるのみなり。

本島動物の探究上最初にして且つ事業の大なるより名あるはロバート、スキンホー（R. swinhoe）氏なり。氏

は英國人にて千八百三十六年印度カルカッタに生る、長じて本國キングス大學に學び、十八歳の時領事書記生として香港に來り翌年厦門に轉じて領事となり、其の翌々年卽ち千八百五十七年六月臺灣を一週して動植物を採集せり。

千八百六十一年(我文久元年)二月領事として渡臺し高雄に駐在し五箇年目(慶應二年)に歸國す。其の間動物特に哺乳類と鳥類とを多數採集し、自ら研究し、或は學者に研究を委ねたり、其研究報文はロンドン動物學會報と「鳥」にて發表せり。

斯くて發見自ら命名せるもの、他學者が氏を記念するため動植物の學名に氏の姓を附せるもの尠からざるが其の内の二三を示せば左の如し。水鹿(Cervus swinhoe) 山鷄(Hieropliosis swinhoe) スキンホー蛇(Natrix swinhoe) ウラジロイチゴ(Colliophis swinhoe)。

自然淘汰說の發見者たるも割合に世人に知られざるアルフレット・ワーレス氏は永く東亞熱帶に滯在し貴重の業蹟を殘せるが彼の著名なる「島の生活」中に本島產哺乳類三十五種、鳥類四十三種の目錄を揭げたるものは自ら研究せるにあらず殆んどスキンホー氏を祖述せしのみなり。

日本人にして最初に本島動物に關して報文を發表せるは波江元吉氏なり、氏は東京帝國大學に永く奉職せる人なるが臺灣が我國の領土となるや直ちに外國の學者によりて研究せられたるものを編みて「帝國新領地臺灣動物彙報」と題し明治二十九年動物學雜誌に、哺乳類四十三種、鳥類百七十七種の學名・和名・產地及び文献と、軟體動物百七十一種と蝶類四十五種の學名を記し世に便せり。

多田綱輔氏は本島動物を實地につき採集調査せる日本人の初めなり、氏は東京帝國大學の助手にて大學の命により明治二十九年八月基隆に上陸し同三十一年十月同地を去るまで約一箇年五箇月間滯在し、臺北・基

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

隆・宜蘭・花蓮港・臺東・高雄は勿論澎湖・紅頭嶼に至るまで殆んど全島各地に足を入る、土匪の强梁、惡疾の蔓延、交通の不便、宿舍の不足等あらゆる事に不便、不快を忍びつゝ大努力によりて左の如く多數の標本を採集し、且つ貴重なる觀察を遂げたり、これは大學へ掲出せる復命書(東洋學藝雜誌と動物學雜誌轉載)と臺灣鳥類一斑を發表せらる。

獸類	十餘種	兩棲類	七種
鳥類	八十餘種	棘皮動物	十餘種
爬蟲類	十八種	軟體動物	百餘種
魚類	百餘種	昆蟲類	七十餘種
甲殼類	二十六種	珊瑚類	數種

此類の標本は其後飯島魁・寺崎留吉・内山柳太郎・スタイネゲール・德永重康・波江元吉氏等によりて研究されたり。

ザウター(Hans Sauter)氏は千八百七十一年六月獨逸ババリヤに生る、長じてMuenchen大學にて動物を學修め、後Tuelingen大學に轉じたるも其の師の死に逢ひしにより斷然退學し、動物學上未開の國を探究せんと志し千九百二年臺灣に來り、翌年橫濱に行き同地の有名なる標本商アラン・オーストン氏の宅に數箇月滯在し、後岡山の高等學校の教師となりしが、Tait & Co. なる商會設立せらるゝや其の社員となり再び橫濱に住居し、千九百五年には再び渡臺し、高雄・安平等に住み餘暇には動物を採集せり、其の採集地は全島に亙れるも主なるは魚類は高雄・安平、蛇と蜥蜴等は恒春・甲仙・關仔嶺等、昆蟲は恒春・高雄等なり。千九百十二年に臺北に轉任せり、然るに千九百十四年には歐洲大戰の影響を受け會社を退かざるべからざるに至り忽ち生活

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に困難せりが、現時は高等學校、醫學專門學校の講師を務めつゝあり。世路と闘ひつゝも採集を續けしが不幸にも千九百十七年頃より視力衰へ、同二十三年頃より身弱り採集を中止するに至れり。

氏が二十餘年間惡戰苦闘の結果なしたる學界への功績は顯著なり。氏の採集せる動物は世界各地の專門大家によりて研究せられ其の報文は甚だ多く早や三百餘篇に及べりとか、此後も引續き發表さるべし、されば新發見も頗る多く各學者は其功に報ゆるため學名に氏の名を附せるもの尠しとせず今代表的のもの二三を掲げん。ザウテルヘビ(Natrix sauteri)、アヲカナヘビ(Takydramus sauteri)、ザウテルザメ(Pristinrus sauteri)、ザウテルカヘル(Rana sauteri)、タカオムシ(Takania sauteri)、ザウテルイトトンボ。

菊池米太郎氏は宮崎縣の人にして明治三十五年より三十七年まで支那海南島にありて獨人ショボー氏につきて動物の採集法と製作法の實地指導を受く、三十八年は支那・大島・五島等にて動物を採集し、同三十九年に渡臺し總督府に奉職し、傍ら督府國語學校、臺北中學校等の囑託として專ら動物の採集に從事せしが大正十年十一月病を得て死亡す時に年五十三歲なり、氏は在臺十餘年間に全島普く抜涉し、平地は勿論・火燒島・紅頭嶼の離島より、新高の頂に至るまで足跡を印せざる地なく、其の間に採りたる動物は夥しき數に上り、臺北博物館を初め東京、外國等廣く保存せらるゝが、殊に著名なるは明治三十九年に阿里山にて帝雉を一時に二十餘羽を得たることなり、されば新發見の種類多く學者は其功勞に報ゆるため氏の性を動物の種名とせるものあり。キクチハタネズミ(Microtbus kikuchi新高山)、キクチヤモリ(Gecko kikuchi紅頭嶼)、キクチハブ(Trimentrus kikuchi能高山)、キクチメドリ、キクチヒメゴイ(Phoxiscus kikuchi)ホソバフウテフボク。

菊池氏は多年の經驗上島獸の分布、習性等に通じ、鳴聲にて種類を識別し、其の習性に應じて捕獲法を換へ、且つ銃獵に長じたるを以て鳥獸の採集殊に多かりき。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其他の採集者としては埔里の朝倉喜代松・高羽貞將・河村英雄・臺南市の山崎常太郎・臺北市の青木仁太郎氏等あり。

一、哺乳類

哺乳類を採集調査し其の基礎を築ぎたるは前述のスキンホー氏なり、其採品は大部分大英博物館にあり、これに關する論文中最初のものは千八百六十年の「臺灣の獸に就いて」にして、分類學的のものは同七十年に出版せる「臺灣と支那の獸類目錄」にてこれには臺灣產三十一種を記述せり。

亞いでスクラテル（一八七三年）、グレイ（一八六二—一八六五年）氏等の研究あり、ワーレス氏が其名著「島の生活」中に三十種を掲げたるもには前記諸氏の研究を編纂せしのみ。千九百三年に出版されしデブドソン氏の著「臺灣」にはワーレス氏のものを祖述せり。

アンターセン氏、リンダー氏も蝙蝠類を研究し、東亞の哺乳類の研究者として名ある英國のトーマス氏は研究論文を時々ロンドン動物學會報、及博物學會報等に掲載せり。

青木文一郎氏は日本哺乳類の研究をなし千九百十三年に其の目錄（A. Hand-list of Japanese and Formosan Mamomals）を發表し、臺灣產五十九種をあげたるものは殆んど報告書によりたるものにて標本は檢せるもの尠きが如く思はる。又同氏は千九百十五年（大正四年）に「日本鼠科」と稱する一書を出版し困難多き鼠類の分類を整理したるが、臺灣產として擧げたる七種中實物を檢したるはトゲネズミ一種に過ぎず。

總督府技師倉岡彥助氏はペスト病調査の一事業として鼠類の研究をなし、全島より集めたるもの十一種とし千九百十二年に博物學會にて講演され其の筆記は載せて同會々報（十六號）にあり。こは臺灣に在住せる日本

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人が臺灣の哺乳類を研究せる初めなり。同氏は引續き研究され其結果は千九百二十年發行の「臺灣に於けるペストの流行學的研究」中に記述せり其の内容は前記の講演に大體似たるも二三點は著しく異れり。

東京の黑田長禮氏は從來三回「臺灣中央山脈鼠科」(On a Collection of Japanese and Formosa Mammalia Wien)「臺灣產哺乳類の蒐集品に就て」、岸田久吉氏は、臺灣產翼手目に就いて二回報文を出し、又哺乳類圖解中には臺灣產のものゝ名を擧げたり。以上二氏の檢したるものゝ大部分は菊池米太郎氏及余の採集品なり。

余も以上の諸氏の驥尾に附して數年前より調查を志しつゝあるが未だ目的の半にも達せざるが豫報の意味にて「臺灣產蝙蝠」「穿山甲」「臺灣哺乳類目錄」の三短篇を發表せり、吾人の知れる所にては臺灣に七十餘種の獸類產するものゝ如し。

二、鳥　類

本島產の鳥を最初に研究したる人は前記のスキンホー氏なり、同氏は自ら採集せる鳥類を調べ、其の結果は千八百五十八年を初めとし以後數回(五九、六〇、六一、六三、六四、六五、六六、七一年)ロンドン市發行の雜誌「鳥」及 Wien 博物學會報にて發表せり。

千八百六十三年にはゴウルド(Gould)氏、千八百九十五年には日本鳥類の研究者として名あるシーボールム(See bolm)氏報文を出せり、鳥獸類の採集者ホルスト(P. Holst)氏は相前後して三箇年間本島に滯在したりと云ふも年月を詳にするを得ず。

タンチエ(J.D. Tanche)氏は千八百九十三年十月より翌年二月まで四箇月間南部及澎湖島を旅行し七十四種を採集し其目錄を發表し、又デブドソン氏の著「臺灣」には陸產百四十五種の名稱と習性の一斑を記せり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其他スチーアン(Styan)、イングラム(Ingram)、ハルステート(Horstert)氏等も報文を出せり。

前記の多田綱輔氏の「臺灣鳥類一斑」には自らの採集せる八十餘種に先人の研究を加へ百九十六種を擧げ自分の採集品には習性に至るまで詳細に記述せり。

英國の採集家グードフエロー氏(Goodfellow)氏は本島に來りて鳥類を採集すること二回なり、千九百六年阿里山にて雉の尾羽を得て本國の鳥學者グラント氏に送りしものは彼の著名なる帝雉にて此の他に多數の鳥を採集せり。千九百十二年帝雉の活物を得んとて渡臺し滯在三箇月にて活物十一羽を得て歸國し蕃殖せしめたり。

グラント(Ogilvie grant)氏(一八六三—一九二二年)は大英博物館動物學部に奉職し初め魚學係なりしが、後鳥學部に轉じ終生鳥の研究をなしたり、氏の命名せる本島産鳥は十六種あるが其の內名あるは帝雉、花鳥等なり。

內田清之助氏は千九百十二年「臺灣鳥類目錄」と題して本島產の全部につき、學名、文献等を揭げたり。ついで翌々年「日本鳥類圖說」二冊其の翌年には「續篇」を出版し日本領土內の鳥類全部を圖說せり。臺灣產は主として續篇に揭げ其の數三百一種ありしが千九百二十三年の改版には三十種を增加したるも、こは公表するに至らずして彼の大震災にて燒失せり。

氏は其後も研究を續け圖說も改訂せり。

黑田長禮氏は千九百十六年鳥類採集のため渡臺し四五の兩月中四十日間滯在し、帝雉を生捕りたるを初めとし九十三種、三百三十五羽を得たり、氏の臺灣鳥に關する論文は動物學雜誌及東京にて發行の雜誌鳥等にて發表せられたり。

斯くて臺灣產鳥の分類的方面の研究は他の動物に比すれば最も進み殆んど完成に近く今日まで知られたる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ものは三百五十種なり。

此後は習性の研究をなすの要あり。

三、爬蟲類兩棲類

爬蟲類の研究報文の最初のものは千八百六十三年に出でたるロバート・スキンホー氏のものにて十五種を擧げたり其後少しく研究したるものあるも最も纒りて一新記を劃せるは米國博物館のスタイネーゲル氏の日本及其の屬島の兩棲爬蟲類なり、本書は千九百七年の出版にて紙數五三三頁圖版三十五枚挿繪四〇八あるが此内にて本島產五十種を圖解せり。

越へて千九百八年には Barbour thomas 氏が兩棲類と爬蟲類の新種を記載し英の Boulenger 氏も又蛙と蛇の新種を報告せり、東京の波江元吉氏も東京の動物學雜誌に一文を草せり。

翌千九百九年にも三箇の報文發表せらる、一は Barbour 氏がニウイングランド動物學俱樂部の會報に東亞の新兩棲及爬蟲類なる題目の下に本島產も記せり。Boulenger 氏はザウター氏の採集せる蛙と蛇の新種を記載せり、Benburgh 氏は兩棲類と爬蟲類の新種と未記錄種につきてカルホルニア學士會々報に報告せり。

スタイネゲール氏は諸種の報告と自己の研究とを合せて「臺灣の兩棲類と爬蟲類」と題し千九百十年に蛙類十九種・蜥蜴類十六種・蛇類四十四種・龜類七種合計八十六種を擧げたるが一の新種をも含ます。

本島の足無蜥蜴は千九百九年に Barbour 氏が醫學專門學校所藏のものを檢し支那福州產の足無蜥蜴と同一なりとせるが之はマッケー氏の採集なりと云ふ。

在臺の日本人として手を染めたるは總督府技師羽鳥重郎氏なり其結果は千九百五年「臺灣產毒蛇調査報告書」を出版し八種を圖解せり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

研究所技師大島正滿氏も此方面を調べ、千九百十年に「日本蛇類目錄」(英文)を日本動物學彙報に掲載し、亞いで同十九年に「臺灣及琉球毒蛇圖說」を出し毒蛇二十四種を圖解せるが其内本島產十一種にて三新種を含めり。

枚茂市郎氏はさんせうう魚類と守宮類の調査をなし新種を加へたり。

河村英雄氏が考案による蛇革細工業の盛大となるに從ひ蛇捕り專業者を生じために本研究上利する所多し。

研究所技師山口謹爾氏は蛇毒につきて精細なる研究をなしたり。

岡田彌一郎氏は蛙類の研究を始められしが近々精巧なる蛙類圖譜出版さるる豫定なりと云ふ。

四、魚類

魚學の大家ギュンテル(Albert Gunther)氏はスキンホー氏の採集せる魚類を調査し千八百五十九年より同七十年に亙りて刊行せられたる「英國博物館魚類目錄」中に十二種を記載せり。

多田綱輔氏の採集したるものは東京水產講習所にあり、ジョルダン・エバーマン兩氏は研究して千九百三年「臺灣より採集魚類について」と題して百八十六種を記載せるが其の内には新種尠しとせず。

ジョルダン(Jordan)氏は米國スタンオード大學總長にて魚學の世界的大家なるが千九百十三年にはスタイネゲル東京の田中茂穗氏と共に「日本魚類目錄」(英文)には前記の報文をそのまゝ襲用したり。

又千九百十九年にはサウター氏が高雄市場にて採集したるものを主體とし既知種全部を加へリーチャードソン(Richardson)と共に「臺灣魚類目錄」を出版せり、これには二百八十六種をあげたるが其の內新種九を含み、圖版十二枚に、十五種に挿繪にて二十九種の圖を添付せり。

下啓助・妹尾秀實兩氏は千九百十五年に一箇月間全島を視察し其結果は「臺灣水產業調査復習書」と題し出

版せらる、これには各地の漁業法と魚類目録と主要魚の圖版とあり。

大島正滿氏は全島普く淡水魚を採りしものと青木赳雄・松田英二・菊地米太郎氏等の採集品等を携へて渡米しジョルダン博士の教室にありて研究し千九百十九年に「臺灣淡水魚の研究」(英文)に五十八種を記述せるが内に八新屬と十五新種とありそれに精巧なる圖版を附せり。氏は其後數回報文を出し淡水魚の分類と分布の研究を完成されたり。海產魚類につきて調査を進められしが千九百二十四年に本島を去りしため完成するに至らざりしが鰺科の研究を千九百二十五年に比律賓科學雜誌にて發表せり。

斯くの如くにて本島魚類の調査は頗る不完全の狀態にあり種名の判明せる魚類も四百に滿たず。

五、昆蟲類

臺灣の昆蟲を採集したる最初の者はスキンホーとホブスン(Hobson)なるが如し、スキンホー氏の採りたる甲蟲は(H. W. Bateo)氏が、鱗翅類はムアー(Moore)とワーレス(Wallace)の兩氏が、ホブスン氏の採集せる鱗翅類はバットラー(A. G. Buter)氏が研究報告せり。これ千八百六十六、七年の交なり。

三宅恒方氏は千八百九十五年に臺灣のトコジラミの記事を「昆蟲學雜誌」第三號に記述せりこれ日本人が臺灣の昆蟲を記したる最初なるが時に年十餘歲に過ぎず。氏は千九百六年に「臺灣產蝶類圖說」を動物學雜誌に揭げ一三六種を解說せりその材料は多田綱輔・栗野傳之丞・永澤定一・志津基太郎氏等の採れるものなりと云ふ。栗野・永澤兩氏は國語學校の敎官にて、ナガザハジャノメ(Satyrus nagasawoe)ナガザハスミレ・ナガザハヅル・ナガザハハコベ等は永澤氏の姓に因めるものなり。志津基太郎氏は臺北廳頂双溪分署に奉職せる警部なりしが餘暇に採集せしもの。因みに吾人の知る範圍內にては臺灣の警察官にて博物學界に功多きは新竹廳北埔支廳の警部にてワタナベアゲハ・ホッポアゲハ・ワタナベヒグラシ・ホッポゼミ等の發見者たる渡邊龜作氏

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と志津氏の兩名なるが如し、余は兩記に關し深く知りたきも未だ調査するを得ず。

三宅氏は其の後「日本蛾類圖説」「日本産苔蛾亞科」「本邦産燈蛾亞科」「本邦産紋夜蛾亞科」等の論文中に臺灣産を合せたり。

松村松年氏は千九百六年に渡臺採集したる外素木得一・朝倉喜代松・高羽貞將・永澤定一・渡邊龜作・河村英雄氏を始め多數の採集者の標本を檢し多數の報告書を出せるが今其の主なるものを掲ぐれば左の如し。

一九一四年　臺灣甘蔗害蟲篇附(益蟲篇)
一九〇八年　臺灣蝶類目録
日本千蟲圖解　四冊
續日本千蟲圖解
新　同

内地にありて臺灣の昆蟲を研究したる人々は桑山覺・桑山茂・岡本平次郎・内田登一・江崎悌三・竹内吉藏・朴澤三二・名和梅吉・木下新三郎・中原和郎・加野忠雄・佐々木忠次郎・仁禮氏等なり。

臺灣昆蟲の研究の本據は中央研究所農業部にして千九百三年農事試驗場として設立されし以來現今に至るまでに此處にて調査研究に從事されし人々は阿部由熊・堀健・素木得一・新渡戸稲雄・石田昌人・牧茂市郎・鳥羽源藏・楚南仁博・大國督・三宅國雄・吉野美芳・高橋良一・加藤正世・緒方太吉・稻村宗三・森次典・大保章氏等なり農業部にては素木得一氏が千九百七年に來任以來二十餘年間主腦者として專心研究する傍ら指導によりて多數の業蹟を發表すると、一方部員は絶えず島内各地を跋渉して昆蟲の採集に勉めたるを以て頗る豐富なる標本室を有するに至れり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今報告書の主なるものゝみ掲げん

素木得一	日本蟋蟀科(歐文)
同	臺灣害蟲調査
同	一般害蟲に關する調査
同	棉の害蟲に關する調査
同	テグス蟲
同	綿吹介殼蟲調査報告
同	三點大螟蛾に關する調査(歐文)
同	虻科 (歐文)
牧茂市郎	桑樹害蟲に關する調査
新渡戸稻雄	柑橘害蟲篇
楚南仁博	茶樹害蟲に關する調査
高橋良一	蚜蟲の研究 (歐文)一―四
大國督	貯穀害蟲に關する調査
石田昌人	甘蔗螟蟲調査報告
大保章	甘蔗害蟲蔗龜に關する調査報告

白蟻を調査せるは素木・大島・朴澤氏等なり、素木氏は日本昆蟲學會報に臺灣六種を記し内四種は新種と認め命名せられたり、大島氏は分類と豫防驅除方面に力を注がれ千九百九年に「第一回白蟻調査報告書」を出し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

千九百十七年までに六卷を發表したり。當時內地にても白蟻に關して論議するもの多く分類上の點につきては甲論乙駁の感ありしが朴澤三二氏が精密なる分類學の研究によりて整理されたり。

本島のマラリア蚊を最初に研究せるは羽鳥重郎・木下嘉七郎兩氏にて千九百一年に第一回の報告あり。其の翌年には陸軍の都築甚之助氏、翌々年には陸軍の英健氏の研究報告あり。木下氏は其後兩回豐富なる材料によりて研究せる報文を出されたり、これには七種を擧げ臺灣產マラリア蚊の基礎を築きたるの感あり。

千九百十四年八月小泉丹氏來りてマラリヤ蚊の分類、分布、生態につき精細なる調査をなし數回の報告あるが分類につきては動物學雜誌(四四二號)に最近の結果を記し十二種を記載し內九種は幼蟲成蟲に亙れり。生態の一端としては「臺灣に於けるアノフエレス・シネンシスの季節的消長の觀察竝びに其氣象要約との聯關及び其習性の考察」なる題下に前後九箇年に亙りて採集・計算・觀察したる所を動物學雜誌(四三七と四三八號)に記述せらる。

六、甲殼類

臺灣の甲殼類を最初に記載したるは寺崎留吉氏なるが如し、同氏は動物學雜誌第十四卷より第十七卷に亙り「日本蟹類通說」を揭載するに當り多田綱輔氏の採品により六種を擧げたり。

其の後宮上龜七・横屋・寺尾新氏等の報文ありしも何れも其數少かりしが、大島正滿氏は多年に亙りて鋭意採めたるものに臺北師範學校生徒の採集品を加へて米國博物館に送り、蝦は D. Waldo L. Schmidt 氏蟹は Rothbun(ラスボン)氏に鑑定を乞ひ種名の判明せるものを土屋寬氏が精巧に撮影し、且つ蝦類は牧茂市郎氏・蟹は土屋氏記述し「臺灣產十脚類圖說」と題し出版せり。こは本文二一五頁圖版二十四枚あり蝦四十、寄居蟲一三、蟹六一、計一一四種を記せるにより普通種は大抵これに含めり。

七、貝類

貝類は素人間に愛玩せらるゝこと少からざるも學術的には見るべきものなし。

內山柳太郎氏は多田綱輔氏の採集したるものを調査し千九百年「臺灣產貝類目錄」(一三七種)を動物學雜誌(一三一號)に報せり。

京都の平瀨與一郎氏は全島に亙りて多數の貝を採集し米國費府のピルスブリー博士と共同に研究し其の報文は數囘發表せらる。

屏東の松田英二氏は千九百十五年より八年間陸產、淡水產は勿論、海產に至るまで鋭意蒐集して平瀨與一郎・黑田德米兩氏の鑑定を乞ひ其の目錄(博物學會報)に陸、淡水產一八九種、海產四一五種計六〇四種をあげたり。

八、蠕形動物

此類中には動植物に寄生するもの多し故に調査は比較的に進めるが如し。

人體寄生蟲につきては横川定　中川幸庵・鈴木外男・小泉丹氏等の研究あり。

横川氏は千九百十二年に鮎を中間寄主とせる人腸寄生吸蟲を發見し桂田博士によりて横川氏メタゴニズムと命名されたり、其後肺ヂストマ、蛔蟲等の習性に關する精細なる報文あり、又鼠の胃壁に寄生し癌發生の原因をなせる一線蟲は臺灣の家屋內に最も普通なるワモンゴキブリ・コワンゴキブリが中間寄主なることを發見しこれに東洋ゴンギロネーマと命名せり。

中川幸庵氏は新竹州下にてセルカリヤ類の研究中肺ヂストマ蟲の第二中間寄主は淡水蟹なることを發見し醫學界に功績を殘せり、ヂストマ蟲が人體に寄生するものなることは英醫リンガー氏が淡水にて發見したる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ものなれば本蟲と臺灣とは深き關係ありと云ふべし。

中川氏は引續き寄生蟲を調べしが肥大吸蟲が臺灣にても人體内に寄生すること、中間寄主は小形の卷貝にて菱類の果實に附著せることを確めたり。

家畜の寄生蟲につきては總督府の武上耕一・伊東鶴馬兩氏高農の杉本正篤氏等多年に研究せらる、杉本氏は千九百一九年「臺灣家畜寄生蟲目錄」を出版せしが一昨年增補訂正せられたり。

土持勝次氏は臺灣に於ける捻轉圓蟲、臺灣に於ける家禽寄生吸蟲の研究等を發表して此方面に一知見を加へらる。

森下薰氏は臺灣猿の十二指腸蟲其他寄生蟲に關して深き研究あり。

澤田兼吉氏は甘蔗の根に寄生する線蟲、柑橘類の根に寄生して立枯病を發生せしむる線蟲、根線蟲の寄生する植物の種類等を調査せられたり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一九二六年及二七年の世界砂糖市場

山岸祐一譯

本文はスラベヤのエス・シ・ムート氏が一九二七年一月三日に發表した砂糖市場に關する報告の概略を飜譯したものである。

一、一九二六年度の回顧

一九二六年の市場は沈靜裡に開場され、本年も亦一九二五年の全年竝に一九二四年後半期に於けると同様に格別の活氣を呈さないものゝ様に見受けられた。恰も此時、テート・アンド・レール會社(Tate and Lyle)の一社員はロンドン新聞紙上に「最近二箇年に於ける砂糖貿易及び砂糖工業は何等利益を得ることなく營業を續けて居り、好況時代は既に過ぎ去つた」と發表したのである。

不況時代の常として、本年も亦面白からざる其の日暮し的の商策行はれ、貿易業者は期間契約を爲すを好まず、即時渡の砂糖のみを購入したのであつた。

一九二六年五月三日は景氣の回歸點とも稱すべき日で、ゲラルド・マチヤド(Gerardo Machado)大統領が玖瑪の砂糖生産制限令に署名した日である。其の結果一九二六年度總生産高は最初五、三〇〇、〇〇〇噸と見積られて居たが、四、八八四、六五八噸となつた。玖瑪糖は、一九二六年の初めに於ては即時渡英一封度當り二¼仙で取引されて居たが、前記法律實施の結果五月――六月渡の市價は紐育渡(運賃共)二½仙に改善せられ

た。而し乍ら本市價は大多數の工場の生產費に相當する位のものであるから、玖瑪の栽培業者の損失を償ふには未だ充分の高値と云ふことが出來ないのである。

尤も玖瑪政府は前記法令の實施に際し、新製糖は一九二七年一月一日以前に之を行ふことを得ずと規定し、依つて總ての手持高を來るべき新糖に備ふる爲賣却し以つて大量の殘留を防止せんとした。

註　十二月二十七日現在のストック高は、一〇一、〇〇〇噸である。

其後、マチャド大統領は十一月下旬に次回の產糖高を四、五〇〇、〇〇〇噸に制限し、其の結果玖瑪粗糖は即時渡三仙に昂騰し、紐育渡三四/八仙となつた爲、玖瑪の栽培業者は漸く合理的の利益を保證されたのである。

歐洲の甜菜糖工業は、玖瑪の本生產制限政策に大に感謝せねばならない。即ち一九二六年中歐洲に於ける植付は前年より二·五%增加されると共に、第一回產糖見積も非常に高く七、五〇〇、〇〇〇噸となされたのである。マチャド大統領の外歐洲に於ける氣候狀態は市場を擁護し、五月六月に於ける降雨過多及び八月九月に於ける降雨不足等は歐洲に於ける生產を減少せしめた最大原因であつて、最近の電報に依れば六、八四〇、〇〇〇噸であつて、第一回見積高より六六〇、〇〇〇噸の減少を來して居るのである。

砂糖の需要は全世界を通じて間斷なく增加して居り、一九二六年の當初に於ける各國の豫想ストックの合計高は、一九二四年の當初に於ける二、〇〇〇、〇〇〇噸、一九二五年の當初に於ける二、五〇〇、〇〇〇噸に對し三、三〇〇、〇〇〇噸であつたが、一箇月前には、一九二四年同期に於ける七〇〇、〇〇〇噸及び一九二五年同期に於ける一、三〇〇、〇〇〇噸に對し一、四〇〇、〇〇〇噸となつた。而して本指數は、近年に於ては過剩ストックなるものは事實殆んどなく、且つ需要は世界生產を著しく凌駕して居ることを證明するものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

砂糖取引に於て市價の高低を論ずることは最も困難なことであつて、一九二六年當初に於ける歐洲グラニユー糖の卽時渡の大陸各港甲板渡市價は、一九二四年當初に於ける三一志六片、一九二五年初に於ける一八志に對し一四志六片であつた。然るに一九二五年末に歐洲グラニユー糖が甲板渡二〇志となるや、世人は本市價を以つて以後絶對に下ることなき價格となしたが、本市價は一「セントウイート」(五〇瓩)當り六志下落し、何等防害されることなく遂に最低點にまで達したのである。然るに三年以前に、當時同一品の市價が三〇志以上に達した事實に鑑み、多くの商人は確實に四〇志近くの市價を稱ふるに至るであらうと豫想して居たのである。

以下は一九二六年度の一般狀況の概略を示すものである。

英國。　炭坑勞働者の同盟罷業は、尠くも國家として五〇〇、〇〇〇、〇〇〇)磅の直接損失を與へたる外、石炭缺乏の結果一大精糖工場の繰業停止を誘致するに至つた。而し昨今に於ける同盟罷業の事實的終息は一大安堵を齎らすものであつて、之に依つて船舶は水を底荷として航行する必要なく、又一旦起つた貨物市場に於ける貨物の拂底狀態も亦現今既に常態に復した。英國が砂糖貿易上最も困難を感じて居る問題は、英國政府が砂糖栽培業者に漠大なる補助金を下附せる結果、當國に於ける甜菜糖栽培が著しく増加したことである。

砂糖工業に對し補助金を下附することは逐次流行となりつゝあるのであつて、以後に逃べんとするところに依るも、各國は砂糖に重い輸入税を課し、以つて自國の工業を保護せんとして居ることが解るのである。

ロンドン定期市場に於ける一九二六年一月一日の十二月渡市價は一五志を稱へたが、其後多少の變動を供ふと共に五月までは下落する一方であつて、遂に一四志六片に落付き、十月に再び一五志六片に囘復し、年末には一八志六片を呼ぶに至つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本年を通じて見る時は、一般に製造業者以外の投機者側の興味湧起らなかつた爲、取引は差程多くはなかつたが、十一月に至つて俄然買手として市場に現はれ、大取引契約が行はれた。而して、従前に於ける一日の取引高最高記録は二五、〇〇〇噸であつたが、本記録は十一月末に於ける一日の取引高一〇〇、〇〇〇噸に依つて立派に破られたのである。

佛蘭西　佛蘭西は爲替相場慘落の結果、昨年は甚だ苦境に陥つた。一磅二〇〇フランの相場を以つて當國に於ける糖價は世界平均以下にあつて、新製糖期卽ち九月末に於てはストツクは殆んど消耗し盡され、七月末に消費税は一〇〇瓩當り五〇フランより一二五フランに引上げられた。

白耳義　白耳義は、六月に至つて砂糖一〇〇瓩に對し四〇フランの輸入税を賦課するに至り、且つ舶來糖たると國産糖たるとを問はず一律瓩當り四〇フランの消費税を課するに至つた。

獨逸　獨逸に於ては五月に、一九二七年度產糖高の一〇%を輸出するを目的とする砂糖輸出同盟なるものが組織された。獨逸に於ける砂糖の輸入税は一〇〇瓩當り五〇マークであつて、之に依つて獨逸國產糖の好市價は保證されて居るのである。

露國　露國は十月に猶一二〇、〇〇〇噸の過剩糖を有し、數回に亙つて露國は本糖を他の歐洲諸國に輸出するであらうと報ぜられた。然し乍ら露國に於ける生産費は法外に高く、殆んど一「セントウイート」二五志であつて、本價は明らかに輸出を不可能ならしめるものである。

チエツコ・スロバツキヤ　昨今製糖を了した當國の甜菜收穫は甚だ不作であつて、豫想高一、六〇〇、〇〇〇噸に對し實收高は一、一〇〇、〇〇〇噸以上に達しない模様である。國內需要を約四五〇、〇〇〇噸と見る時は、殘餘の六五〇、〇〇〇噸は輸出に振向けられるものであるが、本數量は、プラーグに於ける一般買手たる

英國、バルチツイ海沿岸の各港灣、瑞西及び其他英領印度竝に近東の需要を滿し得ない事は確かである。

伊太利　伊太利は數回に亙つて砂糖消費税の引上げを爲し、現今の税額は、純度九四竝に以上のものに對しては二三・七五金「リラ」、九四以下のものに對しては一六・五〇金「リラ」である。

伯剌爾　十一月初めに、伯剌爾は約二〇〇、〇〇〇噸の過剩糖を歐洲に輸出する計畫を建てゝ居るとの電報に接し、糖業界は多少の動搖を惹起した。而し後に至つて輸出されたものは内三〇、〇〇〇噸位であつて、其の大部分は低級の偏極糖であつて精製に適しないものであることが判明した。

支那　支那は間斷なき革命及び同盟罷業或は銀價低落の結果、各港に於ける貿易は甚だ不規則であつたが、砂糖の輸入には何等變化無く減少を示さなかつた。

日本　臺灣に於ける砂糖工業の經緯は至極順調であつて、ウイルレット・グレー氏は日本竝に臺灣の收穫高を四五〇、〇〇〇噸と見積つて居り、昨年より四八、〇〇〇噸の減少を示して居る。日本の精糖工場は他の如何なる粗糖よりも臺灣產粗糖に重きを置き、且つ常に其の能力を增加し、以つて支那に充分の砂糖を供給すべく完全に設備して居るのである。又日本の砂糖輸入業者は間斷なく爪哇の砂糖貿易界に其の勢力を擴張し、大貿易者中の首位を占めて居る。

英領印度　十二月に於ける爪哇の對英領印度輸出高は約五五、〇〇〇噸であつて、英領印度の全港灣に仕向けられた五月乃至十二月合計輸出高は、一九二四年同期に於ける四五八、八〇〇噸及び一九二五年同期に於ける六四八、七〇〇噸に對し六一〇、〇〇〇噸であつた。而し本年に於ける本數字は、一月乃至五月中に於ける歐洲甜菜糖の輸入高は昨年の同期間に比し著しく增加して居る事實に鑑みて、充分の成績と云ふべきである。一般に、英領印度の商人は砂糖市場に於て充分なる利益を享けて居らず常に失敗して居る。彼等は爪哇糖

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

減收の報を信ぜず、又前記の如き甜菜糖の大輸入行はれた結果、當時市價が安かつたに係らず爪哇に注文を發するを躊躇したのである。其上英領印度は十月——十二月に歐洲よりの大量入荷を豫想して居たのであるが、之も又、其の時に至つて歐洲は英領印度に充分なる砂糖を輸出することが出來なかつたことに依つて裏切られたのである。

宗敎的紛爭は屢々起り、殊にカルカッタに於ては頻繁である。之が爲砂糖市場は再三閉場せねばならない樣な破目に陷つた。

爪哇。 爪哇の砂糖商人が、爪哇が減收に脅かされて居ることを悟つたのは六月であつたが、爪哇糖生產者聯合會が一度低く其の生產見積高を發表するや、各商人は擧つて後期糖の買付を開始した。爪哇市場は外國よりの好報に依り景氣付けられ、玖瑪の生產制限は歐洲に於ける不足と相俟つて爪哇糖市價の昂騰を促すと共に、當地に於ける總ての商人に充分なる利益を保證した。而して彼等は新糖取引に對し猶多量のストックを持つて居たとは云ひ、安心して新年度の市場に臨むことが出來たのである。爪哇糖の實收穫は昨年の三七、五〇〇、〇〇〇擔に對し三二、一六二、一八〇擔であつて其の內譯は左の通りである。

爪哇糖生產者聯合會加入工場生產高	二九、三三一、〇三三擔
其他工場生產高	二、八三一、一四七擔
總生產高	三二、一六二、一八〇擔
五月—十一月船積高	二一、五九六、四〇三擔
十二月船積見積高	二、〇〇〇、〇〇〇擔
十二箇月間の國內消費高	三、三〇〇、〇〇〇擔
合計	二六、八九六、四〇三擔

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一九二七年一月一日以降輸出可能糖見積高　五、二六五、七七七擔

次に爪哇白糖竝に黄糖スラバヤ倉庫渡爪哇擔當りの月別平均市價を示せば次の樣である。

渡月別	爪哇白糖(盾)	爪哇黄糖(盾)
一月	一一・五〇	一〇・二五
二月	一二・五〇	一一・六二½
三月	一一・五〇	一一・三六½
四月	一一・〇〇	一一・二五
五月	一二・七五	一一・七五
六月	一一・五〇	一〇・二五
七月	一〇・五〇	九・五〇
八月	一〇・七五	九・八〇
九月	一一・七五	一〇・八七½
十月	一一・五〇	一〇・七五
十一月	一二・五〇	一一・七五
十二月	一三・八七½	一二・七五

船積高は、一九二五年と比較する時は勿論減少して居る。斯は第一にスエズ運河を經て殆んど歐洲に輸出されなかつたことに原因して居るのであるが、亞細亞の購買中心地に對する輸出が、爪哇の高市價が外國の購買慾を鈍らせた結果多少減退したことにも原因して居るのである。

本高値は、五、二六五、七七七擔なるものは一月—四月の船積量として充分の樣に思はれるが、事實數量として餘り多くないのであるから當然のことである。

次表は、一九二四年、一九二五年及び一九二六年に於ける爪哇よりの積出量を比較對照したものである。

一九二四年度總積出高	一、八五八、六〇〇噸
一九二五年度總積出高	二、〇二六、六〇〇噸
一九二六年度總積出高	一、六九五、七〇〇噸

右の内	歐洲へ	英領印度へ	東部亞細亞へ
一九二四年	四六一、〇〇〇噸	五五二、五〇〇噸	八四四、七〇〇噸
一九二五年	二五九、三〇〇噸	七五三、六〇〇噸	一、〇一三、七〇〇噸
一九二六年	八、二〇〇噸	七三二、一〇〇噸	九五五、四〇〇噸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(一九二六年度分は十二月の輸出高を一二〇、〇〇〇噸と計算し、内五五、〇〇〇噸は英領印度に輸出された)

次に、爪哇糖生産者聯合會の一九二四年、一九二五年及び一九二六年に於ける白糖並に黄糖供給高を比較し、以つて本項を終ることにする。(單位擔)

供給月別		一九二四年	一九二五年	一九二六年
四月末まで	白	六、六八〇	—	—
	黄	七一、八六六	三六、七六九	二、八六六
五月末まで	白	六一七、四八五	一、三〇七、四一九	二九八、一一七
	黄	七二二、一三八	一、一一四、五五〇	五五二、四一〇
六月末まで	白	三、六六六、四六五	五、四九〇、六八五	三、〇八四、〇〇四
	黄	二、九〇二、七二八	三、八六九、一四八	二、三八九、二四四
七月末まで	白	八、〇九五、一八一	一〇、五五八、三一八	七、八一二、七六八
	黄	五、七六六、四五九	七、二一八、三七四	五、〇九六、一七一
八月末まで	白	一二、二四三、七八六	一五、三一七、〇一九	一二、三二四、六六二
	黄	八、五一九、三六一	一〇、三〇九、九七〇	七、七七一、三九九
九月末まで	白	一五、二六七、七〇八	一八、五三二、八七七	一六、〇五五、二〇一
	黄	一〇、七四七、九八六	一二、六二四、五二八	一〇、〇一八、四四五
十月末まで	白	一六、二一四、六六四	一九、三三七、三〇三	一七、三〇五、一四五
	黄	一一、七二七、二九三	一三、一九八、〇二九	一一、〇〇二、五八八
十一月末まで	白	一六、三五二、七六三	一九、六〇七、六九六	一七、五〇七、四二九
	黄	一一、八九〇、八七三	一三、二二二、〇一四	一一、一四四、九三九

二、一九二七年度の先途觀

一九二七年度の砂糖工業並に貿易業は一般に頗る好況を呈すべく豫想され、殊に爪哇に於てそうである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

爪哇糖生産者聯合會は、一九二六年末までに一九二七年糖を約一、八四二、三〇〇噸賣却し、其の内譯は次の樣である。

白双	一、〇六五、四〇〇噸	同上	一、〇〇〇噸
			(一九二六年十二月三十一日賣却の分)
S・S・S(白双の一種?)	四、四〇〇噸	中双	七三五、六〇〇噸
粗糖	四、〇〇〇噸	糖蜜	二八、九〇〇噸
袋糖	三、〇〇〇噸		

第一次賣却に於ては一〇〇瓩當り白双一六・二五盾、中双一四・五〇盾、粗糖一四・二五盾、糖蜜十番以上一三・二五盾、同八番乃至十番一二・五〇盾を以つて取引されたが、市價は其後逐次上騰し、最近に於ては取引は各々二〇盾、一九・二五盾、一九盾、一五・二五盾、一四・五〇盾を以つて成立した。

前記一、八四二、三〇〇噸の内其の重なる買手筋は次の如くである。

日本筋	八八六、五〇〇噸	歐洲筋	四九〇、四〇〇噸
支那筋	四二五、二〇〇噸	英印筋	四〇、二〇〇噸

又一〇、〇〇〇噸乃至三〇〇、〇〇〇噸の買付を爲した諸會社は Kian Gwan 商事會社・鈴木商店・三井物産會社・三菱商事會社・Fraser Eaton 會社・Erdmann and Sielcken 會社・Wellenstein Krause 會社・有馬洋行・日本砂糖貿易會社・Boassen and Overzee 會社・Platel 商事會社・Thio Shing Liong 商事會社・Kwik Hoo thong 商事會社・Hermand Marsman 會社・爪哇貿易會社及び Burns Philp 會社等である。

猶未收穫糖に對し天候順調なる時は、左の數量の輸出糖を製することが出來ると想像される。

爪哇白糖			
	一九二七年五月中	五〇、〇〇〇噸	(Contr. No. 13)
同	六月中	二七五、〇〇〇噸	(〃 〃 15)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同	七月中	五五〇、〇〇〇噸	（〃 〃 424）
爪哇黄糖			
一九二七年五月中		五〇、〇〇〇噸	（Contr. No. 27）
同	六月中	二〇〇、〇〇〇噸	（〃 〃 53）
同	七月中	四〇〇、〇〇〇噸	（〃 〃 257）

又爪哇糖生産者聯合會は一九二八年糖を三九九、七〇〇噸賣却し、其の種別は次の樣である。

白双	一四三、〇〇〇噸	中双	五、六〇〇噸
粗糖	二四五、〇〇〇噸	糖蜜	六、〇〇〇噸

第一次賣却に於ては一〇〇斤當り市價白双一八盾、中双一六・二五盾、粗糖一六盾、糖蜜十番以上一四・二五盾、同八番乃至十番一三・五〇盾を以つて取引されたが、後に至つて白双一八・五〇盾、中双一七盾、粗糖一六・七五盾に上騰した。

前記三九九、七〇〇噸の内其の買手は

日本筋	三三七、五〇〇噸	歐洲筋	五二、八〇〇噸
支那筋	九、四〇〇噸		

であつて、一〇、〇〇〇噸乃至一〇〇、〇〇〇噸の買付を爲した諸會社は鈴木商店・三井物産會社・三菱商事會社・有馬洋行・Freser Eaton 會社・日本砂糖貿易會社・Ralli Bros 會社及爪哇貿易會社等である。

又爪哇糖生産者聯合會に加入して居ない工場も相當の價格を以つて相當額の一九二七年糖を賣却した。此等の工場は一定の港灣渡の賣却をも爲し、又屢々一定期間中の當時の爪哇糖生産者聯合會の市價より高く建値することが出來るのである。

上述の特種事情に依り、爪哇の砂糖工場は大量の一九二八年七月八月並にそれ以後の産糖を甚だ有利な市價で賣却し、それが爲、工場は非常な好成績を收めて居ることは過言を要しないのである。一九二七年度の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

植付面積は、一九二五年の二五一、〇〇〇「バウ」、一九二六年の二五三、〇〇〇「バウ」に對し二六〇、〇〇〇「バウ」と見積られて居る。植付の增加は、新甘蔗種P.O.J.二、八七八番の好成績と相俟って、若し昨今の順調なる天候が引繼く時は一九二七年度に於ける爪哇糖生産高は、今日までの最高レコードたる一九二五年の二、二七二、五〇〇噸を凌駕するであらうと思はれる。

次表は、紐育のウィルレット・グレー社の調査に係る世界各國に於ける產糖高を示すものである。(單位噸)

▲甘蔗糖

產地名	一九二六—二七見積	一九二五—二六年	一九一三—一四年
ルイジアナ	七〇、〇〇〇	二二四、四四七	二六一、三三七
テキサス	—	—	七、〇〇〇
ポルトリコ	五五〇、〇〇〇	五四四、四八四	三二五、〇二一
布哇	七一四、〇〇〇	七〇五、三五〇	五五〇、九二五
バージニア島	五、〇〇〇	七、〇〇〇	五、〇〇〇
玖瑪	四、五〇〇、〇〇〇	四、八八四、六五八	二、五九七、七三二
英領西印度トリニダット	七〇、〇〇〇	七三、五六一	五五、四八八
バルバドス	五〇、〇〇〇	四七、五三五	三三、三八七
ジャマイカ	五〇、〇〇〇	五七、六七五	一五、五八三
アンチグア	一四、〇〇〇	一二、八〇〇	一五、三四五
セントキッツ	一四、〇〇〇	一六、三八〇	八、六五五
其他の西印度諸島	六、〇〇〇	七、五〇〇	七、七九九
佛領西印度マルチニック	四五、〇〇〇	四八、一二一	四〇、一三八
グアデループ	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	二六、一六〇
サンドミンゴ	三三五、〇〇〇	三五四、〇〇〇	一〇五、〇〇〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ハイチ	一二、五〇〇	一一、二四九	—
墨西哥	一七五、〇〇〇	一九〇、〇〇〇	一二七、九四四
中米、グアテマラ	三三、〇〇〇	二五、〇〇〇	一一、一六一
其他の諸國	七〇、〇〇〇	六二、〇〇〇	一〇、八三九
南米、デメララ	九五、〇〇〇	一〇七、五八〇	一〇六、二一一
スリナム	一三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一四、〇〇〇
ベネゼイラ	一九、〇〇〇	一九、〇〇〇	三、九三三
エクアドル	一八、〇〇〇	一六、九七六	四、四五〇
秘露	二七五、〇〇〇	二六五、〇〇〇	二二八、〇五四
アルゼンチン	四四〇、〇〇〇	三九五、七三三	二八〇、三一九
伯剌爾	七〇〇、〇〇〇	六五〇、〇〇〇	一五八、〇三八
亞米利加合計	八、三一三、五〇〇	八、六七七、七〇二	五、〇〇一、〇九七
英領印度	三、一三六、〇〇〇	二、九二三、〇〇〇	二、二九一、五〇〇
爪哇	一、九三六、〇〇〇	二、二七八、九〇〇	一、二七二、四一七
臺灣及日本	四五〇、〇〇〇	四九八、四六〇	一五七、〇五〇
比律賓	五〇〇、〇〇〇	四二五、〇〇〇	二三二、七六一
亞細亞合計	六、〇二二、〇〇〇	六、一二六、三六〇	三、九五三、七二八
濠洲	四二五、〇〇〇	五二二、三三四	二六六、二六七
フィジ諸島	八四、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九二、一一二
濠洲ポリネシア合計	五一〇、〇〇〇	六一二、三三四	三五八、三七九
埃及	九〇、〇〇〇	九五、〇〇〇	六九、三六八
モーリシャス	二一二、〇〇〇	二四一、二三〇	二四九、七〇五
レユニオン	五〇、〇〇〇	五九、〇一五	三五、七八二
ナタール	二二三、〇〇〇	二二三、八〇七	九二、一五三
モザンビク	六五、〇〇〇	七〇、〇〇〇	三三、九四八

亞弗利加合計	六四〇、〇〇〇	六七九、〇四二	四八〇、九五六
歐洲西班牙	七、〇〇〇	九、〇〇〇	七、三七九
甘蔗糖總計	一五、四九三、〇〇〇	一六、一〇三、四四八	九、八〇一、五三六

▲甜菜糖

米國	八一〇、〇〇〇	八〇四、四三九	六五五、二九一
加奈陀	三〇、〇〇〇	三二、〇〇〇	一一、六七五
北米合計	八四〇、〇〇〇	八三六、九一四	六六六、九七三
歐洲合計	六、八四〇、〇〇〇	七、四三五、四五一	七、九六七、九六九
甜菜糖總計	七、六八〇、〇〇〇	八、二七二、三六三	八、六三四、九四二
世界甘蔗竝に甜菜糖合計總生産高	二三、一七〇、〇〇〇	二四、三七五、八一三	一八、四三六、四七八

本表に依れば、一九二六——二七年度の世界總産額は前年度のそれより一、二〇〇、〇〇〇噸の減少を來して居り、又一九一三——一四年度の世界産額は約一八、五〇〇、〇〇〇噸であつたが、之は當時に於ける全世界の需要を滿すには充分であつたのである。

世界の需要額が年々三%宛増加するものとする時は、一九二六年度に於ては二五、〇〇〇、〇〇〇噸の砂糖を必要とするのであるが、本指數は丁度其の産額と一致して居るのである。然し乍ら、生産額は需要見積額より約二、〇〇〇、〇〇〇噸尠なく、而して需要は單に高市價を以つて制馭することが出來るのである。從つて市價の上騰は避けることが出來ないのである。

斯る現像は、昨年爪哇の收穫が著しく不足であつた時にも起つたが、一九二七年に於ても亦同様の現像を繰返すべく、而かも今回は全世界に亙つてゞある。吾々は、物價は需要供給の關係に依つて支配さるゝ事實を否認することは出來ない。而して此處に注意すべき點は、甜菜糖竝に甘蔗糖は共に一年作物であつて、隨

意にストックを増加せしめることが出來ることである。

ロンドンのツアルニコー會社(C. Czarnikau Ltd.)は、一九二六年の歐洲需要高を九、〇〇〇、〇〇〇噸と見積つて居る。然るに歐洲甜菜糖生産高は六、八四〇、〇〇〇噸に過ぎない故に、歐洲は二、〇〇〇、〇〇〇噸以上の外國糖を輸入せねばならないのである。一九二六年に於ては、玖瑪は充分の砂糖を供給することが出來たから之が輸入には差程の困難を感じなかつたが、當國に於ける四、五〇〇、〇〇〇噸までの生産制限は、歐洲をして五〇〇、〇〇〇噸以上の玖瑪粗糖の購入を事實困難ならしめるものである。秘露・サンドミンゴ・伯剌爾・マウリシャス及びナタール・英領印度・濠洲より歐洲は最高一、〇〇〇、〇〇〇噸を輸入することが出來たとしても、殘餘の五〇〇、〇〇〇噸は結局爪哇に抑がねばならず、而も歐洲への砂糖は、五月・六月・七月及び八月中にのみ船積せられるのであるから漠大の數量と云はねばならない。

歐洲の人口は六三九、二七五、〇〇〇人であつて、年々九、〇〇〇、〇〇〇噸の砂糖を消費し、北米合衆國は一一二、〇七九、〇〇〇人の人口を以つて約六、〇〇〇、〇〇〇噸を消費すると云はれて居る。此處に其他の人口を擧げて見るに、南北兩米の人口は合計二一三、二一八、〇〇〇人で、亞弗利加は三六、九七三、〇〇〇人及び全亞細亞は八六三、八四〇、〇〇〇人であつて、内支那のみで四四四、九六八、〇〇〇人を占めて居る。本數字よりして、一人當りの消費高は文化の程度及び國富の如何に依つて異つて居ることが明かに解り、又急速な發達を遂げた小亞細亞・英領印度及び東部亞弗利加は斯る見地よりして吾人に私に驚愕の念を懐かせるものである。

次は又愼重に考慮せねばならない今一つの點である。卽ち、近年に於ては極東方面に於ける玖瑪粗糖の輸入高は、常に増加して居ることで、若し日本に於ける輸入税が偶然にも爪哇粗糖に特惠を與へて居なかつた

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ならば、本輸入は猶一層多額に昇つたに相違ない。玖瑪は、賣却に際し番號又は色相の保證を爲さず、輸入糖の色相が和蘭標準第二十一號に該當するときは、法外に高い輸入税を支拂はねばならないのであつて、其間輸出保險料の支拂はれて居ない時は、該糖は再輸出さる場合に於て前記番號以下の輸入税で足るのである。

日本の議會は、現今税制整理の計畫を審議中であつて、若し本改正が法律と爲された曉には、日本の精糖工業者は爪哇と玖瑪とも互ひに競爭せしめ、爪哇の市價を從前より猶一層世界平均市價に接近せしめるであらう。又本法律の他面の影響として、日本は今後爪哇粗糖の購入を必要としないであらうけれども、猶中双第十六番並に其以上(チャンネル)に先優權を與ふるべく從つて我工場は十二番並に其以上の種類の砂糖を全部提供することが出來るであらう。若し本法律が年頭の一、二箇月間に實施されるに至つた時は、日本の精糖會社は直に米國並に歐洲の精糖會社と競爭して玖瑪粗糖の購入を開始するが如き重大な結果を來し、玖瑪の減收情態よりして本競爭は取引市場上を攪亂するに至り、それに依つて市價は當然上騰すべき額より猶一層の高價を呼ぶに至るであらう。

尙我市場は、一九二六年糖に對する六一、七六瓩擔及び一九二七年糖に對する一〇〇瓩なる所謂二箇の單位を作成中であつて、來る五月に其の統一を終了すべく、然る時は、爪哇は世界各國に對し、世界商品に對する十進法使用の先例を示すことになるのである。

一九二六年糖擔當り市價

渡月別	白双	黄双
渡濟及一月	一四・四〇〇	一三・〇〇〇
二月	一四・六二五	一三・一二五
三月	一四・七五〇	一三・二五〇

一九二七年糖一〇〇瓩當り市價

五月	二二・〇〇〇	二一・〇〇〇
六月	二一・二五〇	二〇・二五〇
七月	二〇・七五〇	一九・七五〇
八月	二〇・五〇〇	一九・五〇〇

本市價は、スラバヤ舊倉庫に於ける新年度明相場を代表するものである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

過去に於ける實績に鑑み臺灣に於ける林業勞働部落造成の必要を論ず

臺灣總督府囑託　矢田貝寛

序論

一國の產業發達は要するに需給宜敷を得て以て人類生活の安定を計り共存共榮を目標として進むものに外ならぬと同時に、他面に於ては企業者に對して夫れ相當の利益の獲得を許さねばならない。然れども事業は各その性質に應じて厚利あり薄利あるは又免るゝ能はざる處であつて、殊に事業本來の性質が例へ無質の利益を與ふるの甚だ大なるものあるに於ても實利上に於て多少なりとも利益を獲得せんと欲するは企業者の何たるを問はず當然の事と云はねばならぬ。殊に夫れは林業に於て然りである。林業は其の性質として低廉なる勞力の供給を受くるにあらざれば較利上所期の目的を達する事至難なるものである。殊に臺灣に於ける樟の造林事業の如く生產費の低下を計り天然樟腦に對抗し世界に於ける樟腦專賣を永久に獨占確保せんとする樣な事業に於て其の投資額の最も大なる勞力に於て甚だ低廉なる供給に待たざる可らざるは又何等の論議を要せざる處である。最も簡單なるが如くにして實は甚だ簡單ならず大に熟練にして實直なる監督者及び人夫

を要すること決して他の事業に相讓らざるは實に造林事業にして、特に我が臺灣に於ける樟樹造林に於て然りである。

現今我國に於ける森林内作業部落の見るべきもののなきは森林施業面積の狹少なると蓄積の少なきとに起因し、我が國に於ける林業勞働は其の官行たると民行たるとを問はず或る特種のもの或る特種の場所を除きては殆ど地元民の農閑期のみを利用し僅かに事業を遂行しつゝあるの狀態である。然れども時代の進運に伴ひ此の自然の特長が段々に破碎擾亂せらるゝの傾向を有するに至つた、即ち事業は年々深山幽谷の地に進み而も賃銀は彼の都會地方に於ける工業賃錢に比して甚だしく低廉なるを常とし加ふるに娛樂機關の如きものも至つて少なく、不便不利を忍んで林業勞働に從事せるものゝ如きは何時となく都會又は工業地方に走るの傾向を有するに至つたのである。臺灣に於て此の事の比較的少なきは未だ主として一般に文化程度の幼稚なるに因るものである事を推察する事が出來る。要するに一國に於ける諸工業の發達するに從ひ地方の農業のみを營む村落は自然に衰微の傾に向ふと云ふ事は過去何れの國に於ても皆然りとなす處であつて、我が國に於ても歐洲大戰中戰需品は云ふに及ばず歐洲各國の工場は悉く軍資品製造の工場と化し爲に我國の如きはその餘波を受け各種の工業俄に旺盛となり事業會社は勞働の不足を來たし遂に當事者は各々勞働者を得んが爲めに激烈なる競爭を開始した、之れが爲め地方に於ける有象無象の勞働者と雖も非常に高價なる賃錢を以て聘せられ前古未聞の待遇を受くるに至れるは吾等の未だ記憶に新たなる處である。從て農村部落は從來の勞働者を失ひ容易ならざる狀況を現出した、殊に最も打擊を受けたのは林業であつた。故に林產物は逐次騰貴に騰貴を重ね殆ど停止する處を知らざるの狀態となり木材の如きものは平時の價額の四、五倍に達し、パルプを原料とする紙類に至りては夫れよりも尙遙かに騰貴して居たのである。之れは要するに木材消費額の甚だ大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なりしによるは爭ふ可らざる事なるも一方勞力の缺乏に起因する事の大なりしは今更改めて云ふ程の事もない次第である。

余が曾て大正九年青森縣廳に奉職中縣下四十七箇所の大小製材工場に就て機械の種類・動力・製材・能力・製品及び資材の原產地價額・運搬力等總てに渉る事業の經濟的調査をなしたる事あり。當時は所謂上景氣の絕頂にありし爲め木材界の景氣たるや實に素晴らしく或る製材工場の如きは過去十年間の利益に相當するものを最近に至り極短期に獲得し得たりと云ひ、又過去十數年間の不景氣による借金を一時に返濟したりと放言するものさへある樣な狀況であつた。之れを以て之れを見れば當時製材は如何に急速に騰貴したかゞ略ぼ想像し得らるゝ處である。又或る地方によりては如何なる細民と雖も缺く可らざる木炭の如きものゝ甚だしく騰貴を見るに至り、加ふるに諸物價は當時既に漸高の途にありて細民の生活難に迫はるゝ事時々刻々に迫り事容易ならざる現象を呈し恐る可き社會問題さへ捲き起さんとする形勢にありたるものである。故に必需品の物價を幾分にても緩和せんが爲め當時の大林區署又は縣廳の多くは官營を以て製炭を開始し民業に對抗し其の極りなき騰貴を緩和抑制したる事實さへあるのである。即ち例へ當時は古今未曾有の特種なる景氣にせよ木材價格の異常なる暴騰を來せるは要するに所謂森林勞働者の激減供給困難の一事が與つて其の因を爲せるものと言はねばならぬ。

斯くの如く林業が勞働者を失ふと云ふ事は結局林業なるものが甚だ趣味に乏しく肉體勞働の過激にして而も大なる危險の伴ふ割合に勞銀が低廉なるに起因せざるを得ない、事情斯くの如くなりしを以て例へ其の後斯の如き好景氣が消滅した今日と雖も勞働者は尚昔日の待遇を夢見て容易に腦裡を徹しないのであるから、林業經營者が農閑期のみを利用して低率なる賃銀を以て其の目的を圓滿に達成し得ると云ふ事は、今後は甚

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

だ不安定にして、何時迄も過去の順調を夢見る事能はざるに至つたのである。彼の集約なる農業に於て農村の發達するが如くに林業の如く今日既に一國の重要なる產業化したるものに於ても其の運用の爲めには造林部落の如きものは當然構成せられざる可らざるものである。特に益々熟練なる勞働者を要する臺灣の大造林事業たる樟の造林にありては、素質良好なる勞働者を如何にして低廉にして而も容易に得らるゝかを考究する事は等閑に附すべからざる重大問題である。近時造林技術の如きは以前の失敗の跡に鑑み著々として改善されつゝあるも然も甚だ重大なる本問題の如きは未だに解決の曙光の認められず取殘されたる重要問題の一つである。故に本問題解決の是非は今日に於ては實に森林造成の成否の岐路に立つものと云はねばならないのである、依て以下少しく其の必要なる所以に就て述べて見よう。

本論

近時本島に於ても財界不況の爲め事業の中止又は繰延等により勞働者の過剩を來たし、或る地方にありては多くは造林人夫に轉換せられたる爲め或る樟林作業所にありては林業勞働夫を比較的容易に得られ甚だ喜ぶ可き現象を呈したる事あれども斯る現象は只一時的にして永久に之れを期待する事能はざるは勿論斯る場合の人夫の素質たるや多くは甚だ不良である。例へば臺中州下日月潭工事が大正十二年九月の大震災により殆ど中止の姿となるやその隣接地たる當時の魚池樟林作業所へは解放せられたる有象無象の人夫が一時に押しかけ監督者は甚だ其の人選に苦しみたる事がある。加ふるに人夫は造林事業に無經驗又は不熟のもの多く且つ素行不良の者も甚だ多かつたので折角雇入れても作業の成立及能率增進上監督者の期待に反したるの結果を招來したる事實あるは誠に當然の歸結と云はねばならぬ。例え斯る例は稀有の事に屬すとするも要する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に如何なる時代の變化に遭遇しても造林を遂行する上に於て決して齟齬なからしむる爲めには造林地内又は附近に勞働夫を家族と共に定住せしめ、所謂造林部落を造成し作業の遂行に遺憾なきを期せざれば、遂に將來益々困難を感ずる。專賣樟腦の如き其の生産費の低下を計ると云ふ事は遂に期待する事が出來ないから從つて永久に樟腦專賣の獨占確保を望む事は最早おぼつかないのである。

今造林地に於ける各地方の出役人夫の事情を考察するに內地の夫れに比し著しく異なるものである。總べて林業地の人夫なるものはある特種のものを除き內地たると臺灣たるとを問はず大部分のものは主として事業地の附近部落より出役し、他のものはその近隣又は他地方よりの出稼によるものなる事は略ぼ同格なりとするも、臺灣に於ては今日は此地明日は彼地と轉々として移動をなす所謂渡り人夫甚だ多く而も性不良にして常に監督者の目を盜み怠惰にして實直に仕事をなさゞるのみならず、例へ仕事をすると雖もそのなす仕事は放慢にして夜間又は降雨に依る作業中止等の場合には博打を事とし、他の眞面目なる優良のものと雖も之れが原因禍して作業地を去らざる可らざるに至れるものも甚だ少なくないのである。其の他人夫の出入を餘儀なくせらるゝ樣な事件の發生は中々その數が多いのである。故に之れ等大小の出來事を未然に防ぎ以て事業の進展を計らんとする作業監督の職員の勞は蓋し容易でないのである。而し附近部落民と雖も中々油斷は出來ない、寧ろ渡り人夫より惡いものもが交つて居る。內地に於ては例外は別とするも相當人格を重んじ廉恥を尊ぶを以て監督者より彼是云はるゝ時はその時の狀況事の眞僞又は理由如何によりては相當問題を起し容易ならざる事件の發生を見る事があるものであるが、臺灣に於ては全く其の趣を異にし賃銀に於て一錢にても多からば如何に叱責されようがなぐられようが敢て之れを恥辱とも思はず誠に平然たる有樣である。之れは要する處言語の能く徹底せざるに起因すべきも眞面目なる心掛けを缺き廉恥を知らず旅の恥はかきすて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と云つた樣な考へが甚だ强いのに原因をなすのである。故に長らく造林地にありて勞働に從事するものと雖も自ら風俗慣習を異にし言語が相違して意志の疏通を計る事が出來ない爲め例へ何年間同じ監督者に使はれて居ても其處に親しみと云ふものは殆どなく今迄少しも知らぬ人に對すると同然の態度を採り、監督上の困難たるや實に容易ならざるものがあるのである。殊に現在に於ては苦力頭を定め當人をして人夫を募集供給せしむるの制度であるが、遠き他州又は海岸地方より來るものは前貸するにあらざれば募集に應せず前借りを受けて募集に應ずるも造林事業に携はりて仕事に不馴の爲め又は炎天燒くが如き造林地にありては殊の外苦痛を感ずるものと見へ、前借を踏み倒して逃走するものが度々ある。從つて事業の遂行上人員の配置に於て齟齬を來たす樣な事のあるのは甚だ稀でないのである。余は先年現在の臺中出張所魚池派出所が當時魚池樟林作業所と稱する時代に集々方面の事業巡視中夕方に至り鎌を携へたる四五名の人夫が逃走し之れを捕へんとする苦力頭が一生懸命に追掛けつゝあるを目擊した。卽當時逃走苦力は集々トンネルに入り込みたると時恰も夕暮に迫り苦力共は各の手入用の鍬卽兇器を携へ居る關係上此のまゝ追跡するに於ては如何なる危險に遭遇するやも計り難きにより追跡を中止し悄然として苦力頭の歸來したのを見たのである。斯は前借の苦力が隙を見て逃走し苦力頭は夫れを追掛けたのであるが斯くの如くにして苦力の逃走する事實は各作業地到る處に於て之れを目擊する處であつて甚だ珍らしくないのである。斯くの如き樣々な事實は要するに造林に携はる優良なる勞働者の少なきにより起る結果に外ならないのである。

玆に於て吾人は、不測の事故を防止して熟練な眞面目なる勞働夫によりて造林の圓滿達成を期せんと欲せば、勢ひ造林地内又は附近に所謂造林部落なるものを造成し生活上種々の便宜と保障を與へ彼れ等の慣習を尊び、導くに仁と德を以てし相愛して彼れ等を安心して永住せしめ以て林業勞働に從事せしむるの頗る有利

なるを考慮せざる能はざるに至るも實に故なきにあらずである。過去に於ける造林事業成績の餘り芳しからざるは要するに此の方面に對する政策餘りに放慢にして單に事業のみの進行を計る事餘り急にして而も既往の結果を顧みざりし結果に外ならないのである。彼の恒春出張所管內は人夫を募集すること比較的困難なるのみならず、人夫の仕事に對するや實に怠慢にして、慣習上出役する時刻は朝の九時頃を常とする、されば其の仕事の程度も略ぼ相像し得らるゝ處であつてその賃錢と雖も通常大人一人一日五十錢を超ゆる事はない、從つて能率の上らざる事甚だしく加ふるに監督も甚だ困難にして事業遂行上遺憾の點が多かつたのであるが、余は專賣局在職中多年の持論により彼の地に林內部落形成の實現を試みた事がある。卽ち先づ附近の貧困者にして造林事業によく堪え得らるゝ者又は從來より造林事業に出役し相當理解を有し一生此の造林事業に盡さんとする信念の强いものを家族共に募集し、監督所附近の水利よく居住に對して衞生的なる處を選び住家建設に對しては相當補助を與へ所謂造林部落を形成せしめ、人夫募集上の一助たらしめたるに其の結果たるや例へ一局部に過ぎざりしと雖も頗る良好果を納め得たのである。卽此れ等の者に對してはかけ聲一つで何時たりとも直ちに目的地に集め得られ監督者の思ふがまゝ作業に從事せしめるのである。而も年を經るに從て熟練の度を增し漸次官の味方たる觀念を抱かしむるに至りたるを以て他地方に於て見るが如く放慢なる仕事は漸減し能率增進上その他の點に於て甚だ好成績を得たるのである。勿論各所に散在する斯くの如き小部落は元より當然備ふ可き設備に於て未だ不完全なる能はざりしも、而も造林に伴ふ各種の仕事より苗圃事業に至る迄作業の種類難易に應じて老弱悉く出役して收入を擧げる事が出來、而も彼等をして安心して仕事に携はらしめ從來の如く時間さへたてば仕事の出來位はどうでも善いと云つた風な事をある程度迄は阻

止し得たる丈けにても既に成功の一歩を踏みたるもの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

於ても斯くの如く造林部落の造成をなす事の利益たるや蓋し計り知る事能はざるのものあるを信ずるのである。

然れども余は造林人夫を悉く斯る部落の者を使用する事の出來る樣に豫め大部落の造成を計れと云ふのでは決してない。**何となれば事業が確乎不動のものでない限り事業の縮少繰延生産増加又は制限等の爲め永久**一定の人員を必ず使用する事能はざる事も想定せねばならぬからである。尚此の外彼等に使用せしむる耕地面積も甚だ僅少にして到底出役全人夫を收容する事能はざるの事情もあるからである。即形成すべき部落民に貸與する園藝地とか又は慣習上必需品とするもの丶栽培地積等を充分に貸與する餘地が少なからである。故にせめては總出役人員の三分の一の出役可能なる部落の成立にても滿足せねばならないと信ずるのである、即普通人夫の内に三分の一にても官の味方たる者の混入するに於ては事業の進行上よく彼等は他の人夫を牽制し得るを以て從來の如く寸時にても監督者の目を盜んで放慢なる仕事をなすと云ふが如き事はある程度迄は殆んど消滅すべきを信ずるからである。而も造林事業は必ず苗圃事業を伴ふを以て婦女子の如きは家業の餘暇之れに從事せしめ得るにより一家を擧げて悉く事業に携はらしめ得るのである。若し斯くの如くにして特設部落を擧げて使役し事業の性質を理解せしめ趣味を喚起せしむるに於てはやがては造林地の愛護となり一種の管理となり撫育上成林上甚だ喜ばしき現象となりて現はる丶ものであらうと信ずる。彼の吉野林業が今日の如く能く發達し良成績を擧げ得たるは要するに林内に居住する住民に對し收穫時期に於ける大なる利益を與へ貧困者に對しては相當期間生活上の保障を與へ安心して保護撫育の任に當らしめ彼れ等をして骨肉を碎いて働いても所謂働き甲斐のある樣な利益を與へたる結果に外ならないのである。つまり業主が共存共榮を實際に實行したからである林業の如く凹凸極りなき山地に於て而も廣大なる面積に渉り事業監督の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

甚だ困難なる地方に於ては地元民又は林内部落民の眞の愛護を待つにあらざれば成林の美は到底望む事能はざるものである。斯は林業家の造林技術以外特に心掛けざるべからざる重要なる事項に屬する。

或る地方に於ける造林及び造林の爲めに依つて生ずる變化せる事情が地元民の利益と全く相反するが如きは到底其の地方に於て林業の完全なる遂行を望む事は出來ないのである。然るに樟の造林地は適地又は蕃情不穩その他の事情よりして從來多くは部落に最も近き林地帶より造林の行はれたる結果、燃料の採集開墾地の消滅等所謂附近部落民の渇望する利益と相衝突する場合少なからずして之れが爲め、過去に於て火災の發生盜伐その他の危害を受けたる事年々歲々甚大なるものがある。否寧ろ附近部落民は造林地に何か天災危害の發生するを喜ぶ樣な狀態の處もある、即一旦造林地に火災でもあらば萌芽更新の爲めの根株の切斷下草刈拂補植等の出役勞働生じ來たり燒け樟の切斷せられたるものは燃料材として採集せらるゝ等火災の爲めに利益を受くる事が甚だ大きいからである。先年集々造林地が二百町も火災の厄に會ふたのは之れに該當する最も適切なる實例である。例へ樟は燃料には不適當ではあるけれども相當な時期に造林地に火を點じ火災を起さしむれば燃料材の如きは容易に得らると云ふが如き念をかりそめにも起さしむると云ふ事は造林上甚だ危險で沙汰の限りである。斯くの如きは要するに樟造林地存在せりとて部落民は何の利益をも受くる事なく寧ろ燃料林又は食料品を得んが爲めの耕地を奪はれたるが如き形となり生活上の安定を著しく迫害せらるゝ結果に外ならないのである。

加ふるに樟造林木は伐期甚だ高きのみならず其の間伐材に至る迄製腦の爲めに利用せらるゝを以て平時に於てすら何等の利益を受くる事なく例へ製腦時期に達すと雖も附近部落民はその餘惠を受くるが如き特典に就ては何一つの制度をも有せないのである。されば樟の造林に於て過去の失敗の轍を踏まざらんと欲すれば、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

先づ第一造林地の位置に於て格段の考慮を要するのみならず造林技術以外斯の方面に向つても主力を注がねばならないのである。然らざれば折角の投資及努力も徒勞に歸し徒らに從來の失敗を繰り返すのみにて到底專賣を永久に確保すべき樟腦製產の資源たる樟腦原料としての巨材及利用上に於ても他の濶葉樹に比し其の範圍及價値に於て最も大なる樟樹の長幹材を低廉に容易に得らるゝと云ふ事は遂に望む事が出來ないのである。結局專賣の破滅である。

余が茲に於て力說せんとする部落の形成に依る利益は、要するに前述の如く造林部落の者をして造林の趣旨を解せしめ造林事業を天職とするに至らしめ以て造林に趣味を持たしめ、事業に對しては熱心となり又總ゆる造林技術を解するに至れば監督者の思ふがまゝ合理的に如何なる作業にも遺憾なく使役せらるゝのみならず、他の事業界の消長に依て左右せらるゝ事甚だ少なく造林地の現況に應じ時期を失せず機敏に各種の作業に當らしめ得らるゝを以て事業の手遲れを來たすと云ふ恐はないのである。今特に賃銀問題に於て考ふるに工場に於て働く職工は技術が熟練するに從ひ益々高率の賃銀の支給を受くるに至るは勿論勤務年數の如きものが參酌せらるゝを以て能率に比してその賃銀は等比的に益々高率となるのであるが、之れに反して造林部落の人夫はその制度に於て相異なるを以て、林內部落民としての年數の如何に係らず又技術が例へ熟練の域に達すと雖も支給賃銀は普通と餘り大なる差がないのであるから技能が熟練すればする程その賃金としての率は愈々以て低下する事となるのである。されば諸工業に比し其の性質に於て著しく利率の低き林業にありても採算上益々有利に事業の遂行を見る事が出來る。

今技能に關して具體的に例を求むれば、彼の南部地方のチーク林を見よ植栽後數年を出でずと雖も既に隆隆として生育せる有樣は單に一種の美觀に止らず其の使命が軍艦用材であると云ふので一種の誇りであらね

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ばならぬ。他樹種の造林地を見るのとは餘程その興感を異にするのである。然れども今近接して能くその林況を見るに既に枝打ち及間伐の時期が到著して居る、此の二者の實行は甚だ容易なるが如くなれども實は甚だ技能を要しその間伐に於ける粗密の度合及枝打ちに於ける位置大さ等實行に當りては最も考慮を要する重要なものである。若し此の幼齢時に於て粗忽の取扱をなすに於ては無節の長幹材を得る事は出來ない。殊に伐期八十年と云へば昭和七十何年である其の時に伐採して始めて節のある(又は節樣のもの丶ある)不良材たるを發見し得るのである。植栽後八十年も經過した後で七十何年前の枝打間伐の不良を悔ゆるも夫れは甚だ愚かである、而も夫れは國防用材としての造林ではないか之れ林業が造林の當初より成林に至る迄周到なる注意を以て取扱はれざる可らざる所以である。

林業上斯る重要なる撫育上の操作は技能の發達せる信用ある優良なる人夫の手に依て始めてなさる可きであつて、例へ一樹一枝と雖も信用のない渡り人夫の樣な者には決して手を觸れしむ可きでない。優良なる造林部落常置の必要は此の點で丶も既に明瞭である單に造林木が能く繁て居るからと云つて各のその目的用途に沿ふ事の出來ないものは全く無價値である事を忘れてはならない。

造林部落造成の曉は斯くの如き重大なる使命を能く果し得るの外造林當事者の味方たり得るを以て自發的に造林地の保護取締をなすに至るのである。從來の實蹟に徴し之れ丈けでも既に無限の利益である、換言すれば造林部落形成の曉に於ては眞面目なる人夫によりて丁重なる作業が頗る輕快に遂行せらる丶のみならず、之れに依て他の人夫を統御し管理保護の如き事業は大部分が期せずして達せらる丶と云ふ大なる利益を獲得する事が出來ると云ふ利益がある。特に臺灣の樣な處に於て此の問題を輕ずる樣では造林の成功を期する事は遂に不可能であると深く信ずる次第である。夫れは過去の實蹟に徴して明々白々である。此の造林部落出

現が臺灣に於て甚だ都合善きは山地附近の部落は内地の田舍と異なり、一戸一戸點在するもの甚だ多く依つて森林附近の而も森林に通ずる要路に當るその點在せる人家を造林部落民たり得る條件に照し若し夫れ等が悉く造林部落の一員となる事を得れば多くの監視者を配置して警戒網を張りたるの形となり從來の如き盜伐・無斷開墾・火災發生の樣なものは全然跡を絶つであらうと思はれる。而かも斯る地方に居住して居るものは多くは其の日暮しも容易でない甚だ貧困者であつて從來と雖も多くの場合造林地の出役を主業として居る樣なものもある位であるから、之れに出役の優先權その他輕少なる利益を與へ夫れ相當な保護を加ふるに於ては全く造林出役を專業とする所謂造林部落の一員として容易に轉換する事が出來るのである。又此の方が却つて自他共に利益であつて彼れ等に取ては大なる向上である故に造林部落の形成に當りては當局者は元より事業地方の郡守以下關係職員警察官諸氏等の援助を得て斷乎として之れが實現の端緒に向はねばならない緊要な實際問題であると思ふ。又附近部落のものにしてその地方の狀況及事情如何により例へ造林部落たらずとも造林時期に於て特に出役を促し出役の優先權を認め賃銀に於ては他地方の出役者よりも幾分高率に支給するか、或は林產物の特賣殊に間伐材を燃料材として低廉に又は事情に依りては無償にて拂下ぐる等の方法を講じ造林地に對する責任感を有するに至らしめなば造林部落と同樣の效果を擧げ得らるゝに至るべしと思料せらるゝのである。

督府に於ては大正十五年度より向ふ十箇年の歲月を以て臺灣の森林原野を區劃統一し之れに向つて施業案を編成せんとするの計畫を有す卽區劃せられたる事業區每に獨立の伐採列區を定め、從來又は外來の天然優良木を適地に植栽するを原則とするは勿論なれども、植栽面積樹種の分布等の決定に當りては周到なる考慮を拂ひ、伐期と年伐量を定むるに當りても特に民度に副ひ慣習を尊び、將來需給の度を考へ總伐採量は凡生

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

長量を超過せず植伐竝び行はれ、以て本島に於ける森林をして治水は勿論の事森林の存立及び利用に依て受くる利益を最も大ならしめんとするもの之れ卽施業案編成の本旨である。故に施業案に依て森林の作成を計り規整運用するに於ては最早之れ以上最多の森林收穫を望む事は出來ないのである。之れ以上治水の効果を望む事も出來ないのである、又之れ以上氣候の緩和その他の有形無形の利益を望む事も出來ないのである。實に施業案に依て生ずる森林の存立と蓄積は永久の生命を保つ絶對のものである。

斯る重要なる結果は一に造林事業の誤りなき達成に依てその大部分が仕遂げらるゝのである。同じ山岳の仕事にしても彼の鑛產物の埋藏量の如きには限りがある一定の命數がある。今試に臺灣の地質圖を見よ中央山脈の主隨をなすもの及その周圍は北より南に走り古代層であるから有價鑛物があらうとは思へぬ。さりとて未だ其てタングスンの樣なものがあるとも聞かぬ、只鑛產上有用なる地帶としては西部臺灣に於て漸やく北より南に向つて走る幅狹き所謂第三期層を有するのみである。而も石炭の如きは層の幅僅かに四尺を出ず撫順炭鑛の如く五十尺の炭層を有し無盡藏と稱せらるゝ樣なものとは同日の談でない。又石油としてもあの地層に多くの斷層あるを見ては之れ又餘り多くを期待する事は出來ないと思はれるのである。

結論

要するに臺灣に於ては（內地に於ても同樣ではあるが）產業はその何たるを問はず大量の生產に對しては土地の狹少と云ふ事に於て旣にその第一要素を缺ぐのである。前述の如く鑛產物に於て特に然りである石油國策論なぞの高唱せらるゝのも當然と云はねばならぬ。採掘すればする程最早補充が出來ないのであるから埋藏の絶對量は減る計りで心細き次第である。又農業の如きに於ては近時科學の進步の恩惠に預り逐次その集

約の度を加へ單位面積の生産量はある程度迄は逐年増加して止まないけれども、他面に於て急激なる人口の増加と時代の進運により各種工業の發達を來たし爲めに住宅の建設及工場敷地その他の文化的施設等に用ゐらるゝ田畑の如きは大面積に渉り年々歳々消滅する一方で停止する處を知らざるの有樣である。

然るに森林の如きは文化の施設に依てその面積の減少を來たすと云ふ事は極めて少なきのみならず、例へ夫れが國民の休養觀賞等の爲めに廣く利用せらるゝ事はあるも、之れが爲めに利用の制限を受け生産の減少を來たすと云ふが如き事は殆どないのである。寧ろ之れが爲めに林地の面積の増加を來たす事實のある事を忘れてはならない。假りに一歩を讓ても利用制限に對する對策の如きは如何程でもあるのみならず、殊に造林事業の統一せらるゝ施業案の編成實行の曉に於ては荒廢地復舊の如きは元より論ずるに足らず、避く可らざる大なる天災地變のなき限り豫定計劃に從ひ生番と雖も捨てゝ顧みざる急峻地・斷崖地・絶壁地等を各のその形相に從て使命を果さしめ、苟しくも生産能力を有するものは一坪の土地も餘す事なく巧みに之れを利用し莫大なる材積を年々歳々永久に提供するのである。特に臺灣の如きは國土保安上森林が治水の根源をなすと云ふに於ては實に吾人は山岳に對して最早之れ以上の恩惠を要求する事は出來ないのである。土地利用の極限である鑛産物と自らその事情を異にして而もその追從を許さゞるは實に此の點である。國民の生存上誠に喜ばしき限りに非ずや。然れども施業案は云はゞ一種の理想的豫定案に過ぎないのであるから、之れが運用の妙を得て始めてその效果の現はるゝものである。若しその活用宜敷からざるに於ては收穫の保續に對する錯亂となり、植伐を亂し方正を攪亂し延ては民林の發達を阻害し遂には無きに勝る無用の長物化するに至る。

されば茲に於て特に改めて云ふまでもなく斯くの如き重要なる使命を有する計劃をして遺憾なく遂行せし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

めんと欲すれば、先づ現業監督員に配するに實直にして而も優良なる事業人夫を以てせねばならぬ、實直にして優良なる事業人夫は遂に林内部落の造成に待たねば達成する事が出來ないのである。若し斯くの如きに於ては啻に造林事業のみに止らず、後日施業案に於て決定せられたる全計劃の實行即ち搬出作業に於ても圓滿なる運用を期待する事が出來るのである。林業が輕せられて人夫の如きは附近部落民で間に合はした時代とは餘程狀況が異て來たのである。故に内地邊りの人夫募集の有樣を何時迄も崇拜する事は最早時代錯誤である。特設部落の造成は最早論議の餘地を有せないのである、然れども勿論吾人は一氣可成に吉野林野の如くせよと云ふのでは決してない。その地方々々の各種の狀況に從ふは勿論緩急を考慮し漸次其の地步を進め計劃による面積の支障なく圓滿に遂行し得らるゝ程度に進めて漸進すべきである。農業に於て農村ある如く、國運の發展維持上重要なる產業となつた林業に於ても收穫の圓滿を期する上に於て夫れ相應の林業部落の存在す可きは當然の當然である。林業界の今日の切迫せる狀況を以てすれば林業は最早農家の副業ではない。少なくとも農業と對立すべき重要產業の一であらねばならぬ、林業が輕視されたる時代は既に既に過ぎ去つたのである。されば若し此の方面を考慮せざる現在の如き情況に於ては此の重要なる使命を有する造林事業は徒らに過去に於ける失敗を繰り返すのみにて確實なる實行は最早不可能であると思ふ。況んや撫育上の適當の處置の如きは全く望む事が出來ない、之れ余が本島人の特性を觀察し從來の苦き失敗に鑑み國土保安上本島に於ける森林存立の重大なる價値を考慮して造林事業の遂行上特に造林部落の必要を警告して以て造林當事者の一考を需めんとする所以である。

追録

余は二月十五日營林所に於て開催せられたる出張所長會議を傍聽せるに、その諮問事項中造林用人夫の移動を防ぐ方策如何に對し各出張所長は何れもその移動防止の困難なるを訴へて居る、卽附近各種工業や民間事業の盛衰その他に支配せられ安心して一定頭數の人夫を

必要期間使役せらるゝ事は甚だ困難であると云ふのである。之れに依て之れを見れば各出張所共特別なる地方を除いては造林人夫を固定的に使役せらるゝと云ふ事は甚だ困難なる狀況に陷て居るのである。故に所長の答申をよく吟味すれば言々句々何れも結局は定着せる造林部落の必要を叫んで居るのである。今その代表的なるものを一、二照會すれば之は羅東出張所長小野技師の答申であつて、次の樣に述べて居る。「造林が進むに從ひ奥地へ苗圃を作るそうなると除草人夫としては賃金の安い婦女子で結構であるけれ共附近部落から餘り遠い爲めにその出役を見る事は出來ない、從て男人夫を常傭夫として苗圃の除草をさして居るが而し彼れ等も自分の内には妻子ある身分ではあるし長く留る事は出來ない事情もあるので追々にはそれ等の定傭夫の家族を呼びよせて家を構へさす樣にしたい、そうすればその婦女子を苗圃に使役し男は造林地へ向ける事か出來る、斯うすれば經濟上も至極都合がよく而も他から來た人夫を統御させ、亂りな仕事は幾分防ぎ得る。」と云ふ主張である。之れに依れば優良なる人夫を家族共呼よせ婦女子は苗圃に男は山仕事に向けると云ふのであつて、要するにかゝるものは余が主張する造林部落そのものである。卽余が主張する造林部落は實に斯るものを適宜要所要所に造れと云ふに外ならないのである。從て現在の定傭夫設置は造林部落造成の一種の階悌に外ならない。

造林部落造成には反對なるかの如き答辯であつた樣なれども而も其の過古及將來に於ける仕事の内容は余が所論の造林部落實現の道程をたどつて居ると云ふ事が解る。要するに現在各出張所共定傭夫の設置又はその增員を望んで居るが何れも造林部落の濫腸に過ぎないのである。一言にして云へば各出張所共造林部落と云ふ臺灣としては比較的耳新たな名稱にこそ捕はられ何れも其の必要に迫られて居るのは此の一事でも既に明かである。臺中出張所魚池派出所主任松川技手は次の樣に述べて居る。「魚池派出所管内造林地は廣大なる面積に亘り四方何れも部落に依て包圍されて居るので之れ等の地元民と圓滿なる協定をなすに非らざれば火災盜伐等は到底防ぐ事が出來ないと思ひ附近有力なる保正を看守人に採用した、而し時日が淺いのでその結果は未だ能く明らないけれども最近北山坑警官派出所に於て附近の家長會のあつた際自分も列席したるに、保正の一人が『保正を看守人に採用された結果保甲民は悉く保正と同じ樣な心掛けで造林地の保護をして居る誠に結構な事である』と云つた。而し此の言を全く信ずるわけではないが從來に比し將來は必ず火災盜伐も減ずるであらうと。」日が淺いから未だ充分なる結果を知る事は出來ないけれども事實此の邊の者がそう云ふ心掛に向ひつゝあると云ふ事丈けでも既に造林地保護上の大なる進歩であつて、主任の處置は保護上の取扱ひに關しては他に見る事の出來ない一頭地を拔いた甚だ適切なる處置であると思ふ。之れは余が主張する所謂警戒網に該當するものである而し單に之れ丈けでは未だ〳〵不備ではあるが之れも要するに完全なる警戒網設置の一つの階悌であらねばならぬ。生蕃人ではあるまいし文化の比較的進んだ本島人の事であるから保正の一號令で易々と絕對服從するものではない。彼等をして警戒網の一員たらしむるには本論に於て述べたる如く出役の優先權その他恩愛に溺れざる適當なる有形無形の利益を與へねばならない。換言すれば自他共に共存共榮の途を講ぜねばその完全なる效果はさても望む事は出來ないのである。以上の事實は要するに適切なる造林部落の造成に依て悉く解決せらる可きものと信ずる。造林部落の造成と云ふ事は過去に於ける苦き經驗に依て生ぜる眞の叫びである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

島　情

金融統計

財務局金融課

▼各銀行重要物産別放資總額及累計（大正十五年 昭和元年 十二月）（單位圓）

	臺灣銀行	臺灣商工銀行	華南銀行	彰化銀行	三十四銀行支店	合計	前月	前年同月	本年本月迄累計	前年本月迄累計
砂糖	二〇,一六七,一二五	八四五,五五六	一,〇六七,四一七	一,〇〇〇,九五〇	一,二四八,九〇五	二四,三二九,九五三	一四,六九三,四一九	二七,四三〇,三三七	二〇五,六二八,五一七	一九四,〇三〇,八〇三
米	五,八六〇,四三七	五,一九二,八九六	四,四九九,一五三	一,〇三七,一〇四	一,一四八,七九三	一七,七三八,三八三	一一,五二七,八八四	一九,一九九,六二二	一四五,四一五,〇二四	一六四,三二一,七二〇
茶	二〇六,五〇四	九九,六九三	三一二,五三五	—	—	六一八,九三二	八七〇,七二五	七七四,五三〇	一一,一六一,四四六	一四,六九八,六三三
樟腦	一六,二三九	—	二五九,〇〇〇	—	—	二七五,二三九	三二九,五四〇	六一,五二六	四,九二七,〇〇三	六,〇二七,三八九
金塊	六〇五,六八四	—	—	—	一二,〇〇〇	六一七,六八四	六〇,〇〇〇	六五,〇〇〇	四,四五四,九七二	三,四七二,四〇二
酒精	一二,八二五	—	—	—	一二三,四一四	一三六,二三九	一六三,七一七	二八一,五一一	二,八八九,三四八	三,三〇九,四八九
石炭	二,一三三,四六六	四六三,六七二	五二,七七八	七九,四三五	八,八八六	二,七三八,二三七	二,九四四,七二六	二,一四四,七七〇	二六,七三七,一六〇	二五,九二〇,八九六
合計	二九,〇〇一,二八〇	六,六〇二,〇一七	六,一九〇,八七三	二,一一七,四八九	二,四四二,九九八	四六,三五四,六五六	三〇,六九〇,〇一一	四九,九五七,二八五	四〇二,二一三,四六〇	四一二,一一六,三三一
前月	一七,六六〇,四七五	三,四五七,一一一	四,四二三,六九一	二,六九六,五〇七	二,四五二,二二七	三〇,六九〇,〇一一				
前年同月	三二,八〇〇,一五八	三,三〇八,四七二	九,二八六,六八一	一,七五八,六五九	二,八〇三,三一五	四九,九五七,二八五				

本年本月迄累計	二五二、〇四四、〇三八	四〇、八三八、三七四	五八、〇二六、〇四一	三五、〇八九、六〇六	二六、二一五、四〇一	四〇、二二三、四六〇
前年本月迄累計	二四八、九二四、〇四八	二九、三七二、六三八	七五、五〇五、〇一二	二六、九九六、九九五	三一、三二七、六二八	四一、一二六、三二一

▼各銀行重要物産別放資殘高（大正十五年／昭和元年十二月）（單位圓）

	臺灣銀行	臺灣商工銀行	華南銀行	彰化銀行	三十四銀行支店	合計	千分比	前月	千分比	前年同月	千分比
砂糖	四七、八九五、九七六	一、八七一、六八九	九三九、四八一	一、九四五、四七九	一、三六〇、一六三	五四、〇一二、七八八	六六六	四七、九八〇、〇九〇	六四八	五〇、一六四、九九八	六四二
米	七、四九二、二五一	二、七九四、一三三	二、四二一、三九〇	一、四二九、五三七	一、六〇七、八九八	一五、七三五、一九八	一九四	一四、五五五、三〇四	一九七	一六、〇〇五、四二一	二〇五
茶	二、三九七、四八四	三五二、四二六	四五六、〇九〇	—	一四、八〇〇	三、二二〇、八〇〇	四〇	三、三四七、二五七	四五	三、四五〇、七九三	四四
樟腦	六六、二一八	—	五三九、〇〇〇	—	—	六〇五、二一八	七	六〇七、九七九	八	八五四、五一八	一一
金塊	六二五、六八四	—	—	—	一五、二五〇	六四〇、九三四	八	五六〇、九三四	八	五六〇、九八四	八
酒精	三七、二九二	—	—	—	二三三、一八九	二七〇、四八一	三	二七五、八八三	四	二九三、四四六	四
●石炭	五、〇三九、六三七	九三九、一五六	五二〇、八五五	八五、二八四	一三〇、四五九	六、七〇五、三九一	八二	六、六二八、二八一	九〇	六、七四七、九四六	八六
合計	六三、五五四、五四二	五、九五七、三九三	四、八六六、八一六	三、四六〇、三〇〇	三、三五一、七五九	八一、一九〇、八一〇	1,000	七三、九五五、七二八	1,000	七八、〇七八、〇九六	1,000
千分比	七八三	七三	六〇	四三	四一	1,000					
前月	五七、三三四、八六六	五、七七〇、五〇〇	四、六八三、三五九	五、五五八、八九五	二、七五八、一〇八	七三、九五五、七二八					
千分比	七七四	七八	六三	四七	三八	1,000					
前年同月	六〇、二三八、九六一	五、四八九、四五二	五、四五二、一八六	三、七四七、三四一	三、一五二、一五六	七八、〇七八、〇九六					
千分比	七七二	七〇	七〇	四八	四〇	1,000					

▼銀行別重要物産放資額累計（●印ハ減）

銀行別	大正十五年／昭和元年十二月迄累計	前年同月迄累計	增減
臺灣銀行	二五二、〇四四、〇三八円	二四八、九二四、〇四八円	三、一一九、九九〇円

銀行	大正十五年／昭和元年十二月迄累計	前年同月迄累計	増減
商工銀行	四〇、八三八、三七四	二九、三七二、六三八	一一、四六五、七三六
華南銀行	五八、〇三六、〇四一	七五、五〇五、〇一二	●一七、四六八、九七一
彰化銀行	二五、〇八九、六〇六	二六、九九六、九九五	●一、九〇七、三八九
三十四銀行	二六、三二五、四〇一	三一、三三七、六二八	●五、〇一二、二二七
合計	四〇二、二二三、四六〇	四一二、一二六、三二一	●九、九〇二、八六一

▼重要物產別銀行放資額累計（●印ハ減）

品名別	大正十五年／昭和元年十二月迄累計	前年同月迄累計	増減
砂糖	二〇五、六二八、五一七円	一九四、〇三〇、八〇二円	一一、五九七、七一五円
米	一四五、四一五、〇一四	一六四、三二一、七一〇	●一八、九〇六、六九六
茶	一二、一六一、四四六	一四、六九八、六一三	●二、五三七、一六七
樟腦	四、九二七、〇〇三	六、三七二、三八九	●一、四四五、三八六
金塊	四、四五四、九七二	三、四七二、四〇二	九八二、五七〇
酒精	二、八八九、三四八	三、三〇九、四八九	●四二〇、一四一
石炭	二六、七三七、一六〇	二五、九二〇、八九六	八一六、二六四
合計	四〇二、二二三、四六〇	四一二、一二六、三二一	●九、九〇二、八六一

▼銀行別重要物產放資殘高（●印ハ減）

銀行名	大正十五年／昭和元年十二月末	前月末	増減
臺灣銀行	六三、五五四、五四二円	五七、二三四、八六六円	六、三一九、六七六円
商工銀行	五、九五七、三九三	五、七七〇、五〇〇	一八六、八九三
華南銀行	四、八六六、八一六	四、六八三、三五九	一八三、四五七

彰化銀行	三,四六〇,三〇〇	三,五〇八,八九五	●四八,五九五
三十四銀行	三,三五一,七五九	二,七五八,一〇八	五九三,六五一
合計	八一,一九〇,八一〇	七三,九五五,七二八	七,二三五,〇八二
前年同月	七八,〇七八,〇六六	—	—
増減	三,一一二,七四四	—	—

▼重要物産別銀行放資殘高（●印ハ減）

品名別	大正十五年十二月末 昭和元	前月末	増減
砂糖	五四,〇二二,七八八円	四七,九八〇,〇九〇円	六,〇三二,六九八円
米	一五,七三五,一九八	一四,五五五,三〇四	一,一七九,八九四
茶	三,三三〇,八〇〇	三,三四七,二五七	●一六,四五七
樟腦	六〇五,二一八	六〇七,九七九	●二,七六一
金塊	六四〇,九三四	五六〇,九三四	八〇,〇〇〇
酒精	二七〇,四八一	二七五,八八三	●五,四〇二
石炭	六,七〇五,三九一	六,六二八,二八一	七七,一一〇
合計	八一,一九〇,八一〇	七三,九五五,七二八	七,二三五,〇八二

▼島内各銀行内外爲替取組高表（大正十五年十二月中）（單位圓）

摘要	收入 島内 口數	收入 島内 金額	收入 内地 口數	收入 内地 金額	收入 外國 口數	收入 外國 金額	支出 島内 口數	支出 島内 金額	支出 内地 口數	支出 内地 金額	支出 外國 口數	支出 外國 金額	收支(△)超過 島内	收支(△)超過 内地	收支(△)超過 外國
送金爲替	三六,〇五五	四八,一二八,五八〇	七,〇五五	三,六〇五,四六〇	九九	三一〇,九二〇	三四,七二五	四四,九五八,九二八	二,〇六一	一四,七一〇,三二八	六三五	五五一,一八八	三,一六九,六五二	△一一,一〇四,八六八	△二四〇,二六八
割引手形	六,八〇〇	二四,四六八,四九九	二,二一七	一,八五七,一〇三	—	—	六,四四一	二一,四六八,二一八	一〇四	四,七三三,〇四七	—	—	二,三二一	△二,八七五,九四四	—

荷付爲替手形	五四	四〇七,四三三	一,五六八	五,三五九,八六八	六四	八〇五,〇〇〇	二四〇	四一五,三六一	二,〇四六	二,一六二,二四三	二	一七,一五五	△七,八二九	△七,九三三,二五五	八五五,八三五
買入外國爲替	—	—	—	—	一〇九	八四六,〇〇七	—	—	—	—	四七	二八五,四六八	—	—	三五六,五六九
利付爲替手形	—	—	—	—	二	二,六五一	—	—	—	—	二五	八一,六五五	—	—	△七〇,〇〇五
代金取立	一四,〇三〇	四,四〇九,四六六	二,〇〇一	四,八五五,〇〇一	三九	二〇四,二一一	一〇,三三五	四,八九五,六六八	三五五	三五七,五五九	四四	三八,〇〇五	三六一,〇〇〇	四,四八〇,四五五	一六六,〇六六
計	五〇,五三九	三六,四八八,八三五	三,〇〇一	四,八六五,七三三	一,〇三五	七五四,三七〇	五六,一三一	三三,六九五,八四四	四,四九九	四六,五〇七,〇五五	三五一	一,三三五,六六一	四八,〇五五,一三一	△七,〇三一,四四五	一,〇二七,一九九
前月	四九,二三八	四四,四二一,四三二	四〇,一二五	三三,九四五,〇〇一	八九八	一,三五三,一三二	四四,三六八	四五,六六五,八五五	七,三五五	一四,九二一,五五八	三六五	一,五五〇,四三六	一,〇五五,三八八	八,〇三一,三三五	△四一,八五七
前年同月	三八,三三九	三五,四六九,九九一	三三,三五六	三四,四四九,九四四	六四〇	一,八〇五,三五七	五四,四三二	五三,三九三,九八九	五,〇九九	四九,一六六,一三一	七〇〇	一,八〇〇,七六八	五〇,〇五五,七〇二	四,五五五,八二一	△四七,四三一
本月迄累計	五三一,三六九	四六八,九二〇,二六七	三五,四四四	三五一,八八〇,六五五	九,四二〇	三,九九九,一八一	五三〇,七〇〇	四八六,四四六,一四〇	四一,一二九	三六七,八六六,〇四四	七,七九一	一八,九二四,〇八〇	一九,四四四,一三〇	△一六,〇一三,五五四	四,〇五五,一五一
前年同月末累計	五三八,一〇九	四五六,五二四,八六九	一五九,一六六	三〇四,一〇〇,〇五五	八,三六六	四〇,五三七,五五四	五四五,五三五	四五九,五五〇,八六六	四三,五六四	三七一,四五九,〇六七	九,五五二	一〇,九四五,四五一	一九,三四四,〇五五	一一,八八一,五五八	四五七,七〇七

▼手形交換高表（大正十五年十二月分）

所在地	手形枚數	交換金額	交換差額	交換枚數一枚ニ對スル平均金額
基隆	五,七四九枚	一,九六五,四三〇円	四五三,四四八円	三四一円
臺北	二九,二七四	一五,八五三,〇一一	五,五〇三,七四一	五四一
臺中	三,六四八	三,九〇六,八四三	一,五一七,八〇七	一,〇四三
臺南	一四,八二九	三,五四九,六三〇	九六三,三二一	二三九
高雄	五,八五五枚	二,〇五一,五九〇円	五六五,一九一円	三五〇円
計	五九,三五五	二七,三二五,五〇三	九,一一三,四七八	四六〇
前月	五〇,一四八	一九,六二四,五八七	六,三八五,七五六	三九一
前年同月	五九,九八九	三〇,〇六二,一一七	九,八四四,二四四	五〇一

▼臺北物價指數表（昭和二年一月末）

品目	本月	前月	前年同月
白米	(一)二六八,七四	二三二,五五	二六八,七三
玄米	(+)二〇三,五〇	二〇一,七五	二一七,五四
清酒	三二一,四二	三二一,四二	三二一,四二
參酒	一七二,〇〇	一七二,〇〇	一六四,〇〇
紅酒	三三三,三三	三三三,三三	三三三,三三
澤庵漬	(一)一八五,一八	二一三,六七	一五六,六九

小麥粉	(－)	一五五、四七	一五六、六〇	一七九、二四
砂糖	(＋)	一三七、九九	一三三、九二	一三九、三七
鰹節		二〇七、八一	二〇七、八一	二三八、九八
味噌		一三八、四六	一三八、四六	一五八、四六
醬油		一五六、八一	一五六、八一	一七〇、四五
鷄卵		二二三、八五	二二三、八五	二五四、二八
火油		一三八、四六	一三八、四六	一七六、九二
鹽		一四〇、九一	一四〇、九一	一四〇、九一
煙草		一八〇、〇〇	一八〇、〇〇	一八〇、〇〇
烏龍茶		七九、六九	七九、六九	七七、七九
包種茶		一三四、四八	一三四、四八	一三七、六三
白木綿	(－)	一四六、八二	一五〇、七九	一六四、四四
綿布		一三〇、一三	一三〇、一三	一七二、〇八
洋紙		一六九、五六	一六九、五六	二〇八、六九
日本紙		二三三、三三	二三三、三三	二三三、三三
杉板		一六六、六六	一六六、六六	一九四、四四
杉材	(－)	一七五、〇〇	一八七、五〇	一八七、五〇
洋鐵		一五五、二六	一五五、二六	一八四、二一
鉛		一五六、二五	一五六、二五	二〇〇、〇〇
銅		一三三、六五	一三三、六五	一三八、七七
燒瓦		二〇八、七〇	二〇八、七〇	二〇八、七〇
日本瓦		一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一一〇、〇〇
板硝子		一一八、七五	一一八、七五	一五六、二五
セメント		一八五、二九	一八五、二九	一七六、四七
燐寸		二二七、一六	二二七、一六	二二七、一六
石油		一四二、九五	一四二、九五	一六八、一八
石炭	(－)	一五〇、〇〇	一六二、五〇	一八七、五〇
木炭		二五三、三三	二五三、三三	二四六、六六
薪		二五七、一四	二五七、一四	二三八、五七
平均	(－)	一七八、四〇	一八〇、〇七	一九〇、七九

備考　本表ハ大正三年七月ノ物價ヲ一〇〇トシテ計上セリ(＋)印ハ騰貴(－)印ハ低下ヲ示ス

●平均指數五箇年對照表

月次	昭和二年	大正十五年 昭和元年	十四年	十三年	十二年
一月	一七八、四〇	一九〇、七九	二〇三、二三	一九一、八一	一九一、六四
二月	—	一九〇、九五	二〇三、三〇	一九一、九四	一九五、三三
三月	—	一八八、三一	二〇〇、六〇	一九一、三三	一九六、〇八
四月	—	一八八、二五	二〇〇、三三	一九一、五九	一九六、〇一
五月	—	一八六、〇二	一九二、五〇	一九四、一六	一九五、二七
六月	—	一八五、三〇	一九二、八七	一九三、七六	一九五、〇七
七月	—	一八五、一二	一八五、一〇	一九一、六一	一九〇、八六
八月	—	一八四、六六	一九五、二七	一九三、九二	一九〇、五六
九月	—	一八三、三五	一九五、六三	一九八、三〇	一九二、〇四
十月	—	一八二、五四	一九二、三八	二〇二、四一	一九〇、三三
十一月	—	一八一、五九	一九三、一六	二〇五、〇二	一九二、三八
十二月	—	一八〇、〇七	一八九、七四	二〇三、三三	一九二、六六

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●各年月ヲ一〇〇トセル本月平均指數

基礎年月	大正十五年昭和元年十二月	十五年一月	十四年一月	十三年一月	十二年一月
本月平均	九九,〇七	九三,五〇	八七,七六	九三,〇〇	九三,〇九

臺灣貿易統計（昭和二年一月）

臺灣總督府稅關

▼貿易額比較

	二年一月	十五年一月	二年累計	十五年累計	增減(●)
外國貿易					
輸出	三,一九二,二七一円	三,七三一,〇八五円	—円	—円	●五三八,八一四円
輸入	五,六四二,四四七	六,五九六,三五六	—	—	●九五三,九〇九
計	八,八三四,七一八	一〇,三四七,四四一	—	—	●一,五一二,七二三
輸出(入)超過	(入)二,四五〇,一七六	(入)二,八四五,二七一	—	—	—
內地貿易					
移出	二五,一〇〇,五〇一円	二七,三三三,六七六円	—円	—円	●二,二三三,一七五円
移入	七,四四六,九八七	八,八七一,六五〇	—	—	●一,四二四,六六三
計	三二,五四七,四八八	三六,二〇五,三二六	—	—	●三,六五七,八三八
移出(入)超過	一七,六五三,五一四	一八,四六二,〇二六	—	—	—

▼輸出

品目	一月 數量	一月 價額	二年累計 數量	二年累計 價額	十五年累計 數量	十五年累計 價額	增減(●) 數量	增減(●) 價額
石炭 噸	六六,二二八	七六五,八二一円	—	—円	六八,七九八	七六三,四四八円	●二,五八〇	二,三七三円

品目	一月 數量	一月 價額	二年累計 數量	二年累計 價額	十五年累計 數量	十五年累計 價額	增減(●) 數量	增減(●) 價額
包種茶 斤	四四〇,七六三	三三四,七五〇	—	—	三五六,八三八	二九〇,七二六	八三,九二五	四四,〇二四
烏龍茶 同	—	—	—	—	一八〇	一〇九	●一八〇	●一〇九
綿織物 碼	一,〇〇〇,二七五	三二四,一九五	—	—	一,九六二,五五〇	五八四,三三〇	●九六二,二七五	●二六〇,一三五
鹹魚及乾魚 斤	三,六四五,〇七四	三四九,一一二	—	—	七四七,九九〇	一五〇,九八三	二,八九七,〇八四	●一九八,一二九
砂糖 同	二,九四八,八五〇	四二三,四二三	—	—	二,一五八,九七七	三一〇,六〇〇	七八九,八七三	一一二,八二三
酒精 升	三四二,三四〇	一〇九,八三三	—	—	四八九,五二〇	一五四,〇六八	●一四七,一八〇	●四四,二三五
樟腦 斤	一四,三〇〇	一七,〇九一	—	—	一八七,〇〇一	三三八,一八八	●一七二,七〇一	●三二一,〇九七
錫 同	六九一,二七一	二七五,三三一	—	—	一,〇三七,六一九	三一〇,七三三	●三四六,三四八	●三五,四〇一
セメント 同	四,七三七,八八二	九五,三五四	—	—	七,二二二,二九四	一五四,七五二	●二,四八四,四一二	●五九,三九八
絹及絹綿織物 碼	九七,八〇五	五三,四四四	—	—	七二,六三〇	四五,〇八一	二五,一七五	七,三六三
貝柱 斤	二四,二四二	三一,〇四九	—	—	二五,七六三	三三,九〇六	●一,五二一	●二,八五七
苧麻 同	三三,四六六	一〇,三六九	—	—	二七,〇六三	九,八一三	六,四〇三	五五六
紙 同	二七五,五一三	二五,九五四	—	—	三二二,六五七	二七,八七五	●三七,一四四	●一,九二一
芭蕉實 同	八三,八七〇	三,七六三	—	—	七七,二七〇	三,三八六	六,六〇〇	三七七
其他諸品	—	四七三,五九二	—	—	—	五八三,〇九八	—	一〇九,五〇六
計	—	三,一九二,二七一	—	—		三,七五一,〇八五	—	●五五八,八一四

▼輸　入

品目	一月 數量	一月 價額(円)	二年累計 數量	二年累計 價額(円)	十五年累計 數量	十五年累計 價額(円)	增減(●) 數量	增減(●) 價額(円)
大豆油糟 斤	四〇,四二一,三八四	一,七〇六,九七八	—	—	四二,〇八四,〇二〇	二,二六八,四八一	●一,六六二,六三六	●五六一,五〇三
米（籾共） 同	五,四九七,三八〇	三八五,五三八	—	—	一,七六九,八〇三	一四四,九三一	三,七二七,五七七	二四〇,六〇七
硫酸アンモニウム 同	一〇,三三四,〇二〇	八二一,五〇五	—	—	八,四七八,〇三〇	八五五,五七八	一,八五五,九九〇	●三四,〇七三
砂糖 同	八,三六七,四五〇	七八〇,五一八	—	—	五,五六七,九五一	六八六,一三〇	二,七九九,四九九	九四,三八八
大豆 同	二,七九〇,二五二	一六三,八〇三	—	—	三,四四四,九七六	二四七,五九三	●六五四,七二四	●八三,七九〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ガンニー袋	箇	五九一,七〇〇	二八八,六一八	—	—	一,〇四〇,四〇〇	八〇七,一一三 ●	四四八,七〇〇 ●	五一八,四九四
木材	立方尺	四〇八,〇二四	二七五,八八四	—	—	三三四,八七九	一四三,四七六	一八一,一四五	一三三,四〇八
燈油	ガロン	三三八,一三〇	一三四,一三三	—	—	四九,五二〇	二八,三三三	二七八,六一〇	一〇五,九〇〇
鹹魚	斤	七三〇,四三三	五五,一九四	—	—	三,〇〇八,〇〇八	三四八,四三三 ●	二,二七七,五八六 ●	一九三,三三九
小参	同	三,三三一	一五六	—	—	八,七八〇	四九八 ●	五,四四九 ●	三四二
阿片	同	—	—	—	—	—	—	—	—
包蓆	枚	八九四,五〇〇	一〇七,五七九	—	—	四七五,六四〇	八五,四八七	四一八,八六〇	二三,〇九二
葉煙草	斤	三四,五一三	一一,一三六	—	—	二六一,五五一	一六三,三六四 ●	三三七,〇三八 ●	一五一,三三八
鐵	同	四五五,二五四	六一,八二四	—	—	三九四,一一五	一六,五〇八	六一,一三九	四五,三〇六
棉	同	九九,五九二	三八,四三三	—	—	七七,〇五三	四四,六三七	三三,五四〇 ●	六,二〇四
黄麻	同	二六,二八七	二,八四六	—	—	二四九,二一九	四〇,八三三 ●	三三三,九三三 ●	三七,九八六
禮拜紙	同	二三四,七九六	五六,五九〇	—	—	一三〇,九九五	四〇,二〇〇	一〇三,八〇一	一六,一九〇
石炭	噸	三七二	四,二〇四	—	—	一,五〇〇	二〇,二五〇 ●	一,一二八 ●	一六,〇四六
苧麻布	方碼	二九,三一五	七,一三四	—	—	—	—	二九,三一三	七,一三四
毛織物	同	五,一七一	七,二三七	—	—	一九,四五四	三八,七九四 ●	一四,二八三 ●	三一,五五七
綿織物	同	一四,四五一	六,七五五	—	—	五,三八五	二,三一六	九,〇六六	四,四三九
陶磁器		—	三一,六四二	—	—	—	三四,二三六	— ●	二,五八四
原油及重油	ガロン	一九六,五一三	三七,三三五	—	—	七二,五四〇	一七,六六七	一三三,九七三	一九,六四八
揮發油	同	一四,三三六	一一,三〇一	—	—	一三,五六四	一四,七八九	一,七六二 ●	三,四八八
唐紙	斤	二〇八,九二四	一七,〇八一	—	—	二九三,五三〇	二六,九八六 ●	八四,六〇六 ●	一一,九〇五
緑豆	同	一四二,四一九	九,三五四	—	—	二五,六三七	二,三〇七	一二六,七八二	七,〇四七
鍋	同	一四,三七二	二五,六六四	—	—	四,三三六	八,二四〇	一〇,〇四六	一七,四二四
豆素麺	同	二四,四四四	七,一三四	—	—	六五,七二〇	三三,七六四 ●	四〇,八二六 ●	一五,六三〇
胡麻子	同	五〇,三八五	七,三五五	—	—	六〇,五一五	一〇,五二五 ●	一〇,一八〇 ●	三一,一八〇
パラフィン、ワックス	同	六三,四九五	一三,二四一	—	—	七三,八二一	二〇,〇〇四 ●	一〇,五一六 ●	六,七六六

品目	一月 數量	一月 價額	二年累計 數量	二年累計 價額	十五年累計 數量	十五年累計 價額	增減(●) 數量	增減(●) 價額
其他諸品	—	五六六,四九六	—	—	—	五五五,九七六	—	一〇,五二〇
計	—	五,六四二,四四七	—	—	—	六,五九六,三五六	—	●九五三,九〇九

▼移出

品目	單位	一月 數量	一月 價額	二年累計 數量	二年累計 價額	十五年累計 數量	十五年累計 價額	增減(●) 數量	增減(●) 價額
			円		円		円		円
砂糖	斤	一〇九,四二一,八五〇	一五,七八二,〇一七	—	—	一四二,二九四,二五〇	一九,〇六四,三〇三	●三二,八八二,四〇〇	●三,二八二,二八六
米	同	六一,九一五,五五〇	六,四三四,三〇六	—	—	五六,二六五,三〇〇	六,一四〇,九九一	五,六五〇,二五〇	二九三,三一五
芭蕉實	同	六,二一七,三九〇	二四二,一四二	—	—	四,〇一五,六二〇	一六一,四一三	二,一〇一,六七〇	八〇,七二九
酒精	升	八〇七,四〇〇	四一九,九四四	—	—	七九二,八八〇	四三三,三一七	一四,五二〇	●一三,三七三
木材	立方尺	一四六,八八九	二九五,五七八	—	—	七三,九〇六	二二一,二二五	七二,九八三	七四,三五三
樟腦油	斤	三三〇,八一八	一三〇,五三三	—	—	二九六,六一二	一四七,七七七	三四,二〇六	●一七,二四四
鰹節	同	一九,三七八	二九,三四五	—	—	二九,一九一	四七,九七九	●九,八一三	●一八,六三四
模造パナマ帽子	箇	三六〇,六〇〇	一八〇,三〇〇	—	—	六三〇,〇〇〇	二一〇,一〇〇	●二六九,四〇〇	●二九,八〇〇
鳳梨罐詰	打	六五,一〇三	二四六,三四五	—	—	一三,一〇三	四七,六九六	五二,〇〇〇	一九八,六四九
樟腦	斤	一〇五,六八九	一五七,〇八〇	—	—	—	—	一〇五,六八九	一五七,〇八〇
鑛	同	七,四四七,九三八	一三三,三七三	—	—	—	—	七,四四七,九三八	一三三,三七三
石炭	噸	二〇,一五七	一九六,九一三	—	—	一九,六〇四	一八三,九一五	五五三	一二,九九八
食鹽	斤	一三,九九八,九四〇	一二六,一三八	—	—	三,四五〇,〇〇〇	二四,一五〇	一〇,五四八,九四〇	一〇一,九八八
鮮魚介	同	五〇八,五〇八	一三七,七九七	—	—	五七四,二八〇	一九一,二〇一	●六五,七七二	●五三,四〇四
切乾藷	同	二,一四二,七二〇	九六,八九四	—	—	一五,八〇〇	七九〇	二,一二六,九二〇	九六,一〇四
其他諸品		—	五〇二,八〇六	—	—	—	四六九,八一九	—	三二,九八七
計		—	二五,一〇〇,五〇一	—	—	—	二七,三三三,六七六	—	●二,二三三,一七五

▼移入

品目		一月		二年累計		十五年累計		増減（●）	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
			円		円		円		円
絹及絹織物		—	一,〇〇八,〇〇五	—	—	—	一,四六一,八六五	—	●四五三,八六〇
鐵	斤	四,二九四,一〇四	四三五,二〇五	—	—	四,九〇一,〇一六	五六三,四二八	●六〇六,九一三	●一二八,二二三
鹹乾魚	同	四,七七六,四八二	五〇四,八二五	—	—	一,七三三,五六一	二九九,七〇九	三,〇五三,九二一	二〇五,一一六
肥料	同	六,〇〇三,八五三	二六九,一五四	—	—	三,四四一,九八二	六二二,七五四	●七,四三八,一三〇	●三四三,六〇〇
小麥粉	同	一,五〇二,八八四	一六九,三八五	—	—	一,六一五,九九九	二二二,三一六	●一一三,一一五	●四二,九三一
木材	立方尺	一六一,二六七	一六八,三九六	—	—	二二五,九三六	二五八,四一一	●五四,六六九	●九〇,〇一五
紙		—	二〇九,四九二	—	—	—	二四五,〇九七	—	●三五,六〇五
錫	斤	六四九,九九九	二六五,〇七八	—	—	九八四,九一〇	三一六,五五一	●三三四,九一一	●五一,四七三
鐵製品		—	一八三,八一九	—	—	—	一四三,二三九	—	四〇,五八〇
麥酒	打	一一,〇〇〇	五五,一一〇	—	—	一〇,八〇八	五一,七八八	一九二	三,三二二
紙巻煙草	千箇	五九,九六〇	一三八,五六六	—	—	六六,五八〇	一五九,三五四	●六,六二〇	●二〇,七八八
絲類		—	一六九,三九七	—	—	—	一五三,一二四	—	一六,二七三
各種ノ罐詰		—	一〇八,七八二	—	—	—	八八,〇三三	—	二〇,七四九
ガンニー嚢	箇	二六九,三五〇	一三三,八〇二	—	—	七七,四〇〇	四四,八四〇	一九一,九五〇	七八,九六二
清酒	打	一三,六一三	一一五,五九〇	—	—	一〇,五五六	九四,九五九	二,〇五七	二〇,六三一
メリヤス肌衣		—	二五,七五八	—	—	—	三二,五三八	—	●六,七七〇
自轉車同部分品及附屬品		—	八二,七五〇	—	—	—	九七,九〇二	—	●一五,一五二
毛織物		—	一〇五,一三一	—	—	—	七七,〇四八	—	二八,〇八三
燐寸	哥	六一,八四二	四五,四二三	—	—	一七四,〇六六	一三五,六五三	●一一二,二三四	●九〇,二三〇
菓子類		—	四九,四九四	—	—	—	七一,一六七	—	●二一,六七三
麥	石	二,五六四	五二,七三三	—	—	二六七	六,〇〇二	二,二九七	四六,七三〇
製帽原料		—	三三,二七〇	—	—	—	一二七,三二八	—	●九四,〇四八
米	石	八〇三	三三,二六〇	—	—	七,四七五	二二一,六〇七	●六,六七三	●一七八,三四七

陶磁器	—	五九,八八二	—	—	—	五五,九七五	—	三,九二七
砂糖　斤	八五,七一三	二一,九三八	—	—	三三一,二二八	七四,九五七 ●	二三六,五〇五 ●	五三一,〇一九
石鹸	—	四七,五一五	—	—	—	四八,六六二	— ●	一,〇九六
醤油　石	七〇八	四一,八〇三	—	—	三五〇四	三一,一九五	二〇四	一〇,六三八
燈油及輕油　ガロン	一五三,三一五	七二,七四八	—	—	一八二,四六〇	九六,八八四 ●	二九,一四五 ●	二四,一三六
仕組板	—	三四,七〇一	—	—	—	二九,四七七	—	五,三三四
自動車同部分品及附屬品	—	二五,四五六	—	—	—	四一,六三四	— ●	一六,一六八
其他諸品	—	二,八〇〇,五〇〇	—	—	—	三,〇二八,二三四	— ●	二二七,七三四
計	—	七,四四六,九八七	—	—	—	八,八七一,六五〇	— ●	一,四二四,六六三

▼港別貿易額

港別	輸出	輸入	計	二年累計	十五年累計	増減(●)	移出	移入	計	二年累計	十五年累計	増減(●)
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
基隆	二六,一九六,三九五	一,九〇三,五五六	四一,一六九,六九五	—	三五,四九九,四六八 ●	一,一七九,七八五	九,〇五五,二二六	三,五三六,八九九	一四,三三九,一二五	—	一四,九〇〇,八八五 ●	五七一,六六八
臺北	三五七,四四一	一四六,六九八	五〇四,一三九	—	四一七,六三九	八六,五〇〇	—	—	—	—	—	—
淡水	六二,五四二	三〇三,三四五	三六五,八八七	—	一八九,四〇二	二四五,四五五	—	五,〇〇〇	五,〇〇〇	—	— ●	五,〇〇〇
安平	八,四四五	一三一,〇五五	一三九,五〇〇	—	一四六,六七五 ●	一七,一七五	九三,〇三九	八二三,三六八	九〇四,三〇七	—	八〇〇,三三三	一〇四,一八五
高雄	一九,五一二,五八八	二,九八五,七八五	三二,四九五,三七一	—	四一,一七七,五一三 ●	六八一,九四一	一五,八五三,九九五	一,三二七,〇三四	一七,一五一,九二九	—	一〇,二九七,三八八 ●	三七,一五一,三三六
其他諸港	四九,〇八〇	七三一,三六八	・一三一,三八八	—	六六,九八七	五四,四四一	一五〇,五五一	三四,六八八	一八五,〇二七	—	一六,九四四	一六八,〇五五
計	四五,一九三,二七一	三四,六三三,四四七	八〇,八三四,七一八	—	一〇,一四七,四四一 ●	一,一五一,七三五	二五,一〇〇,五〇一	七,四四六,九八七	三三,五四七,四八八	—	三六,一〇五,二六六 ●	三,〇五七,〇五八

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

漢 詩

謁明延平郡王祠

蘇 孫 浦 大山

我家刺桐之城南。距王之家相隔七十里。五馬奔江一馬回。蜿蜒到海山隆起。維舟歲莫霜滿天。寒潮齕石利如齒。手携郁酒酹王祠。耳門旁啓破碣峙。淒涼父老話檐東。道是鐵鎖双扉二百祀。今我鼓輪渡海來。紅羊再換天地圮。長白山頭風雨哀。鴟鴞無聲予室毀。忍把江山付與人。似此亡國拟局眞僑俺。不如當年棄擲一珠厓。人心弗逐草雞死。簫鼓紛紛報賽忙。爭擲寒泉薦蘭芷。崇王之德報王功。危簷切日雲凝紫。振衣我復謁王祠。獨立蒼茫憑故壘。饒舌貫一揚枯灰。起年滅年双甲子。詎眞神怒觸羊山。胡虜之福天相爾。又非龍碩偶不靈。盪決百戰終難恃。乃歎天心人事不可知。金陵之役甘洪戰敗樓船燬。畫牢江戒弗奮飛。投書痛哭還蒼水。成敗英雄休更論。大笑區々羞得雉。回憶焚罷青衣哭廟時。斗血磅礴衝冠髮怒指。桃花山上起誓師。子弟籐牌多才技。峩々金廈兩門高。奈何踣鹿爭角犄。二雲已殉稗山焚。南來慷慨無奇士。雲根漢影石且沈。腥膻莫滌河山恥。崎嶇闢地毘舍耶。揮戈一怒驅彼荷蘭之人如羊豕。生聚十年倘可期。或者捲土重來報一矢。胡爲垂天翼折鵬不還。徒使風冷扶搖終南徙。古來英雄無命蜀鼎亡。況王之年三十有九耳。持此東都尺地比田橫。島上五百頭顱空擲矣。低徊往事百感紛。河清再見知難俟。漢臘未應遺老忘。中原誰念軒轅紀。梨洲特筆自森嚴。始末一篇非信史。亭林海上空表哀。愁殺夷門頻拊髀。惟有牧齋和杜秋興詩。風人妙得春秋旨。功狗甯知非種鋤。論定誅心追禍始。靖南豎子未足謀。賣汝蠟丸之中書片紙。更將海外半壁斷送之。直與販國承疇同一揆。不則朝廷猜忌靖海深。安能加以推心仗驅使。天命雖云有所歸。相公事業毋乃鄙。吁嗟乎宋人滅宋弘範張。我欲援例

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大書光地李。

古梅　同人

梅爲延平郡王手植在祠後庭畔老幹剝蝕已半色黝如鐵洵三百年間物摩挲手澤如見英靈因口占一律紀之

悲風搖落將軍樹。忽見橫枝出小欄。亡國河山都破碎。老臣消息自平安。英雄無命花長壽。天地常春歲獨寒。留與乾坤扶正氣。斑斑儘作血痕看。

赤嵌城　同人

萬里飛來鑿空船。手剪牛皮量山川。胡語欺人殊可憐。嚇蠻之技眞狡焉。南來我策双輪前。風聲獵々雷聲闐。滔々目極天海連。欲墮不墮危堞懸。老榕根蟠如鐵堅。犵鳥啾啁蠻花然。停車直上躋其巓。但見古苔繡上甎。不見枯桑栽作田。長劍弗躍沈于淵。受降圖在生雲煙。還我江山三百年。大笑拍手問青天。其亡也忽不踵旋。宰割六合天下鞭。秦人之哀惡可鐲。以古爲鑑尙愼旃。

明延平郡王祠歌　沈傲樵 琇瑩

君不見赤伏一符歸白水。金刀重耀天鳳死。攀鱗附翼晝星精。秀才果是眞龍子。又不見一劍田橫霸氣終。頭顱飛入咸陽宮。自古興亡有天意。是誰成敗論英雄。憶昔米脂賊如虎。鼎湖龍去悲終古。遼陽勁旅入關來。碧眼胡兒中原主。帝子南朝舊綠衣。蛙鳴那解問是非。可憐十日揚州記。不及桃花扇底詞。亡國大夫監國議。三山高會迎唐邸。隨陸絳灌互相輕。逃雨道人不得意。是時將軍正華年。臺上無諸泣問天。半壁東南成底事。誓將北去掃狼煙。關中建策如婁敬。圍解白登縱賜姓。慷慨請纓拜表行。橫磨十萬軍容盛。龍蟠虎踞石頭城。可奈高皇氣不靈。九地九天何處是。惜無孫武與談兵。神羊慘殺干神怒。漫天都是蚩尤霧。颶母狂風海上號。樓船破碎公無渡。白馬孤軍力不支。會稽南部杜鵑啼。昆明水戰年年習。痛飲黃龍再誓師。傷哉猿鶴蟲沙刼。血洗芝城霜刃白。輸與海澄爵上公。丹霞從此無顏色。烏衣故國本荒唐。富貴何須晝錦堂。馬厩塵埋淳化帖。虬髯意在扶餘王。鯤溟一去蠻天黑。絕島開荒人五百。傳檄紅夷海不波。奇奇怪怪談瀛客。臥薪嘗膽鐵稜稜。醇酒婦人薄信陵。去歲城中逐狡兎。大屯山下呼饑鷹。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雅歌投壺多閒暇。餘事藝林有聲價。一表臥龍仿岳書。
孤飛蝴蝶摹滕畫。魯連蹈海帝秦羞。朝鮮箕子不臣周。
小腆猶頒商正朔。私家別撰晉陽秋。里人孤負九壇祭。
一鶯一梟不同志。中行背漢有微辭。衛律通天難數罪。
有人置俎而翁烹。何當分取一杯羹。溫嶠絕裾人咄咄。
寃哉剖腹不能明。已矣隆武與紹武。永曆終爲亡國虜。
天上將星慘地沈。宮中嗣子誰能輔。降王執梃又何人。
嗚咽潮聲鹿耳門。金豹有時稱靖海。慢亭無地著諸孫。
翼翼祠堂碑待記。頭銜三字生前貴。新朝予謚表孤忠。
史黃陳瞿應一例。休言三世正狐丘。俎豆莘々祀典脩。
階下滌牲胡虜肉。案前酹酒月支頭。東海紅桑已三變。
巋然獨存靈光殿。天將鶉首賜嬴秦。人望鯤身還赤縣。
外孫肯失河伯親。力士安知倉海君。我恨來遲何所見。
梅花數點江南春。

竹滬行弔寧靖王也　林小眉 景仁

思陵玉斗折煤山。韃靼笳歌唱入關。可憐賓客兔園散。
無復神仙鶴駕還。丹圭赤社竟何恃。龍種流離一元子。
忍見銅盤辭漢儀。泣彈瑤瑟招湘鬼。初走江東附瑯琊。
伯升兄弟富年華。上藩拜握黃金鉞。思詔仍崇紫蓋車。
史稱英毅多材略。目光巖電眉華嶧。陷陣每爲悍卒先。
痛飲願與諸君約。那知叔寶無心肝。燕子歌殘輿未闌。
坐使滿廷寒景監。從知誤國是都官。太息秣陵沈嶄氣。
半壁江山吹唇沸。潰圍忼慨引輕騎。去國倉皇抱宗器。
兩朝北狩辱青衣。千里中原妖彗飛。獨艤鷁船迎幼主。
重麾羽扇鎮雄師。當時響應虬髯客。草雞一鳴天下白。
健兒身手擅南安。正統春秋歸永歷。舳艫銜尾水操臺。
萬戟林行幕府開。大老伯夷虛位待。亡人重耳斬祛來。
太武秋高斜陽紫。閉門種菜雄心死。咫尺傳聞鐵綫橋。
萬魂頻渡金帶水。天上飛來狄將軍。寶刀如雪箭如雲。
大呼渠魁擒黑闥。萬古絕塞定烏桓。長跪獻捷皇孫懌。
浮家遠趁崑崙船。一旅尙能資少康。百樂何妨採秦伯。
畫舫曲檻碧雞坊。椰竹交縈闢射堂。此是秦皇觀日處。
更兼漢武白雲鄉。洪荒遺此窮桑壤。似供劉蒼足優養。
頭銜自署多田翁。心事由來五湖長。淮南一例善文辭。
書法尤推瘦勁姿。曾援靳州鹿毛筆。揮就岣嶁鳥籀碑。
鯤身鳳鼻霧蒸鬱。芥子乾坤蛤中佛。蠻邦未識漢官儀。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

吾土都非唐舊物。海外休言更九州。孝陵北望怯登樓。
野花如夢頭全白。瘴月傷心涕欲流。華堂燕雀酣歌舞。
長矛生火怪石語。世事萬端有天意。吾曹何人知死所。
刁斗風悲隔岸聞。丈夫覥面媚新君。蠟書連夜馳燕闕。
戰艦橫空壓吼門。馬肥弓勁胡氛銳。毘舍耶國鶴皆唳。
不待豎子草降箋。欲報先皇久熟計。六十六年髮數莖。
世讐國憤鏃塡膺。英雄腔裏惟丹血。鼙鼓軍中本死聲。
瑟瑟紅紅掩淚至。哽咽試問君王意。玉兒古且殉東昏。
賤妾寧甘負北地。肯抱琵琶作小憐。百年氣節在嬋娟。
解帛共知心匪石。盖棺爭識貌如仙。一笑服易冠裳潔。
從容便與耆舊訣。地下有人螻蟻駈。草間愧汝鴛鴦烈。
絕命詩題朱祚終。鄭家起滅太忽忽。祇留千載蜀王魄。
繞以五色美人虹。蓬萊三度水清淺。一坏荒土牛羊踐。
幾宵雨風冬青哀。粘天烟瘴春草短。淒涼廢碣幾消磨。
破帽騎驢少客過。麥飯半盂今薦否。玉林殘葉近如何。
老樵指點紙蝶逝。爲言寒食尙家祭。石麟歲歲冥漠君。
狖鳥聲聲奈何帝。三春風物赤嵌城。紅雨青燐幽怨生。
願將剩水殘山調。譜出飄鴛泊鳳情。

送上山蔗菴赴任于臺灣總督　建部遯吾 水城

垂天鵬影海雲間。赤道西東幾島山。萬里扶搖任天翔。
皇風旣洽舊臺灣。 用賴山陽韻

和蔗菴任臺灣總督書感韻　同人

誰向達人談華榮。悍身奉詔破滄瀛。南冥地極濤聲惡。
北斗天低鵠影橫。帝子降靈長鎭國。藎臣留魄遠推誠。
知君俯仰感今古。策到綏荒白髮生。

接建部遯吾師來詩謹用其和蔗菴任臺灣總督感懷韻寄懷　林履信

車經曾沾稽古榮。又歎吾道被蓬瀛。儀晤嶽嶽高山仰。
論著𪭢𪭢大筆橫。詩教欣看濡赤嵌。忠言喜共矢丹誠。
鯤溟遠高盼軒過。知有嘉謨詔後生。

次韵酬伊藤壺溪先生　林小眉

詩思新磨百鍊霜。縮虬伸蠖幻無方。銜盃笑撫飛僊頂。
擲筆橫馳俠少場。字裏風雷生掌握。賦中鐵石是心腸。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

熟聞九夜捫蝨家。身本陳芳古國王。

酬猪口鳳菴君　同　人

鑠矣鳳菴叟。浩歌慨我今。一身天地卵。四海弟兄心。機似盤鵰下。律教戰馬喑。何當風雨夕。重擊柳惲琴。

次韵酬伊藤壺溪先生　沈　傲　樵

搜盡嫏嬛鬢欲霜。長生肘後有奇方。九天珠玉神仙唾。萬國衣冠傀儡場。詩品扶桑人濯足。騷箋芳艸客迴腸。春寒拚醉屠蘇酒。記取旗亭畫壁王。

次韵酬猪口鳳菴先生

天風猋起引仙舟。海外奇聞記九州。繡虎已歸師子國。屠龍應隷墨家流。春臺文稿刪旁注。南郭詩心感暮秋。我願華胥同夢好。大千世界迓神庥。

次韵酬壺溪先生　蘇　蓀　浦

一到蓬萊鬢已霜。長生可有古時方。樓臺海上神仙宅。朝市人間傀儡場。自把昆侖量劍膽。還將鼓吹滌詩腸。相逢晁監吟才健。高詠吾慚輞水王。

酬鳳菴先生

孤雲出岫自閒閒。世外紛紛任觸蠻。把琖與君拚一醉江山樓上看江山。

瀛社雅集席上賦呈沈蘇二先生

猪口鳳菴

遠來李郭此維舟。隨處觀風海上州。同種不須鴻溝劃。異鄉先認聖仁流。蠻花犵草可無句。紫蔗黃禾盡有秋。爲屬西歸相告語。瀛東萬姓受天庥。

瀛社洗塵讌集席上賦呈沈蘇林三大吟壇即請郢政并博諸同人一粲　伊　藤　壺　溪

訂締吟盟二十霜。恰逢仙客自西方。東山絲竹眞名士。北海文章獨擅場。誰化干戈爲玉帛。我將詩酒洗情腸。敦槃斯會關風雅。休論前盧與後王。

仙山話別　同　人

晉江烟月楚山雲。移到仙源倍馥芬。若使劉郎再相訪。桃花應讓建奇勳。

俳句　孕江選

逆螢忌

春とはいへど大屯颪尚寒き二月二十七日、北投天狗庵に於て故平田逆螢氏の一周忌を修す。當日の句を左に錄す。

裏畑は桃の盛りや逆螢忌　巨洲
逆螢忌遺稿を友に頒ちけり　洋々
逸話など語りつゞけぬ逆螢忌　同
飾られし寫眞淋しき逆螢忌　素山
逆螢忌や枯合歡の莢高鳴りて　塘翠
逆螢忌遺兒騷がしく障子外　兎全城
春山にそむきて寒し逆螢兒　同
花桃に故人句あらむ感あらむ　南山
集ひ來ていつもの廣間や逆螢忌　みさく
落葉焚きしあとかたもなし逆螢忌　孕江
紅竹に小雨靜かや逆螢忌　同

○

田樂の屋臺採まるゝ疾風かな　素山
躑躅坂上れば道の盡きにけり　同
浴場や躑躅の燃ゆる芝生庭　同
躑躅咲く池に硯を洗ひけり　南山
春の山石を切り出す一と處　同
春山や棚田つゞいてなだらかに　巨洲
春山に屋根新しき蕃社かな　同
春山の茶園となりし一と處　同
春山家厨の甕の筧水　洋々
春の山重なり見えて温泉宿かな　同
瞰下すや春山裾の港街　同
躑躅咲いてまだ整はぬ新居から　兎全城
玉垣や常明燈に白躑躅　同
田樂の客に鹿來る茶店かな　同
病閑や躑躅に步して日を仰ぐ　みさく
田樂に何も語らず醉ひ給へ　同
田樂の串へな／＼でありにけり　孕江
春山や巖をそびらに一禪寺　同
めづらしきこの大風や山躑躅　同

◎募集　四季雜詠（十句）締切毎月二十五日、投稿先、臺北市東門町九七　ゆうかり社宛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣日誌

自一月二十一日
至二月十五日

一月

▼二十一日
・馬公要港部閱兵式擧行

▼二十二日
・臺南市協議會を開く

▼二十三日
・新竹郡實業教育研究會開催
・大喪儀參列臺灣代表者決定

▼二十四日
・大屯山一帶に降雪あり
・上山總督芝山巖視察

▼二十五日
・總督府部局長會議を行ふ
・基隆市協議會を開く

▼二十七日
・臺中・高雄兩市協議會を開く
・廣田和蘭駐在公使來臺視察

▼二十九日
・田中軍司令官上京
・基隆炭礦瓦斯爆發あり負傷數名

▼三十日
・守備隊幹部演習を嘉義方面に行ふ
・稻江信用組合總會十年記念式を行ふ

▼三十一日
・臺南州水產會總代會を開く
・高雄信用組合總會を行ふ
・水產試驗船凌海丸南洋漁場調査の爲出發す

二月

▼一日
・芝山巖祭典執行
・上山總督及御大喪參列者上京
・蓄産事務打合會總督府に開く

▼三日
・臺南各學校軍事教練査閱施行

▼四日
・軍艦大井基隆入港
・臺中各學校軍事教練査閱施行
・臺北州水產會總代會を開く

▼五日
・海山郡業佃會發會式を行ふ
・臺北州協議會常置員會を開く
・新竹實業會總會開催

▼六日
・臺中商工協會總會を開く

▼七日
・御大喪遙拜式全島に行はる
・上山總督恩赦に就き諭告を發す
・社會事業功勞者表彰さる

▼八日
・片山殖產局長恒春地方視察出發

▼九日
・新竹州後龍補習學校開校式擧行
・新竹州深耕犂傳習會開催さる
・學校衛生事務打合會總督府に開催
・全島學事統計事務打合會開催
・竹南郡實業教育品展覽會を開く

▼十日
・糖業聯合會月例會嘉義公會堂に開催

▼十一日
・紀元節、儀式を廢し各官衙等休業す
・久邇宮奬學資金教育論文入選發表
・社會事業奬勵御下賜金發表
・各州青年會處女會奬勵金交附
・新竹實業青年團發會式を行ふ

▼十二日
・文山郡及淡水郡水稻競作褒賞授與式擧行
・青果聯合組合評議會開催
・嘉義水利組合評議會を開く
・博物學會總會開催

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▼十三日
・高等專門學校陸上競技會を開く
▼十四日
・全島林務打合會議總督府に開催
・高雄州產業組合講習會を開く
・臺北州視學打合會を行ふ
・石黑英彥氏文敎局長に任命さる
▼十五日
・島內各銀行預金利下を行ふ
・全島中等學校長會議總督府に開かる
・開山神社大祭執行
・旗山郡畜產組合創立總會擧行
・海山郡水稻增收競作品評會褒賞授與式擧行

人事消息

▼海野交通局技師　一月二十七日歸臺
▼角田州事務官　一月二十八日上京
▼野口州事務官　同上
▼中田府事務官　一月二十九日同上
▼上山總督　二月一日同上
▼竹屋祕書官　同上
▼吉岡臺北州知事　同上
▼武田高商校長　同上
▼相原高等法院長　同上
▼古賀三千人氏（本誌評議會）　二月一日上京
▼上妻專賣局技師　同日歸臺
▼內田州事務官　同日上京
▼宍澤地方技師　二月二日南洋より歸臺
▼平山寅二郎氏（本誌評議員）　二月五日歸臺
▼皿谷廣次氏（同上）　同上
▼大賀朝鮮總督府技師　二月七日來臺
▼中村府技師　二月七日着任
▼高原府技師　同上
▼諏訪禮二郎氏　二月十一日內地へ
▼林熊徵氏（本誌評議員）　二月十二日歸臺
▼飯田馬公要港部司令官　二月十五日歸臺
▼辜顯榮氏（本誌評議員）　同上
▼小山交通局技師　二月十八日上京
▼小笠原府技師　同上

任命

府報自第十六號至第四十號

▼一月十七日
任臺灣總督府技師　內務技師　中村秀太郎
任臺灣總督府高等學校教授　堀豐彥
官幣大社臺灣神社主典　松本賴光
官幣中社臺南神社宮司被仰付
臺灣總督府技師兼臺灣總督府交通局技師　田賀奈良吉
依願免本官竝兼官
官幣中社臺南神社宮司　鈴村讓
依願官幣中社臺南神社宮司被免
臺灣總督府技師　中村秀太郎
內務局土木課勤務ヲ命ス
▼一月十四日
臺灣總督府醫學專門學校教授　末盛進
赴任ノ途次東京、京都、岡山、新潟ノ二府二縣下ヘ出張ヲ命ス
▼一月八日
臺灣總督府技師　松岡冬樹
一時歸府ヲ命ス
臺灣總督府技師　色部米作
殖產局特產課長中瀨拙夫不在中代理ヲ命ス
臺灣總督府技師　色部米作
殖產局附屬植物檢查所長三宅勉不在中代理ヲ命ス
▼一月十九日
臺灣總督府交通局技師　池田季苗
臺灣電力株式會社監理官ヲ命ス
（各通）臺灣總督府交通局參事　藤田光夫
臺灣總督府交通局技師　篠原國憲
同　藤村孜郎

臺灣電力株式會社監理官附ヲ命ス

▼一月十七日

臺灣總督府高等學校教授　堀　豐彦

臺灣總督府在外研究員ヲ命ス
二箇年間英、獨ノ二箇國ニ在留スヘシ

▼一月二十日

臺灣總督府技師　森脇虎壽

比律賓、英領北ボルネオ及蘭領東印度諸島ヘ出張ヲ命ス

▼一月二十二日

（各通）臺灣總督秘書官　一戸二郎
臺灣總督府事務官　坂口主税

官國幣社神職尋常試驗委員ヲ命ス

（各通）臺灣總督秘書官　一戸二郎
臺灣總督府事務官　坂口主税

社司社掌試驗委員ヲ命ス

復興局技師　高原道生

任臺灣總督府技師

鷲見謙一

任臺灣總督府技師

臺灣總督府地方技師　鈴木外男

兼任臺灣總督府中央研究所技師

復興局技師　田北六平

任臺灣總督府技師

臺灣總督府高等農林學校教授　芹澤立

任臺灣總督府高等農林學校教授

臺灣總督府商業專門學校教授兼臺灣總督府臺南高等商業學校教授　延田芳太郎

依願免本官並兼官

臺灣總督府技師　高原道生

內務局土木課勤務ヲ命ス

臺灣總督府技師　鷲見謙一

警務局衛生課勤務ヲ命ス

臺灣總督府技師　田北六平

內務局土木課勤務ヲ命ス

臺灣總督府技師　鷲見謙一

支那廣東ヘ出張ヲ命ス

▼一月二十四日

（各通）臺灣總督府法院判官　相原祐彌
臺灣總督府交通局總長　生野團六
臺南州知事　喜多孝治
臺灣總督府專賣局參事　永山止米郎
臺灣公立中學校長　濱武元次

上京ヲ命ス

▼一月二十五日

臺灣總督府法院檢察官　石橋省吾

補臺中地方法院檢察官長

臺灣總督府稅關長　伊藤兼吉

橫濱、神戶ノ兩稅關管內ヘ出張ヲ命ス

▼一月二十七日

公立高等女學校長　小柳辰一

任臺灣公立中學校教諭

▼一月二十一日

吉田坦藏

臺灣中央衛生會委員ヲ命ス

▼一月二十七日

臺灣公立中學校教諭　小柳辰一

補臺中第一中學校教諭

▼一月二十八日

臺灣總督秘書官　竹屋春光

上山總督上京ニ付隨行ヲ命ス

（各通）臺北州知事　吉岡荒造
臺灣總督府臺北高等商業學校長　武田英一
臺灣總督府事務官　中田榮次郎

上京ヲ命ス

臺灣總督府州事務官　野口敏治

東京、大阪ノ二府及鹿兒島縣下ヘ出張ヲ命ス

臺灣總督府州事務官　角田廣次

東京、京都、群馬、鹿兒島ノ二府二縣下ヘ出張ヲ命ス

臺灣公立高等女學校長　渡邊末造

東京、京都、佐賀、靜岡、福島、新潟、奈良、福岡ノ二府六縣下ヘ出張ヲ命ス

臺灣總督府中央研究所技師　柳川秀興

東京、大阪、千葉、茨城、神奈川、靜岡、愛知、大分ノ二府六縣下ヘ出張ヲ命ス
臺灣總督府翻譯官 森　新一
支那廣東、汕頭、厦門、福州、上海竝英領香港ヘ出張ヲ命ス

▼一月二十九日
臺灣總督府事務官 內田　隆
東京、京都ノ二府及鹿兒島縣下ヘ出張ヲ命ス

▼三十一日
臺灣總督府高等學校教授 大浦精一
（各通）同 森　長整
補生徒監
臺灣總督府高等學校教授 庄司萬太郎
（各通）同 齋藤　齋
生徒監ヲ免ス
（各通）臺灣總督府技師 和田彥作
臺灣總督府醫院醫長 大井　司
依願免本官

▼一月三十日
臺東廳長 齋藤　透
東京、京都、神奈川、石川ノ二府二縣下ヘ出張ヲ命ス
臺灣總督府醫院醫官 原　庸藏
花蓮港醫院長事務取扱ヲ命ス

▼二月一日
臺北州協議會員ヲ命ス
三卷俊夫

▼二月二日
臺灣總督府交通局總長 生野團六
上京ノ序ヲ以テ大阪遞信局管內ヘ出張ヲ命ス
臺灣總督府技師 小笠原金亮
東京府下及靜岡縣下ヘ出張ヲ命ス
臺灣總督府州事務官 本間善庫
福島縣下ヨリ上京ヲ命ス

▼一月二十九日
臺灣總督府事務官 辰野龜男
株式會社臺灣銀行監理官富田松彥不在中代理ヲ命ス
臺灣總督府事務官 中田榮次郎
株式會社臺灣銀行監理官代理ヲ免ス

▼二月五日
臺灣總督府技師 中村秀太郎
市區計畫委員會委員ヲ命ス
臺灣總督府州事務官 內田　隆
東京、京都ノ二府及鹿兒島縣下ヘ出張ノ序ヲ以テ愛媛縣下ヘ出張ヲ命ス
臺灣總督府技師 松岡冬樹
支那福州ヨリ東京、京都ノ二府下ヘ出張ヲ命ス

▼二月九日
臺灣總督府編修官兼臺灣總督府視學官 古山榮三郎
任臺灣總督府視學官兼臺灣總督府編修官
臺灣總督府醫院醫官補 鶴田喜代馬
任臺灣總督府醫院醫官
臺灣總督府醫院醫官 鶴田喜代馬
臺北醫院勤務ヲ命ス
入來重彥
臺南州協議會員ヲ命ス

▼二月十二日
高雄州郡屬 江田榮二
任臺灣總督府地方理事官
臺灣總督府地方理事官 江田榮二
高雄州勤務ヲ命ス

▼二月十四日
江田榮二
臺灣產業主事ニ任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル
臺灣總督府地方理事官 江田榮二
依願免本官
臺灣產業主事 江田榮二
高雄市產業主事ニ補ス
臺灣總督府交通局技師 小山三郎
東京、名古屋、門司ノ各鐵道局管內ヘ出張

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ヲ命ス

▼二月十六日

東京帝國大學助手　土田義介
任臺灣總督府醫院藥局長

内務技手　森志計理
任臺灣總督府技師

西村仁三郎
臺灣産業技師ニ任ス

南部爲人
臺灣土木技師ニ任ス

臺灣總督府醫院藥局長　土田義介
臺南醫院勤務ヲ命ス

臺灣總督府技師　森志計理
内務局土木課勤務ヲ命ス

臺灣産業技師　西村仁三郎
臺南州産業技師ニ補ス

臺灣土木技師　南部爲人
臺中市土木技師ニ補ス

臺灣總督府專賣局參事　永山止米郎
上京ノ序ヲ以テ大阪、兵庫、山口、鹿兒島ノ一府三縣下ヘ出張ヲ命ス

▼二月十七日

臺灣總督府編修官　土性善九郎
任臺灣總督府視學官

臺灣總督府醫學專門學校助教授　八木金之助

任臺灣總督府醫學專門學校教授

臺灣總督府醫院醫官　田和稔
任臺灣總督府醫學專門學校教授兼臺灣總督府醫院醫官

鈴木憲二
任臺灣總督府醫院醫長

山田北男
任臺灣總督府交通局技師

臺灣總督府醫院書記　羽多野幸太郎
兼任臺灣總督府地方理事官

休職臺灣總督府地方技師　小谷富雄
依願免本官

臺灣總督府視學官　土性善九郎
文教局督學室勤務ヲ命ス

臺灣總督府醫院醫長　鈴木憲二
花蓮港醫院長ヲ命ス

臺灣總督府地方理事官　羽多野幸太郎
臺北州勤務ヲ命ス

▼二月十八日

臺灣總督府醫院書記兼臺灣總督府地方理事官　羽多野幸太郎
依願免兼官

▼二月十七日

臺灣總督府事務官　生駒高常
教科書調査會委員ヲ免ス

▲二月十八日

臺灣總督府事務官　水越幸一
臺灣總督府視學官　若槻道隆、
(各通)同　山口重知
臺灣總督府技師　梅本英太郎
臺灣總督府醫學專門學校教授　横川定
第六回視學講習會講師ヲ命ス

▼二月十九日

臺灣總督府醫院醫長　伊藤曉
東京、岡山ノ一府一縣下ヘ出張ヲ命ス

臺灣總督府技師　板谷孫市
一時歸府ヲ命ス

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

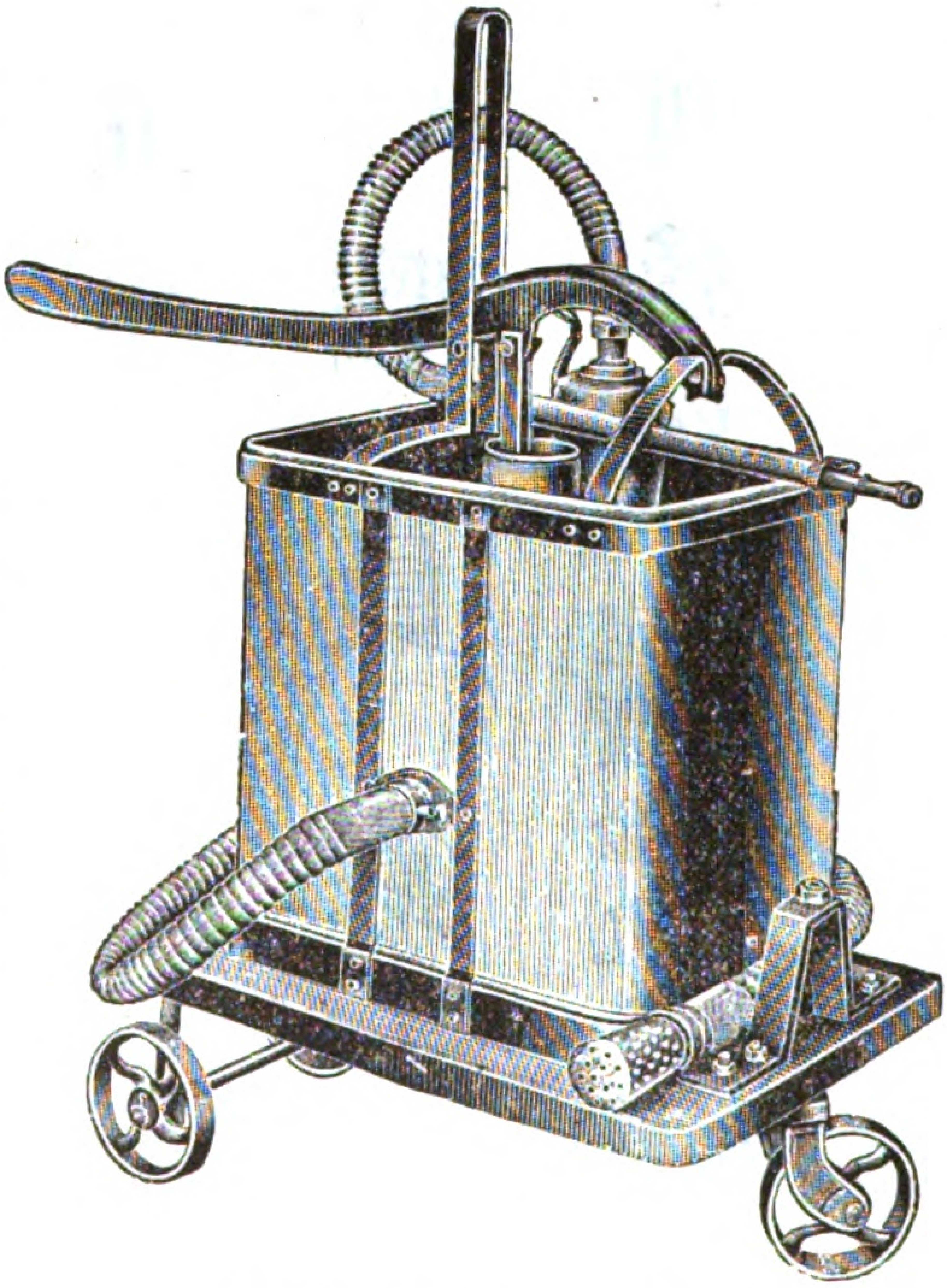
地震と火災には豫報なし

一讀して非常に有益を感ずる此廣告を精讀せざるものありや

實用新案 貯水式「ポンプ」

一臺金五拾八圓（東京渡し）

但吸水管・放水管・噴霧器の附屬品の加はるに随ひ販價増加致し候



御註文の要領

一、本廣告に依り御註文の方へは荷造費と運賃は申し受けざる事に候
二、四臺以上御恩命の向へは定價の一割を減額仕り候
三、御要求に依り見積書を郵呈致し候
四、昨大正十五年度に御購求し得ざる向きは昭和二年度に御計上せられて御註文せらるゝが多數に有之候
五、昨年一月後藤長官閣下より火災豫防の御戒令あられて後は各官公衙と各學校の御註文一層に候
六、本「ポンプ」は總督府警務局の御檢閲を辱ふせしものに有之候
七、已往本島の御註文中最も多きは殖産局の四十三臺と專賣局の三十四臺に有之候
八、各州廳の警務部に於て本「ポンプ」實演の結果偉功の御證明狀を下附され申候

本島一手販賣所
臺北市御成町二ノ一一四
石橋子之吉
（電話一八五九番）

苟も生命財産を愛顧するものにて此貯水式「ポンプ」を購求せざるものありや
（先づいの一番に「カタログ」の御要求を是れ仰ぐ）

輕便「ポンプ」は家庭の軍隊なり

大正十五年

臺灣總督府
及所屬官署
職員錄

新刊發賣

定價金九十錢
送料金八錢

臺灣總督府內
臺灣時報發行所

振替口座臺灣二〇七〇番
電話府內八十九番

支那及南洋情報

臺灣總督官房調查課

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

目次

支那

安國軍三對論會の開會……一
奉軍河南入の障碍は紅鎗會……二
奉天山東軍の河南入に對する吳佩孚表示……二
孫傳芳軍の敗退と上海南京……三
南昌革命軍總司令の組織換……四
江西省政府の積極的準備……五
唐生智が湖南西部肅淸の規畫……五
四川揚森部隊改編の情況……五
汕頭情報……七
國民政府の出師軍費一千萬元……八
國民政府國都問題……八
廣東漢口間航空營業の準備……一〇
廣西の軍法辦事細則……一一
民間十五年中支那戰紀……一三
浙江省の交通(上)……一八
北京に於ける人力車夫生活の研究(下)……二三

比律賓

比律賓時報……二九
競爭市場裡の比島……三〇

佛領印度支那

一九二五年に於ける印度支那の海運及貿易(四)……三四
佛領印度支那情報……四四

暹羅

暹羅に於けるチーク市場概觀……四八

英領馬來

生産制限第四年目英領馬來護謨輸出入諸統計……五〇
一九二六年度馬來聯邦州新設會社……五二
一九二六年中新嘉坡の護謨相場……五三

蘭領東印度

蘭領印度の官業……五四
蘭領印度に於けるジエルトン(Djeloetoeng)採集業……五六
護謨栽培上の重要問題……六〇

英領印度

一九二五―二六年度に於ける英領印度の對外貿易……六五
錫倫の富源茶及護謨に就て……七〇

其他

南洋各植民地重要都市別人口及在住邦人表……七二

情報

支那

□安國軍三討論會の開會

安國軍の設置した政治・外交・財政の三討論會は遂に二月七日午後南海の會場に於て開會された。中につき政治討論會の會場は南海の春藕齋に、外交討論會は頤年堂に、財政討論會は純一齋に開かれ、內部の組織は先づ文牘・庶務の二科を設けて公事を取扱ふことゝなつて居る。當日正午各討論會の會員が續々と會場に入るや、正副會長梁士詒・曾毓雋・曹汝霖・葉恭綽・孫寶琦・陸宗輿も午後一時に來着し總數六十餘人となる。張作霖は同二時十分新華門に入り、先づ居仁堂で休息し、夫れから順次に政治・外交・財政の三會に赴き開會の儀式を行ひ、會長會員は皆東向に立ち張氏は西向に立つた。かくて代表祝詞を宣讀後會長の答辭あり。張氏は南中に面し立ちながら演說し、畢つて開會。張氏及會員は皆居仁堂に赴いて寫眞を撮り、次に內閣員全體の居仁堂に入るや茶話會を開き、席上張氏は閣員及會員に向つて國事の公開討論を願ふ旨を述べ互に談論を交換し四時散會した。

政治討論會に於ける張氏の要旨　竊におもへらく吾が國の儒先は名教を尊び禮法を嚴にすと、而して近世の國家學者は競つて法律に任ずべきを言ふ。然るに歐洲大戰以來國家の觀念に遷變を生じ社會主義は漸次に興行した。社會若し自治を趨重し、己に克つて自ら修めば、禮教は當に法制と並行し國家と社會主義とをして融和して一となり、相待ち相擠めて觸れず。かくて共和成立し主權民に在り。民治の精神を發揮するは自然に確當不易の理である。今此の主旨に本づいて進行を籌し、凡そ國權の鞏固に、紀綱の整飭し、國粹の光輝を發し、人才の登庸され、教育の普及し、勞資の協調し、自治の振興し、交通の擴張し、司法の改進する所以より中央地方の事權分配に至るまで、皆政治中の一重要問題である。此等を具體的に討論し時に因り宜しきを制すべき譯である云々。

財政討論會に於ける張氏の要旨　語に曰く、政事なくんば財用足らずと。又曰く、寡を患へずして均しからざるを患ふと。我が國は地大に物博くして富源は世界に優である。然るに庫藏は洗ふが如く經濟を矜植するもの空しいのは果して何故なるか。古三十年を以て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

國用を通制し、入を量つて出を爲し、三年に必ず一年の畜積を有す。故に十年の蓄なくんば國に非ずと曰ふ。盈缺は慮るに足らず、整理の方法如何に在るのみ。其の財源を開かんには實業を奬め地力を盡し百工の制作を興し生産を增殖すべく、其の末流を節するには冗官を裁決し浮費を削去し軍備の範圍を定め內資の外溢を塞ぐべく、其の流通を求めんには內外の公債を整理し、金融機關を組織し、貨幣制度の確定・稅法の盤革を研考して具體的計畫を完成すべく。又貪墨を嚴懲し廉能を奬拔し專門を造就し實業を尊崇し、人才進退の方法は宜しく釐定して規條となし、財政の骨幹は信用を主とすべく、作霖は公債の信用を維持し基金の擔保を益々堅固にせんと力め居れり云々。

外交討論會に於ける張氏の要言　作霖以爲へらく世界和平の保障は實に國際平等を以て前提とす。吾人が外人の生命財產に對する、固より當に誠を竭して保全護持すべし。各友邦も亦吾が國の民意主權に對し均しく能く力めて尊重を加へんことを望む。彼此公誠を開布し相携へて永久和平の域に入らんは彼我國民の大幸福に非ずや云々。（以上二月八日—北京通信）

□奉軍河南入の障碍は紅鎗會

奉天軍の河南入は已に決定の事實なるが、其の南下の障碍物は吳佩孚系の軍隊でなくて直隸と河南との交界にある紅鎗會であらう。同會は去年十二月以後直隸の磁州・邯鄲の一帶と河南の安陽・臨漳等の縣に於て盛況を呈し、各縣の會衆は互に相聯絡し其の勢燄頗る浩大である。河北人の言に據れば彰德・衛輝等の各縣內に於ける紅鎗會は已に十餘縣に蔓延し、久しからざる內に必ず河北の二十七縣に普及するの勢がある。又林縣等の處にも所謂天門會といふがあつて、略ぼ紅會と鎗同一勢力を持つて居る。若し一たび召集せんには直ちに十萬の衆を得べし。去年山西軍と衝突せしとき、山西軍は一個師團の衆を以てしながら遂に和議を行ひ始めて兵を罷めた程である。されば此等一小火なりとも殆んど輕視することは出來ぬ狀況である。（二月五日—開封急信）

□奉天山東軍の河南入に對する吳佩孚表示

吳佩孚は奉天山東軍の河南入に對し最近他人に向ひ左の表示をした。奉天山東軍の相援くるは極めて贊同を表する所なるが、京漢・隴海二鐵路には我が所部のもの通佈し居れば、必ずゆる〳〵と商議をなし、駐防軍隊を引上げさせ客軍を自由に經過せしめるに便すべき

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

である。さなくば主客軍互に相混雜して誤會を發生しないとは限らないと。隴海鐵路歸德方面には山東軍の孫殿英が既に到來し接防の手續には尤も多忙を極めるの感あり。現に吳氏より北京安國軍へ左の旨を打電し二個條の要求を發した。(一)京漢線では奉天軍の前鋒は已に黃河を渡つたけれども其の數尙多からず。願はくは其の後大部分の軍隊は暫く彰德以北に駐つて河北軍隊を自由に黃河を渡らせるに便したし。(二)河南東部の山東軍は暫く歸德以東に駐らんことを請ひ、歸德は仍ほ殺軍及び郭振才部より駐防したしと。

現在隴海線路の兵力に就いて論するに、米振標の殺軍五旅・郭振才の一師・馬吉第の第一師・袁家驥の一個混成旅あつて實數約四萬人あり、吳佩孚は曾ほ單薄なるを恐れ已に河南西部なる靳治功の一部及鄭州附近王爲蔚の一部を增派し急に出發して開封以東に赴き、十日以後隴海路の東段に於ける軍事上の運輸極めて忙し。其の鄭州以南郾城に至るまでは冠英傑の軍隊中賀國光・賈萬興の二個師あり。寇自身の所部である第九師も亦陸路と鐵路とで開封に同駐し、河南の北部なる齊燮元・閻治堂の兩部は確かに兩處に分れて已に退去し、一路は鄭州に退いて黃河の南岸に布かれ、一路は道淸路より淸化鎭に退き河南の西部なる黃河北岸一帶に向つた。されば黃河以北は安國軍が已に其の全部を接收したことゝ知られる。

(二月十四日—北京特信)

□孫傳芳軍の敗退と上海南京

浙江の孫傳芳聯軍は始め稍有利に見え、却つて南軍に逆襲せんと欲する旨の電報あつたに拘らず、上海の近電によれば聯軍終に利あらず二月十七日杭州にある其の總司令部を撤退したとの事である。即ち聯軍は其の主力を錢塘江の本流筋に集中し、南軍の前進を阻止して居たが、一方南軍側は巧みに敵の虛を衝いて主力を聯軍の右翼方面に集中し、十四日夜から突如猛烈な攻擊を開始した。

そこで右翼の臨安附近にあつた聯軍の第十四師はその壓迫に堪えず、遂に餘杭方面に退却した。然るに諸曁方面に機の到るを待ちつゝあつた南軍も勢に乘じて聯軍の左翼を猛襲し、十五日は兩軍とも全線に亙る總攻擊を開始したものゝ如く、前述の如く臨安方面の戰線が敗られるに及び、聯軍は遂に支えきれず、主力部隊も杭州の對岸に近い臨浦に退却の已むなきに至つた。かくと見た孟昭月は全軍を富陽・餘杭の線に退かしめ頹勢の挽回を策したが、南軍はつゞいて臨安方面に兵力を增加し敵を餘杭以北に驅逐したので、桐廬・富陽一帶の聯軍も形勢全く不利に陷り、その第三軍は南軍に投降した。かく餘杭の守破れなば杭州の防備も早や望みなきを以つて、聯軍二萬は鐵路により松江に入り、嘉興にも一部隊の收容を見た。また寧波方面にあつて南軍の右翼を襲はんとした聯軍第十一師も形勢の逆轉

により總崩れとなつたものと思はれ、かくて浙江全省は事實上南軍の手に歸したかの觀がある。

松江から上海までは進攻に不便少き地形とて南軍が上海に兵を入れることも案外迅速に運ぶであらう。かくて白寶山・馮紹閔・鄭俊彦の各軍は安徽南部に退却し、杭州の南軍に歸するを待ち陳調元と共に態度を表明し、孫傳芳に下野の勸告をすると傳へられて居る程であるから、孫傳芳の運命はもはや行詰つて居るの觀がある。

上海の危機は今や時期の問題となり、孫軍の士氣沮喪せる結果、松江の喰止戰も成功せざるもの丶如く、早晩上海の治安維持に重大なる影響を及ぼすべき氣運となつた。之に對し列國には共同防備の手筈が整つて居り、孫傳芳としても武裝兵を率ゐて上海に逃げ込むことなく、邦人の生命財産には危殆は起るまいと見られる。

次に來るべき問題は南京攻略如何であるが、南軍は先づ直ちに上海をつくか、もしくは太湖の西方嘉興方面から孫傳芳軍の根據地たる南京を攻擊するに出でるかは目下不明であるが、若し上海攻擊に出ると英國軍隊との間に事端を起し、延いては列國との間に不慮の問題を發生せしめる恐があるから、多分先づ南京を衝いて孫軍の根據地を覆へし、其の結果自然的に上海が南軍の勢力範圍內に移り來るを待つの作戰に出るものとの觀測が有力である。

（二月十九、二十日—支那事情）

□南昌革命軍總司令の組織換

四廳・四局・三監・一政治部設置　廣東の國民黨・共産黨が聯席會議の結果北伐を實行することゝなり、昨年七月國民革命軍總司令部を廣州に組織し、總司令部の下に總參謀長一名を置き、李濟琛を以て之に任じ、又白崇禧を副總參謀長とし、鄧力子を總司令部祕書長とした。此の三席は總司令部中最重要の職であるが、此の外更に政治部を設け鄧演達を主任とし、參事廳を設け鈕永建を總參議とし、潘文治・伍觀淇・姚觀順を參事とし、同時に軍事政務會議を設け法規編審委員を置き、別に參謀・副官・海軍・軍械・交通・軍務・祕書・訓練・軍需・航空・軍法・審計・軍醫・徵募の十四處を設け馬定播・張希中・馬文車・殷重・陸福廷・邱鴻鈞・褚民値・徐桴等を以て該處長に分任せしめ、七月十七日蔣介石が師を率ゐて湖南に入つてから、總司令部の各機關は皆之に隨つて同行し、後方の總參謀長李濟琛を代理總司令として廣州に留守せしめ、一部分の人員を分けて廣東に留つて事務を取扱はせて居た。然るに革命軍が湖南から進んで湖北を攻め、遂に江西全省を占有するに至り、總司令部も湖南より湖北、湖北から進んで南昌に駐ることゝなつたが、其の內部の組織は皆編制當時の成規のまゝであつた。しかし今後方總司令部の消息によるに、本年の元旦に當り蔣介石氏は南昌で軍事善後會議を召集し、革命軍の管轄地域

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が廣大となり、前と形勢の同じからぬ關係上、總司令部內部の編制も軍事上から略ぼ變更あるべく、左の如く議決した。總司令の下に參謀長祕書長各一人を置きそれに事務取扱の廳を設け、それ〳〵祕書・副官・交際等の處を置き、此の外に政治部を設け 更に參謀・軍務・政務・總務の四廳を設け、又海軍・航空・軍械・審計の四局を設け、又軍需・交通・軍醫の三監を設け、廳には廳長を置き、局には局長を設け、監には總監一人を置き、各廳局長と總監とは同一階級として總司令に直隸せしめ、政治部と政治廳との區務は討論の結果、各軍隊の政治訓練を司るが政治部で、占領各地の民政財政を司るが政治廳と定められ、各廳局長の人員は原任者を以て之に充當することゝしあれば重大な更動はなくて、組織換の日限は二月一日からとなつて居る。

（二月七日—新聞報—西南社）

□江西省政府の積極的準備

江西省政府は二月一日に成立させる定めであつたが、後軍事の匆忙に累され延期となり居れり。然るに此頃中央政治會議は特に八日に第五十七回通常會を開いて左の如く議定したと聞く。

朱培德・李烈鈞・陳公博・俞飛鵬・段錫朋・王鎭寰・洪軌・周利生の八人を準備委員とし、一切の省政府內部の組織及成立の期日を同委員より會議に決することゝなつた、今該準備委員の意向は大約成立の期日を三月一日とし、內部の組織を廣東廣西湖南各省の成例に倣はせ委員十一人を設け內に軍事・民政・財政・建設・農工・教育・司法の七廳を分ち、其の委員の人選は大約李烈鈞・陳公博・朱培德・姜濟寰・蕭炳章・徐元誥・平寶善・段錫朋・王鎭寰・潘震亞・王恒・熊育錫とし、主席委員を李烈鈞とすべしといふ。各廳長の支配別は朱培德が軍事・陳公博が民政・姜濟寰が財政・王鎭寰か或は平寶善か建設・蕭炳章或は王恒が農工・段錫朋か熊育錫が教育・徐元誥或は潘震亞が司法たるべしと擬するものあるも、人才問題上逐鹿の人々も多ければ將來如何の變化あるやも知られず。されど李烈鈞氏の出山を望むものは大多數なれば民衆團體は皆武寧に打電して李氏を催促しつゝありと傳へらる。（二月九日—南昌通信）

□唐生智が湖南西部肅清の規畫

唐生智湖南に歸り已に一週間に及べるが、普通政務は更に視ず、只目前重要視せるは湖南西部の肅清問題なり。次に正式省政府の改組・陣亡將士の追悼・全湘黨務及外交農工整理の各策略を考ふる順序である。湖南西部は民國に入つてから以來群盜充滿し人民水火の中

に在るが如く、革命軍が興つてから黔軍（貴州軍）入り來り盜を招いて銃器を押收し、紛擾頗る甚しく、湖北西部の解決につれ、湖南西部問題の必ず起るべきは皆人の知る所である。貴州袁祖銘は進退に窮し所部を率ゐ湖南を離るべしと通電せることも屢々なるも皆まだ實行せず。故に遂に一月三十日の如き常德の變あり。常德桃源臨澧に散在せる軍兵は湖南軍周爛に軍械を押收されたもの數千人に及び、所有辰州常德九邊に駐り居る第九軍第三師毛鴻翔・游擊司令唐湘芸・屯邊使陳渠珍は、洪會・黔陽通道一帶の沈鴻英・韓彩鳳・姚繼虞・劉盛价・龍大哥等と共に、各衆千餘人內外を擁し居れるを以て、唐生智は此の機會に期限を定めて之を肅清し根本的解決を爲さんとて、先づ第一旅長熊震に命じ、所部二團を率ゐて常德に赴き周爛の指揮を受け常德辰州九邊一帶の軍を剿辦し、警備旅長・陳漢章は漵浦から辰州に入り、同じく周爛の指揮を受け辰州の陳渠珍・湧石の毛鴻翔・廖湘芸に對し同時に進勦し、又第二旅長王錫燾に命じ、所部二團を率ゐ、同時に直轄第三十團・第三十二團を加へ、道を武岡に取り進んで洪會黔道の潰殘軍を勦辦し、所有省會中樞の防務は第八軍第三師第七・第九の二個旅を召し湖南に返りて擔任せしめ、第七旅長張國威が已に部を率ゐて湖南に返り長沙衞戍司令を引繼ぐを除くの外、其の第九旅長李雲逑も陸續岳州に呼び戻して各路勦匪事務接濟の準備を立てた。而して唐は自身が久しくは湖南に留ることが出來ないので、第三師長李品仙（第八軍長に新任）を召して湘西軍事方略を贊劃せしめ、同時に李を代理省政府主席とするの說あり。李は現に湖北の廣水から返電を發し四・五日間に湖南に返ることを許したとの事である。湘西にて騷擾甚しかつた第九軍は唐から蔣介石へ申請し該軍長彭漢章を免職し查辦することゝなつた。彭はもと漢口に居たのであるが、唐は預て密電を漢口總指揮部參謀長龔浩に寄せ、彭を部中に召して拘留したので、五日委員を派して湖南に送るべく、六日夕長沙到著軍法處へ送つて看守させた。ところが湘西人士は大請願を行ひ彭を人民の審判に附せんことを願つた。唐は之を許し、同時に請願各項の個條通り各主管機關に送つて實行せしめ、一方又各地方長官に打電し人民と共に省軍を協助して匪軍を驅逐させた。袁祖銘部の一切軍隊は一律に剿辦させ、第九軍各部中第一師賀龍第二師楊其昌は事前に打合せた結果存在を許したが、其の外の第三師毛鴻翔並に他の名義の部隊は全く解散した。たゞ第十軍王天培の所部は軍紀やゝ好く態度も鮮明なればもとの通り保存され、貴州軍全部は三段に分けて解散し湘北の局面も亦かくの如く決定したので僅かに餘すものは匪軍の剿辦にて、これは稍時日を要する迄の事である。

（二月十五日—長沙通信）

□四川楊森部隊改編の情況

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

楊森所轄の部隊はもと十二個師八個混成旅あつたのであるが、曾述孔が前に湖北で反變し、魏楷が今回解決に遇つたのを除くも尙ほ九個師を有して居る。楊森は特に萬縣で各師旅長を召集して軍事會議を開き、部隊を整頓し進行に便せんとしたが、同會議の結果、先づ防區制を打破して民政財政を統一し、所有民財兩政各機關人員はすべて軍部から委任し、次に各部の改編を議し旅を以て單位とし一律に改めて步兵旅とし、快鎗九十挺を一連とし、四連を一營とし、三營を一團とし、二團を一旅とし、所有二十軍全部を九個師に編成し、師團の番號は抽籤法を以て之を定めたところ、白駒・吳行光・向成傑・何金鰲・郭汝棟・王兆奎・范紹增・王文俊が順次に第一師々長乃至第八師々長となり、楊森自身は第九師長を兼れたが、旅團の番號は未だ決定せず。各部の砲隊は軍部統一改編の後特科隊と爲し、各部共に機關銃六十五挺・大砲二十七門・迫擊砲十二門あり。一律に送つて軍司令部に至つて別に編成した。而して軍需の一處は全然獨立となり、各部軍需處長により合して二十軍の軍需處を組織し、出納を公開し人民の監察するを許すこととした。旅長は軍司令部と師長とより共同して選任し、其の訓練方法は軍司令部より規定して公布し、軍事委員は今後永久に存在させ、各師長が順番に座長となり事々公開を明言して偏頗私曲を杜ぐに便す。現に魏楷は尙ほ軟禁中なるが、其の部隊中李樹良旅が已に改編されて楊森が直接に指揮する外、唐莊・陳國寶・易吉安の各部が各方面より會勦せられ、鄷都より石柱南川に向ひ逃竄し到る處で搶劫燒殺を行ひ、其の慘狀は聞くに忍びざる程である。楊森は已に郭汝棟に切り從へさせつゝあれば不日に肅清に歸するであらう。曾述孔の所部たる孟青雲・周紹軒の二旅に至りては沙市方面で貴州軍に改編せられ、其の呂超に率ゐられ宜昌に赴くの一營は王天培に遣散せられ、湖北の西部方面には已に四川軍の旗幟は見られざるに至つた。（一月二十日―成都通信）

□汕頭情報

私立學校に關する諸規程發布後の情況

東瀛學校　支那側政府筋よりは未だ何等の干涉もなく、從つて當校は聊かも從前と異るところなく授業繼續中にして、本年度新入學生の募集は去る十二日より受付けたるところ、已に四十名を超え、上流の子弟比較的に多く、素質良好に向ひつゝあるものゝ如し。又印刷工罷工中にて例年の如く入學生募集の「ビラ」が尙各所に貼布せられざる今日としては入學生應募狀況良好にして、他に惡影響なきものゝ如し。

罷課中の角石中學の成行　一月十六日汕學第三號にて報告されたる角石中學の罷課は解決の見込なく、米人側、學校側も殆ど「愛想を

つかせたる」形にて、學生の行動につき見向もせざる態度をとり、煽動者側は之に乘じて甘言・威脅等の手段を弄し居り、學生中既に斷念して支那側中學に入學せるもの、又は郷里へ歸れるもの等ありて、到底當分は授業開始の運に至らざるべし。同校の教員にして大部分は董事を兼れ居れる傅倚策(校長)・戴貫一・林部勳・陳幹臣・林振聲等は近く校名を變更して再開せんと劃策し居れる如きも、煽動者側の活動に阻止せられて、當分は困難と認めらる。

外人設立學校の停止　佛蘭西側の若瑟中學・英國側華英中學、其他館に合同の角石中學等諸校の停止に依り、汕頭市内西洋人の經營學校は全部停辦し、東瀛學校のみが僅かに外人設立學校として殘れるのみなり。

汕頭及潮梅一帶の爭奪

汕頭及潮梅一帶はこれより得るところの稅金其他を合して政府の收入年額六千萬元に達し、關稅附加稅として二分五厘・五分の賦課により一層の增加を來せるに依り、廣東政府部内にて政治上の支配權は各軍首領の常に覬ふ所となり、十四年秋の第二回占領後、蔣介石及直系たる何應欽第一軍長の支配下に在り。何應欽の福州方面へ進出後は、同人の弟何輯伍をして潮梅警備司令代理たらしめて守り居れるも、蔣介石とよからぬ第四軍長李濟琛は汕頭及潮梅一帶の支配權を獲得せんとして種々策動し居れりといふ。

又一說によれば李濟琛の擁せる四個師の内、第十二師張發奎・第十師陳銘樞の兩師は既に獨立して蔣介石の直屬部となり、第十一師陳濟棠は部下に排斥せられて辭職し、目下露都に遊學し、第三師徐景棠は兩師の師長を兼れて實權を握り、李濟琛は實力を漸次失ふに至れりともいふ。(以上昭和二年二月十八日—汕頭通信)

□國民政府の出師軍費一千萬元

國民革命軍は五十五萬の大軍を出し福建・湖北・江西の三省より大擧北上する準備として、宋財政部長は每月一千萬元づゝも支出することに決定したが、此れ南昌に於ける軍務善後會議の確算した每月一千六百萬元といふのを節省の極に至らしめた數である。而して此の一千萬元を詳細各省に分割して負擔させたところ、其の負擔し得る數は每月實際七百萬元に過ぎないので、每月三百萬元の不足を生ずる譯である。之が補塡として財政部は國庫券九百萬元を發行し每月三百萬元づゝを三個月に分ちて支拂の事に決定し、右の國庫券條例は亦臨時聯席會議の精査を經て通過し、一月十四日財政部より漢口に在つて正式に公布したといふ。(一月二十六日—廣州民國日報)

□國民政府國都問題

中央黨政府の南昌移轉　國民黨は民國十三年に廣州で第一回全國代表大會を開いて後、始めて民衆運動を注重し民衆團體を組織すること〻なり、一方內部の組織よりして基礎力量の鞏固を圖り、一方又民衆を導いて革命に參加させたので、一年の奮鬪で廣東の東江と南路とを肅清し、兩廣の民政財政軍政を統一し、廣東一切の反革命派を掃淨し、次に十五年六月師に誓つて北伐し、半年間に已に湖南・湖北・江西・貴州・四川の全部を統一し、同時に伸張して安徽・浙江・江蘇・河南・陝西・山西及甘肅の各部分に到つた、隨つて各地の民衆は頻りに起りて帮助し、或は武裝を協助し、又は運輸に慰勞に嚮導に內應に種々の援助行動を取つた。其の上國民黨が肅清した後の各省は數月間に及ばないのに直ちに巨大な民衆力量を有するに至つた。それ故國民黨はたゞに軍事上の勢力の已に湖南・湖北・江西・貴州・四川・山西・河南・陝西・安徽・浙江・江蘇及甘肅の各省に達せるばかりではない。卽ち民衆の力量も亦已に上の十餘省に徧く達して居る。本黨の力量已にかく廣東の一隅から發展して西南の全部及東南・西北の一部分に及んで居るので、其の重心は當然南方廣東の一省から移つて中國の全國に到つた。故に應付なり指揮なりの各方面の便利の爲め、特に中央執行委員會は廣州から武昌に移ることに決定した。かくて中央黨政府は十五年十一月七日に廣州から武昌に移ること〻なつた。然るに右の決定後、黨部政府重要人員が南昌に到著した時、卽ち中央黨部國民政府は暫く南昌に置かれるとの消息があつた。今其の原因如何といふを聞くに、黨政府第一回出發の人員尤に張・譚の二主席が十二月三十日に南昌へ安著の後、此處に三四日逗留の筈であつたが、恰もこの時漢口方面に在る中央黨部の位置及國民政府の位置は已に適當に布置せらて居た。然るに右二席が南昌到著後の第二日卽ち廣東の陳樹人から發した電報を受取つた。其の電報の內容は汪兆銘氏が病氣全快し出發歸國の期近きに在りとの事なれば、二主席を始とし蔣總司令及南昌到著の各委員も皆非常に喜び、一月四日南昌總司令部で臨時重要會議を開き、同會議中、汪主席が已に歸國消暇とあれば國民政府の國都問題は應に同主席が歸國後近日に召集される三月一日の中央全體執行委員會議中に在つて決定すべきであるとの意見で、國民政府中央黨部は中央全體執行委員未開會以前に在りては暫く南昌に駐り、而して國民政府が未だ國都を確定せざる前は、武漢に在る中央執行委員も國民政府委員も臨時聯席會議も設立榜の如くなるが、中央黨部だけは南昌に其の中央黨部臨時辦事處を設け、其の場所は南昌の高等學堂か或は六昭井かの二個所を擇んで定めること〻なり、中央執行委員會の常務會議は繼續して南昌で開會することに議決し、南昌到著後第一回の常務會議は已に一月二日より南昌總司令部に開會された。

國都問題　將に來らんとする三月一日の中央全體委員會議中に討論さるべき國都位置は共に三個所あり。(一)武漢(二)南京(三)南昌の三個所の中將來何れに決定すべきかは今日では豫知する由もない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が、要するに三月一日開會の時勢を觀察した上決定さるべきである。蓋し國民政府が廣州より發途北遷するの時に在つては北伐の第一作戰時期已に一段落を告げ、而して湖南・福建・湖北・江西兩廣の各省は已に轉じて訓政時期に入り、而して武漢は西南九省の中樞として政治並に黨務を指揮するに便利なる爲め、此の時期に於ける時勢より觀察すれば確かに武漢が最も適當なる國都なるべく、又現在要人が南昌に到着の當時に在つては北伐軍の第二期作戰計畫の開始された時で、作戰の目標區域は浙江・安徽の二省である。而して南昌は此の二省に密接した近地なれば、軍事指揮上の便利の爲めには南昌を最も適當の地とすべし。然るに三月一日頃の時勢は如何に變遷すべきか。現在では全然確定することは出來ぬが、已に十五萬の大軍を總動員して北上したれば、一個月餘の時間を以て南を平定するは固より難事に非ずと思ふ。而して南京は辛亥革命成功の後孫總理が建てられた新政府の所在地であると、又江蘇・浙江・安徽の已に治下の範圍に入りたる時ならんと思へば其の時の國都は南京なるべきは討論の餘地なからん。要するに國都所在地の問題は將來の時勢如何に變遷するかに觀て始めて決定さるべきである。

(一月二十七日―廣州民國日報)

□廣東漢口間航空營業の準備

航空營業會の組織　廣東・漢口間の鐵道開築の未だ成らない爲め水陸二路の交通甚だ不便の感あるを以て航空處は特に廣東・湖南・湖北の各界を聯合して航空營業會を組織し株式を以て商業用飛行機數臺を購入し、廣東・漢口間を往來して旅行貨物郵政爲替等の用に備へんとて總飛行驛を武昌に設け分驛を長沙・衡州・韶州・廣州等の處に置くことに決定し、目下正に積極的に準備に着手し、廣く株の募集總則を發表したところ、各處の投資家應募者甚だ盛なるを以て、約二箇月以後には營業開始の運に至るべしといふ。

組織の總則　(一)本會は營業の性質を以て航空事業の發展維持を圖り、總機關を武漢に設く。(二)募集株金は二十萬元とし、(分つて二千大株とし、一大株券每に一百元とし、一大株券を十小株とし、一小株每に十元とす)商用飛行機三臺を購入し、其の機は獨逸最新式商用飛機「永克」一臺約五萬元のもの三臺とし、輪番に廣東・漢口を往來し、每日少くとも一回飛行すべし。(三)凡そ中國々民黨員は皆株主たるべし。(四)本會には委員會を設けて本會一切の事務を管理す。(五)本會委員會の委員は若干人とし、概ね本會發起人中より互に之を推選す。(一千元以上の株を引受くるもの、或は辦事特に熱心なるものは發起人より提議し共に之を推選すべし)株の應募規則及株金利子償還辦法は本會委員會より之を定む。(六)本會の發起人は須く株の募集を擔任すべく、少くとも五十大株即ち五千元を引受くべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(七)株金は須く三月十五日以前、完全に各發起人の名義を以て、中央漢口分行に預金すべし。該株金の拂込辦法は本會委員會より之を定め、飛行機購入注文及將來の營業規定も亦本會委員會より之を擔任す。(八)飛行機を購入注文の日より起り、二箇月で武漢に運送さるべく、到着の上は直ちに營業を開始すべし。(九)本會委員會の未だ成立せない以前、一切の準備作業は航空處から準備委員三人を指定し、責任を負つて之を辦理せしむ。廣東航空營業會迅速準備員張靜愚・袁克明・方抱一・發起人李濟琛・鄧演達・陳可鈺・張發奎・張靜愚・黃吉璠・陳勁節・張九維・鄧敏初。(二月十二日—漢口航空營業會)

□廣西の軍法辦事細則

廣西省の軍政はすべて第七軍司令部に統轄せられて居る關係上其の軍法處の辦事細則を知るは興味ある事である。今左に之を抄譯せん。第一條　當處各員は當部の組織大綱及辦事通則に依る外、まさに當細則の規定に依りて處內一切の事務を辦理すべし。第二條　當處の辦事順序は分ちて左の四種とす。(一)文件辦理の順序。(二)案件審理の順序。(三)判決執行の順序。(四)看守所管理の順序。第三條　文件辦理の順序。(一)凡そ各種の文電當處に著く時、書記之が重要なるものを擇びて收文部內に登記し、隨ひて處長に送りて批示を受け軍長黨代表に轉呈して覆核の後、更に各員に分發して擬辦せしむ。(二)各員の辦理せる原稿は稿上に印章を加へて責任を負ひ、書記を交由し、分ちて重要密電及普通文件と爲し、別々に送稿部內に登記し、處長に夾交して核閱蓋印し、軍長黨代表に送呈して覆核判行せしむべし。(三)當處は各種の文電を辦理し、主稿の員に非ざるものも亦互に傳觀せしめ、以て一貫を期す。(四)已に判行したる文電は書記により一一の件を繕部に送りて登記し、及び密電は譯部に送り、分ちて繕核室及譯電員に送りて繕譯せしむ。(五)收發處及譯電員は已發の稿件を送還するには應に主稿員より分別し留閱收拾せしむ。(六)當處には各部隊各縣知事の文電を辦理す。其の銃殺を核准せる匪犯の姓名員數に關しては、毎月須く統計表を編みて公報に登載するに便すべし。(七)當處には特に記過簿一册を設け、各部軍官が所部の大官兵卒の逃亡により記過せらるる時分別記載して考核に備ふべし。前記の逃兵は毎月統計表裝して之を統計すべし。第四條　案件審理の順序。(一)當處は犯人到案の通知を受くれば犯人羈押簿內に犯人の姓名・案由及到案の月日を分別して說明すべし。(二)當處は到案犯人に對しては應に到案に隨ひて審訊し、遲くとも二十四小時を逾ゆるを得ず。(三)當處に於て犯人を提訊するには須く當處の印章を用ひ提簽して之を行ふべし。衛兵司令が提簽を受けたる後は應に卽ち照辦すべし。訊審畢れば卽時衛兵理長にわたして帶回し押

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

取すべし。(四)當處にて犯人を審訊するは一人の錄事に因りて口供を錄し、錄し畢れば先づ庭員に交出して査閱せしめ、再び被訊人にわたして親看簽押せしむ。若し被訊人が字義を知らず及簽名する能はざる時は、須く出庭員より宣讀し、同時に被訊人をして姓名の下に指印を蓋さしむ。(五)各犯を審訊せる後、出庭員は應に意見書を具し、犯人の口供を附け、處長を呈由して核閱捺印し、軍長黨代表に轉呈して核示すべし。(六)當處の審訊する犯人は情形を斟酌して旁聽を禁止するを得。(七)當處の審訊する犯人は案情の輕重に因り、處長より隨時に出庭人員を指定し、同時に會審の必要ありや否やを核定するを得。(八)當處の審訊する犯人は犯罪人の身分に依り陸軍審判條例に照し、處長より軍長黨代表に呈請して軍法會審を組織するを得。第五條　判決執行の順序。(一)銃殺を許されたる犯人は應に處長より法庭に提して正身を驗明し、朱を標して施行し、同時に罪狀を宣布すべし。(二)前記銃殺を執行する犯人は須く當處より副官處に通知し、委員を派し隊を率ゐて刑場に押赴して執行すべし。(三)徒刑の判決處分を許されたる犯人は、當處より法處に提げて宣示し、衛兵司令に發交し監獄に押送して執行し、同時に收條附卷を取具して備案さす。(四)保釋を許されたる犯人は、當處より保釋證書を核明し、軍長黨代表に呈奉して批准せられたる後、即時犯人を法庭に呼出し保證をわたし釋放を受けしめ、其後開釋を核准されたるものは、該犯を法庭に呼出し宣示せる後即時に開釋し、併せて

衛兵司令に通知して放ち出さしむ。(五)以上銃殺及徒刑と判決せられ釋放せらるゝ各犯人は判決宣告の後は應に書記より執行の日期・徒刑始末の日期・開釋日期を犯人簿内に分明註明すべし。(六)收押せられたる犯人が若し銀錢銃彈などの物品を所有せるときは、應に軍需處或は軍械處に交由して保管せしめ、案件の落著後を俟ち應に沒收し或は發還すべき時は、再び當處より軍需處或は軍械處に通知して照辦せしむべし。但し須く分別して收據或は領條を取具し卷に附けて査に備ふべし。(七)凡そ犯人が判決宣告を受けてより後、執行或は執行中に於て、應に緩刑・假釋・赦免を行ふべき情形あるに遇へば、當處より軍長黨代表に呈奉し核准辦理するを得。當處の銃殺執行の犯人及徒刑に判決されたる犯人の各姓名額數の毎月統計表は第三條第六項と同じ。第六條　看守所管理の順序。(一)看守所の犯人は當處より毎日一員を輪派し、衛兵司令を會同し責を負ひて管理す。當審日程は別表にて之を定む。(二)看守所内の犯人は要犯の鐐銬を具へて疎虞を防ぐべきを除くの外は、其の餘の嫌疑犯及犯刑稍輕きものは鐐銬を加へず。(三)當番日管理員は犯人の飲食居住に對し皆宜しく注意し。衛生を妨げ或は酷虐に過ぎしめずして、人道を重ぜしむべし。(四)管理員は情形を斟酌し犯人を室外に出し運動せしむるを得。但し多くとも三日に一回、毎回三十分を過ぐるを得ず。(五)看守所の管理に關しては應に日記一册を備へ、毎回管理員より室内の犯人額數につき當日の經過情形を逐一登記すべし。(六)看守

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

所の犯人若し疾病あらば、當番員より軍警處に通知し委員を派して療治せしめ、其の情重きものは報告して移出す。（七）當番員は看守所内に應に改良すべき事項あらば、須く隨時に呈請辦理すべし。當番員は看守所の事務を察看する外、仍ほ常の如く辦公す。第七條　當細則は呈奉核准の日より施行す。（二月八日—新聞報梧州通信）

□民國十五年中支那戰紀

緒言摘要

本篇戰紀は一年中の戰局の形勢に依り釐して六編と爲す。綱領左の如し。

一、京津の役　奉天軍入關し、山東軍と會同し、前後に天津・北京を占領せるより起り、國民軍退いて南口に至るまで。

二、南口の役　奉天・山東・江蘇各軍が南口を會攻し及び晉軍が大同豐鎭を攻むるより起り、國民軍が退いて包頭一帶に至るまで。

三、武岳の役　趙恒惕が湖南を去り、唐生智南軍に投じ、及び葉開鑫の唐を仆し、唐の復た葉を逐ふより起り、粵軍が唐を援け岳州及武陽夏口を占領するに至るまで。

四、南潯の役　孫傳芳軍の援贛より起り、九江・南昌の守を失ひ、奉天・山東軍の南下に至るまで。

五、豫陝の役　劉鎭華軍の援陝より起り、退いて潼關を出で、戰線移りて豫西に至るまで。

六、閩浙の役　粵軍が閩（福建）を侵せしより起り、福州守を失ひ、及び夏超獨立し、江西の南軍が浙江に入るまで。

以上六編により大略去年一歳中の戰局を包括すべし。噫乎玄黃反覆し幾たびか滄桑を經、凡そ此の戰局皆中央局面と一々相關の勢あり。而して南風北に漸し中原震動するは尤も十餘年來戰局の新紀元を開けるなり。

一、京津の役

前年郭松齡戈を倒にせるの戰には、歳終の時に至り郭軍已に潰敗すと雖も、しかも魏益三所部猶ほ渝灤一帶に駐り、唐之道所部又灤に赴きて魏を援けたり。此れ皆反奉天の旗幟を標せるものなり。孫岳已に天津を占有すと雖も、しかも山東の德州一帶には張宗昌・李景林の直魯聯軍ありて正に國民第二第三の兩軍と相持し、奉安附近の戰には李紀才の國民第二軍漸く不利に陷り節々に後退したり。凡そ此等は皆京津戰役の先歩たるなり。

郭松齡が奉天を攻め李紀才が山東を攻むる時に當り、奉天軍山東軍は皆防禦の地位に立てり。郭死し李敗るゝに及び、奉天軍山東軍の形勢は一變して均しく進攻の地位に立ち、奉天軍は榆關に向ひて下り山東軍は德州よりして上り、以て師を天津に會し一氣聯接せん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

こことを期す。故に天津遂に漸く戰事の要衝と爲れり。此の時國民軍の勢力は已に展びて天津に至ると雖も首領馮玉祥は各方面が國民軍に對する人氣の不良なると、部下温和劇烈兩派主張の同じからざるとに鑒み、忽ち下野の通電を發し馳せて平地泉に赴き聲言すらく、國を出でゝ遊歴すべければ、張之江より西北邊防督辦の任を繼ぎ及び國民軍總司令を代理せしめ、李鳴鐘は甘肅軍務督辦の任を繼がしむと。（其後甘肅局面は前後蔣鴻遇・劉郁芬より主持したれば李は未だ赴任せず）此際孫岳援を乞ふの電頻りなるも、馮派中張之江は愼重を主とし、鹿鍾麟は馳掃を主とし李鳴鐘は兩可の間に在り。時に北京・天津間には已に漸く戰話起る。これを一月初旬内の事とす。

漢口なる吳佩孚は此の時靳雲鶚が山東・江蘇・湖北三省間に奔走盡力せる結果、山東の張宗昌と已に漸く妥協し、さきの所謂反奉天の旗幟を早くも無形に取消し、更に張宗昌の關係に因つて直・奉兩系大規模の合作を計畫し、吳・張（作霖）妥協の談判を進行せしむ。これによりて吳軍が國民軍に反對し河南を攻むるの聲漸く高きを見る。

田維勤・陳文釗・王爲蔚の各部はもと吳佩孚の舊部なり。國民第二軍が河南の地盤を擁有せるの時に當り、田等は皆勢力保存の爲め岳維峻と委蛇して遂に準國民第二軍と成れり。李紀才の山東を攻むるに當り、もと田・陳各部を後援と爲しけるが、陳はもと舊第十四師にて靳雲鶚の嫡系部曲なれば、直・奉提携の實行さるゝや靳乃ち機に乘じて陳・田各部を收めて已が用と爲し、陳・田乃ち直に山東軍を助けて李紀才の後方を抄襲し李部遂に兗州一帶に潰散してもはや軍を成さゞりき。尤も李雲龍が直に衆を率ゐて來り援けたるも、已に潰えたる後なれば奈何ともする能はざりき。且つ岳維峻は湖北軍が河南を攻むるの聲日に高く、豫南の防務日に益々緊急なるに因り維持保全に遑あらず、何の暇ありてか山東を攻むるを得ん。卽ち陳・田・王の舊直軍たるに對し亦たゞ其の自由行動に一任するのみ。故に靳雲鶚は從容として舊部を收回するを得て暫時兗州に駐れり。

一月十九日に至り、奉天軍は山海關を恢復し、大部軍隊は勝に乘じて西進し、又秦皇島を占領し反國民軍の各軍聲勢亦大に振ひ、津浦線上の直魯聯軍は奉天軍に接援せん爲め北攻尤も急なり。二十日夕吳佩孚亦正式攻豫の命を下し。寇英傑を以て第一軍と爲し、孫建業・宋大霈・賈萬興の各部を率ゐ京漢路より北進して武勝關を取り、靳雲鶚を以て第二軍とし田維勤・王爲蔚・陳文釗・馬吉第・郭振才各部を率ゐ隴海路より西進して直に開封を取らしむ。然るに靳軍の河南に入るには必ず道を徐州に假るを要し正に江蘇の孫傳芳と協商中なれば、武勝關の一路より先づ兵を進むることゝしたり。寇英傑はもと廣水以北に駐り居たれば刄に血ぬらずして武勝關を得、直ちに柳林にせまり將に信陽に至らんとす。國民第二軍の守將は蔣世傑なりけるが、彼は竟に城を枕に死戰しければ、吳軍の北進部隊はこれに妨げられ遂に長驅北向する能はざりき。

延いて二月初旬に至り奉天軍西進して關内の灤東・昌黎の一帶に

至り、直晉聯軍は北進して安陵・東光に至り、將に滄縣を攻取せんとす。晉南の吳軍靳雲鶚部已に豫東攻入を開始し、豫南の吳軍亦信陽停車場を越えて明港を占領す。（時に尙また信陽城に克つ能はざりき）國民軍環境の形勢益々惡しく北京・天津の風雲亦之によりて日に迫る。この時津浦北段線に在りし國民第二軍は河南形勢の緊迫せるが爲めに頻りに呼び返され北段戰線の主力部隊は國民第三軍徐永昌部となる。同部はもと勁旅に非ず。是に於て國民第一軍は北の方灤河沿岸に在りて奉天軍を抵禦し、南の方楊柳靑一帶に在りて國民第三軍の聲援を爲しつゝ、漸く奔命に疲れ兵力足らざるの勢を呈せり。靳雲鶚部は二月十八日に歸德を占領し、同時に虞城・夏邑・考城・睢縣・蘭封は前後に靳部各師旅の攻め敗る所と爲る。二十一日直晉聯軍又滄縣を占領し、別に一部の奉天軍は湯玉麟に統率せられ、錦朝路に沿ひて西進し、熱河都統宋哲元部の國民第一軍と砲火相見ゆるに至れり。蓋し奉天軍は京奉路により正面京師を攻取するを除く外別に支隊を以て熱河を取りて北京の背を拊たんとするなり。

此の時に當り國民軍の勢力の支配を受けつゝある段政府は頹勢を挽回せんがためとて、二月二十二日に正式に吳佩孚討伐の命を發表せり。其時恰も湖北督軍蕭耀南逝世したれば同日命を下して盧金山を以て湖北督辦とし、劉佐龍を湖北省長とし、盧・劉をして湖北の變動を消止めしめ、同時に岳維峻・李雲龍に命じ會同して進剿を圖らしむ。然るに此等の關門を出でゝは效力なき命令は殆ど零に等しきのみ。但し段氏は執政府が奉天及國民の兩派合作の上に出生せる關係上、國民軍の要求せる李紀才督晉の命令、張作霖罷免令及郭松齡督奉の命令に對し、前には力めて許可を與へざりき。而して今吳佩孚討伐の命を下せるも仍ほ一字だも奉・晉各軍には及ばざりき。討吳令下りて後、吳佩孚亦命を下し陳嘉謨を以て湖北督辦とし杜錫鈞を湖北省長としたり。盧・劉共に吳の勢力範圍内に在りければ、自ら進んで段の命令を受けざりしも、他日劉佐龍が戈を倒にして南方に投歸せし伏線は已に玆に藏せりと見るべし。

二月二十二日直晉聯軍興濟を占め、二十三日靑縣に克ち、二十五日頻りに馬廠唐官屯を獲進んで靜海にせまり、天津の形勢益々危急に趨く。國民第一軍の鹿鐘麟はもと京師の警衞總司令に任ぜしが、玆に至り任を離れ天津に赴きて戰を督し、其の職務は未だ赴任せざる甘肅督辦李鳴鐘に渡して代理せしむ。而して直晉聯軍は天津を夾攻する計を立て且つ膠澳艦隊をして水道よりして大沽を攻めしめ、張作霖は亦奉天軍に電命し全力を以て灤縣を攻擊し、以て直晉聯軍と師を天津に會するに便せしむ。是時に當り靳雲鶚の所部は已に蘭封より東進して開封を克占し岳維峻は退いて鄭州を保つ。而してさきに河南の西方に在りて活動せる劉鎭華部は亦張治公に率ゐられ進んで洛陽を占領し、鄭州は兩面に敵を受け、岳部遂に一部分は戈を倒にするに至り、靳雲鶚三月二日に鄭州に入る。岳維峻の殘部退いて河北・彰德・衞輝の一帶に至り、岳氏自身の行衞不明となれるも、李雲

龍は退いて河南の西部に至り、轉戰して陝西に返れり。されば河南を定めたる功を論ずれば靳雲鶚實に其の首功に居ると謂ふべし。寇英傑は久しく信陽城を攻めしも下らず、論者は師を老いしめ餉を糜したるものと爲せるに、吳佩孚は以爲へらく兵を起して湖北に入りしは寇が先にして靳は後なりと。乃ちつゐに河南督辦の位置を寇に與へたり。此の功賞の未だ相當らざるが爲め吳・靳の間に漸く意見を異にするあり。此れ卽ち後日種々の謠言の由りて來る所以なり。

直隸・河南兩省の大勢旣に此の極に至りたれば今まで徘徊觀望しつゝありし晉軍は此の時亦奮然として起ち、奉天軍入關の始に當り、魏益三軍已に陸續として退いて正定一帶に至る。晉軍は正太路より兵を出し、石家莊を占領し進んで正定に至り、魏軍とやゝ接觸あり。魏軍軟化し退いて保定に駐る。而して閻錫山の國民軍に快からざる所以は、實に國民第二軍に附隸せる樊鐘秀部が曾て一度晉(山西)を攻めたるに由れり。故に其の兵を京漢路に出すの標示は仍ほ樊軍の再び晉を圖るを防ぎ、或は國民第二軍の潰兵が晉に入るを防がんとすといふに在りき。

三月下旬國民軍は京奉・津浦の兩鐵路線上に在りては皆守るべきの險なきを以て總退却令を下せり。直魯聯軍二十二日に天津に入り、奉天軍は沿途の鐵路皆毀拆せられあるに因り進行やゝ遲し。而して灤台塘沽の一帶にも國民軍は次第に退却したれば、張學良は入關奉天軍の總司令と爲り、(卽ち第三第四方面聯合軍團長)二十四日部を率ゐて進んで塘沽に到著す。この日直魯聯軍張宗昌・李景林は已に先づ天津に到著し、二十五日張學良亦こゝに到著す。是に於て天津の戰は遂に解決され、戰線西に移りて京津道上に集中せり。

直魯各軍が天津を夾攻する時に當り、吳軍は早に河を渡りて北上し、仍ほ京漢線に沿ひて進み、魏益三軍は吳軍と合作せんことを表示せり。靳部田維勤部は晉軍方面が道を假すの諒解を許せるに依り、直ちに定縣より北進し、晉軍の商震部も同時に進攻せり。たゞ保定は旣に魏軍の守る所なれば未だ激戰を經ず。靳・商兩部は遂に二十五日師を保定に會し、京漢線北段の戰事はこゝに至り略ぼ一小結束を爲せり。

京津間の戰局は三月二十六日に開始さる。國民軍が天津を退出せる時に當り北倉楊村は一律に放棄せらる。故に直魯聯軍は鐵道に沿ひて追擊せるも、奉天軍は其の大部隊未だ天津に到らず。卽ち三河寶坻一帶より進んで通縣を攻め側面の威脅を爲さんと決定したり。開戰以後は戰事異常に激烈にして黃村・安定等の處は双方屢々得失あり。京城の中、夜に入れば遙に歷々たる砲聲を聞き、銃聲亦絕えず。其の時元老王士珍・趙爾巽等ありて和平の斡旋を爲しつゝありしも未だ效を奏せず。張作霖は四月の初旬に一度入關せんとて秦皇島にて將領會議を召集開會して軍略の策畫を爲し、四月九日には戰局尙ほ双方相持するの中に在り。而して京師を防守せる國民軍の將領鹿鍾麟は忽ちクーデターを行ひて段祺瑞を走らし、執政府を推倒す。

其の時の內閣總理顏惠慶亦段氏と俱に退かんとの意を表示し、北京は殆ど無政府狀態となり、僅に胡惟德ありて外交局面を維持しつゝ靜に戰事の解決を俟つのみ。

四月十五日奉天軍は通州に克ち又一路直進して南苑營房を占め、直魯聯軍亦激戰を交へ、近畿一帶は田廬邱墟に變じ戰壞蔓延せり。之を民國九年直皖安徽の役に視れば尤も甚しきものありき。

二、南口の役

京師收復の後奉天聯軍の將領張學良・張宗昌・李景林も皆北京に入る。吳佩孚は援湘軍事方に急なるが爲め北上する能はず、乃ち齊燮元を派し入京議政全權代表と爲せり。京師の軍警權は先づ晉軍の王檢鳴より臨時警備司令に任じて之を統轄せしが、後吳氏の推薦せる王懷慶に渡し直系時代の衞戍總司令を恢復せり。其の時熱河の奉天軍韓玉麟部亦已に宋哲元部を擊破して熱河區を收復し、最後に奉天聯軍吳俊陞及山西代表と商議の結果、路を四路に分ちて國民軍を進擊し進んで南口を攻むることゝしたり。

第一路　奉天軍第三第四方面軍より各軍團を合せ直魯聯軍と會同し京綏線に沿ひ沙河昌平よりして南口の正面を攻めしむ。

第二路　吳軍田維勤等の部にして懷來より南口の背面を包抄せしめ、南口と張垣との間の聯絡を截斷せしむ。

第三路　晉軍主として京綏路線に沿ひて大同豐鎭に出で張垣の背を攻め、並に察・綏間の聯絡を截斷せしむ。

第四路　湯玉麟部奉天軍は多倫大壩より直ちに張家口を取らしむ。（後吳俊陞より黑龍江省遊擊軍を組織せり）

以上各路の中、各軍は地勢の便利に因り、又各自に路を分ち、張垣南口を一大包圍の中に入るゝ形勢を取らしむ。かくて四月下旬より五月下旬に至るまで一箇月餘の間各路共屢々戰爭ありと雖も皆局部の接觸のみにて何の進展をも見ず。而して靳雲鶚は保定に駐れるも吳軍の進攻に對しては頗る積極的指揮を爲さず。故に往々道路に訛言の流傳せらるゝを見る。五月三十一日に及び吳佩孚北上して保定に到るや突然軍令を下し靳の討賊聯軍副司令及第一軍總司令の職を罷免し、並に所部各軍に命じ積極的に進攻せしむ。同時に張作霖亦急に關內に入り六月六日天津に到着す。張・吳双方の代表は乃ち天津にて先づ豫備會議を開き、張・吳北京に入つて會見するの一切の事宜を籌備せり。

延いて六月二十六日に到り、張作霖先づ北京に入り、二十八日、吳佩孚亦保定よりして至り、張・吳二氏は京都に面晤し、吳氏は一日だけ逗留したるのみにて直に北京を離れ門頭溝一帶に赴きて所部を檢閱し、張氏亦二十九日に天津に歸れり。張・吳二氏親しく打合せの結果、南口の攻擊戰は遂に熱烈なる域に逾き、七月一箇月の內に各路の軍或は戰ひ或は停止しなどしたるも、國民軍が全部の力を一區に集め、且つ南口の防禦工事に對するの籌備素地あるが爲め非常の堅固を示せり。故に奉天聯軍及吳軍は力を極めて之を圍攻するも仍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ほ未だ勝を得ざりき。

八月の初、田維勤部の陳鼎甲旅及買・馬兩團が前後に叛變し、懷來一線の軍事進行上に更に影響を生ずるに至れり。

八月十四日奉天聯軍始めて南口を克復し、十六日、吳軍の田部亦懷來を收復し、其他吳軍の馬吉第部は涿鹿に入り、魏益三部は蔚縣に至り、奉天聯軍は鐵道線に沿ひて張家口に進攻し、熱河方面の遠征軍亦沽源を收復し、張家口城に赴きて師を會するの準備を爲しぬ。

八月十九日奉天軍先づ張家口に至りたれば、國民軍は平地泉に向ひ退却せり。二十一日晋(山西)軍亦大同より進んで豐鎮に克ちたり。所謂豐鎮は平地泉の屏蔽なり。國民軍は既に此の豐鎮を失ひたれば遂に平地泉も保存し守るに法なく、二十六日には晋軍平地泉に克ちければ、國民軍乃ち綏遠に向ひて退却せり。奉天聯軍と吳軍とは西北方面追擊の責を以て晋軍の獨力擔任せんことを請ふに至れり。國民軍の大部は退いて包頭・五原・寧夏の一帶に至り、甘肅に駐れる國民軍と聯合し、其一部は綏遠薩拉齊の間に留駐し、晋軍商震の收編に歸するものあり。此に至り奉天聯軍・吳軍・晋軍が協同して國民軍と戰ふの局は乃ち一大段落を告げたり。是時長江流域には久しく已に戰雲の彌漫せるあり、戰爭の重心は北方より南方に移れり。

北部戰局の結果、地盤の分配に關する狀況は(國民軍の手より奪ひ得たるものに限り、其原有の地盤は此の例に在らず)下の如し。

京兆は	李垣の地盤とす	奉天系
直隸は	褚玉璞の地盤とす	奉天系
河南は	寇英傑の地盤とす	奉天系
熱河は	湯玉麟の地盤とす	奉天系
察哈爾は	高維嶽の地盤とす	奉天系
綏遠は	商震の地盤とす	晋軍系

（未完）（昭和二年一月—順天付報）

□浙江省の交通（上）

電信

支那最初の電信局は天津に建設せられたもので、之に亞いで南北支那に諸局が建設せられた。一八八二年某外國事業會社が上海より浙江・福建兩省に至る電線架設の特權を得んとしたが、之に制裁されて省當局は同年、浙江・福建・廣東の沿海諸省に電信系統を設置すべき勅許を得、架設工事は直に開始せられて翌年完成せられた。

浙江の省都杭州の電信局は福建・浙江電信行政の監督の下に板兒巷に置かれた。最初は事業狀態良好でなく、管理の援助を私立商社に求むるに至つた。然し經費を節減し、同通信の民衆化を奬勵すべく諸種の手段を採用した爲め、浙江省の電信行政は其後には頗る支相

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

買ふやうになつた。

一九〇二年清國は再び其管理を商人より讓受し、同局は城隍巷に移轉した。爾後北京に郵傳部（郵便鐵道部の意）が組織され、浙江電信行政の監督は該新機關に移された。之が今日の交通部である。然し近年同部は、浙江省の電信行政に名義ばかりの監督をなすに過ぎないで、地方管理者は半獨立の狀態にある省當局の命に從ふやうに強制されてゐる。

浙江省には爾來四〇年以上電信業が設置せられてゐる。杭州の電信局を嚆矢とし、漸次寧波、紹興及び溫州に擴張し、遂に現今では全省に四〇以上の諸等級の局が出現するに至つたが、之等の局を下に表示して見やう。

一等局　杭州

二等局　紹興・寧波・溫州

三等局　嘉興・湖州・平湖・乍浦・台州・永康・江山・奉化・武義・金華・三橋埠・長安・南潯・建德・桐鄉・海門・浦江・常山・曹娥・嵊縣・黃巖・嘉善・寧海・德清・縉雲・蕭山・諸曁・餘姚・鎭海・麗水・蘭谿・衢州・慈谿・泗安・長興・龍山鎭

上記の局の他

江干・拱宸橋・臨平（以上杭州縣）・溫嶺・樂清・龍游・淳安

には支局があり、湖州縣の避暑地莫干山には、內外人避暑客の便宜を圖り、一時的電信局が毎夏設置せられてゐる。

電信料は全國一定である。通常商業用通信（一般に第四種）は、省內間は一語六仙、他省間は一二仙を課してゐる。第三種電報は上記料金の三倍で、省內間は一語一八仙、他省間は三六仙である。又局間通信は第二種とし、政府の重要なる公電は第一種として第四種の一・五倍の料金を以て發信される、卽ち一省內は一語三仙、省間は六仙である。

營業上より見れば、杭州・寧波は省內で最も繁昌し、溫州は第二、紹興は第三位にある。三等局は殆んど縣下の諸市街に位置し、全體として財政狀態良好でなく、月出經費の三割又は四割は杭州局よりの補助金で埋合せてゐる。

鐵道

滬杭甬鐵道 (Shanghai-Hangchow-Ningpo Railway) 中、杭州—嘉興及び杭州—寧波間の部分が浙江省に屬し、前區は杭州より嘉興の楓涇に、後區は杭州より寧波に及んでゐる。楓涇は江蘇—浙江省界上の街で、楓涇及び上海間の區間は通常上海—嘉興區として知られてゐる。以上の三區が結合して滬杭甬鐵道をなしてゐる。該線はもと蘇杭甬鐵路と呼ばれ、全線建設の爲め盛宣懷に依つて英國及び支那公司と暫行契約が締結せられた。然し、一九〇五年江蘇・浙江兩省の人民が競つて其建設を獨占しやうとした結果、其布設は久しく遲延してゐたが、間もなく兩省民間に數百萬元の募集があり、踏查作業は直ちに江墅線（江干—湖墅間）に開始された。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

江蘇・浙江兩省民の希望に應じ、政府は一九〇八年二月十四日に滬杭甬鐵道借款契約を締結したが、其明細額は一、五〇〇、〇〇〇磅で該線は省關係となる筈であつた。

踏査を終了し、江墅線は一九〇六年、杭州―嘉興線は一九〇七年に建設工事を開始し、一九〇九年に竣成した。同年四月上海―嘉興線の布設も亦完成し、上海・杭州間の鐵道輸送が開始せられた。杭州―嘉興線は延長二五九支里、杭州の淸泰門及び楓涇間に一三の停車場を有し、三、六二九、七四三元の建設費を要した。閘口―拱宸橋線は延長六六支里、一、六八六、一九〇元を費失した。

杭州―寧波線は、杭州の江干より錢塘江を渡り紹興迄、及び紹興より寧波迄の間に着手し、其建設は一九一〇年の冬に寧波終點より開始せられた。同線は一九一二年の冬には洪塘迄布設せられ、一九一三年十二月には曹娥河の東岸に達した。この部分の線を滬杭甬鐵道の寧波―曹娥線と稱して計一三驛を有し、二一一½支里に跨り、三、五七九、五七二元を費消した。該線上にて寧波より鎭海縣の孔浦に至る支線も亦建設せられてゐる。

曹娥河西岸より走つて紹興を通過し杭州に達する線は、一般に錢塘―曹娥線として知られ、寧波―曹娥線と曹娥河を以て劃離されてゐるので、全線連絡の爲め同河上に鐵橋を架設しなければならなかつた。寧波―曹娥線竣成の後、鐵道公司は錢塘―曹娥線の調査を開始し、同時に倫敦會社と契約し、同河上の架橋を三一八、〇〇〇兩で十六箇月間に竣功することゝした。間もなく布設工事に着手したが、突如政府が滬杭甬鐵道の國有を宣言したので、錢塘―曹娥線の布設工事は曹娥河上の架橋と共に杜絶せられた。

爾後引續き何等の進捗も示さず、急速同線を建設し、曹娥河上に渡河輸送をなしやうとする鐵道公司の計畫は、今尙行はれないでゐる。

滬杭甬鐵道は一九一四―一五年間に國有とせられ、民間より投資した資金は政府が之を賦金にて返濟することゝなり、其爲め所謂鐵道株淸算局(Railway Share Liquidation Bureau)なるものが杭州市内衆木巷に建設せられた。最初の小額は現金で支拂はれたが、一九一六年以降は中國銀行及び交通銀行の當時價格下落しゐたる銀行券でなすに至つた。最終賦金は今尙支拂はれてゐないで、名ばかりの淸算局は未だ現存してゐる。

電話

電話は、淸朝時代浙江鐵道公司に依りて浙江省城杭州に先づ設置せられたが、後に至つて省政府が之を讓受し官業とした。當時政府の持分は僅かに五〇、〇〇〇元であつて、商人及び住民間の加入者は極少數に過ぎず、系統は單線のみよりなつてゐた。後に至つて此他の商人も、新資本として更に五〇、〇〇〇元を募集し、以て同事業に參加するの許可を當局より得るに至り、當時の郵傳部に正式に登記して複線を架設した。共和政體となるに及び、杭州の電話行政は純商業的事業とされ、其資本を二〇〇、〇〇〇元に增大した。爾後同

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事業は西部浙江の一層繁榮せる諸縣の大市町、即ち海寧・長安・硤石・嘉興・嘉善平湖・海鹽・湖州（吳興）及び南潯に擴張された。然し東部浙江に於ては、電話通信系統は、一九二一年に至つて紹興、寧波及び定海諸縣に先づ設置せられたもので、現今台州・温州及び西部浙江・餘姚に擴張の計畫中である。今日迄に電話通信系統は西部浙江八、九縣に行はれてをり、電話線は郊外の諸町村に通じてゐるが、東部浙江には斯の如く廣くは設備されてゐない。

浙江省に設置されてゐる電話機の殆んどは固定電話（Wall set）で、卓上電話（Desk set）は二、三%しかない。歐洲大戰前は電話機は殆んど獨逸物であつたが、戰後は佛蘭西・瑞西・英國・米國・日本製品が普通に使用せられて來た。電線は一般に日本物である。

加入料金は省內各地で異つてゐるが、商家の電話料月額は私宅の使用料よりも通常一元程高價である。平湖・海鹽にては私宅用は月額三元で、商家用は四元である。嘉興・硤石及び紹興では夫々四元及び五元であり、寧波にては四・五元及び五・五元、杭州に於ては五元及び六元である。

之等諸都市の電話通信系統の他、現今省當局に依つて省內主要諸都市間に架設された又は架設中の長距離電話がある。

浙江省內に長距離電話を一般に擴張することは、孫傳芳氏の命に依り浙江・福建・江蘇・安徽・江西の五省を一系統に結合せんとする計畫の一部である。右計畫に依り、省關係當局は、之等諸省電信監督官憲と連絡して、一歩一歩同作業を着手するであらう。先づ、現存電信通信では軍用・公用・商用の必要を充たすに足らないと思はれる地方間に電話を連絡し、次には未だ電信通信なき主要諸市町間にかかり、最後に次記の如き上記五省內の主要地點全部に電話線が架通し、一般交話が建設される筈である。

杭州・湖州・衢州・（以上浙江省）福州・順昌・連城・同安、（以上福建省）上海・南京・淸江浦・徐州、（江蘇省）安慶・蚌埠・太平、（安徽省）南昌・吉安・贛州（江西省）

長距離電話の架設費は、上記五省の電信經營の餘剩收入を以て之に充て、不足額は省廳金庫より補はれる筈である。之等諸省の電信監督諸官は、同時に長距離電話の一般管理をも兼任し、電信線の存する地方は新規に電柱を樹てることなく、既設電柱を共傭電話線架設に併用する。尙地方の電信局々長は各自地方の長距離電話通信事務管理を命ぜられた。西部浙江にて現今長距離電話通信の架通してゐる箇所次記の如くである。

杭州・長安・崇德・石門灣・桐鄉・嘉興・王江涇・王店・硤石・新塍・海鹽平湖・乍浦・嘉善・干窰・楓涇・西塘・烏鎭・南潯・德淸・新市・雙林・菁館・織里・菱湖・袁家滙・荻港・長超・湖州・虹星橋・林城橋・長興・泗安・梅溪・安吉

東部浙江に於ては杭州より江干・蕭山・紹興・曹娥・寧波の方向に、又一方には江蘇省の松江、盛澤に擴張された。松江―上海間の長距

離電話架設も進行中であるし、遠からず上海は杭州と通話し得ることゝ思はれる。

浙江省に現今設備されてゐる長距離電話は、民間特に實業家に頗る人氣を呼んでゐる。最長距離で一通話五分とし其料金は一・二〇元を出ない。此他電話より離れてゐる受信者に通知する爲め「通知費」を課し、官有電線の未だ擴張されてゐない市街の電話と連結する料金として「過線費」が課せられる。次揭は浙江省內各地の私立電話公司表である。

公司名	位置	支配人	備考
杭州商辦電話公司	杭州市華光巷、湖墅に支局を有す	王祖耀	南方には江山と、北方には湖墅・拱宸橋と連結す
寧長電話公司	海寧縣・長安	朱莘夫	郭店・諸橋・楓樹廟・斜橋と連結す
硤石達利電話公司	海寧縣・硤石	除光溥	伊橋・馬橋・路仲・丁橋・慶雲橋・新倉・袁化と連結す
中興電話公司	嘉興市城內北門大街	王莵韵	濮院・新塍・九里滙・塘滙・油車及び江蘇省の南滙・盛澤に連結す。
海鹽電話公司	海鹽市	朱理記	歟城・澉墉・通元・沈蕩及び百步亭と連通す。
永通電話公司	平湖市縣前小街	胡謹裕	乍浦・Sintsang・牙前・全公亭・廣陳・新埭・Painayen・金四
吳興商辦電話公司	湖州市	王莵韵	娠橋と連通す
南潯電話公司	湖州縣・南潯	劉安仁	
嘉善電話公司	嘉善市城內東門大街	孫家驥	Kisyao・西塘と連通す
四明商辦電話公司	寧波市	蔡珪爵	白龍鎭・黃古林と連結す
紹興商辦電話公司	紹興市	馬祖厚	
定海電話公司	定海市南門外	馬學功	

（未完）（Chinese Economic Journal, Vol. I, No. 1, Jan., '27.）

□北京に於ける人力車夫生活の研究（下）

車夫毎日の平均收入は、計銅元百三十二枚なれども、車の賃借費三十一枚を支拂へば、純收入は百一枚乃至百十枚にして、此百十枚中

より食費六十枚を除去す。若し車を賃貸する公司或は小飲食店に在れば、少くとも此額を要すべく、若し家庭に在りて食事すれば、銅元約二十七枚を要すべし。上述の事項を列記すれば、十及び十一表の如し。

第十表

每日の食費（單位銅元）	此銅元を以て外に在りて食ふ車夫	每日の食費（單位銅元）	此銅元を以て外に在りて食ふ車夫
三十枚	八人	八十枚	四一人
四十枚	四八人	九十枚	六人
五十枚	八九人	百枚	一二人
六十枚	一五三人	總計	四四一人
七十枚	八四人		

第十一表

一車夫家中每人の要する食費	車夫一千人中の人數	一車夫家中每人の要する食費	車夫一千人中の人數	一車夫家中每人の要する食費	車夫一千人中の人數
元 一・五〇	二	元 二・三〇	一七	三・〇〇	一五一
一・六〇	二	二・四〇	一二	三・一〇	三
一・七〇	九	二・五〇	五七	三・二〇	二三
一・八〇	七	二・六〇	九	三・三〇	四五
二・〇〇	三八	二・七〇	二九	三・四〇	三
二・一〇	四	二・八〇	二一	三・五〇	一七
二・二〇	一一	二・九〇	四	三・六〇	四
				三・七〇	七
				三・八〇	一
				四・〇〇	三三
				四・二〇	三
				四・三〇	二
				四・四〇	一
				四・五〇	四
				四・六〇	一
				五・〇〇	一四
				無統計	二五
				總計	五五九

惟ふに第十表の平均は約銅元六十枚半なれども、家庭に於いて食事を取るものは、平均約二元九角四分なるを以て、市上の兌換率にて換算すれば、一箇月銅元八百二十三枚となり、或は每日銅元二七・四四枚となるべし。但し第十一表より之れを觀れば、此中には稍や誤謬あるを免れざるもの〻如し。然らざれば、何ぞ人數の最も多きもの、二元・二元五角・三元・四元及び五元となり、而して一角の上下にあらず、懸隔の殊に此の如きは寧ろ怪しまざるべけんや。

第十二表

食事に關する費消	此情態を共にする者	食事に關する費消	此情態を共にする者
一—一・五元	二人	二・六—三元	二一四人
一・六—二元	五六人	三・一—三・五元	九一人
二・一—二・五元	一〇一人	三・六—四元	四五人

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

四・一—四・五元	一〇人	無統計者	二五人
四・六—五元	一五人	總計	五五九人

上表の分類は其差比較的小なり。車夫の家庭に在りて食事するものは、其價極めて低廉にして、家庭外に在りて食ふものと之れを比較すれば、半減すべし。車夫の家中に於ける其餘の人は、車夫の如く終日勞働に從事するものにあらざれば、其食ふ食事も必ずしも車夫の如く多からず、卽ち其費消も亦比較的省略せらるべく、故に平均車夫家中每人の食費は、車夫の夫れに比して小額なるべし。然れども、調査し得たる此種の說法は、必ずしも盡く眞にして確實なりと云ふを得ず、四百四十一種の情態中、車夫は悉く家庭外に於いて食事し、而かも家中每人の食費は、卽ち一箇月三元を要するにより、其費用は第十二表と正に同樣なり。（中國の家庭は父母姉妹兄弟妻子女を抱括するを以て、未婚の車夫も亦卽ち家庭を有す。）下表は車夫の家庭外に於いて食事する時、家中每人の一箇月に要する食費なり。

食事に關する費消	此情態を共にする者	食事に關する費消	此情態を共にする者
一・六—二元	六二	三・一—三・五元	四二
二・一—二・五元	七四	三・六—四元	二八
二・六—三元	一一八	四・一—四・六元	〇

四・六—五元	五	無統計者	四七
家無き者	六五	總計	四四一

上表に從ひなば、家庭に在りて食事する者の其價格の低廉なる原因は、家人の消費減少せるにあらずして、實に自ら炊事を行ふ時、比較的省略せらるる事を證明すべし。家庭に於ける炊事は、各處に亘り節約せらるるを以て、極めて經濟的にして、小飲食店に於けるが如く、費消の甚大なるものにあらざるなり。

車夫の衣服は、多く古着屋より購入せられ、大半は古着なれども、時に或は家人の織りたる土布を以て製せらるる事あり。第十四表中、百分の六十は、每年の衣服費年五元に達せず（鞋は此内に含まず）、百分の九十は十元にして、人數の最も多きは三元なれども、平均數は約五・五四元なり。而して二數の差の此くの如く甚大なる原因は、卽ち多數は三元以上なるが爲めなり。尙十元以上にて多數なるは、十元・十二元及び二十元なりとす。

第十四表

每年の衣服費	車夫の人數	每年の衣服費	車夫の人數
一元	八	四元	一八二
二元	九一	五元	一四八
三元	一九〇	六元	一一五

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

七元	五六	一六元	三
八元	五六	一七元	二
九元	六	一八元	二
一〇元	六三	二〇元	一七
一一元	一	二二元	一
一二元	一六	二五元	一
一三元	一	三〇元	二
一四元	三	無統計者	二八
一五元	八	總計	一、〇〇〇

衣服に關する費用	此情態を共にする者	衣服に關する費用	此情態を共にする者
一—五元	六一九	二一—二五元	二
六—一〇元	二九六	二六—三〇元	二
一一—一五元	二九	無統計者	二八
一六—二〇元	二四	總計	一、〇〇〇

平均各一車夫の衣服費は、一箇年五•五四元なれば、一日は即ち銅元四•二五枚にして、鞋費は毎年二•七四元或は一日銅元二•一枚なるを以て、總計するも衣服鞋用費は、銅元七•五枚に足らざるなり。詳細なる鞋費を列記すれば左表の如し。

每年の鞋費	此情態を共にする者	每年の鞋費	此情態を共にする者
一元	三〇	一•五元	六八
二元	二七四	六元	三〇
二•五元	一〇四	七元	九
三元	二七七	八元	五
三•五元	一二	無統計	二一
四元	一一九	總計	一、〇〇〇
五元	五一		

車夫家人の衣服費は、平均十元八角二分にして、最少なるものは一元、最も多きものは七十元なれども、毎人に之れを按分すれば、計三元三角なり。此數は車夫自ら用ふる費用に比して小なれども、車夫は櫛風沐雨、嚴冬に勞働するものなれば、比較的厚き棉衣を用ひ、以て防寒せざるを得ず、從ひて其費用は自から比較的多かるべきなり。一千人の車夫中、六百二十三人は家庭に宿ると雖、間代を支拂ふものは百人に過ぎず、九十四軒は每軒一間にして、兩軒は各軒一間半、一軒は室二間を占め、其餘の三軒に對する統計は即ち不詳なり。間代は三角乃至二元半にして、平均一元一角なり。

第十七表

房屋に關する費用	此情態を共にする者	房屋に關する費用	此情態を共にする者
一角乃至五角	三	一元六角乃至二元	八
六角乃至一元	五四	二元一角乃至二元五角	二
一元一角乃至一元半	三二	無統計者	一

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

總計	一、〇〇

外に寄宿する三百七十人中、三十人は或は親友の家に居住し、或は共同して一間を借用す。室の借代は毎月銅元六十枚乃至百八十枚、或は毎日銅元二枚乃至六枚なり。其餘の三百四十七人は、即ち車置場內に住み、二百十五人は即ち間借の費用無きものにして、車置場の其車の貸賃を增し、而して車夫の宿泊費を取らざるによれり。別に間代を收取するものは、一箇月銅元三十枚乃至百八十枚にして、平均銅元九十枚なり。親友の家庭に寄居する者の間代は、約銅元百四枚にして、若し日々に之れを計算すれば、每人の間代は銅元三枚乃至三枚半さなり、一軒の計銅元一〇•二六枚なり。

第十八表

車置場每月收入の間代	此情態を共にする者
別に間代を取らざるもの	二一五
銅元三十枚	七
銅元六十枚	三三
銅元九十枚	四四
銅元百二十枚	三六
銅元百五十枚	八
銅元百八十枚	四
總計	三四七

第十九表

他處に住するものゝ間代	此情態を共にする者
間代を取らざるもの	七
銅元三十枚	—
銅元六十枚	三
銅元九十枚	一〇
銅元百二十枚	七
銅元百五十枚	二
銅元百八十枚	一
總計	三〇

車置場に備へられたる宿舍は、頗る吾人研究に値するものにして、二百の車置場中、百四十七軒は宿舍を設備し、二千三百六十人の車夫を容るゝに足り、總數の百分の三十六は、此等車置場より車を貸借せり。車置場中百人を容るるものありさ雖、平均は即ち十六人を容るゝに足るものにして、六十一軒は僅かに一大居室を有し、其餘は多少一定せず、最も多きものは二十五間なれども、每軒の居室は平均二•七なり。車夫中坑上に睡り、或は羊毛板上に睡り、或は又磚板上に睡るものあり。坑を有する車置場の各室は、平均人數五•八にして、羊毛板及び磚板の各室は平均八•四なれば、此三種の平均は一室一〇•五人さなり、最も多きものは一間十六人なり。然れども此れは殊に多く見ざるものにして、百四十七軒の平均人數は六•八なり。

第二十表

每室の平均收容人數	此人數を共にする車置場	每室の平均收容人數	此人數を共にする車置場
二•〇	〇	七•五	二
三•〇	六	八•〇	一三
三•五	二	八•五	一
四•〇	一五	九•〇	五
五•〇	二一	一〇•〇	二〇
五•五	一	一一•〇	五
六•〇	二二	一二•〇	五
六•五	三	一三•〇	四
七•〇	一八	一四•〇	二

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

一六・〇	一	總計	一四七

燃料の費用は天氣の不同によりて定まるものなれども、百軒中僅かに五軒は、冬季に於ける毎日の消費多く、銅元二十三枚に達すれども、夏季は燃料を用ふる事最も多き家と雖、此數を過ぐる事無く、平均數は其差頗る巨大なり。卽ち冬季は一日銅元一五・〇六枚なれども、夏季は一日銅元一〇・八一枚なり。更らに冬夏を平均すれば、毎日銅元一二・九三枚、或は毎月銅元三百八十七枚(銀元に換算すれば一元三角八分)なり。尙數軒あれども、燃料の支出は無く、彼等は路上に遺棄せられたる柴木、或は石炭灰の堆積中に殘存せる石炭屑を拾取し、以て燃料に供するなり。石油の費用は、毎日銅元三・五二枚なり。其詳細は、下表の如し。

毎日の消費燃料(銅元)	夏季	冬季	毎日の消費石油(銅元)	此數を用ふる軒數
一	四	二	一	一
一—五	七	一	二	二二
六—一〇	四四	三一	三	二八
一一—一五	三九	四二	四	三二
一六—二〇	五	一三	五	九
二一—二五	一	九	六	七
二六—三〇	無し	二	八	一
總計	100	100	—	100

一切の支出を總計すれば、略下の如し。家庭無き者は、毎日食費は銅元六〇・五枚、衣服及び雜費は六・三五枚、間代(車置場及び親友の處に寄留せる者の平均價格)は三・〇四五枚にして、第一項は全數の百分の八六・五五を占め、第二項は九・〇九を占め、第三項は四・三六を占む。其他尙煙草・酒等の費用ありと雖、但し其如何に論無く、食ふといふ一字は、少くとも百分の八〇以上を占むるなり。茲に百軒に就き、其費用を列記すれば、卽ち左表の如し。

名稱	百分數	個人と百分數の比較、
食事	七五	八六・五五
燃料	九	—
間借	八	四・三六
衣服	五	九・〇九
雜費	三	—
總計	100	100.00

毎軒毎月の總支出(二元を以て類とす)	此類の情態者
八・一〇—一〇元	九
一〇・一〇—一二元	二八
一二・一〇—一四元	一六
一四・一〇—一六元	一七
一六・一〇—一八元	一三
一八・一〇—二〇元	一〇
二〇・一〇—二二元	七
二二・一〇—二四元	—
二四・一〇—二六元	—
二六・一〇—二八元	一
總計	100

惟ふに表中十元一角より十二元に至るもの最も多く、平均數は十四元二角五分にして、最高は二十七元、最低は八元四角なり。前者

は實際多く見ざれども、其餘の家は、皆二十一元五角以下なり。惟ふに人口より計算すれば、每人約二元七角なれども、但し車夫每日の平均純收入は僅かに銅元一〇一枚乃至一一〇枚なり。之れを換言すれば、一箇月の純收入三、一六五枚にして、市價を以て換算すれば、十一元三角となるべく、之れを支出と比較しなば、三元有餘の不足となるを以て、若し家人にして生產する事能はざれば、勢必ず之れを親友より借り、或は衣服を入質して生活を維持せざるを得ざるなり。

車夫の主要食品は粟粉なれども、一半は麥粉、又一半は豆粉にして、每斤の價は銅元十七枚なり。每日粟粉一斤半を購入すれば、其價は銅元二十七枚半に相當し、家庭に在りて之れを燒煮すれば、一日の需要に供し得べく、若し柴炭を捨取すれば、卽ち燃料の一項は直ちに省略せらるなり。大白布は每尺三分乃至七分にして、染色布は六分乃至一角六分、又棉花は每斤五角半乃至六角なれども、車夫の衣は多く蓐棉花を以て製せらるものなれば、價は比較的低廉なり。夏季の襯衣及び股引に一丈二尺を要し、一尺一角として計算すれば、一元一角なり。冬季の衣は、全部にて三丈を要するを以て、若し布及び棉花共新しき時は、計三元半を要すべきも、車夫の衣服は皆古着なるを以て、其價格は極めて低廉にして、新調の價格とは其懸隔殊に甚大なり。故に每年各季の衣服は僅かに五元五角四分にて足れり。

北京の車夫と其他各地に於ける車夫とを比較すれば、錢價の不同ありと雖、然かも衣食住は上下相等し。故に若し車夫の收入少き時は、卽ち食住も亦比較的賤し。安徽蕪湖の車夫は、一日の純收入約銅元三十枚乃至五十枚なれども、但し三十枚の銅元を以て米二斤を購入し得べく、棉花も南方は北方に比して低廉なれば、貧民の享受は此れにより比較的優れり。故に北京に於ける人力車夫の生活は、未だ中國各地の勞働者を代表するに足らざるなり。下表を讀みなば、卽ち其梗概を窺ふに足るべし。

地名	每日の總收入（單位銅元）	每日の純收入（單位銅元）
北京	一三二枚	一〇一—一一〇枚
漢口	｜	一〇〇—三〇〇枚
武昌	｜	一五〇—一六〇枚
漢陽	｜	一二〇—一三〇枚
南京	一五〇枚	六〇—七〇枚
蕪湖	｜	三〇—五〇枚
上海	二四五—三九五枚	一八五—二九二枚
太原	二〇〇—三〇〇枚	一四〇—二二五枚
大連	二〇〇—三〇〇枚	一六〇—二四〇枚
福州	｜	一六〇枚
長沙	一〇〇—一六〇枚	四五—一〇〇枚

（上海總商會月報十月號下歐譯）

比律賓

□比律賓時報

一九二六年度設立の會社及組合

昨年中新に登記された內國會社の資本金は、最近商工局の發表によれば、前年に比較して一三、五九四、三二八比を增加したと云ふ事である。又前年以上に增加した會社數は七十一社であつた。昨年及び一昨年の兩年に於て登記された會社數は夫々二九六社、二二五社となつて居る。又兩年度新設社の資本金總額は各々二七、二三八、九〇〇比、一三、六四四、五七二比となつてゐる。

同昨年度新設會社の資本金の中一二、二一三、一八九比は應募資本金であり、九、一七七、四二五比は拂込資本金である。之れに對して、一昨年度の應募資本金總額は僅かに七、一二〇、二三九比、拂込資本金六、二八七、三二三に過ぎぬ。

前項諸會社中、社會共樂用の目的を有するものが第一位で六十、次は私立學校の四十七、以下夫れ〲一般商事二十七、農業十七、輸出入業十三、運輸業九、印刷並に出版業八、挽材業七等である。

一年を通じて最も投資額の多い月は二月の三、二九二、一〇〇比、次に三百萬餘比に達する一月に於てゞある。之れに反して、最低放資の月は九月の五三四、二〇〇比で、年末の十二月には二、八六八、五〇〇比を計上して居る。

以上は內國會社に關したものであるが、昨年中登記された組合數は一昨年の一一五に比較して一一七に達してゐる。其の資本金は夫れ〲一九二六年四、三三九、〇八二比、一九二五年五、一九三、七五五比、卽ち一百萬比臺の減少を示して居る。

其中の主なるものは、マニラに支店を開設せんとする International Educational Publishing Co.（本店ニウヨーク、一千萬比の資本である）で、同支店は Joaquin Mencarini を代理店として Heacock Building に於て開かれるであらう。

尙ほ近日登記された會社中にはマニラ市ウエアン・ルーナ一〇三番地の Fookien Times Co. 及び、資本金五十萬比の Manila Hume Pipe and Tile Works の二社がある。

（比律賓ヘラルド一月十一日）

追記　尙ほ一月十九日の新聞によれば、The Cornhill Insurance Co., Ltd. 及び The Sea Insurance Co., Ltd. の二大英國保險會社の支店開設登記が報ぜられてゐる。此の他、イロイロ縣ラ・パスに資本金二五、〇〇〇比の The La Paz Ice Plant & Cold Storage Co. の設立登記が行はれた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ファイヤーストンの比島護謨事業所感

一月十四日付比律賓ヘラルド誌によれば、ジュニアー・ファイヤストン（ハーベー・ファイヤストンの長男）は久しくリベリヤ地方の視察を終へて、同月十二日ニウ・ヨークに歸著したとの事である。比律賓に護謨栽培を行はざる理由に就て次の如く語つてゐる。

「比島政府が相當なる保證を與ふる樣になれば何時でも資本を投下する積りである。」

「極東の唯一米國領たる比島に於て、米國の資本を以て栽培事業を企圖し得ないことは誠に殘念である。」

「而してトムソン大佐の比島經濟政治調査報告書に就て、何等研究する遑を持たぬが、政府は比島各種の問題に專ら焦慮せる爲め、米國資本は解決次第陸續として押寄せ來るであらうと。」

其の他、リベリヤ視察狀況に就て詳しく述べてゐるが、直接關係無き爲め省略する事とする。

尙ほ同月十九日の同誌上には、比島護謨栽培の可能性に就いて、比島現今の事情が甚だしく障害して居ることを叙べ、大なる米國資本を以て創始せん爲めには、少くとも二〇〇、〇〇〇ヘクタールを租借し得る樣現行土地法を改訂するで無ければ、到底外國との競爭に比肩することは出來ぬ。然るに、現行土地法の規程によれば僅に法人に對して一、〇二四ヘクタール（約二五〇〇英反）を租借するに過ぎぬと述べて、强硬に土地法を非難して居る。後略。

日本人商業會議所の設置運動

從來比島には邦人の商業會議所なく種々不便と不利益を感じて居たが、今般邦家實業者間に同所設立の計畫を樹て、着々準備を進めて居る。同案によれば、各縣に支部を設け、中央事務所をマニラ市に建築し、設立の目的は日・比兩國人間の關係を親善と爲し、加ふるに領內日本人取引を助長促進せんが爲めである。

鎌田總領事は之れが實現を期し、專ら斡旋を圖つてゐる。

追々在留邦人は同設置案を決議する爲め大會を開く模樣である。邦人商業會議所の設立は將來各種商工業の改善に好影響を及ぼすことゝ信じられてゐる。

（比律賓ヘラルド一月二十九日）

□競爭市場裡の比島

比島に輸入せられる商品の優に過半（一九二五年は五八％）は米國製造家之を供給し、日本は第二位にあつて九％を稍々超過してゐるが、其他東洋諸國は合して約三〇％弱を供給し、殘餘約一二％は歐洲より積出してゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

米國以外の諸國に仰いでゐる輸入品の大部分は、米國輸出貿易に重要ならざる商品よりなつてゐるが、比島輸入の外國商品中には米國工業製品に依つて代用し得ると思はれるものも尠くない。現今諸種の理由で之等を他國に仰いでゐるが、主なる理由は値段の關係に歸因してゐる。

斯る狀況は比島關稅の不完全に因るもので、同關稅は一九〇九年米合衆國の關稅を基本として編成され、爾後些少の變改を加へたる他今日迄何等變更されてゐないが、米合衆國の關稅は爾來二度に亘つて修正され、又世界主要商業國七〇箇國の中五九箇國以上も、戰後市況の變化と、價格標準の昇騰とに應ずる爲め、關稅を修正してゐる。

英　國

比島貿易に競爭せる歐洲諸國の中、主要なるものは英國で、一九二五年の積出額は價格に於て六、五二六、〇〇〇弗、卽ち歐洲に仰いでゐる全輸入價格の約半額を占めてゐる。棉製品は英國供給額の殆んど四分の三をなし、殘餘は廣汎に渡る商品の少量よりなり、多くは競爭上有利である爲めでなく、商品の品質優良であるのに據つて購入されてゐる。

然し、英國が比島市場に最も顯著なる進步を示したのは織物貿易である。少量に消費されるに過ぎないが、極小額の注文で諸種の柄物を供給する英國の遣口は、特に比島市場に適應したものである。同國の、特に型を彫りたる緻密な意匠の更紗は棉製品市場に於て重要なるもので、バザー取引にては普通に取扱はれない見本を、進んで高價な代金を投じて買取る商人に、小量の特別注文に應じて提供してゐる。米國品は課稅せられざるに拘らず、斯る商品は、米合衆國製造家が價格低廉の故を以て競爭することは困難とする所である。

英國輸入の棉絲は、一九二五年には著しく增加し、前年の九九、〇〇〇弗に對し、同年は四一五、〇〇〇弗に上つた。

斯る增加は同領內にて周知せられてゐる一名稱の品を大いに販賣するに依るもので、之は已に取扱つたことのある商標に忠實である支那商人の特長—支那商人は比島の主なる集散者である—であつて、未知名稱の品を彼等に賣付けることは一般に甚だ困難である。

英國よりの輸入商品目中には其他リネン製品・波板・眞鍮製品・鋼製品・小量の鑄物・鐵及び鋼の條竿等がある。

獨　逸

比島市場に於ける獨逸品は主として比較的小量なる諸種の小取引で、一九二五年には計二、七六五、〇〇〇弗に上つた。小金物及び刄物の獨逸物は特に評判がよく、殆んど全部は價格低廉の故を以て賣られる。其他の獨逸輸入には棉襯衣、アルミニユウム品、塗料及びピアノ等がある。獨逸製內燃機關は、其構造の簡單なのと燃料の經

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

濟さに依り、比島市場に重要なる要素となりつゝある。輸入總額中の獨逸の歩合は一九二四年の一・九五%より一九二五年の二・三一%に增加した。

比島市場に於ける其他の歐洲諸國

佛蘭西輸入品は主として小間物雜品及び新奇の品、卽ち寶石・化粧品・沸騰飲料水・製藥・飲料水及び婦人服等で、一九二五年には一、三五三、〇〇〇弗に上つた。佛蘭西品は其評判に依つて比島市場に上されてゐる。

瑞西は一九二五年には一、二六一、〇〇〇弗の商品を給供してゐる。其製品には綿織物・刺繡物・時計・罐詰ミルク(人造ならざる)等がある。

西班牙の積出額は一九二五年には七〇八、一〇〇弗を計上し、主として化粧石鹼・アルコール性飲料・紙製品・貯藏したる食料品等である。西班牙品は、比島が三世期に亙つて同國の領有であつたことゝ、同國人子孫の多數に上ることで、今尙優勢なる勢力を有してゐる。

白耳義は價格廉價の故を以て、著額の鋼條竿と共に、輸入窓硝子及び板硝子の大量を供給してゐる。一九二五年同國よりの輸入額は五五一、四七〇弗で、前年に比すれば六〇%以上を增加してゐる。

日本

東洋諸國では主として日本支那・佛領印度支那・蘭領東印度・濠洲・英領東印度が主なる競走國である。

日本よりの輸入は、一九二五年には價格に於て一〇、九四五、〇〇〇弗に上つたが、其の過半は綿製品、主として染織物・莫大小製衣及び更紗である。石炭は殆んど一、五〇〇、〇〇〇弗に上り、鐵鋼雜品が五〇〇、〇〇〇弗に上つてゐる。其他一九二五年の比島市場に表はれた日本品は、燐寸・セメント・絹物・陶磁器・罐類・紙類等である。日本よりの輸入總額は、一九二四年に比し二、四〇〇、〇〇〇弗の增加、卽ち比島輸入市場に於て一%以上の增加であつた。

支那

支那よりの輸入品の大部分は綿反物で、一九二五年支那の供給せし總額六、九六四、〇〇〇弗の內、同品は一、五〇〇、〇〇〇弗に上つてゐる。支那より輸入する反物類は、主として生粗布、色雲齊及び小量の漂白せざる粗布よりなつてゐる。一九二五年の支那豚脂及び生卵の輸入は夫々八五六、〇〇〇弗及び八二〇、〇〇〇弗に上り、其他、絹織物・乾燥又は漬物としたる野菜・落花生・針・及び諸種の雜品をも輸入してゐる。

佛領印度支那よりは米

佛領印度支那は重要なる米の供給國で、比律賓にも少量栽培される。勞役用動物は之をさて置いて、米丈でも一九二五年の佛印よりの輸入額六、五〇〇、〇〇〇弗の殆んど全部を占めてゐる。

極東諸國よりの輸入品は其他比較的小量の諸種の製品よりなりてゐる。濠洲は麥粉、肉其他酪農場產品、石炭及び骸炭を供給し、蘭

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

領東印度よりは主として鑛物性油及び其產品を、英領印度よりは黄蔴袋及び其袋材を輸入してゐる。

極東諸國の輸入總計は一九二五年は前年より價格に於て多少の增加を示したが、比島輸入市場に於ける是等諸國の步合は三一%より二九%に暴落した。一方歐洲よりの積出額は價格に於て二、三二三、〇〇〇弗を增し、總輸入額に對する步合に於て一%弱の增加を示した。米國よりの輸入は價格に於て八、九〇〇、〇〇〇弗、即ち輸入步合に於て約二%を增加した。

生產國別輸入

下表は、一九二四年及び一九二五年の生產國別輸入額及び步合を示すものである。

國名	一九二四年 價格(弗)	一九二四年 步合(%)	一九二五年 價格(弗)	一九二五年 步合(%)
合衆國	60,398,600	56.01	69,297,600	57.87
布哇及グアム	923,650	.86	856,030	.71
加奈陀	153,600	.14	97,600	.08
英國	5,584,200	5.17	6,743,000	5.63
獨逸	2,113,600	1.95	2,765,000	2.31
佛蘭西	1,149,100	1.07	1,352,800	1.13
瑞西	1,632,400	1.51	1,261,200	1.05
西班牙	654,200	.61	708,100	.59
白耳義	338,300	.31	551,300	.46
和蘭	422,600	.38	535,000	.45
伊太利	180,200	.17	338,550	.29
瑞典	94,000	—	188,700	.15
墺太利	116,100	.10	124,300	.10
諾威	81,400	.08	104,000	.09
丁抹	49,000	.04	54,700	.05
歐洲計	12,403,100	11.39	14,736,800	12.30
日本	8,544,000	7.92	10,944,900	9.15
臺灣	510,200	.47	828,400	.69
日本計	9,054,200	8.39	11,773,300	9.84
支那	6,980,300	6.46	6,964,000	5.82
佛領東印度	9,845,300	9.12	6,503,200	5.43
蘭領東印度	33,384,500	31.04	32,290,700	27.05
濠洲	2,427,400	2.26	2,922,500	2.44
英領東印度	1,591,800	1.47	2,707,000	2.29
香港	432,000	.40	185,300	.16
暹羅	103,500	.10	181,500	.15
亞細亞計	33,829,000	31.34	34,526,500	28.85
其他	292,950	.26	238,270	.19
總計	108,010,900	100.00	119,732,800	100.00

(Commerce Reports. No. 52. Dec. 27, '26.)

佛領印度支那

□一九二五年に於ける印度支那の海運及貿易（四）

チ、對外諸國別輸出貿易

外國向輸出は前述した通り、前年に比し、四三二、〇四五、〇六七法の増加（二三％）を示してゐる。

次表は主要輸出國別輸出額を其順位に依り列擧したものである。

（單位法）

輸出國別	年次 一九二五年	年次 一九二四年	差額 増	差額 減
香港	六五九、六六三、四六七	七四五、六四五、三二五	—	八五、九八一、八五八
日本	三五一、九〇六、九六五	一〇八、九五四、九二六	二四二、九五二、〇三九	—
支那	二五三、二九八、七二五	一三二、五五六、六四七	一二〇、七四二、〇七八	—
佛領印度	一七八、三七四、六三七	七四、五〇二、三四六	一〇三、八七二、二九一	—
新嘉坡	一七五、三二四、三一五	一五三、五四一、九一九	二一、七八二、三九六	—
比律賓	九五、八〇三、八八八	一二四、五一三、五四八	—	二八、七〇九、六六〇
白耳義	三三、七三九、六二七	一九、五一八、六四五	一四、二二〇、九八二	—
英國	三二、〇〇三、二四五	六、八三〇、三六二	二五、一七二、八八三	—
亞米利加諸國	二九、三〇七、二三三	三八、三二五、四三三	—	九、〇一八、二〇〇
暹羅	二〇、五四一、〇一七	一四、八五五、〇七五	五、六八五、九四二	—
亞弗利加諸國	一九、九七四、八七二	五、五〇三、六一二	一四、四七一、二六〇	—
獨逸	一六、六八〇、五四九	八、四三三、一八二	八、二四七、三六七	—
他の歐洲諸國	八、七一四、一八三	四、一九五、二五二	四、五一八、九三一	—
英領印度	四、六一七、八四二	七六二、三一九	三、八五五、五二三	—
古倫母	四九五、五五一	一〇四、七六〇	三九〇、七九一	—
濠洲	二九、六八八	一一七、五三四	—	八七、八四六
極東に於ける他の諸國	一、八三八	八一、六九〇	—	七九、八五二
合計	一、八六七、四六七、四三一	一、四三五、四二二、三六四	五五五、九二二、四八三	一二三、八七七、四一六

一九二五年増加額　四三二、〇四五、〇六七法

更に之を輸出國別により詳細にすれば。

香港、從來印度支那の最大顧客である香港は、今年度に於ては八五、九八一、八五八法の減額を示してゐる、この原因は全く一九二五年中に於ける彼港の罷業其他の紛爭に基くこと最も大である。次に香港への主要輸出品及數量價格を表示せば、

品名	數量（キンタル）	價額（法）
米及之に屬するもの	五、三〇八、〇二六	三〇九、三五二、四〇〇
乾、鹽、燻製魚	四八、〇一三	一四、四〇六、九〇〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

石炭	一,五九〇,七六五	一五,九〇六,六〇〇
干海老	一五,二九一	二,九六一,八〇〇
白豆蔻及沙仁	六,四八四	二,五四三,五〇〇
桂皮	五,一四四	九,二三九,四〇〇
漆	二,六三九	八,八一六,二〇〇
セメント	三二九,五五六	八,七一七,〇〇〇
革	一,〇八四	五,七九二,九〇〇
鼈甲	二〇三	五,六四八,二〇〇
家禽類	八,九九九	五,一四九,九〇〇
クナオ	四〇,七七七	二,八五四,四〇〇
麻袋	一五,五六〇	二,七二一,三〇〇
土人製赤糖	二七,七二六	二,六六一,九〇〇
粗製藁、及樹皮編物	一三,七二五	二,五四五,〇〇〇
落花生	一九,五〇九	二,三九四,九〇〇
木炭	六四,一八四	二,二四六,四〇〇
鞣革	一,四四七	二,一七〇,〇〇〇
鳥卵	六,六八九	一,七七九,〇〇〇
棉花	一,七八九	一,六〇九,八〇〇
魚皮	三六六	一,五四二,四〇〇
乾豆	九,三九七	一,五〇三,五〇〇
薬材	三,〇二三	一,四七九,三〇〇
土人産茶	一,三〇二	一,四三一,七〇〇
胡麻	一〇,一七八	一,三七二,三〇〇
チーク	一三,六八六	一,二五九,〇〇〇

蓖麻子油	五,四五五	一,一〇五,七〇〇
丸藤及割藤	七,六〇二	九二一,五〇〇
豚	三,四二八頭	八三二,七〇〇
水牛	一,八三〇頭	七三二,〇〇〇

日本。

品名	数量（キンタル）	價額（法）
米	三,五三一,六九三	二九二,七九四,七〇〇
石炭	一,七六四,九六〇	一七,六四九,六〇〇
亞鉛鑛	五三,八九二	一五,〇〇三,一〇〇
漆	四,四二〇	一三,三五八,六〇〇
棉花	五,二七八	四,七五〇,二〇〇
繰らざる棉	一〇,一八二	三,〇八四,七〇〇
麻袋	五,三九一	二,三三七,五〇〇
亞鉛塊	二,〇二六	八一〇,四〇〇

支那

品名	数量（キンタル）	價額（法）
米	一,一三一,〇六一	一一,八八八,四〇〇
石炭	三,三三八,八一三	三,三三八,一〇〇
乾、鹽、燻製魚	五三,六二三	一六,〇八六,六〇〇

品名	數量（キンタル）	價額（法）
セメント	一五九、三六九	六、〇三六、〇〇〇
苛性曹達	二、三五八	五、九六五、三〇〇
棉花	五、三六七	五、〇〇九、九〇〇
護謨製被蓋、氣管外輪等	七九四	四、五〇三、六〇〇
煉炭	二〇六、七五二	四、一三五、〇〇〇
漆	九一二	二七三、八〇〇
干海老	二、五三〇	二、二七七、三〇〇
生綿絲	一、八二七	一、五七一、〇〇〇
魚皮	三八〇	一、五一九、三〇〇
玉蜀黍	二六、五四二	一、三三七、一〇〇
豚皮	八六八	一、三〇三、三〇〇
チーク	一一、六七五	一、〇六〇、九〇〇
曲木以外の木製家具	一、〇〇八	一、〇二八、七〇〇
普通石鹸	二、九一七	一、〇三〇、九〇〇
革	二八五	九九六、九〇〇
落花生油	一、九七六	八八九、〇〇〇

蘭領印度

品名	數量（キンタル）	價額（法）
米	一、五九一、九四七	一七、六二一、六〇〇
麻袋	一、〇〇四	四一、三〇〇

新嘉坡

品名	數量（キンタル）	價額（法）
乾、鹽、燻製魚	二〇八、五一三	六二、四四五、五〇〇
米	五二七、一〇四	五九、五五二、八〇〇
護謨	七、六九三	一八、三一九、〇〇〇
豚	四二、二二七頭	一〇、一三四、五〇〇
セメント	一三一、一七	五、〇三三、七〇〇
錫鑛及混合ウォルフラム	二、九六四	三、九六〇、五〇〇
鳥卵	三、〇一九	三、一二四、九〇〇
胡椒	一、八〇六	一、六七〇、五〇〇
黃牛	三、六六七頭	一、三三〇、一〇〇
未加工大皮	一、七九三	一、二七四、八〇〇
豚脂	一、六五五	九九三、〇〇〇
粗ゴムラック或はスティックラック	五七八	六九三、八〇〇

比律賓

品名	數量（キンタル）	價額（法）
米	八二、二六六	九四、三二六、八〇〇
黃牛	一、〇一二頭	三六四、三〇〇
水牛	六二七頭	二五四、八〇〇

白耳義

品名	數量（キンタル）	價額（弗）
亞鉛鑛	三一二、五七五	一四、一三二、五〇〇
米	一一六、四七七	一二、四〇二、八〇〇
種を取らぬ粗カポック	四、〇六七	二、六四七、五〇〇
粗ゴムラック、或はスティックラック	一、一九九	一、四三八、六〇〇
粗亞鉛塊、亞鉛塊亞鉛板等	二、五四〇	一、〇一六、〇〇〇
未加工皮	九三二	七〇五、九〇〇
胡椒	七二	六五七、四〇〇
コプラ	二、一七七	三九一、八〇〇

英國

品名	數量（キンタル）	價額（弗）
米	五〇九、三五一	一三、一一三、三〇〇
未加工皮	三一、五二五	二、六五〇、九〇〇
籐、籠類	八、七三八	二、一〇六、九〇〇
チーク	一八、一四九	一、六三九、八〇〇
粗ゴムラック、或はスティックラック	四〇三	四八三、八〇〇
魚脂	一、二三三	三〇五、六〇〇

暹羅

品名	數量（キンタル）	價額（弗）
乾、鹽、燻製魚	二三、九〇三	七、一九〇、八〇〇

品名	數量（キンタル）	價額（弗）
土人産生絲織物	一四九	二〇八、五七〇
粗製蓆、及樹皮製品	八、四八二	一、六九六、四〇〇
木炭	五四、九八〇	一、二二四、三〇〇
魚肉を燻つたもの及魚醬油	四、五〇二	六七五、二〇〇
魚皮	一三六	五四三、二〇〇
マングローブ樹皮	八、五九四	三四三、八〇〇

亞米利加

品名	數量（キンタル）	價額（弗）
米	三三四、六八九	二七、四二一、八〇〇
粗ゴムラック或はスティックラック	一、〇七八	一、三九五、六〇〇
手製木綿ダンテル	一七	四六八、一〇〇

他の歐洲諸國

品名	數量（キンタル）	價額（弗）
白米	六四、六四九	七、三三一、三〇〇
コプラ	一、〇五九	一九〇、六〇〇

亞弗利加諸國

品名	數量（キンタル）	價額（弗）
白米	一八七、二二九	一九、五〇五、〇〇〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

リ、對外國輸出貿易

次に印度支那より諸外國へ輸出されたる主なる貨物を擧げ前年と對比すれば次の通りである。

品名	一九二五年 數量（キンタル）	一九二五年 價額（弗）	一九二四年 數量（キンタル）	一九二四年 價額（弗）	差額
豚	四七、〇〇六頭	二、二八一、〇〇〇	九九、二三九頭	三、三九〇、七〇〇	減 一、一〇九、七〇〇
家禽類	一〇、三六七	三、六三五、五〇〇	一一、二九〇	三、九五一、六〇〇	減 三一六、一〇〇
未加工大皮	一三、一七三	九、五〇三、二〇〇	一四、六一九	八、二〇二、〇〇〇	増 一、三〇一、二〇〇
裝飾用未加工羽毛	一一	三三、七〇〇	四八	一、〇六八、四〇〇	減 一、〇三四、七〇〇
鳥卵	一八、七一六	四、八六六、一〇〇	一八、三五三	三、四八六、八〇〇	増 一、三七九、三〇〇
乾、鹽、燻製魚、其他	三五五、八〇九	一〇〇、一四二、八〇〇	四〇一、〇〇一	一三〇、三〇〇、二〇〇	減 三〇、一五七、四〇〇
土人產生絲	一四九	二〇八、九〇〇	一三〇	一六八、九〇〇	増 四〇、〇〇〇
豚臘	一、〇〇八	一、一四四、六〇〇	一、一三〇	四四七、九〇〇	増 六九六、七〇〇
魚臘	一、三三〇	三八〇、〇〇〇	六七	一三七、九〇〇	増 二四二、一〇〇
魚皮	九〇三	三六二、五〇〇	八三五	三二九、五〇〇	増 三三、〇〇〇
干海老	一五、九〇一	一四、三二一、〇〇〇	一四、四七九	八、八四二、九〇〇	増 五、四七九、一〇〇
魚肉を控れたるもの及魚醬油	五、三九七	八〇九、六〇〇	五、一四三	七七一、四〇〇	増 三八、二〇〇
龜甲	二九七	五、三五〇、三〇〇	三九二	七、〇四七、〇〇〇	減 一、六九六、七〇〇
玉蜀黍	三一、三六四	一、五六八、二〇〇	四〇、二八三	一、〇八七、六〇〇	増 四八〇、六〇〇
米 籾米	一、一九三、三三三	八五、九三四、三〇〇	一、〇五三、三七九	六六、三三一、五〇〇	増 一九、六〇二、八〇〇
米 カーゴ米	三六七、九一五	三六、四二三、六〇〇	四七一、八六五	三九、六五八、七〇〇	減 三、二三五、一〇〇
米 碎米	一、三二四、三八二	一三八、八二九、一〇〇	八四九、六一五	七四、七六六、一〇〇	増 六四、〇六三、〇〇〇
米 粉米	一、三三七、八二九	五一、三九七、五〇〇	一、三三九、八七四	五〇、八三四、八〇〇	増 五六二、七〇〇
米 白米	八、九四〇、七四〇	一、〇四四、〇四六、六〇〇	七、五〇六、九九七	七四三、三一三、七〇〇	増 三〇〇、七三二、九〇〇

乾豆	一二、六六八	二、〇二六、九〇〇	二一、六六八	三、六二八、五〇〇	減	一、六〇一、六〇〇
マンゴー及マンゴスチン	七、六三二	二、七三七、六〇〇	五、八四〇	一、五三三、一〇〇	増	一、二〇四、五〇〇
落花生	二四、四九六	三、〇六一、九〇〇	八九八	八〇、八〇〇	増	二、九八一、一〇〇
胡麻	一三、五九九	一、五七四、九〇〇	一五、九〇七	一、〇四三、〇〇〇	増	五三一、九〇〇
コプラ	三、二二六	五八四、四〇〇	五四九	九八、九〇〇	増	四八五、五〇〇
土人産粉末赤糖	二八、四二六	二、七二八、九〇〇	一三六、四〇一	一三、〇九四、五〇〇	減	一〇、三六五、六〇〇
同白糖	一、五〇七	一九五、九〇〇	二一〇	二七、四〇〇	増	一六八、五〇〇
赤塊糖	九五一	五七、〇〇〇	一七、七三三	一、〇六三、三〇〇	減	一、〇〇六、三〇〇
胡椒	五、三二八	二、九八五、六〇〇	一四、九七五	一一、九八〇、二〇〇	減	八、九九四、六〇〇
白荳蔲及沙仁	六、六九八	一一、九二八、三〇〇	五、三三九	五、五九〇、七〇〇	増	六、三三七、六〇〇
桂皮	五、三三〇	九、五二六、四〇〇	六、二七七	一一、〇六二、五〇〇	減	一、五三六、一〇〇
茶	一、六一三	一、八四六、二〇〇	六六九	七三五、六〇〇	増	一、一一〇、六〇〇
支那産煙草	二〇五	二〇四、九〇〇	二七	二七、二〇〇	増	一七七、七〇〇
土人産葉巻及紙巻煙草	一、三六五	二七三、六〇〇	一三一	二六、二〇〇	増	二四六、四〇〇
椰子油	五六三	一九六、六〇〇	六九二	二四三、一〇〇	減	四五、五〇〇
胡麻油	四、九七三	一、五九一、一〇〇	六、五〇七	二、〇八二、四〇〇	減	四九一、三〇〇
落花生油	二、六一九	一、一七八、五〇〇	二、七二二	一、三二四、五〇〇	減	四六、〇〇〇
粗ゴムラック及スチイックラック	四、八四四	五、八二三、二〇〇	三、六六三	四、〇二九、一〇〇	増	一、七八三、一〇〇
漆	八、二七一	二四、八二一、六〇〇	八、一五七	五、七〇九、八〇〇	増	一九、一〇一、八〇〇
護謨	八、一一〇	一九、四六五、五〇〇	一七、六八四	二〇、三三六、一〇〇	減	八七二、六〇〇
バシヤーヌ油	一七	五〇、九〇〇	七三	一〇九、六〇〇	減	五八、七〇〇
チーク	一〇三、二三一	九、四六八、八〇〇	三三、〇五一	二、〇二五、七〇〇	増	七、四四三、一〇〇
他の建築用材	三三、〇五一	四七一、二〇〇	三九、四五二	八二三、九〇〇	減	三五二、七〇〇
木炭	一〇九、七四七	三、八四二、一〇〇	九七、五〇四	三、四一二、六〇〇	増	四二八、五〇〇

棉花	一二,六三三	一二,三六九,九〇〇	一三,五八六	一二,三二七,六〇〇	増	四二,三〇〇
繰らざる棉	三,七六九	三,八三〇,六〇〇	一四,九一二	四,四七三,六〇〇	減	六四三,〇〇〇
未加工麻(ジュート)	三〇九	一三八,九〇〇	五九五	一〇七,二〇〇	増	三一,七〇〇
未加工カポック	二,〇三二	六〇九,二〇〇	四,〇八一	一,二二四,三〇〇	減	六一五,一〇〇
種を取らぬカポック	二,一一三	二,一一三,〇〇〇	—	—	増	二,一一三,〇〇〇
未加工藺及莚	八,三三一	四九八,六〇〇	一〇,三九七	六二三,八〇〇	減	一二五,二〇〇
籐及割籐	九,一一三	一,〇九四,七〇〇	八,九一九	一,〇七〇,三〇〇	増	二四,四〇〇
タピオカ	四三,八一八	三,〇六七,三〇〇	五八,七六九	四,一一三,八〇〇	減	一,〇四六,五〇〇
セメント	六四八,六〇六	二四,六四七,〇〇〇	三九〇,五一三	九,七六二,八〇〇	増	一四,八八四,二〇〇
セメント製造用の石灰石	八〇一,九七〇	四八一,二〇〇	二,八四三,八六〇	一,七〇六,三〇〇	減	一,二二五,一〇〇
石炭	六,四六八,一四五	六四,六八一,五〇〇	六,七五一,八五七	五四,〇一四,九〇〇	増	一〇,六六六,六〇〇
煉炭	二七四,五五二	五,四九一,〇〇〇	一六八,五五一	三,三七一,〇〇〇	増	二,一二〇,〇〇〇
亜鉛鑛	三六六,四六七	二九,一三五,六〇〇	二九四,〇〇六	一三,八八〇,九〇〇	増	一六,二五四,七〇〇
亜鉛塊	四,七四九	一,八九九,五〇〇	五七	二〇,七〇〇	増	一,八七八,八〇〇
錫鑛(錫及ウォルフラム混合)	二,九六四	三,九八〇,三〇〇	六七九	八〇三,二〇〇	増	三,一七七,一〇〇
鹽[illegible]	四,六九四	一,一二六,六〇〇	五八	一二,二〇〇	増	一,一一四,四〇〇
苛性曹達	二,五八七	六,五四六,九〇〇	三二七	八一八,七〇〇	増	五,七二八,二〇〇
生綿絲	一,八二七	一,五七〇,九〇〇	六,六二六	四,九六九,一〇〇	減	三,三九八,二〇〇
麻袋 新	一四,〇〇一	六,三〇〇,三〇〇	一九,二四三	七,二一五,八〇〇	減	九一五,五〇〇
麻袋 故	一九,九三八	一,九九三,八〇〇	二〇,八二九	二,〇八二,九〇〇	減	八九,一〇〇
獸皮	二,三三三	三,四八五,一〇〇	三,九一七	四,七〇一,九〇〇	減	一,二一六,八〇〇
革	一,三八五	四,八四七,七〇〇	六五七	一,八三八,四〇〇	増	三,〇〇九,三〇〇
曲木以外の木製家具	一,〇四七	一,〇六八,七〇〇	七五六	六四二,五〇〇	増	四二六,二〇〇
彫刻或は嵌入細工の木製家具	一三三	一三三,一〇〇	一六二	一四五,八〇〇	減	一二,七〇〇

粗製藁及樹皮製編物	三三、一四〇	四、六六八、〇〇〇	三三、〇三六	三、三〇三、九〇〇	増	一、三六四、一〇〇
蘭製蓆	六九九	二六二、一〇〇	二、五三〇	六五三、六〇〇	減	三九一、五〇〇
籐、籠類	九、一三五	二、四三二、七〇〇	七、六八九	二、三〇八、一〇〇	増	一二四、六〇〇
護謨及グタペルシャ製被蓋、氣管、外輪卷帶等	八〇六	四、五六七、三〇〇	五九八	二、五一一、六〇〇	増	二、〇五五、七〇〇

以上を検するに、前年に比し輸出額の著しく増加せるものを順位列擧すれば次の通りである。

白米の三〇〇、七五二、九〇〇法、碎米の五四、〇六三、〇〇〇法、籾の一九、六二一、八〇〇法、漆の一九、一〇一、八〇〇法、亞鉛鑛の一六、二五四、七〇〇法、セメントの一四、八八四、二〇〇法、石炭の一〇、六六六、六〇〇法、チークの七、四四三、四〇〇法、白荳蔻及沙仁の六、三三七、六〇〇法、苛性曹達の五、七二八、二〇〇法、干海老の五、四七九、一〇〇法、錫鑛及ウォルフラム混合鑛の三、一七七、一〇〇法、革の三、〇〇九、三〇〇法、落花生の二、九八一、一〇〇法、護謨製被蓋・氣管・外輪等の二、〇五五、七〇〇法、亞鉛塊等の一、八七八、八〇〇法、粗ゴムラック或はスティッククラックの一、七八三、一〇〇法、鳥卵の一、三七九、三〇〇法、粗製藁及樹皮製編物の一、三二四、一〇〇法、未加工大皮の一、三〇一、二〇〇法、マンゴー及マンゴスチンの一、二〇四、五〇〇法、醋酸の一、一一四、四〇〇法、茶の一、一一〇、六〇〇法である。

反對に減少したるものは、

乾・鹽・燻製魚其他の二〇、一五七、四〇〇法、土人產粉末赤糖の一〇、三六五、六〇〇法、胡椒の八、九九四、六〇〇法、生絹絲の三、三九八、二〇〇法、カーゴ米の三、二一三、〇〇〇法、鼈甲の一、六九六、七〇〇法、乾豆の一、六〇一、六〇〇法、桂皮の一、五三六、一〇〇法、セメント製造の石灰石の一、二二五、一〇〇法、鞣皮の一、二一六、八〇〇法、豚の一、一〇九、七〇〇法、裝飾用未加工羽毛の一、〇六四、七〇〇法、クナオの一、〇四六、五〇〇法、赤塊糖の一、〇〇六、三〇〇法、麻袋(新品)の九一五、五〇〇法、護謨の八七二、六〇〇法、等である。

又、過去五年間に於ける主要輸出品の比較

黄牛及水牛 (單位頭)

	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年
黄牛	四〇、三四一	一八、四六七	一〇、五一六	八、四四〇	五、三二八
水牛	二、一一五	一、〇九八	五、八七七	四、三七五	二、八九一
計	四二、四五六	一九、五六五	一六、三九三	一二、八一五	八、二一九

黄牛及水牛の輸出は復減少を示してゐる。黄牛は一九二四年に比して三、一一二頭、一九二三年に比して五、一八八頭の減少である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又水牛は一九二四年に比し、一、四八四頭、一九二三年に比し二、九八六頭の減少となる。

東埔寨より輸出されたる黃牛は四、六七八頭にして前年に比し、一、六七九頭の減少を示し、(一九二四年—六、三五七頭、一九二五年—四、六七八頭) 又水牛は一、〇六〇頭にして、二、三〇一頭の減少を示してゐる。(一九二四年—三、三六一頭、一九二五年一、〇六〇頭)

交趾支那よりの輸出は大して重要ではない。(單に黃牛七頭を輸出したに過ぎない)

・安南よりの輸出は、黃牛二七三頭、水牛一〇頭にして、前年は黃牛二、〇四三頭、水牛一〇六頭であつた。

東京よりの輸出は黃牛二七〇頭及水牛一、八二一頭である。

家禽、鳩等 (單位キンタル)

年・次	佛蘭西及佛植民地	外國	合計
一九二〇年	五	二、一五九	二、一六四
一九二一年	四六	四、二〇二	四、二四八
一九二二年	二七	二、九〇三	二、九三〇
一九二三年	四二	六、〇四六	六、〇八八
一九二四年	九	一一、二九〇	一一、二九九
平均	二六	五、三二〇	五、三四六
一九二五年	四	一〇、三八七	一〇、三九一

前年に比較して減少してゐる。卽一九二四年の一一、二九九キンタルに對し一〇、三九一キンタル一%の減少である。香港が主要なる華客で九、〇〇〇キンタルを輸出し、續いて新嘉坡へ一、三〇七頭キンタルを送つてゐる。

〇〇〇〇〇

未加工獸皮 (單位噸)

年次	佛及佛植民地	外國	計
一九二〇年	六七〇	九九五	一、六六五
一九二一年	一六九	一、〇四五	一、二一四
一九二二年	四八八	一、三三四	一、八二二
一九二三年	七四二	二、一二九	二、八七一
一九二四年	四七六	一、七三二	二、二〇八
平均	五〇九	一、四四七	一、九五六
一九二五年	六一八	一、五八〇	二、一九八

未加工皮の輸出は、前年さ比して變化がない。佛本國へ輸出せる高は六一七噸で、六〇七噸を香港へ、三五二噸を英國へ、二一四噸を支那へ、一七九噸を新嘉坡へ輸出してゐる。

〇〇〇〇〇〇〇

鞣皮等の加工獸皮 (單位噸)

年次	佛及佛植民地	外國	計
一九二〇年	一四	八三四	八四八

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一九二一年	三	八七五	八八七
一九二二年	七	七八〇	七八七
一九二三年	七	五七一	五七八
一九二四年	一	四四七	四四八
平均	八	七〇三	七一二
一九二五年	八	三七一	三七九

獸皮其他の加工獸皮の輸出は逐年減少を示してゐるが、これは、內地消費に對する需要が頗る多量にあるが故である。

鳥。卵。（單位キンタル）

年次	佛及佛植民地	外國	計
一九二〇年	—	一、四五〇	一、四五〇
一九二一年	一五	七、三五六	七、三七一
一九二二年	一一三	九、一六六	九、二七九
一九二三年	一一三	一八、六〇八	一八、七二一
一九二四年	一七六	一八、二五二	一八、四二八
平均	六三	一〇、九八六	一一、〇四九
一九二五年	二一四	一八、七一六	一八、九三〇

鳥卵の輸出は、香港、新嘉坡方面に對して頗る活動狀態を呈してゐる。一九二五年の輸出は前年に比し、僅少の増加を示してゐるが、香港は六、六八九キンタル、新嘉坡に一、二〇二キンタルを賣つた。

土人産生絲（基瓦）

年次	佛及佛植民地	外國	計
一九二〇年	八、三六六	一、六二三	九、九八九
一九二一年	九、六四三	五、四九六	一五、一三九
一九二二年	一三、三二一	四、六二二	一七、九四三
一九二三年	四二、三七三	二、九八七	四五、三六〇
一九二四年	四四、二〇七	一一、九九二	五六、一九九
平均	二三、六〇〇	九、一〇四	三二、七〇四
一九二五年	四六、八四三	一四、九二一	六一、七六四

生絲の輸出は僅少の増加、卽ち五、五六五基瓦の増加を示してゐる。佛蘭西向輸出は四六、八〇二基瓦で、暹羅へ一四、八九八基瓦を輸出してゐる。

漁。産。物。（單位キンタル）

年次	乾・鹽・燻製魚	干海老	鱶鰭・海鹿・海草	魚肉を揑つたもの及魚醬油
一九二〇年	三〇九、三二八	二三、七九二	三七一	八、〇三九
一九二一年	三三一、九七八	一七、七六五	一九一	八、五四四
一九二二年	二八八、〇〇七	一六、七八〇	二五八	七、四三三
一九二三年	二九七、三二四	一八、五三九	二二三	六、五六七

一九二四年	四〇一、〇三八	一四、四八〇	二六七	五、三二〇
平均	三三五、五三三	一六、〇七一	二六六	七、一六〇
一九二五年	三三三、八九〇	一五、九〇三	二四〇	五、六二九

一九二五年に於ける漁產の輸出は滿足な結果を齎してゐる。乾・鹽・燻製魚の輸出は、前年に比し六七、一四八キンタルの減少ではあるが、過去五箇年の平均額に比較すれば八、三五七キンタルの增加となる。次に干海老、魚肉を捏れたるもの及魚醬油は前年に比し稍增加してゐるが、過去五箇年の平均よりは少ない。香港へ輸出したものは、乾・鹽・燻製魚の四八、〇二〇キンタル、干海老の一三、二九〇キンタル、魚肉を捏れたるもの三一〇キンタル、海鹿・鱶鰭・海草の一七〇キンタルである。

新嘉坡は乾・鹽・燻製魚二〇八、一五一キンタルを購つてゐる。

支那へ輸出されたものは、乾・鹽・燻製魚の五三、六二二キンタル、干海老の二、五三〇キンタル、魚肉を捏れたもの及魚醬油の五八〇キンタルである。

暹羅は乾・鹽・燻製魚二三、九〇〇キンタル、魚肉を捏れたもの及魚醬油の四、五〇〇キンタル、干海老の八〇キンタル、海鹿・鱶鰭の三〇キンタルを印度支那より輸入してゐる。

□佛領印度支那情報

佛印關稅問題に對する佛國下院に於ける當局の聲明

佛國下院商務省豫算報告委員長は、對日本印度支那關稅問題に關する日佛交涉の經過につき下院議場に於て左記の報告を爲したり。

戰時中日本は對印度支那貿易につき在來の關稅定率より以上の特惠待遇を將來に認めらるべき保證を與へられた。之れを有耶無耶に葬り去ることは、戰時及戰後を通じての日本の協力に依つて基礎づけられた日佛兩國の親交關係と兩立すべからざることで、この際新通商條約の締結は蓋必然的のものであらう。然るに最近佛國新關稅定率の制定と印度支那關稅法の改正とは兩々相俟つて日佛新條約の前途に多大の障碍を與へたことは事實であるが、目下兩國當局は專心商議中で近く吾人の希望吾人の利益に合致する條約の成立を確實に期待せらる。云々　（一九二六年十二月二十三日海防捷報）

印度支那議會の設置に關する總督の意見

目下賜暇歸國中の印度支那總督は、歸任出發に際し巴里植民地協會の午餐會に招待せられ植民大臣內務大臣參列の席上に於て、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

左記要領の演說を爲したり。

予が印度支那統治政策は歴代總督の傳統を裏切るものなりと議會に於て兎角の批難を耳にすれども、批評は各人個々の自由で殊更辯明の必要を認めざるも予の統治政策に對する信條を一言にして盡せば民主主義卽ち正義と自由の徹底に外ならない。而してこの大方針を遂行するに當つては斷じて黨派的偏見を許さずと確信す。

予が任地に於て各方面より得たる情報に依ると、印度支那國民の最大多數は我が協力我が保護の必要を痛感し、然かも何等かの形式に依つて或る大國の保護下に在らざる限りは獨力防衛の能力なきを自覺しつゝあることは明瞭な事實である。同時に又彼等多數の者は舊土人行政の實質的缺陷を悉知し、就中米作地方住民の如きは往時の苛斂誅求を免れ安んじて農耕に從事することを得るは一に我が保護政治の賜なりとして大いに吾人を德としつゝある實情である。

吾人に對する土人多數の期待は略々上述の如くであるが、一面予は所信の政策を實施する意味に於て土人の要求を參酌し先づ土人任用令を改正し、以て彼等に對する行政參加の範圍を擴張した。尙ほ又予は我が保護政治の目的が土人自身の諒解する眞意に一致する所以を强調するため敢て彼等の利益に合致する有效なる「代議機關」の設置を提唱す。然しながら「印度支那」なる名稱は單なる地理的否寧ろ政治的稱呼であつて人種的若くは國家的稱呼ではない。從つて予の所謂「代議機關」とは「印度支那國民議會」の意味にあらざることは勿論である。予の希望する所は總督の一諮問機關たる現在の總督府會議の外に新たに佛土人混合の獨立した代議機關を設置し、毎年一回之れを召集して印度支那の一般的利益問題特に豫算案の討議に當らしめ依つて以て佛土人共存共榮の實績を擧げんとするにあり。云々

（右演說に對し植民大臣ペリエー氏は左記の如く演述して總督の政策に同意を表した。）

總督の政策に就て兎角の批難を試むるは畢竟印度支那の新時代新精神を知らざるがためである。更生した植民地に對して之に適應する新政策を用ふることは當然で、總督の政策は卽ち植民大臣及政府の政策そのもので極言すれば總督獨自の政策は存在せぬのである。總督の標榜する民主主義的政策は植民地統治上他の如何なる主義よりも一層適切妥當のものであると確信す。云々

（一九二七、一、四、西貢日報）

印度支那縱貫鐵道の一部開通

印度支那縱貫大交通路は雲南省國境老開驛より交趾支那西貢市に至る延長約二千五十基米であるが、內鐵道區間千二百基米、自動車區間約八百五十基米で旅程約六日を要す。右自動車區間の第一は北部鐵道南下線の終點ヴィン驛より中部安南線の始點ドン・ハ驛に至る二百九十基米と、第二は中部安南線の終點トゥランヌ驛より南部鐵道の始點ニヤトランヌ驛に至る五百六十基米とである。前記第一自

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

動車區間中ヴィン驛よりフク・トラク驛に至る七十七基米と及ドン・ホア驛よりドン・ハ驛に至る九十五基米計百七十二基米の區間に亘り本年一月鐵道の開通を見るに至つた。これがため第一自動車區間は百十八基米に短縮し特に河内、順化間の交通に便すること大にして縦斷旅行者に對し僅に一日の旅程節約を可能ならしむるに至つた。今回の鐵道開通區間は戰前既に地均工事を終へ戰爭のため一時中止を餘儀なくされたもので、地勢概して平坦、架橋作業を除くの外工事は比較的容易であつたが第二自動車區間は南部安南の山岳地方に當り敷設工事は全然未着手の狀態である。

上記縦貫線の一部開通と同時に南部縦貫線の支線ダラ登山鐵道をベルヴュー驛まで延長遊覧客の輸送を開始するに至つた。

佛國植民地開發事業費として十億法を支出す

佛國議會は植民地開發事業費として植民會豫算に組入れた十億法の經費を可決した。植民大臣の聲明に依ることの經費は本年度以降五箇年繼續支出に依るもので佛國の各植民地保護國及屬領全部の豫算に割當て主として港灣、鐵道、道路及水路の修築敷設費に充當する外防疫及社會施設費に支辨する筈である。

備考　本件は二月七日海防道報に掲載された同月一日附巴里電報に依るもので、遺憾ながら事業計劃の內容及印度支那割當額等不明である。

巴里萬國植民地博覽會に關する件

一九二九年萬國植民地博覽會を巴里に開催する件は既定の事實であるが、開會豫定期日は同年四月十五日より向ふ六箇月で、經費二億餘萬法を佛本國、植民地、保護領及參加國に於て分擔支辨する筈である。會場は巴里郊外ヴァンセンヌ公園に約百二十町歩の地をトし參加豫定國は英・蘭・白・丁・葡・日・西等の諸國で從來世界に類例なき大規模のもので、特に會場設備の呼物は各國植民地に於ける土人生活の實情紹介であらうと言はれてゐる。（一九二七、二、九、西貢日報）

印度支那土地法の統一

交趾支那に於ける土地所有權（河内、海防、トゥランヌ市の特別管理地域及老撾を含む）は受權者の身分に從つて夫々法律の適用を異にしてゐた。例へば所有權の獲得、移轉及不動產に對する物權保全の場合に於ける法律規定として、當事者が佛蘭西人か又は佛國の私權を享有する外國人なるときは佛國民法を適用し、反之一般土人に對しては舊安南法律を適用するが如きその一例である。

元來安南土地法は之れを現代の社會組織に適應せしむべく頗る不完全なものであつて、加ふるに物權公示手續上適法の形式を缺除するため佛國法に據る抵當權の設定と同一效力を以て不動產處分の安全性を保證し難いのである。これが多年植民地に於て種々なる難問

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

匯を續出し物權の受益者を苦め來つた主なる原因であらうと思ふ。一面印度支那に於て不動産貸付銀行の成績微々として甚だ振はざる事實も亦所有權の不安定に基く經濟的影響と見るべきであつて、土人農耕業者の不便不自由は元より言ふまでもなく彼等の金融は專ら對人信用に俟つの結果比較的資本の豊富なるに拘らず金利は法外に高率を示してゐる所以である。

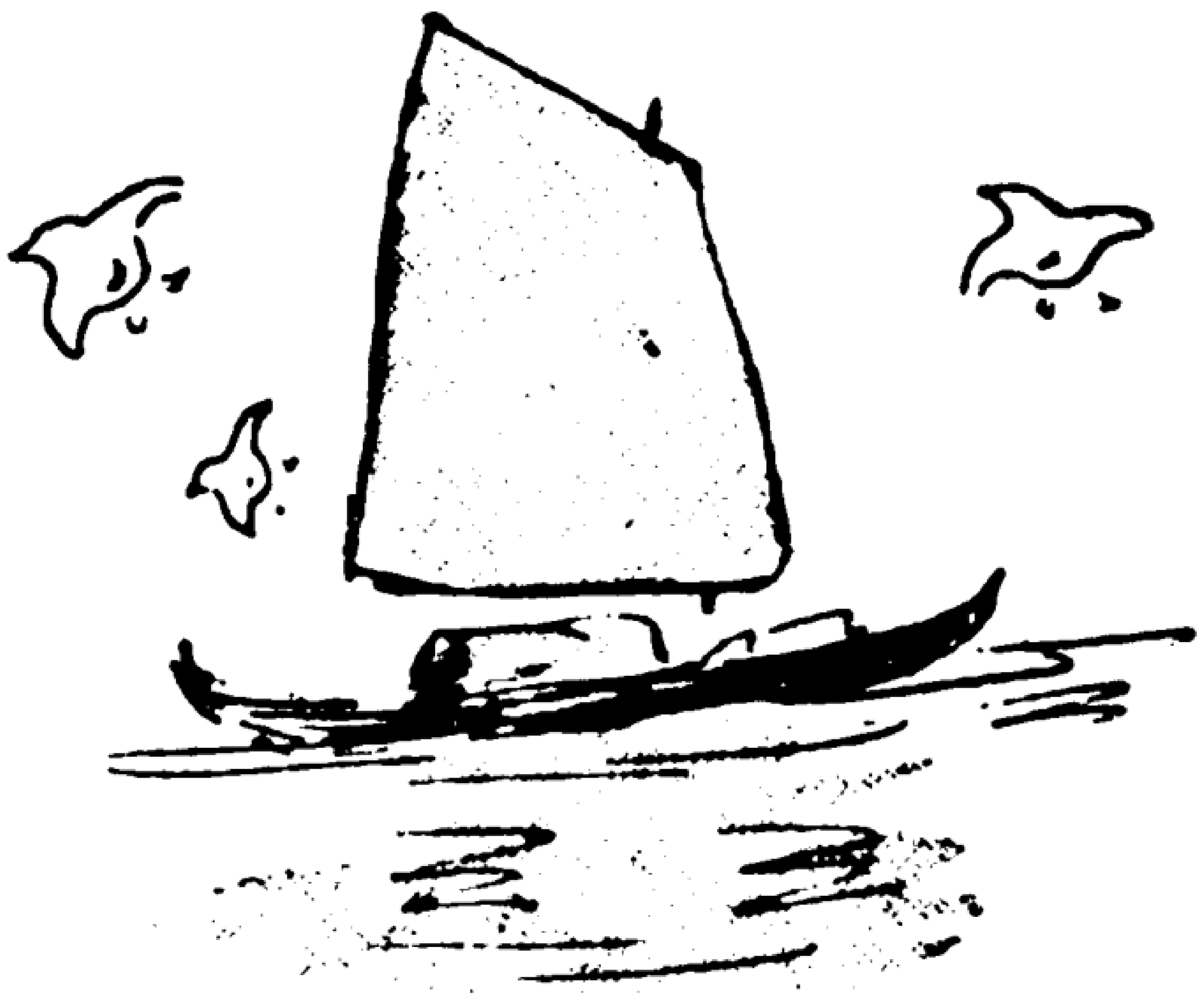
印度支那總督府は以上の如き實情に鑑み、今回總督府令を以て前掲地域内に於ける不動産所有權の設定に關する法律の適用を統一することに決定し、次で之れを他の諸州に及ぼす方針なりと云ふ。

（印度支那新聞綜合）

佛本國豫算に對する印度支那分擔額決定

一九二七年度佛本國豫算に對する印度支那分擔額は左記の如く決定した。（一九二七、二、一二、海防捷報）

本國軍事費分擔額	三二、三〇〇、〇〇〇法
植民地陸軍航空費分擔額	七〇〇、〇〇〇法
植民地學校維持費分擔額	二二五、〇〇〇法
植民地總事務局經費分擔額	八八〇、〇〇〇法
植民地農學研究所經費分擔額	二〇三、六〇〇法
植民地檢閱官團經費分擔額	二四〇、〇〇〇法
植民地高等會議費分擔額	二〇、〇〇〇法
計	三四、五六八、六〇〇法



暹羅

□暹羅産チーク市場概況

過去七年間に徴するに、パークナムポーに着荷するチーク丸太の平均年額は、九四、〇〇〇本其重量大約一四〇、〇〇〇「五〇立方呎噸」で、一本の平均量は七五立方呎となり、將來の産出に於ては恐らく達すべくもない大なる數字を示してゐる。右九四、〇〇〇本は、用材に製材するに當り起り易き損耗を控除したる後、有效材九四、〇〇〇噸（以下噸とあるは五〇立方呎噸とす）を産出するものと認められる。

上記期間の平均輸出額は恰も五九、〇〇〇噸で、約三五、〇〇〇噸卽ち三七%は國内にて使用されたることゝなり、國内消費用に控置される歩合に漸増の傾向あるを示してゐる。

地方の需要は斯の如く暹羅産チーク消費市場の主要々素であつて、其販賣はパークナムポに於て政府の藏置場及び伐採會社に依り丸太の儘で行はれる。買手は仲買人で、パークナムポーにて購入し、急流に任せて流下する方が、盤谷で購入して曳引遡江するよりも有利であるので、唯に盤谷からばかりでなく、パークナムポー及びアユチヤ間の諸市街よりも買付に集來する。パークナムポー市場が、比較的價格の良好なる市場の一つに算へられるのは、恐らく如上の理由に據るものであらう。

丸太筏は、パークナムポーにて賣却されたると否とを問はず、同地に於て納税をなし、政府の代表者と所有主とに依り數量の檢査を受け、而る後流下される。其多くは盤谷の上流三〇及び四〇哩間に存する河畔の貯藏地に送られ、盤谷貿易商に賣却されるか或は挽材工場にて製材される迄同地に幾箇月も放置せられる。

右貯藏地の位置に就ては説明を要する。貯藏地の位置は、乾燥期にても筏を浮べ得る水量を有する地域たる爲め盤谷に極接近し、且同時にチークは一度ふなくひ蟲の蝕害し初める時は其價値激減するものであるが故に、ふなくひ蟲の多數に存する半鹹水を多少避け得る程度に、海より遠ざかる地域でなければならない。

盤谷の挽材工場は最初丸太の四側を切除し兩端を切離して角材に變換する。尙各工場は、不整一なる右の切片を小割材に製し、或は缺欠の爲め角材となし得ない丸太を、厚板又は小割材に變換する機械を据え付けてゐる。

丸太を角材に製する場合に生ずる不整一なる切片は、「背板（スラッブ）」と稱し、之より少しばかりの「厚板（プランク）」も採取されるが、主として「薄板（ボード）」或は小割材を製する。厚板は幅六吋厚さ二・五吋以上を有するものを云ひ、薄板は幅六吋以上であるが厚さは二吋以下のもの、又小割材（スキヤントリング）な

る語は、留余の大きさを有するものを指す。然し、右小割材に甲板(デッキ)用板(プランク)又は床板として知られてゐるものも少數あるが、之等は普通の薄板又は厚板よりは狹小なる幅員を有するものである。

背板より厚板・薄板・小割材及び屋根板の如き小數の雜產品を出來る限り採取したる餘片は、薪として販賣せられる。尙鋸屑は製材所に於て爐の燃料に費消されてゐる。薄くて小割材となすに足らない背板は屢々原形の儘販賣され、盤谷にて之を垣に使用せるのを見受ける。

挽材工場はチークを多く角材になし、通常木口を切除することなく之を貯藏し、積出直前に至つて之が切除を行つてゐる。其時切除されたる木口は短かき厚板、薄板又は小割材に製材される。

角材を挽いて諸種の形體の建築用材となす工場は稀である。地方市場には斯る用材を要するが、手挽賃が比較的安價であるが故に、人力に依りて製材する方が經濟なのである。然し、手挽賃は昇騰して行くが故に、再挽用機械、特に帶鋸を裝置する傾向が增加するのは當然なことである。現今盤谷港には斯る機械は甚だ少く、時折鐵道工場にて需要されるが如き刻み物に對する注文に應ずるには、必然大困難に遭遇しなければならない。

大工場は先づ輸送用材を生產してゐるが、盤谷及び其附近には多數の小工場及び手挽小屋があつて、丸太を地方消費用・造船用・建築用・指物細工用等に製材してゐる。

チークは現金にて販賣されるものであるが、小挽材所は、掛賣買以外に取引を行ひ得ないことは明白であるが故に、伐採會社が直接チークを大挽材工場以外のものに販賣をなすことは稀有に屬してゐる。仲買人は之に備へ、政府及び伐材會社よりチークを購入し、盤谷の周圍廣汎の地域に渡つて存在する小挽材所に之を賣却してゐる。

暹羅產チークの主要輸出市場は、歐洲、印度、錫倫、海峽植民地、支那及び日本である。

歐洲には角材・厚板・薄板、及び小割板となして積出される。委託販賣にて積出される量は小量で、殆んど全部は歐洲に於ける代理商に依りて豫め行はれたる賣買に對して積出され、右代理商はブローカー又は直接消費者と取引をなしてゐる。

印度へは普通委託販賣にて積出される。印度市場は、以前は暹羅に取りて甚だ重要なる市場であつたが、輸入稅が一五%に引揚げられ一方極東市場より益々大需要を見るに及び、印度向積送額は日本支那向積送額に凌駕されるに至つた。然し印度市場は良質の小割材を買付けてゐるが、支那に於ける小割材の需要は比較的安價に劣等品を積送するを以て滿足される模樣である。

支那よりの需要は變動が甚だしい。香港への積出には廣東の需要品を含んでゐるが、廣東は政局甚だ不安定であつて、河川に海賊の出沒する期間の運送に伴ふ困難のみならず、大なる兵火の怖れある場合は建築作業が大いに阻害されるが故に、右政變はチークの需要

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

に反動するものである。

日本よりの需要は角材及び厚板である。日本人は主として自然の木目を賞愛する國民であるが故に、日本人の需要する標準品は通常高級品で、彼等は従來其裝飾的價値を大いに利用したるものである。

支那及び日本に委託販賣として積送されることは普通であるが、角材は多く代理商に依り豫め行はれた賣買に對して積出されてゐる。

チークの積送に當り、購入者に自己の購入せしチークが如何なる實のものであるかを略々知得せしめる爲め、専門家は之に等級を附して居り、上記積出に先だちて行はれる賣買方法はこの事實に據つて行はれてゐる。價格は各等級共消費市場に於ける評判次第で定まる。或等級品は價格に大いに變動があり、さる取扱者連の賭博的本能に訴へてゐるが、然し大體に於て其堅度に對し名聲ある等級品が最高價格を唱へてゐる。尙等級別は唯角材のみでなく、厚板及び小割板の積出品に付ても勿論行はれてゐる。（未完）

（The Record. No. 22）

□生産制限第四年目英領馬來護謨輸出入諸統計

英領馬來

（一）輸出入總量

	輸出量	輸入量
第一期十一月—一月	九二、七〇六噸	三九、一〇五噸
第二期 二月—四月	九〇、四七三噸	三三、六七二噸
第三期 五月—七月	九一、六一〇噸	三七、六四八噸
第四期 八月—十月	一一〇、七〇〇噸	四二、七七〇噸
合計	三八五、四八九噸	一五三、一九五噸

註 輸出總量の內ヲテツキスとして輸出されしものは三、四六三噸なり。

（二） 純輸出高、再輸出高を含まず。

	最低額税金を支拂ひたるもの（普通）	超過税金を支拂ひたるもの	合計
第一期	六〇、七一〇噸	三、四一八噸	六四、一二八噸
第二期	六四、二二〇噸	一三六噸	六四、三五六噸
第三期	七〇、四三三噸	五噸	七〇、四三八噸
第四期	八二、八七五噸	六噸	八二、八八一噸
合計	二七八、二三八噸	三、五六五噸	二八一、七九三噸

◎第一期は相場高のため超過税支拂輸出高ありたり。

（三） 純輸出高中最低税金支拂の分二七八、二二八噸の地方別は左の如し。

馬來聯邦州	一五八、七一一噸
ジヨホール州	五七、九〇八噸
海峡植民地	三一、三九二噸

ケダー州	二二、三六八噸
ケランタン州	六、一三六噸
トレンガヌー州	一、七一三噸
合計	二七八、二二八噸

(四) 實際輸出高と輸出し得可き高との關係(則ちUnused Couponの問題)。

	一九二六年十月中輸出し得可き高則ち繰越及其月に出したるクーポンを加へたる高	十月中實際輸出高最低税を拂ひたるもの
聯邦州	二七、四六七噸	一五、四六三噸
海峽植民地	七、八二三噸	三、一一四噸
ジョホール州	九、六八四噸	五、八二三噸
ケランタン州	一、七一四噸	六〇八噸
ケダー州	五、三七五噸	二、二七七噸
トレンガヌー州	—	一七〇噸
合計	五二、〇六三噸	二七、四五四噸

右の二口を差引く時は次の如し(但しトレンガヌーは繰越なき故、算外に置く)。

十一月度へ繰越さる可き輸出可能高(Unused Couponの高)。

聯邦州	一二、〇六四噸
海峽植民地	四、七〇九噸
ジョホール	三、八六二噸
ケランタン	一、一〇六噸
ケダー	三、〇九八噸
合計	二四、八三九噸

(五) 海峽植民地市場に於けるストック在高

	彼南	新嘉坡	合計
一九二五年十一月	二、八四三噸	一六、九四五噸	一九、七八八噸
一九二六年一月	二、〇二一噸	一三、七〇五噸	一五、七二六噸
三月	二、四七九噸	一五、九一〇噸	一八、三八九噸
五月	二、七九二噸	一四、一七五噸	一六、九六七噸
七月	三、九七五噸	一九、一二六噸	二三、一〇一噸
九月	四、四三四噸	二一、五六三噸	二五、九九七噸
十月	四、〇一一噸	二二、六〇三噸	二六、六一四噸

一九二七年の護謨需給

一九二七年護謨需給に關するイー・エー・バーロー會社の豫想—英領馬來の標準生產量は先づ三十二萬五千噸、セイロンのは七萬五千噸、合計四十萬噸位と見て差支へなからう。而して大概に於て來年度は一志九片を維持する事は困難なりと見えて十一月より一九二七年一月まで八割、二月より四月まで七割、五月より七月まで六割、八月より十月まで六割の生產制限率とすれば、第一期八萬、第二期七萬、第三及び第四期六萬噸づゝの生產となる。則ち合計二十七萬噸である、蘭領東印度は一九二六年エステート十二萬五千、土人園七萬二千、合計十九萬七千噸であつたが、兩方共稍々減少してエス

デート十二萬、土人園七萬、合計十九萬噸と計算する。其他ブラウル二萬六千、佛領印度支那一萬二千、サラワク及びボルネオ一萬七千、印度ビルマ一萬七千、野生ゴム一萬、合計八萬二千噸とする。それで總合計は生產五十四萬二千噸となる。

然るに一九二六年の生產は馬來二十七萬、セイロン五萬四千、蘭領十九萬七千、ブラウル二萬六千、其他四萬、野生一萬、合計五十九萬七千噸でこれがために世界のストックは昨年度よりはニウ・ヨークに於て一萬六千、ロンドンに於て四萬三千、海峽植民地に於て、六千、合計六萬五千噸だけ增加して居るから、一九二六年度の消費額は差引五十三萬二千噸位であると推算することが出來る。則ち之を式にすれば(597,000＋A)－(65,000＋A)＝532,000 Aはストックの內增減なき部分を示す。之を基として一九二七年の消費を次の如く計算する。

北米合衆國	三十八萬	英國	四萬
獨逸	二萬五千	伊太利	一萬二千
露西亞	八千	其他の歐洲	八千
日本	一萬二千	カナダ	三萬
其他	一萬	合計	五十七萬噸

一九二七年一月一日に於けるストックは北米合衆國六萬七千、英國五萬、海峽植民地二萬五千、合計十四萬二千噸となる。其處で142,000＋542,000＝684,000　684－570,000＝114,000 これが一九二七年十二月三十一日の推定ストックである。

（南洋協會報告第一、五二一號）

尙ほ最近入手の情報によれば、英國植民省は錫蘭及英領馬來の護謨生產制限率（輸出可能率）を本期間（二月一日—四月三十日）七割變更實施のことに決定して居る。

□一九二六年度馬來聯邦州新設會社

馬來聯邦州官報二月四日付によれば、昨年（一九二六年）中に登錄された會社數が發表されてゐる。

內國會社

一九一七年會社法の規程に基づいて設立並に登記された會社數は五十六社、之れの公稱資本金總額は三五、七六四、五〇〇弗である。

前三箇年間と比較すれば次の通りとなる。

一九二三年	二二社	一二、三六七、七八四弗
一九二四年	二五社	一二、三二四、七六三弗
一九二五年	三八社	一九、二八五、一六六弗

因に一九二〇年には五四社の資本金三八、九三四、九二八弗であった。

右の五十六社中二社を除いて、皆何れも利益を見たのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

社中、三十四社は公益會社、殘りの二十二社は個人會社に屬する。

今之れを種類別に擧ぐれば次の如くである。

鑛業	一八
護謨及護謨栽培	一
護謨栽培	二〇
椰子栽培	一
油椰子抽出業	一
普通商業	六
活動寫眞業	一
病院	一
家屋建築業	一
銀行業	一
護謨加工製造業	一
衣裝製作業	一
鐵及鐵器取扱業	一
仲買業	一
新聞發行業	一

英國及外國會社

次に一九一二年英國及外國會社法の下に營業許可されたる會社數四十八、其の前三箇年に於ける比較數は夫々一九二三年の三十八、一九二四年の二十四、一九二五年の五十である。

前記四十八社の主要目的は次の樣である。

護謨栽培業	二六
鑛業	一五
火災及生命保險業	一
銀行業	一
一般商業	五

而して前記四十八社の國籍を示せば次の如くである。

英國	三二
海峽植民地	一二
濠洲	三
印度	一

（二月四日馬來聯邦州官報附錄所載）

□一九二六年中新嘉坡の護謨相場

昨年中に於ける最高最低相場次の如くである。

	最高	最低
一月	一五七仙	一〇九仙
二月	一一四仙	八四仙
三月	一〇八仙	八四仙半
四月	九四仙半	七六仙

五月	八二仙半	六六仙
六月	六九仙半	六四仙半
七月	六九仙⅞	六八仙
八月	七〇仙⅝	六三仙
九月	七二仙半	六七仙⅝
十月	七二仙⅝	七一仙⅝
十一月	七〇仙半	六二仙半
十二月	六五仙	六二仙

（二月二十二日華南銀行報告摘錄）

蘭領東印度

□蘭領印度の官業

一九二六年四月三日付デ・インヂニーア(De Ingenieur)誌上に目下賜暇歸朝中の蘭領東印度官業部長官ヒ・エ・ルロフセン氏が本業に關して同誌主筆アール・エ・フアン・サンデック氏に個人的に語つたものが掲げてあるが、其れに依れば五大官業の一九二五年度に於ける利益は約七五、〇〇〇、〇〇〇盾となるべく、又投下された營業資本は一月一日現在で大約四八七、〇〇〇、〇〇〇盾と計算されて居る。

次に前記五大官業の各々が擧げた利益は次表の通りである。

一、バンガ島錫礦業	三九、五〇〇、〇〇〇盾
二、石炭礦業	九〇〇、〇〇〇盾
三、鹽專賣業	一〇、一〇〇、〇〇〇盾
四、郵便電信電話業	三、〇〇〇、〇〇〇盾
五、國有鐵道竝に軌道業	二四、二〇〇、〇〇〇盾
純利益合計	七五、九〇〇、〇〇〇盾

之に對してフアン・デル・ワールデン氏は一九二五年度に於ける各官業の成績と一九二六年竝に二七年の豫想とを次の如く比較して居る。(千盾)

事業別＼營業成績	年次	總收入高	總支出高	總殘高	差引高	純殘高	資本金	利率
バンガ錫礦業	一九二五 (一)	六一、二九三	一八、一三三	四三、一六〇	一、三二四	四一、八三六	一三、一四〇	三一八%
	一九二六 (三)	四〇、八一八	一六、二一〇	二四、六〇八	一、四四七	二三、一六一	一三、八〇一（豫算）	一七〇%
	一九二七 (三)	四二、五二四	一六、二九五	二六、二二九	一、六五〇	二四、五六九	一四、三三八（豫想）	一七〇%

鹽事業	一九二五	(一) 一九、三六一	七、九〇一	一一、四六〇	〇、五〇七	一〇、九五三	一二、六八八	八六%
	一九二六	(三) 一九、一五二	八、〇〇〇	一一、一五〇	〇、五五七	一〇、九五三	一五、〇四五	八二%
	一九二七	(三) 一八、七五六	八、一九五	一〇、五六〇	〇、六〇三	九、九五七	一三、五一五	七四%
石炭鑛業	一九二五	(二) 一四、〇五〇	一五、六九〇	〇、五六〇	一、二八四	〇、九二四	一九、六六六	—
	一九二六	(三) 一八、四二五	一五、四四三	二、九三三	一、五三六	一、五九四	二一、八二六	六・四〇%
	一九二七	(三) 一五、七三五	一五、四九九	二、二三六	一、六〇二	〇、六〇五	三三、一五八	二七〇%
鐵道並に軌道業	一九二五	(一) 七四、九五三	四九、七八二	二四、八二一	八、九五九	一五、八五三	六〇〇、〇〇〇	二六四%
	一九二六	(三) 七三、五〇〇	五一、五八九	二三、一一一	九、一五一	一三、九六〇	六一〇、〇六八	二・一〇%
	一九二七	(三) 七七、三九二	五三、八一〇	二四、五八二	九、四五〇	一五、一三三	六二九、九七八	二・二五%
郵便電信電話事業	一九二五	(二) 三〇、〇八六	二三、三二四	六、七七三	三、二一七	三、〇五五	四五、四〇九(賃貸)	六・七〇%
	一九二六	(三) 三〇、〇九一	二四、三五三	六、七三八	三、七三七	三、〇〇一	四九、二九四(賃貸)	六%
	一九二七	(三) 三二、二二三	二四、七二六	七、四八六	三、七九六	四、二四六	四六、九二〇(賃貸)	九%
水力並に電氣事業	一九二五	比較する價値なし		—	—	—	—	%
	一九二六	(三) 一、六六一	〇、五〇四	一、四六六	〇、一三三	一、一一三	一二、九〇九(担造)	九%
	一九二七	(三) 二、〇三九	〇、五一三	一、五三六	〇、二五九	一、二六七	一三、一〇一(担造)	一〇%
金・銀鑛業	一九二五	(一) 一、九一八	〇、九四五	〇、九七三	(四) 〇、六五三	〇、三三〇	五、五四二(貸附利息)	六%
	一九二六	(三) 二、四二五	一、二四七	一、一七九	(四) 〇、八五九	〇、三一九	五、一七一(貸附利息)	六%
	一九二七	(三) 二、四三四	一、二九二	一、一四三	(四) 〇、八七九	〇、二六二	四、三六八(貸附利息)	六%

備考

(一)訂正數字

(二)ルロフセン氏の數字デ、インヂニーア誌上掲載數字

(三)豫算數字

(四)二〇%の償却金

次いで一九二一―二五年に於ける五大官業の營業の結果を見るに次の通りである。(百萬盾)

營業の結果	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年
總收入額	一八一・八	一六九・〇	一六一・〇	一九〇・三	二〇〇・〇
營業支出額	一五七・〇	一三七・七	一〇一・一	一〇九・八	一一五・〇
總殘高	二四・八	三一・三	五九・九	八〇・四	八五・〇
差引高	五・九	九・〇	七・八	八・三	九・〇
純殘高	一八・九	二二・三	五二・一	七二・一	七六・〇

(Koloniale Studien Oct '26 No. 5)

□蘭領印度に於けるジエルトン(Djeloetoeng)採集業

近來ジエルトンに對する世人の興味は著しく增加し、殊に米國に於て顯著となつて來た。次に揭げんとするものは本物產の採集、製造及び輸出狀況の大要である。

ジエルトン樹は荒野に成長し、大きな喬木で最も高い森林木の一に算へられて居る。主としてスマトラ及びボルネオの濕地に繁茂して居るけれども、本樹のみの純林と云ふものはない。常に他の樹木と混生し且つ樹間距離は約五〇米突位で、時として三〇〇乃至四〇〇米突に及ぶこともある。

テ・ウイチエル(Te Wechel)氏の言に依れば、最大なものは直徑一米突乃至二米、樹幹から枝まで三〇乃至五〇米突あるとの事である。樹幹は眞直に上方に延び、其最高點は稍々綢密な房型をなして居る。

ラテックスの採集される主なるものは Dyera Lawii Hookf 及び Dyera Laxiflora Hookf の二種である。前者は柔かく且つ褐色の多少斑點を有する皮を有し、葉は長く裂けて居るが、後者は堅く且つ黑色の皮を有し、葉は圓く且つ圓い角がある。

スマトラ——本島に於けるジエルトンは、他の地方にも本樹は無いではないが、主としてパレンバン及びジヤンビ地方に於て採集せられ、本地方のラテックスは Dyera Lowii Hookf 種から採液せられるのである。本樹は主として濕潤の低地に發育して居るが、稀に奧地の乾燥地にも成長して居ることがある。主要採集地はクブー地方であつて、本地方に於ては本種ラテックスをゲタ・メラブアイと稱して居る。

ボルネオ——ダイヤ人はジエルトンをパントウン(Pantoeng)と稱

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

し之に二種ある。其の一はパントウン・カプウル(Dyera Lowii Hookf)で他はパントウン・セナマン(Dyera Laxiflora Hookf)である。當地に於ては樹は主として南方に流れる大河間にあつて、土地の最も泥炭質な濕地に生長して居り、又サマリンダ方面にも發見せられる。

採集及び製造。ジエルトンの採集は地方當局の許可を得た土人によつてのみ行はれる。之は樹木の廢頽を防止するの目的で施行されて居るものであつて、パレンバン州に於てDjeloetoeng Keurなる名稱の下に施行されて居る本條令は禁則並に罰則を規定すると共に、一定の採集方法を指定して居る。而して本地方の住居人に對しては先優權を附與すると共に土人のみに之を許可して居る。若しパレンバン州に於て自分の所屬する部落以外の他の部落に於て採集せんとする時は、部落相互間に何等協定の存せざる限り森林の借料を支拂はねばならない。

許可期間は二箇月乃至三箇月であるが、最大期間としては一年である。然し許可所有者の要求に依つては、其の許可權を行使することが判明して居る場合には其の都度延期される。又許可區域の境介は、他の採集者との紛爭を惹起しない樣精密に明記される。

ジエルトン採集の許可を有するもの丶中には、屢々資本の窮乏に依り本許可を繼續的に利用することの出來ない場合がある。是る場合に於ては彼等は資金の前貸を爲すと共に生産品を買上げる商人と連絡をとり、其後他の五人乃至七人の採集者と、採集林を擴張せんが爲企業同盟を作る。

故に、之等の採集者は、納入すべき生産品に對する前貸代として彼等に食料品を支給する商人の手先に使用されて居るものと云ふも敢て過言ではない。使用契約が成立した場合に於ては、前以て協定した勞銀は直に前拂され、之を前貸として計算するのである。採集の準備作業としては、許可區域の、出來得べくんば中央部の河川の邊に假小屋を作る事及び切付を行ふこと等である。採液者の使用する器具は到つて原始的のもので、切付用小刀、石油空罐及び本製剝刀等が其の重なものである

東モンスーンの吹く時期に於ては、樹木は極めて小量の汁液しか含んで居らず且つジエルトンを浸して置くに充分な水が得られない爲、出來得る限り採液を制限するを原則として居る。切付は切付刀を以て地上一米位の場所の皮を幅二〇糎の環狀に之を爲すを常として居るが、馬利加に於ては之に採集用鑿を使用して居る。又魚骨形式の方法も亦行はれて居る。

樹皮の切付に際しては、樹の形成層まで傷けない樣に深く注意を拂はねばならず、木質まで傷けた場合には生産は減少する。

切付を行つた場合には直に切付面から乳液が流出するが、之を採集するは到底不可能である。一日平均三〇乃至四〇本の切付を行ふが、地方に依つては五〇乃至八〇本を爲すことがある。最後の樹の切付を終つた場合には、採集者は最初に行つた樹に立戻り木に密着

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して居る濃厚な乳液を剝き採り、且つ石油罐に受け入れたものを集める。此の場合不時の凝結を防止する爲乳液に其の三分の一の水を加へる。

朝九時頃仕事を始める時は、午後一時頃までに一方の樹木の收穫を終り、其の乳液を同日中に假小屋の中で製造するのである。斯く八方の收穫を終つた時は再び最初の場所に歸り、切付面の上方の皮を指二本又は三本の幅に切付け、其處から再び乳液を採るのである。採液者は斯くして地上二米の高さに達するまで之を繰返す。而して此處までには一年間を要する。因に一本の切付面の日產高は五乃至二〇カチである。

製造には二種の方法適用せられ、其の一は明礬使用法で他は石油・石膏使用法である。

明礬使用法に於ては、先づ石油空罐製の小圓筒一杯の明礬を一立の溫水に溶解し、石油罐一杯のラテックスを高さ一米突直徑五〇糎のペナガ樹皮で作つた槽の中に入れる。然し槽の內側には粘著を防ぐ爲前以て黃粘土を塗布して置かねばならない。然る後溶解した明礬液をラテックスの入れてある槽の中に注ぎ込み一生懸命で攪廻するときは、十分にして凝結を開始する。之の時二倍の冷水を加へ卽ち一罐の中に凝結しつゝあるラテックスの中に二罐の冷水を混入し、內部の混合を完全にする爲猶二時間位攪廻されねばならない。

石油・石膏使用法に於ては、石油罐で作つた小圓筒一杯の石膏を一立の冷水の中に溶解し、本溶液をラテックスと攪混し[illegible]斯して十分の後約半立の石油を加へ、凝結を開始し[illegible]スの量の二倍の水を入れるのであつて、他は明礬使[illegible]である。

前記の作業を終つた後槽を夜中冷涼な場所に置[illegible]に穴を開け餘分の水を排泄させる。然る後餘り固くない[illegible]居るジエルトンを槽からさり出し、之に溫水を加へ繩で[illegible]るまで捏れ、後運搬出來る樣になるまで水中に漬けて置くのである。

最も多く行はれる方法は明礬使用法であつて、本方法に據れば石[illegible]罐一杯のラテックスから約三一瓩のジエルトンを得ることが出[illegible]が、石油・石膏使用法に依る時は、同量のラテックスより約二五瓩[illegible]ジエルトンを得るのみである。然し乍ら明礬使用方法の缺點としては、生產品が多量の水分を含むことである。

ジエルトン樹の繁茂して居る土地の面積は、ヘクタール當り採集可能樹四本の割で約一、八〇〇、〇〇〇ヘクタールとされて居る故に、樹數は約七、二〇〇、〇〇〇本である。而して五〇本の樹よりは年に約一九瓩のジエルトンを生產する故に總產額は約二、七〇〇噸とならねばならない。然るに一九二一—二四年の各年平均產額は一、五〇〇噸であつた。因にトロムプ・デ・ハース博士は一九一〇年に於けるボルネオ、スマトラの年產額を年三〇、〇〇〇乃至四〇、〇〇〇噸と見積つたのである。

ジエルトンは八乃至一五%の護謨と二五乃至四〇%の樹脂とを含み他は主として水分である。パレンバン産は最も多量の護謨を含有(一五乃至一八%)し、之に次ぐはバンジヤルマシン産(一二乃至一四%)であつてポンチアナ産が最も尠ない。

護謨含有率の高低は新嘉坡市場に於ける市價建値の標準ともなるものであつて、パレンバン産はバンジヤルマシン産よりも高く、又バンジヤルマシン産はポンチアナ産よりも高く格付けられて居る、

取引上に於てはジエルトンは堅くして混合物なきものと、柔くしてプロンタン(Poelontan)と混合されて居るものとの二種に別たれて居る。本二種は軟弱で且つ彈力性に乏しく不快な彌漫する樣な臭氣を發し、色は白褐より青色に變化する。

ジエルトンは四角又は圓筒狀の塊をなして二擔又は三擔の箱詰とされ市場に出される。本商品の需要が或定量以上に達する時は粗製濫造が行はれるが、商人は其の品質等に頓着せず出來得る限り多量の仕入を爲さんとする故に、採集者は此の機を利用して是る不正を敢てするに至るのである。

ジエルトンは主としてチユーインガム製造に使用せられ、以前に於ては又護謨工業にも使用せられ護謨と混合せられたことがあつた。其後亦本品はアスベスト、セルロイド及びリノリウム工場にも使用せらるゝに至り、米國に於ては護謨靴製造工場に於ても盛んに使用せられるに至つた。然しリドレー(Ridley)氏の言に依れば、ジエルトン業の發達は本品が建築物の防水用混合劑として使用されるに至つたことに因るものであるとのことである。

輸出。本品の最も重要なる輸出港はパレンバン、バンジヤルマシン及びポンチアナ並にボルネオの南部及び南東部の諸地方である。

過去一一年間に於ける其の輸出量を示せば左の通りである。(單位瓩)

年次	パレンバン	南東部ボルネオ	西部ボルネオ
一九一五年	四、二三六、八一五	一、五〇五、六二三	二九七、六四六
一九一六年	三、四〇五、九二六	四、八三九、二六五	六三二、七六三
一九一七年	一、四九五、五五四	六、二六四、四九二	七〇七、二一七
一九一八年	六〇七、三〇二	一、九四〇、二六〇	四九五、一四三
一九一九年	八七四、五九八	五、三五九、八八二	六五四、一二三
一九二〇年	五五〇、九〇一	四、〇七五、九三二	五〇三、八六五
一九二一年	三〇一、八二〇	四二九、〇三六	七二、三二一
一九二二年	一八六、一二三	一、六八七、四三一	一二七、四二八
一九二三年	四〇七、八四九	二、六八四、六八七	一〇二、五三二
一九二四年	五五一、七八二	一、八四九、一二五	一〇八、一五四
一九二五年	一九三、〇〇〇	一、〇九〇、〇〇〇	一三八、〇〇〇

パレンバン及び南東部ボルネオよりの輸出は英國・獨逸・佛國・北亞米利加及び新嘉坡に仕向けられ、ポンチアナよりの輸出は新嘉坡のみに仕向けられて居る。

(Korte Berichten van Landbouw, Nijverheid en Handel Jan. 7, 27 No. 1.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

□護謨栽培上の重要問題

本文は去る十二月二十日にアムステルダムで行はれた和蘭護謨貿易組合總會の席上組合長アルヘル氏が試みた演說の大要である。

○消費高が豫想額以下であつた結果起つた市價の下落

護謨市場の現狀を診斷し且つ近き將來に於ける其の結果を卜するには、吾々は勿論明白な數字及び事實に依つて判斷せねばならない。而し統計なくしては之は不可能である。

吾々は高い統計税を支拂つて居ると云つても、護謨に關しては之を主として諸外國に抑ぎ其の報告に依らねばならない。又其數字を採用するに就ても深甚の注意を要するのである。

偖て此處に現在の狀態は如何であるかを判斷して見るに第一に、一九二六年に烙印された護謨市價下落の原因が奈邊に在るやの質疑が起るのである。

當年は、紐育相場は米封度當り九〇弗仙即ち標準品半瓩當り二四七仙を以つて取引が開始されたが、去る八月には三六弗仙即ち半基瓩當り九九仙に暴落し、現今に於ては三八弗仙即ち半瓩當り約一〇四仙に留まつて居るのである。

余の意見を以つてすれば、本市價の遂行は消費量が豫想より著しく尠なかつたことに基因して居るとしか思はれない。

最近數年同消費量は累進的に增加し、又其等の期間及び一九二六年に於ける護謨工業特に自動車製造工場の發達擴張は一九二六年度に於ける粗護謨の使用量を六〇三、〇〇〇噸と見積らせるに至つた。然るに現今に於ては周知の如く一九二六年度の消費量は五四六、〇〇〇噸を出ないであらうと豫想されて居るのである。

若し本見積額に達したとする時は、本年末に於ける在庫品は五七、〇〇〇噸減少せねばならない譯であつて、從つて現市價は半瓩當り約一〇四仙より多少高くならねばならないのである。

第二に起る質疑は、護謨工業が常に膨脹しつゝあるに拘らず如何にして豫想額と實際消費額の間に斯る不利な開きが出來たかである。本問題に對しては、余は之が說明を爲す充分な資料を持つて居る。

即ち、護謨は現在に於ては單に生產並に需要の目的物であるに留まらず國家政策の一要素となつたのである。一九二五年後半期に於ける市價の暴騰は、之を米國に負擔せしめ以つて對米戰債の支拂に當てんとする英國の下心を覺つた米國人をして不安を感ぜしめるに至り、斯る事實が其の成功を賞贊されて居るフーバー氏の運動の出發點であつたのである。而して米國中「護謨の消費を節減せよ」との叫びが起り、本宣傳は着々成功を收めたのである。即ち一九二五年に初まつた市價の暴騰は、其必然の結果として護謨製品の價格騰貴

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を併發し、從つて自動車所有者はタイヤーの買入貯藏を爲し、本買入は更に市價の暴騰を助長したのである。

刊行物に依るに工場への一般の注文は縮少され又目下粗護謨の需要も減少して居る。

更に製造業者は、今後の下落を豫想し目前必要なる數量の買入をも控えて居る。本運動は猶一九二六年の初期五箇月間に於ける不順なる天候に依り都合よく助長され、其の結果該期間に於ける總運轉杆數も著しく減少したのである。

○スチブンソン法實施の立脚點及び土人栽培護謨

世人は今日の市價下落を有名なスチブンソン法に基く英國生產者の制限率低下の結果であるとして居るが、余は本制度に關しては依然變ることなく同一の見地を保持して居る。

余は、若し本制度を實施しなかつたならば最善を豫期し得たと確信するものである。生產制限は自から英國の企業家に必要であつたと同樣に和蘭企業家にも亦必要であつたのであるから、何等法律的規定を設けなくとも結局此處に到達したに決つて居るのである。

而して英國側が、本强制々限制度の好影響は一九二五年に於ける市價の暴騰に依つて酬えられたと主張しやうとするならば、一九二六年の暴落も亦本制度の所爲に歸すべきである。

前記市價の下落は、全く蘭領植民地に於ける護謨生產の激增に依るものではない。此の點の觀察を爲すに當り余は、蘭領東印度の產額の大部分は英國人所有の農園から生產されて居り而も彼等に一九二六年二月一日からは生產の絕對自由を與へられて居ることを考慮せねばならないと思ふ。

蘭領印度に於ける一九二六年度栽培護謨の生產は、現在に於ては一九二五年の一〇六、〇〇〇噸に對し約一二四、〇〇〇噸以上に見積ることが出來ないのである。又蘭領印度に於ける土人護謨は生產增加の惧れあるとされて居つたが、一九二六年に於ては一九二五年の約八八、〇〇〇噸に比し七三、〇〇〇噸以上に昇らず從つて一五、〇〇〇噸の減產を示して居るのである。

土人護謨を含む蘭領印度の總產額は、一九二五年の一九四、〇〇〇噸に比し現在は一九七、〇〇〇噸と見積られて居る。從つて昨年の增加は約三〇〇〇噸にしか過ぎない。

土人護謨の生產に就いて尙一言を要する。

一九二五年十一月二十七日植民地學院に於て、農商工務部長官ルットヘルス博士は「蘭領印度に於ける土人護謨の將來」と題して次の如き講演を爲して居る。

「英一封度當り一志の價格が維持されて居る限り、土人護謨の生產額は差程の減少を示さず且つ猶全能力を發揮することが出來るのである。

又、勞働者の不足に依り地方に依つては殊にジャンビ等に於ては生產を制限することが出來るが、新生產地域卽ちボルネオ並にパレ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ンバンに於ては一般に單に一部地方に於てのみである。

最後の結論としては、若し市價が英一封度當り一志以下に下落したとしても、土人護謨栽培は一九三〇年には確に現在の二倍に達し、一九二五年の産額より計算する時は乾燥護謨約一五〇、〇〇〇噸を生産するに至るのである。而し乍ら其の間の各年度に於て生産が如何なる速度を以つて増加するやは之を明かにすることは出來ない。

若し注意深く採集する時は、一九二六年及び二七年の増加率は、一九二八―三〇年に於て一層莫大の増加を示す爲、僅少に過ぎないであらう。

現在の如き高市價は、過重の採液を行はしめるに至り、從つて生産は、後年に至つて、増加する代りに初年に於て著しく増加し、且つ、多くの護謨樹は過重採集の結果一時生産を中止するに至るであらうと。

此處に於て、土人は充分な勞力を以つて注意深く採液したか又はレットヘルス博士が云つた樣に土人は英一封度當り一志以上の市價を維持し得る根據の下に生産したかの二つの内の一つである。

周知の如く、一九二六年最初の十一箇月間に於ける標準品の平均市價は二志一片半であつた。此に拘らず、一九二六年に於ける土人生産は一九二五年に比し約一五、〇〇〇噸卽ち約一七%の減少を示して居るのである。

余は、最後に土人護謨栽培に於ける勞働者の勞働慾が市價を英封度當り一志以下に下落させて居らず、從つて一九二六年の結果はルットヘルス博士の意見と甚だしく相違して居ることが解るが之は本事實が之を證して居るとの結論を下したいのである。

○將來に於ける需給關係

次に余は將來に於ける結果を下して見やうと思ふ。

最初に、蘭領印度に於ける護謨栽培面積を一瞥することにするが、他の地方の事に關しては資料を缺いて居るから單に護謨栽培の中心地に關してのみ論ずることにする。

一九二〇―二三年間に於ては至る所同樣の經濟關係にあり、從つて其れに從つて生ずる結果に於ては、蘭領印度は他の護謨中心地と同樣の結果にあつた

一九一六年以後二四年に至る間、卽ち一九一六年に對し一七年後に於ける歐人護謨栽培の植付面積は各々一九、六、三½、四½、二½、二½、一一、一〇及び三%増加し、一九二〇―二四年間に於ける平均増加率は單に約三%にしか過ぎなかつた。

又同年間に於ける歐人農園の生産増加率は三七½、(一六、一八½、四½、(一九二一年に於ては一〇%の減少)、一六½、一三及び一〇½%である。故に一九二二―二四年に至る三箇年間に於ける平均増加率は約一三%であつた。又一九二四年に對する一九二五年の増加率及び一九二五年に對する一九二六年の増加率は約一五%である。而し一九二七年度に以後に於ては如何樣な數字を示すであらうか

う。

既に發表された各種農園の生產指數を良く研究する時は、幾多の農園は一九二六年度の見積數に達して居ないことが解る。而し會社に依つては既成農園の買收又は採液可能植付の增加等に因つて其以上に達して居るものもある。

經驗に徵しても明かである樣に、古い農園卽ち換言すれば年齡一五乃至二〇年に達した農園は、其の生產能力に於て絕頂點に達して居るか或は減退するものである。

次は世界生產と世界需要とであるが、之に關しては余は一九二〇―二六年間に關する次の資料を有つて居るのみである。

年次	世界生產(噸)	世界需要(噸)
一九二〇	三七〇、〇〇〇	三一〇、〇〇〇
一九二一	二八二、〇〇〇	二六五、〇〇〇
一九二二	四〇〇、〇〇〇	三八六、〇〇〇
一九二三	三八二、〇〇〇	四三四、〇〇〇
一九二四	四二〇、〇〇〇	四七五、〇〇〇
一九二五	五〇〇、〇〇〇	五五二、〇〇〇
一九二六	六〇八、〇〇〇	五四六、〇〇〇

之れに依れば一九二一年後卽ち一九二二乃至二五年に於ける各年の消費增加率は一二2/5、九2/5及び一六、1/5%で、平均一二2/3%である。而して一九二五年に比し一九二六年に於ける約六、〇〇〇噸の減少は、頭初に余が云つた如く其の理由に關しては最も注意する必要があるのである。

余は古い農園に於ける生產の增加及び一九二〇年に開始された植付の擴張は、一九二七年竝に其以後の各年の總生產額に强甚な影響を及ぼさればならないと云ふは餘り冒險すぎた確言であるとは思はない。

其故に、一九二七年に於ける需要は一九二六年に於けるが如き特殊の影響を蒙らず、又ストツクが增加しつゝあるにも拘らず市價に好影響を及ぼす樣な需給關係に再び戾るであらう。

〇米國の護謨プール及生產者の協調を論ず

余は本問題に就き數週間以來總ての生產關係者に其の意見を叩いて見た。余は、紐育に設立された米國の護謨プールは三大銀行と十二の大自動車工場との協同に依つて成立したものであると思ふ。

プールは周知の如く四〇、〇〇〇、〇〇〇弗の資本をもつて營業し且つ尠なくも三〇、〇〇〇、〇〇〇弗の價格に相當する數量の護謨を供給するを目的として居るのである。

ユナイテツド・ステーツ・ラツバー・カンパニーの社長は本購買組織に關し、本團體は米國消費者の爲護謨及び自動車製造業者が、工業者を不合理の高市價より擁護せん爲護謨市場に於て協力するを目的として居るのであると云つて居る。故に世人は高市價の復活を恐れて居るのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本工場主より成る團體は、活眼を以つて將來に於ける彼等の工業の進展を眺めて居ることは不思議である。

更に米國に於ける乘用自動車數は六人當り一臺の割合で既に其の絕頂に達したが又は達せんとして居るのであるが、此の膨大なる國に於けるバス數の七〇、〇〇〇臺は未だ其の發達の初期にあると云つて良い。又此處に等閑視することの出來ないことは、歐洲各國に於ては自動車業の擴張の餘地は殆十二分にあつて、其點からして歐洲は製造業者として、或は消費者として尙重要な役割を演ずることが出來ることである。

現在米國は、粗護謨市場に於ける不合理な高市價に對し鬪士として第一線に立たんとして居る。而し此處に注意すべき問題は、世人は過去に於て之を難詰する樣なことがあつたか否かである。余は本問題に對しては其の全部に肯定的回答を爲すことが出來ないと思ふ。或者に對しては其れを認めることが出來るが、一般から言へばそうでないのである。

二十二の和蘭護謨會社の年度報告に依るに、護謨の景氣年である一九二五年に於ては次の樣な事實が現はれるのである。

半听當り　七五—　九〇仙を以つて其の收穫を賣却せる會社數三
半听當り　九〇—一〇〇仙を以つて其の收穫を賣却せる會社數四
半听當り一〇〇—一二〇仙を以つて其の收穫を賣却せる會社數四
半听當り一二〇—一四〇仙を以つて其の收穫を賣却せる會社數六
半听當り一四〇—一六〇仙を以つて其の收穫を賣却せる會社數三
半听當り　一　六　二　仙を以つて其の收穫を賣却せる會社數一
半听當り　一　九　〇　仙を以つて其の收穫を賣却せる會社數一

製造業者が直接得る利益以外の市價昂騰の結果生じた大利益は總て貿易業者の手に落ちるのである。而し最後に若し製造業者が大銀行の援助を得て、出來得るならば直に市價を壓迫して値下を實現しやうとする時は生產者側は默つて之を見て居るであらうかが問題である。

吾々は本購買團體の危險を見くびることは出來ない。何となれば他の需要品の場合に於て既に醜い經驗をもつて居るからである。故に吾々は生產者として常に活眼を開いて居なくてはならない。買手は賣手の大切な友達であるが、賣手は必ずしもそうでない。而して、本問題の解決を爲すものは政府の手になる生產制限又は販賣組織でなく、實に生產者の協力にあるのであつて、それに依つて彼等に有利な市價を安定すると共に買手に損失を蒙らせない樣にすることが出來るのである。

余は以上の意見を結ぶに當り、護謨の將來は非觀より寧ろ樂觀するが勝であると云ふ結論を下したいのである。

(Soerabajasch Handelsblad Jan. 21 '27)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

英領印度

□一九二五—二六年度に於ける英領印度の對外貿易

主題の件に關し、一九二五—二六年度の「Review of the Trade of India」誌上に次の如く述べられて居る。

本年度に於ける英領印度の對外貿易は、一九二四—二五會計年度のそれと比較して幾分かの増加を示して居る。再輸出を含む輸出入額は、前年の三八七クローレス（一クローレスは六六六・六六六磅）に比し三八九クローレスであつて、總輸入額は一四三クローレスで總輸出額は二四六クローレスである。一九二四—二五年度に於ては本指數は各々一三七クローレス及び二五〇クローレスであつた。之に依つて見る時は、輸出入總額の増加は本年度の輸入増加に因るものである。次表は最近七年間の經緯を大戰前のそれと比較したものである。

年次	輸入（クローレス）	輸出（クローレス）
一九一三—一四	一八三	二四四
一九一九—二〇	一〇一	一九八
一九二〇—二一	一四二	一七二
一九二一—二二	一二四	一八二
一九二二—二三	一三八	二一四
一九二三—二四	一二〇	二四〇
一九二四—二五	一三七	二五〇
一九二五—二六	一四三	二四六

英領印度の主要輸出物産の一つは粗製精製等の綿花であつて、本物産の全輸出に於ける比率は一九二四—二五年度の二七%に對し一九二五—二六年度に於ては二八%である。而して粗綿花の輸出額は、一九二四—二五年の三、三二六、〇〇〇「バーレン」より一九二五—二六年には四、一七三、〇〇〇「バーレン」に増加した。英領印度粗綿の重なる需要者としては先づ第一に日本を舉げればならない。日本は二、〇八四、〇〇〇「バーレン」（昨年は一、六七一〇〇〇「バーレン」）を輸入し、之に次ぎ支那は五三八、〇〇〇「バーレン」（昨年に於ては二八四、〇〇〇「バーレン」）を輸入した。又歐洲への輸出は一九二四—二五年の一、一三九、〇〇〇「バーレン」より一九二五—二六年の一、二三五、〇〇〇「バーレン」に増加して居る。歐洲に於ける大顧客は主として綿を低廉な綿製品に製造して居る伊太利である。次表は英印綿の重な輸入國を示すものである。

國名	一九二五—二六年度（バーレン）	一九二四—二五年度（バーレン）
伊太利	四五六、〇〇〇	四八五、〇〇〇
白耳義	二四三、〇〇〇	二〇一、〇〇〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

佛蘭西	一九三、〇〇〇	一三四、〇〇〇
獨逸	二一八、〇〇〇	一七四、〇〇〇
英國	二二五、〇〇〇	一六二、〇〇〇
西班牙	七三、〇〇〇	九六、〇〇〇
和蘭	四七、〇〇〇	三八、〇〇〇

主要輸出港は孟買・カラチ及びマドラスであつて、各々輸出の六五%、二四%及び八%を占めて居る。

綿絲の生産高は、一九二四—二三年度の七一九、〇〇〇、〇〇〇封度より六八七、〇〇〇、〇〇〇封度に減少した。之は卽ち三箇月間引續いた同盟罷業の結果、製絲工場を閉鎖するを餘儀なくされたことに原因するものである。斯る生産減少は輸出にも數字上に其の影響を及ぼし、輸出は、一九二四—二五年度の三六、五〇〇、〇〇〇封度及び一九二三—二四年度の三八、五〇〇、〇〇〇封度に對し三二、〇〇〇、〇〇〇封度であつた、而して近年に於ては漸次減少するの傾向を示して居るのである。英領印度産綿絲の主要市場は支那・埃及・暹羅・海峽植民地及び波斯である。

又綿製品類の輸出も昨年より九%の減少を示して居り、總ての綿製品類の總輸出は一九二四—二五年の一八一、五〇〇、〇〇〇碼に對し一六四、八〇〇、〇〇〇碼であつた、生産も亦一、九七〇、四〇〇、〇〇〇碼より一、九五四、五〇〇、〇〇〇碼に減少した。次表は輸出數量及び仕向國の主なるものを示すものである。

品名	一九二三—二四年度(百萬碼)	一九二四—二五年度(百萬碼)	一九二五—二六年度(百萬碼)
生及び晒金巾類	三九三・五	五三五・五	五二二・二
毛布類(Chadars)	六九・九	六一・六	六二・二
ジユーテイス(Dhuties)	二六四・八	四五八・四	五一六・四
天竺布、ドメステイクス、シーテングス、	一三八・九	一七七	一七四・二
寒冷布及細綾綿布	二七・八	七七・三	七四・二
其他の種類	六八・五	一八二・〇	一六六・五
合計	八七二・四	一,三六二・四	一,四一四・三
捺染反物	三九一・九	五八八・〇	五四〇・三
反物類合計	一,二六四・三	一,九七〇・四	一,九五四・五

仕向國	一九二五—二六年度(百萬碼)	一九二四—二五年度(百萬碼)
メソポタミア	三四	四九
波斯	二九	三三
海峽植民地	二六	二一
錫蘭	一八	一六
東部亞弗利加	一八・½	二九

第二位重要輸出品たる黄麻は一九二四—二五年度と比較して七%の減退を示し、輸出額は一九二四—二五年度の三、八九八、〇〇〇個

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に對し一九二五—二六年度に於ては三、六二四、〇〇〇梱であつた。

本品の主要輸入國は次表に示す通りである。(單位バーレン)

國外	一九二五—二六年度	一九二四—二五年度
英國	九七七、〇〇〇	九六七、〇〇〇
獨逸	八一〇、〇〇〇	一、〇六〇、〇〇〇
其他の歐洲	一、二一〇、〇〇〇	一、二七八、〇〇〇
米國	五一一、〇〇〇	四四〇、〇〇〇
其他の諸國	一一六、〇〇〇	一五三、〇〇〇
合計	三、六二四、〇〇〇	三、八九八、〇〇〇

英國への輸出增加は、大陸地方に黄麻絲及袋の需要起りたる結果ダンデー(Dundee)に於ける紡績業者及製袋工場の注文が增加したことに原因して居るのである。

英領印度の黄麻袋の輸出は、前年と同數量の四二五、〇〇〇、〇〇〇箇であつた。次表は黄麻袋の輸出狀況を示すものである。

主要仕向國	一九二五—二六年度(百萬箇)	一九二四—二五年度(百萬箇)
濠洲	七〇	七三
英國	四三	四二
智利	四三	四二
玖瑪	四〇・七	三五
北米合衆國	二六・七	二五・七
爪哇	三二	二五
海峽植民地	一五・七	一一
日本	一六・七	一八・七
南亞弗利加	一八	一七
埃及	一一・七	一三・七
暹羅	九	一〇・七
印度支那	九	九

亦黄麻織物も、一九二四—二五年の一、四五六、〇〇〇、〇〇〇碼より一九二五—二六年の一、四六一、〇〇〇、〇〇〇碼に增加した。

本年に於ては穀類・豆類及び麥粉の輸出は減少を來し、前記生產物の總輸出高は、一九二四—二五年度の四、二六〇、〇〇〇噸に對し、三、〇六三、〇〇〇噸であつた。而して差引一、二〇〇、〇〇〇噸の大減少は、主として小麥・燕麥・豆類及び玉蜀黍の減少に因るものである。次表は其の減少の度合を示すものである。

品名	一九二五—二六年度(千噸)	一九二四—二五年度(千噸)
小麥	二一二	一、一一二
小麥粉	六七	七八
燕麥	四二	四四九
豆類	一三九	二八九
玉蜀黍	二	二五

主要輸出物產たる米は確實に輸出增加を示し、脫穀米の輸出は二、五四九、〇〇〇噸(前年は二、二七三、〇〇〇噸)脫穀米は三六、〇〇〇

噸(前年は二八、〇〇〇噸)であつた。然し。米は重要なる輸出物產であるとは云へ主として國內消費の目的で栽培されるのであつて、英領印度の一九二五―二六年度に於ける總產額は脫穀米三〇、四〇〇、〇〇〇噸であつた。米の最大輸入國は亞細亞諸國であつて、其の輸入額は一九二五―二六年には一、五三二、〇〇〇噸(前年に於ては一、一六五、〇〇〇噸であつた)に昇り、總輸出額の五〇%以上を占めて居る。歐洲に於ては獨逸・和蘭及び英國は其主なる輸入國であつて、合計五六七、〇〇〇噸(前年は六一〇、〇〇〇噸であつた)を輸入した。

其他の農業物產の中之に亞ぐものは、含油種子である。本種子類の總輸出高は一、二五〇、〇〇〇噸であつて、一九二四―二五年度と比較する時は七八、〇〇〇噸の減少を見て居る。然し之にも拘らず含有種子は英領印度の輸出物產中第四位を占めて居る。

主要なる含油種子の種類及び其輸出數量は左表の如し。

種類	一九二五―二六年度(千噸)	一九二四―二五年度(千噸)
亞麻仁種子	三〇八	三七一
菜種子	一一二	二六一
落花生	四五五	三七六
蓖麻子種子	一一〇	九五
棉花種子	一九七	一六一
胡麻種子	四〇	三一
其他の種子	二八	三三
合計	一、二五〇	一、三二八

亞麻仁種子輸出の減退は、本品の歐洲に於ける生產增加に因るものであつて、又菜種子輸出の五〇%の減少は收穫の僅少に基因するものである。

英領印度の重要なる含油種子は落花生で、前表にも示す通り輸出は七九、〇〇〇噸增加した。而して歐洲に於ける落花生の需要は遂に增加しつゝある故に、本品の生產も將來に於て亦一層の增加を見ることは明かである。殊に獨逸及び佛蘭西の兩國は、英領印度產落花生の三分の二を消費して居る。然し他の歐洲諸國に於ても亦次表に見る如く彼等の輸入高は年々增加して居る。

國別	一九二五―二六年度(千噸)	一九二四―二五年度(千噸)
佛國	二〇四	一九八
獨逸	九一	四〇
和蘭	七五	三九
伊太利	三七	二二
西班牙	二三	二三

蓖麻子種子の大なる得意先は北米合衆國であつて、一九二四―二五年度の三二、〇〇〇噸に對し四四、〇〇〇噸を輸出した。之に亞いで英國の三〇、〇〇〇噸(前年は二五、〇〇〇噸)及び佛國の一八、〇〇〇噸(前年は一六、〇〇〇噸)等である。

茶に關しては次に之れを詳細に報告することにする。依つて此處

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

には之れを省く。

革及毛皮　本品の輸出は本年に於ては差程増加を示さなかつた。而して獸皮及び非獸皮竝に毛皮さで合計六五、〇〇〇噸であるが、一九二四—二五年度に於ては輸出は六四、〇〇〇噸であつた。輸出皮革の重なるものは牛皮・山羊皮・水牛皮及び羊皮であつて、中部歐洲は非獸皮の最大得意先で、又北米合衆國は非獸毛皮の八%を輸入して居る。因に獸皮竝に獸毛皮の九〇%は英國へ行くのである。

漆の輸出は二六%増加し、一九二四—二五年度の四二七、〇〇〇「セントウイート」(一セントウイートは五〇瓩)に對し、一九二五—二六年度に於ては五四〇、〇〇〇「セントウイート」であつた。然し其七七%はシエラックである。シエラックの輸出は一九二四—二五年度の三二七、四〇〇「セントウイート」より四一六、六〇〇「セントウイート」に増加し、其の重なる需要者は次の通りである。

國別	一九二五—二六年度（セントウイート）	一九二四—二五年度（セントウイート）
北米合衆國	二二七、〇〇〇	一七二、〇〇〇
英國	八三、〇〇〇	六六、〇〇〇
獨逸	二三、〇〇〇	二八、〇〇〇

次表は英領印度各種物産の輸出狀況を示すものである。

物産名	特産單位	一九二五—二六年度	一九二四—二五年度
鑛油	ガロン	八,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
植物性油(白檀油及揮發性油を含む)	ガロン	一,六三三,〇〇〇	一,三三二,〇〇九
動物性油	同	九六,〇〇〇	三六六,〇〇〇
鑛物及鑛石	噸	六二九,〇〇〇	六八四,〇〇〇
護謨	封度	三二,五〇〇,〇〇〇	一八,〇〇〇,〇〇〇
腦油滓精	噸	一九一,〇〇〇	一九五,〇〇〇
珈琲	セントウイート	二〇五,〇〇〇	二四二,〇〇〇
香料	同	三四三,〇〇〇	二七五,〇〇〇
チーク材	立方噸	六四,二〇〇	四七,五〇〇
麻	セントウイート	六二四,〇〇〇	六六九,〇〇〇
硝石	同	一三四,〇〇〇	一六三,〇〇〇
煙草	封度	三七,〇〇〇,〇〇〇	四三,〇〇〇,〇〇〇
纖維物産	噸	二九,八〇〇	三六,五〇〇

英領印度の對外貿易中輸出入共在首位にあるは英國及び英領各地で、之に次いで重要なものは歐洲大陸・北米合衆國及び日本である。蘭領印度さの貿易は先年に於ては七・二%であつたが、本年に於ては總外國貿易の七・七%である。蘭領印度よりの輸入は主さして砂糖及び鑛油で、當領への輸出の重なるものは黄麻袋である。

(Korte Berichten voor Landbouw, Nijverheid en Handel. Jan. 14 '27.)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

□錫倫の富源茶及護謨に就て

錫倫は今や未だ曾て經驗せる事無き最上の繁榮を齎らしてゐる。元來一農業國なれば、其の經濟的生命は殆んど西方諸國に於ける其の生産物に對する需要に左右されてゐる。倫敦に於ける護謨相場の變動、紐育に於ける茶市場の不活發さ、若くはビルマ又は印度支那に於ける米穀の凶作等は、總て錫倫の經濟的生命に反應するのである。

一九二六には錫倫の生産物の總てに對して可成りの需要があつた。輸出品の大部分が世界の市場に於て高價に賣却された事と、此處數年間に現はれた相場に激しい變動が無かつた爲に、輸出輸入共に一般の氣配は樂觀的であつた。そして留比價の絕えざる回復は內國市場に於ける購買力を非常に增進した。

錫倫は所得稅の賦課せられない國の一つであるが、其の他の租稅は其當時の國庫の需要を滿して尙餘りある程賦課せられるので、每年其の收入は支出よりも非常に多くの增加を示してゐる。

鐵道の運賃率は非常に低廉となり、最下流の土人すら此の現代的な運送機關を利用し得るやうになつた。旣設線の擴張が目下考慮中であり、更に新線も計畫されてゐる。車輛は常に標準品を維持する爲に絕えず取換へられてゐるので優秀である。

公道は自動車輸送に備へる爲めに引續き改良せられてなり、新道は洪水の被害を受けざる樣高く造られ、尙コロンボ市の主要道路も不斷に增加する自動車交通に備へる爲め擴大せられてゐる。

輸入業者の言ふ所に據れば、以前は贅澤品と認められたものも、現在は必要品として購入されてゐる。ラヂオの販賣數は除々に而も確實に增加を示し、蓄音器・ピアノの需要も明らかに增進した。コロンボに於ける農園の支配人や大商館の代表者は常に最新型の自働車を走らせ、內國商業に從事してゐる市內商人は、一般消費者の購買力の增加したのを見て、益々大なるストックと益々良質の商品を齎らしつゝある。

錫倫の繁榮はその輸出入に負ふ所が非常に大であるから、海運の便と云ふ事は大切である。コロンボは只一つの重要な港であり築港された其の港灣は、錫倫全島の貨物集散地として活躍してゐる。錫倫には其の他ガレー、トリンコマレーのやうな天然の良港もあるが、惜しい事には此等の諸港は立派な背後地を有せず、又相當な交通の便と人口を持つて居らない。

コロンボは實際東洋に於ける主要港の一であつて、「東洋の岐路」と言ふ語は他の如何なる港よりもよく當嵌るであらう。歐洲及支那間に來往する船舶は總てコロンボに投錨し、又歐洲及濠洲間に航海する船舶も亦寄港してゐる。コロンボは又印度・ビルマ・海峽植民地

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

等無數の航路と連結し、更に東部及南亞弗利加の諸港とも交通してゐる。出入船舶表に依れば一九二五年の入港船舶は一九二四年に於けるよりも二五四隻の増加を示し、英國の船舶はその大多數を占め、和蘭陀・日本・獨逸之に次ぎ亞米利加船は第八位にある。

一九二五年に於ける錫倫の輸出額は四九二、四八九、〇〇〇留比に達し、一九二四年度の三八五、三五四、〇〇〇留比に比し非常の増加を示してゐる。最も主要なる生產物は茶及護謨の二であるが其の他の主要輸出品は古々椰子及其副產物・カカオ・肉桂・黒鉛及薄荷油である。

次表は一九二四年及一九二五年に於ける錫倫の主要輸出品を示すものである。

品目	一九二四年	一九二五年	單位
紅茶	二〇一、九四七、六二五	二〇八、一〇四、三〇七	封度
綠茶	一、七三二、三八八	一、三八九、二三九	同
護謨	八三、六六六、五三二	一〇二、三六一、七〇〇	同
護謨汁液	二九、五四四	三、七五〇	ガロン
カカオ	七〇、三四四	六八、七〇七	ハンドレッドウエイト
白豆蔻	三〇五、一四二	二五三、五六二	封度
肉桂皮片	三、七五一、八九二	三、二八四、六七六	同
肉桂經木	一、四二九、七六四	一、三六四、八三七	同

品目	一九二四年	一九二五年	單位
椰子油	五四六、三八六	六一五、二六九	ハンドレッドウエイト
コプラ	一、七五九、五一四	二、三六〇、六五〇	同
乾燥椰子實	九七、二五一、九二〇	八九、四三一、一〇〇	封度
椰子油糟	—	一六九、三五二	ハンドレッドウエイト
椰子實	二六、七〇二、八六七	二三、九五一、四五八	箇
黒鉛	一九二、四八五	三〇五、六〇八	ハンドレッドウエイト
椰皮線	—	一二八、四三四	同
硬毛椰子纖維	—	一五五、四六〇	同
褥用椰子纖維	—	二九八、三七五	同
薄荷油	一、四〇五、二七三	一、四〇七、八〇〇	封度

一九二五年に錫倫市場に於て取扱はれた茶の數量は、一九二四年より約五、〇〇〇、〇〇〇封度の増加を示して例年の記錄を破り、茶業の先見込は益々有望である。錫倫茶が既に紹介され賞味せられてゐる地方にては其の消費は大體に於てよく支持されてゐるが、新市場に於ても錫倫產茶は或る一定量を確實に需要され、之に對する供給も益々増加されてゐる。

一九二五年の當初に於ては一般に、スチブンソンの護謨生產制限案が此の十二箇月には計畫されたやうな結果を齎すものと思はれてゐた。何となれば創案者の希望は此處二年間に十二分に實現された。護謨生產者は五月の中頃迄は彼等の努力と投資に對し相當の利益を得て來たが、護謨相場の狂騰により忽ち非常な利益を獲得したのであつた。錫倫の現在の繁榮は大部分此の制限案の採用に與つてゐる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事は否定出來ない。一九二五年の終りに於て約四四五、〇〇〇英反の土地が護謨栽培に使用せられてゐたが、一九二〇年には三九七、〇〇〇英反に過ぎなかつた。

一九二四年及一九二五年に於ける護謨の輸出先を比較表示すれば次の如くである。

輸出先	一九二四年	一九二五年	單位
英本國	八、七七八	三、一四九	噸
歐洲大陸	二、九七八	二、五九九	同
北米合衆國	二五、二五六	三八、八九三	同
濠洲	一五三	八九六	同
日本	一二四	九八	同
其他諸國	六三	六三	同
合計	三七、三五一	四五、六九七	噸

大體に於て一九二五年は、一般に價格は一九二四年程の騰貴は無かつたが椰子にとつては順調な年であつた。コプラは商業會議所の統計に依れば二、三六〇、六三〇ハンドレッドウエイト輸出され、一九二四年の輸出に比し六〇一、一一五ハンドレッドウエイトの增加を示してゐる。然し此の乾燥椰子事業は國內に競爭工場の增加した事と、北米からの需要が減少した爲に價格の暴落を惹起した。其の最大の購入國は北米合衆國であるが、一九二四年の六六、四八五に對し二五年には一一五、三九三ハンドレッドウエイトを購入してゐる。

錫崙への輸入は一九二四年の三〇二、七三四、四九〇留比より、一九二五年の三五一、三二八、七〇二留比に增加し、約五〇、〇〇〇、〇〇〇留比の增加を示し英領印度本土・ビルマ及英本國が其各二五%、二四%、二二%を占めてゐる。

(From Commerce Report No. 3, Jan. '27)

其他

□南洋各植民地重要都市別人口、及在住邦人表

	最近人口數	現在留邦人數	附近を合せたる現在留邦人數
米領比律賓全部	（一九一八年國調）	八、六七四	—
マニラ市	二八三、六一三	一、二一〇	—
ダバオ市	一〇八、二二二	—	四、五七一
佛領印度支那全部	—	三三一	—
海防市	一〇六、五五八	五二	一八七
河內市	一〇一、八五八	六七	—
西貢市	一〇八、五六六	—	一四四

暹羅王國全部（一九二四―二五年度調査）		三二一	—
盤谷市	五七七、三八四	二五四	—
英領馬來全部（一九二一年國調）		六、五三六	—
新嘉坡市	三五〇、三五五	—	二、七七〇
彼南市	一二三、〇六九	—	一七五
マラッカ市	三〇、六七一	—	—
コーランポー市	八〇、四二四	—	—
蘭領東印度全部（一九二〇年國調）		四、五五四	—
爪哇全部	—	二、三二九	—
スマトラ全部	—	一、一九二	—
バタビヤ市（タンジョンプリオ バタビヤ ウエルテフレデン）	二五三、八一八	—	—
バンドン市	九四、八〇〇	—	—
メダン市	四五、二四八	—	—
ジョクジャ市	一〇三、七一一	—	—
スマラン市	一五八、〇三六	—	—
スラバヤ市	一九二、一九〇	—	—
マカッサ市	五六、七一八	—	—
メナド市	一七、〇六二	—	—
英領ボルネオ全部	—	五七五	—
サンダカン市	一八、二八七	—	—
タワオ市	八、八二三	—	—

備考

(1) 第二欄及第三欄は全部外務省通商局人口表（大正十四年十月一日現在調）に據つて居る。

(2) 佛領印度支那中の海防市は本年（一九二七）正月の調査により、河内・西貢の兩市は何れも一九二六年度年鑑によつたものである。

General Business Conditions in the U. S. (N. C. D. N. Jan. 29, '27.)

Rubber's Year of Disillusionment (N. C. D. N. Feb. 11, '26.)

墨 西 哥

Calles More Rigid in New Church Bill (N. Y. T. Nov. 7, '26.)

Obregon Blames Church for Strife (N. Y. T. Nov. 8, '26.)

Our Note to Mexico Sharpest Yet Sent (N. Y. T. Nov. 11, '26.)

Mexico will Send Strong Note Here (N. Y. T. Nov. 16, '26.)

Sheffield Concludes Mexican Conferences (N. Y. T. Nov. 16, '26.)

Diaz Asks Our Aid in Checking Mexico; Warning by Kellogg (N. Y. T. Nov. 18, '26.)

Pope Pius Assails Mexican 'Tyranny' (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

Crisis with Mexico Shown in Four Notes on Land Laws; Break Likely to Come Jan. 1 (N. Y. T. Nov. 24, '26,)

Mexican Senators Back Calles Stand (N. Y. T. Nov. 26, '26.)

Mexico Again Raises a Sharp Issue (N. Y. T. Nov. 28, '26.)

Says Our Oil Firms Submit in Mexico (N. Y. T. Nov. 30, '26.)

其 他

American Forces May Establish Nicaraguan Peace (N. Y. T. Nov. 19, '26.)

Nicaragua Inquiry by Senate Hinted (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

Exiled Nicaraguans Ask Us to Keep Out (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

Washington's Eyes Now on Guatemala (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Start New Drive for Farm Relief (N. Y. T. Nov. 23, '26.)

Competition Blamed for High Farm Wages (N. Y. T. Nov. 23, '26.)

Fall-Doheny Jurors Hear Case Outlined by Opposing Counsel (N. Y. T. Nov. 24, '26.)

Says Harding Aimed to Break with Fall (N. Y. T. Nov. 24, '26.)

Mrs. Pratt Caustic as Budget Passes (N. Y. T. Nov. 24, '26.)

Navy Planes Start 2,200 Mile Flight Direct to Panama (N. Y. T. Nov. 24, '26.)

Engineers at Odds on Lake Water Way (N. Y. T. Nov. 24, '26.)

Witnesses Tell of Efforts by Fall to Hide Source of $ 100,000 Loan (N. Y. T. Nov. 25, '26.)

Says Republicans Favor Debt Cuts (N. Y. T. Nov. 25, '26.)

Divorce Rate Gains, Exceeds Marriages (N. Y. T. Nov. 26, '26.)

Vital Law Point up in Oil Trial To-day (N. Y. T. Nov. 26, '26.)

Battle in Oil Trial Over Doheny Story of His Loan to Fall (N. Y. T. Nov. 27, '26.)

Scripps Newspaper Chain Growing Fast (N. Y. T. Nov. 27, '26.)

White Star Deal Again Reported (N. Y. T. Nov. 27, '26.)

White Star Bought by the Royal Mail for $ 34,000,000 (N. Y. T. Nov. 28, '26.)

Prosecution Calls Fall's Son-in-law (N. Y. T. Nov. 28, '26.)

Talk of a Move to Unseat Watson (N. Y. T. Nov. 28, '26.)

Tardy Fame Comes to Josiah W. Gibbs (N. Y. T. Nov. 28, '26.)

Reply to Prof. Ripley on Corporate Accounts (N. Y. T. Nov. 28, '26.)

Alaska Yield Secrets of First Americans (N. Y. T. Nov. 28, '26.)

Our Living Standard Highest in History, Says Hoover Report (N. Y. T. Nov. 29, '26.)

Maine Fixes To-day Control of Senate (N. Y. T. Nov. 29, '26.)

Fall and Doheny Versions of the $ 100,000 Cash Loan are Admitted as Evidence (N. Y. T. Nov. 30, '26.)

Excelsior Repeats Attack on Wilson (N. Y. T. Nov. 30, '26.)

Andrews Outlines Expedition Plans (N. Y. T. Nov. 30, '26.)

Sale of the White Star Line (N. Y. T. Nov. 30, '26.)

American Scientists Step Beyond Einstein. By W. Davis (C. H. Vol, XXV. No. 5, Feb., '27. P. 727.)

Latin America's Attitude Toward the League of Nations. By H. Lobo and V. A. Belaunde (C. H. Vol. XXV. No. 5, Feb., '27. P. 704.)

Is America an Idealist Nation ? By Gustavus Myers and V. F. Calvertion (C. H. Vol. XXV. No. 5, Feb., '27. P. 635.)

The Silver Situation in America (C. W. R. Vol. wXXIX. No. 5, Jan. 1, '27. P. 115.)

De Politiek der V. S. ten Opzichte van Latijnsch Amerika (S. Hb. Jan. 7, '27.)

Rapidly Growing Industry (N. C. D. N. Jan. 18, '27.)

U. S. Manufacturers' Rubber Combine (N. C. D. N. Jan. 26, '27.)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Our Russian Policy is Tested by Precedents (N. Y. T. Nov. 7, '26.)

Greater Battle Opens Over Dry Law (N. Y. T. ov. 7, '26.)

Banks Grow in Size as Mergers Multiply (N. Y. T. Nov. 7, '26.)

Democrats Attack Tax Rebate Scheme; Financiers Back it (N. Y. T. Nov. 7, '26.)

Wall Street Hails Tax Rebate Plans (N. Y. Y. Nov. 7, '26.)

Prohibition Rises as Big 1928 Issue in Talk at Capital (N. Y. T. Nov. 7, '26.)

Senate Radicals Hold Balance (N. Y. T. Nov. 7, '26.)

Hoover Tells Gain by Ending Waste (N. Y. T. Nov. 8, '26.)

Mellon Proposes Credits Instead of Tax Refunds (N. Y. T. Nov. 9, '26.)

Non-Partisan Action for Quick Tax Cut Urged by Coolidge (N. Y. T. Nov. 10, '26.)

Copeland Attacks Coolidge on Rebate (N. Y. T. Nov. 10, '26.)

Fall and Doheny Arraigned in Court (N. Y. T. Nov. 11, '26.)

Canada Appoints Vincent Massey, Her First Minister to Washington (N. Y. T. Nov. 11, '26.)

World Court Entry Only on Our Terms Coolidge Says in Kansas City Speech; Main Responsibility is for America (N, Y. T. Nov. 12, '26.)

Full Text of President's Armistice Day Speech (N. Y. T. Nov. 12, '26.)

Coolidge Speech Stirs Senators at Capital; Move to Withdraw from World Court Forecast (N. Y. T. Nov. 12, '26.)

Proposes Merger of Federal Boards (N. Y. T. Nov. 12, '26.)

Declares Coolidge Preaches War Gospel (N. Y. T. Nov. 13, '26.)

Mellon Now Favors Return of 15 % Tax (N. Y. T. Nov. 16, '26.)

Coolidge Now Backs Tax Credit in 1927; Wants House to Act (N. Y. T. Nov. 17, '26.)

M'adoo 1928 Leader on a Dry Platform, Meredith Predicts (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

'Ships at any Cost,' Decision at Hearing (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

Stage is Now Set for Oil Lease Trial (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

Basic Report Made on St. Lawrence Plan (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

Coolidge Unmoved by Tax Cut Pleas (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

Coodyear Officers Sued for $ 15,000,000 (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

Meridith's Plea to Tix Crop Prices (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

Government Plans to Set Up Company to Distil Whisky (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

Seven Oil Lease Actions (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

Fall and Doheny Now Step to the Bar (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

Wheeler Opposes Mellon Liquor Plan (N. Y. T. Nov. 22, '26.)

Fall Says He Welcomes Fraud Trial To-day; Asks a 'Fair Jury' Complains of 'Articles' (N. Y. T. Nov. 22, '26.)

Jury Picked in Trial of Fall and Doheny and put Under Guard (N. Y. T. Nov. 23, '26.)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Why the Norwegians Voted Out Prohibition (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

Yugoslavia's Unity is Aim of Premier (N. Y. T. Nov. 7, '26.)

Yugoslavia's Budget Down (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

■阿 弗 利 加■

Africa's Wealth Again Calls to White Races (N. Y. T. Nov. 14, '26.)

De Handel van Egypte (L. N. e. H. Jan. 21, '27.)

Afrikaans Language Recongnized in South-Africa. By E. Brookes (C. H. Vol. XXV. No. 5, Feb., '27. P. 693.)

■兩 米 大 陸■

北 米 合 衆 國

75 Paid 1924 Tax on Incomes Larger Than $ 1,000,000 (N. Y. T. Nov. 1, '26.)

Col. Smith Defeats Brennan in Illinois (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

Donahey and Willis are Ahead in Ohio (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

Vare is Winner in Pennsylvania (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

Indiana Senators Both Re-elected (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

City Elects Wagner (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

House is Republican (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

Seventieth Congress (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

Volstead Referendum (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

Wet Vote is 4 to 1 (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

Butler is Defeated in Massachusetts (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

Republicans Keep Control in Albang (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

Coolidge Facing a Hostile Senate (N. Y. T. Nov. 4, '26.)

As Mr. Rogers Sees Election on the Morning Afterward (N. Y. T. Nov. 4, '26.)

Seventieth Congress (N. Y. T. Nov. 4, '26.)

Ottinger only Hope of Republicans in Democratic Sweep (N. Y. T. Nov. 4, '26.)

Foresee Wet Issue Dominating in 1928 (N. Y. T. Nov. 4, '26.)

Six States Vots Wet (N. Y. T. Nov. 4, '26.)

Judge English Quits ; House Prosecutors Move to Drop Trial (N. Y. T. Nov. 5, '26.)

California is Back Among Dry States (N. Y. T. Nov. 5, '26.)

Kellogg Bars the Entry of Mme. Kollantai, Soviet Woman Envoy, on Her Way to Mexico (N. Y. T. Nov. 5, '26.)

Rebate on Taxes of 1925 to be Asked by Coolidge ; May be 10 to 12 Per Cent (N. Y. T. Nov. 6, '26.)

Americans Pleased as Arms Talks Fed (N. Y. T. Nov. 6, '26.)

Butler Warns Party on Prohibition Issue (N. Y. T. Nov. 6, '26.)

Van Sweringen Plan Switches to C. & O. as Basis of Merger (N. Y. T. Nov. 6, '26.)

State Wets Ready for Bottle in 1928 (N. Y. T. Nov. 7, '26.)

Congress Seeks Shipping Policy (N. Y. T. Nov. 7, '26.)

Digitized by Google   Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Italy Angers Yugoslavs (N. Y. T. Nov. 18, '26.)

Fascisti Tell Plan to Develop Rulers (N. Y. T. Nov. 22, '26.)

Clamors for Truth About Garibaldi (N. Y. T. Nov. 23, '26.)

Fascisti Arrest Seamen's Despot (N. Y. T. Noq. 23, '26.)

Move by Mussolini Makes Paris Stir (N. Y. T. Nov. 28, '26.)

The Italian Silk Industry (N. C. D. N. Feb. 16, 17, '27.)

露　西　亞

Nations Recognizing Russia (N. Y. T. Nov. 7, '26.)

Nations with Russian Treaties (N. Y. T. Nov. 7, '26.)

Rights of States Asserted in Russia (N. Y. T. Nov. 11, '26.)

Rushdi at Odessa Meets Tchitcherin (N. Y. T. Nov. 13, '26.)

Declares Russia is League's Enemy (N. Y. T. Nov. 14, '26.)

Tighten Soviet Grip on Wrangel Island (N. Y. T. Nov. 15, '26.)

Woll Assails Eddy on Russian Report (N. Y. T. Nov. 16, '26.)

Soviet to Give Jews National Autonomy (N. Y. T. Nov. 18, '26.)

Dybenko Restored to Soviet Favor (N. Y. T. Nov. 19, '26.)

Red International Dreary in Moscow (N. Y. T. Nov. 28, '26.)

Soviet Traffic in Opium (C. E. T. No. 3309, Jan. 20, '27. P. 43.)

Constitution of the Russian Communist Party By J. Davis (C. H. Vol. XXV. No. 5, Feb., '27. P. 713.)

Internal Strife Among Soviet Leaders. By W. Duranty (C. H. Vol. XXV. No. 5, Feb., '27. P. 708.)

希　臘

The Meaning of the Greek Election (N. Y. T. Nov. 10, '26.)

New Greek Chamber May Soon Dissolve (N. Y. T. Nov. 11, '26.)

波　蘭

Pilsudski Nearer to Supreme Rule (N. Y. T. Nov. 6, '26.)

Pilsudski Clamps Muzzle on Press (N. Y. T. Nov. 8, '26.)

Poland to Observe Dual Anniversary (N. Y. T. Nov. 11, '26.)

Pilsudski to Face Hostile Diet To-day (N. Y. T. Nov. 16, '26.)

Pilsudski Ready for Sejm (N. Y. T. Nov. 13, '26.)

Pilsudski Silences Dict Critics of Gag (N. Y. T. Nov. 17, '26.)

其　他

Stockholm Police Seize Reds on Eve of Royal Wedding (N. Y. T. Nov. 4, '26.)

Leopold and Astrid Wed at Stockholm in Great Splendor (N. Y. T. Nov. 5, '26.)

Fear Caup Détat in Rumanian Plots (N. Y. T. Nov. 11, '26.)

Ferdinand Reported Dying; Rnmanians Turn to Helen as Most Fit for Regency (N. Y. T. Nov. 26, '26.)

Hungary Struggles to Win Prosperity (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

獨逸

Germany Seeks Way to Obtain Colonies (N. Y. T. Nov. 2, '26.)

Advocates Treaty on German Claims (N. Y. T. Nov. 17, '26.)

Beck Says Germany Should Pay Claims (N. Y. T. Nov. 18, '26.)

Reichstag Backs Stresemann Policy (N. Y. T. Nov. 26, '26.)

What Germany is Doing (Q. R. No. 491, Jan., '27.)

German Reparation Payments (N. C. D. N. Jan. 22, '27.)

Germany's War Guilt Reaffirmed. By R. Turner (C. H. Vol. XXV. No. 5, Feb.,' 27. P. 648.)

The Problem of the Former German Colonies By K. J. Gallagher (C. H. Vol. XXV. No. 5, Feb., '27. P. 663.)

和蘭及白耳義

Oil from Coal. New Dutch Method (E. E. No. 1, Jan. 27, '27. P. 16.)

Leopold and Astrid Marry in Brussels ; 200,000 Cheer Them (N. Y. T. Nov. 11, '26.)

Belgian Monetary Reform (Com. R. No. 52, Dec. 27, '26. P. 804.)

伊太利

Shot Fired at Mussolini Rips Coat, But He Escapes ; Mob Kills Boy Assailant. (N. Y. T. Nov. 1, '26.)

Shouts for Death of Mussolini Foes Roar Through Italy (N. Y. T. Nov. 2, '26.)

Blood Shed in Riots Throughout Italy ; Many are Killed (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

French and Italians Clash Near Border. (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

Italian Newspapers Raided by Armed Gang (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

Mussolini Pledges Drastic Measures (N. Y. T. Nov. 5, '26.)

Took Fascist Money Says Col. Garibaldi (N. Y. T. Nov. 5, '26.)

Fascisti Put Ban on All Opposition in Word or Deed (N. Y. T. Nov. 6, '26.)

Mussolini to Give Answer to France on Garibaldi 'Plot' (N. Y. T. Nov. 7, '26.)

Italian Fascist Gets Hot Vienna Reception (N. Y. T. Nov. 7, '26.)

Sift Fascisti Plot to Embroil France in Italy and Spain (N. Y. T. Nov. 8, '26.)

Italy to Fund Debt by $ 879,450,000 Loan (N. Y. T. Nov. 8, '26.)

Peace Overture is Made by Italy as French Protest (N. Y. T. Nov. 9, '26.)

Funding of Debt Approved in Italy (N. Y. T. Nov. 9, '26.)

Fascist Leaders to Weed Out Party (N. Y. T. Nov. 9, '26.)

Death Penalty Restored in Italy (N. Y. T. Nov. 10, '26.)

Apology to France Sent by Mussolini for Flag Insults (N. Y. T. Nov. 10, '26.)

Mussolini Regrets Attacks on French (N. Y. T. Nov. 16, '26.)

Italy Tackles Debt of 20 Billion Lire (N. Y. T. Nov. 17, '26.)

Mussolini Lauds Bernardi in Senate (N. Y. T. Nov. 17, '26.)

Garibaldi Now Held as Political Prisoner (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Publisher Withdraws 'Whispering Gallery' in England Because of Storm of Criticism (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

Britain and Dominions Reorganize the Empier ; Change the King's Title (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

Empire is Welded, British Believe (N. Y. T. Nov. 22, '26.)

'Whispering' Book Admitted a Hoax (N. Y. T. Nov. 22, '26.)

New Empire Status Pleases Dominions (N. Y. T. Nov. 23, '26.)

Pearson, Supplier of Literary Hoax, Arrested; "Whispering" Book Publishers Charge Fraud (N. Y. T. Nov. 26, '26.)

Lloyd Gecrge Bids for Labor Support (N. Y. T. Nov. 28, '26.)

Kylsant Now Leads in World Shipping (N. Y. T. Nov. 29, '26.)

Lloyd George Appeal Rejected by Labor (N. Y. T. Nov. 29, '26.)

The Strength of England. By Majar-General Sir George Aston, K. C. B. (Q. R. No. 491, Jan., '27.)

Review of British Trade (N. C. D. N. Feb. 2, '27.)

Lancashire Trade Review (N. C. D. N. Feb. 9, '27.)

London Stock Market Review (N. C. D. N. Feb. 15, '27.)

佛　　蘭　　西

Franc Retrieves Loss Since April (N. Y. T. Nov. 5, '26.)

Big French Budget Passes Committee (N. Y. T. Nov. 6, '26.)

France will Deport Garibaldi for Plot (N. Y. T. Nov. 11, '26.)

French Treasury Improves Rapidly (N. Y. T. Nov. 11, '26.)

French Deputies Face New Situation (N. Y. T. Nov. 12, '26.)

France Plans to Cut Army to 400,000 Men & Reduce Conscription Term to One Year (N. Y. T. Nov. 12, '26.)

Coolidge Amazes French, Who See Debt Collecting Put Above All Obligations (N. Y. T. Nov. 13, '26.)

France Lays Bare a Maze of Plots (N. Y. T. Nov. 14, '26.)

Help of Bankers Offered to France if on Firm Basis (N. Y. T. Nov. 15, '26.)

Lull in Franc Rise Helps Avert Crisis (N. Y. T. Nov. 19, '26.)

Foch Repudiates Lauzanne Article (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

Rise of the Franc Costs France Dear (N. Y. T. Nov. 23, '26.)

Berenger Resigns Post as Envoy Here (N. Y. T. Nov. 24, '26.)

Raids by Fascisti Feared by France (N. Y. T. Nov. 24, '26.)

Gives French Police Note to Garibaldi (N. Y. Y. T. Nov. 24, '26.)

France Nears Crisis Over Unemployment ; Big Industries Already Forced to Curtail (N. Y. T. Nov. 27, '26.)

France Likely to Send Count Francois Dejean as Her Ambassador if Coolidge is Agreeable (N. Y. T. Nov. 29, '16.)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Matters India—Indian Currency (S. F. P. Jan. 14, '27.)

澳洲

Another Mission to Study America (N. Y. T. Nov. 28, '26.)

Australian's Foreign Trade Development (Com. R. No. 1, Jan. 3, '27. P. 53.)

其他

Russian Domination of Turkey Doubted (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

Explains Our Delay in Iraq Oil Fields (N. Y. T. Nov. 23, '26.)

Early Spanish and Portuguese Travellers in Persia—II. By Lieut-Colonel Sir Arnold Wilson, K. C. I. E., C. S. I., C. M. G., D. S. O. (A. R. Vol. XXIII. No. 73, Jan., '27. P. 129.)

Turkey Taking her Place Among Modern Nations. By A. R. Bey (C. H. Vol. XXV. No. 5, Feb., '27. P. 661.)

■歐 羅 巴■

General

Empire's Premiers Plan Nationhood for All Dominions. (N. Y. T. Nov. 3, '26.)

Shortage of Coal Confronts Europe (N. Y. T. Nov. 7, '26.)

Nationhood Status Problem in Empire (N. Y. T. Nov. 9, '26.)

World Court Reply by Europe Expected (N. Y. T. Nov. 13, '26.)

One Flag for Europe is Unfurled at Vienna (N. Y. T. Nov. 14, '26.)

British Warn League on Mandate Inquiry (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

Marconi Predicts New Wireless Era (N. Y. T. Nov. 22, '26.)

London Rubber Quiet ; Tin Prices Decline (N. Y. T. Nov. 22, '26.)

Germany is Owner of Hostile Paper (N. Y. T. Nov. 23, '26.)

Plan Huge Trust to Fight America (N. Y. T. Nov. 29, '26.)

Reparations Payments to France Under the Dawes Plan (Com. R. No. 2, Jan. 10, '27. P. 76.)

The Metallurgic Cartel (N. C. D. N. Feb. 11, '27.)

英國

Baldwin Sees Hope at Last for Europe (N. Y. T. Nov. 10, '26.)

Dominions Approve Downing Street Plans (N. Y. T. Nov. 11, '26.)

London Hears Asia is Forming League (N. Y. T. Nov. 11, '26.)

Lauds Us as Friend of the Dominions (N. Y. T. Nov. 12, '26.)

Dominion Premiers Limit Immigration (N. Y. T. Nov. 16, '26.)

Dominions Agree on Locarno Stand (N. Y. T. Nov. 17, '26.)

Lloyd George Again Seeks Party Peace (N. Y. T. Nov. 19, '26.)

Britain Cautioned not Imitate Us (N. Y. T. Nov. 19, '26.)

Book on Notables Makes London Gasp (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

Coal Strike's Cost is Load on Britain (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

Text of the Imperial Conference Report Reorganizing the British Empire (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Het Kruitvat van Verre Oosten (S. Hb. Jan. 29, '27.)

Immigratiedienst (S. Hb. Jan. 29, '27.)

De Buitenlandsche Handel der Buitengewesten in 1925 (H. N. v. d. D. Jan. 28, '27.)

Visscherij-kwestie (H. N. v. d. D. Jan. 29, '27.)

De Sumatra-reis van den Gouverneur-Generaal (H. N. v. d. D. Jan 29, '27.)

'slands Steenkolen en Tin (S. Hb. Feb. 3, '27.)

Verscheping van Palmolie (S. Hb. Feb., '27.)

Muntscheiding Tusschen Nederland en Indië (S. Hb. Feb. 4, '27.)

De Bestuurs Conferentie te Fort de Kock (S. Hb. Feb. 4, '27.)

Lezing over het Emka Rubberbereidings-procédé (S. Hb. Feb. 4, '27.)

Bestuurs Conferentie (H. N. v. d. D. Feb. 4, '27.)

Japan's Economische Relaties met Ned-Indië (H. N. v. d. D. Feb. 5, '27.)

英 領 印 度

Aspects of the Controversy on Customary Law in India. By C. Van Vollenhoven (with Map) (A. R. Vol. XXIII. No. 73, Jan., '27. P. 113.)

Post and Telegraph Work in India. By Sir Geoffrey R. Clarke. C. S. I., O. B. E. (A. R. Vol. XXIII. No. 73, Jan., '27. P. 79.)

Opium in China and Ind Indian. By Sir Richard Dane, K. C. I. E. (A. R. Vol. XXIII. No. 73, Jan., '27. P. 49.)

The Indian States : III. Baroda. By Colonel M. J. Meade, C. I. E. (A. R. Vol. XXIII. No. 73, Jan., '27. P. 42.)

The Indian Co-Operative Movement. By Sir Lalubhai Samaldas, C. I. E. (A. R. Vol. XXIII. No. 73, Jan., '27. P. 33.)

Bombay Textiles (F. E. R. Jan., '27. P. 16.)

Sauce for the Gander (Japan and India) (T. O. I. No. 1, Jan. 1, '27. P. 7.)

The Population Issue in Japan (R. G. No. 2, Jan. 10, '27. P. 28.)

India and Sugar-Growing (T. O. I. No. 3, Jan. 15, '27. P. 7.)

Progress in Agricultore (T. O. I. No. 3, Jan. 15, '29. P. 7.)

Fourth Forecast of Rice Crop (R. G. No. 3, Jan. 17, '27. P. 3.)

Tea and Rubber Make Ceylon Wealthy (Com. R. No. 3, Jan. 17, '27. P. 137.)

Indian Stores Department Buys Larger Volume (Com. R. No. 3, Jan. 17, '27. P. 185.)

Britsch-Indische Katoen-industrie (S. Hb. Jan. 20, '27.)

New Reserve Bank (T. O. I. No. 4, Jan. 22, '27. P. 5.)

Protection to Steel (T. O. I. No. 4, Jan. 22, '27. P. 16.)

Currency Commission's Recommendations (R. G. No. 4, Jan. 24, '27. P. 19.)

The Steel Industry in India (R. G. No. 5, Jan. 31, '27. P. 22.)

Viceroy Opens Legistature (R. G. No. 5, Jan. 31, '27. P. 17.)

Burma Legislative Council (His Excellency's Speech) (R. G. No. 5, Jan. 31, '27. P. 11.)

Report of the Chief Inspector of Mines (Burma Items) (R. G. No. 5, Jan. 31, '27. P. 9.)

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

A Year's Imports (1926) (B. T. Jan. 21, '27.)

英 領 馬 來

Indian Trade Position—Viceroy's Important Speech (S. F. P. Jan. 5, '27.)

British Malaya Rubber—December Statistics (S. F. P. Jan. 6, '27.)

A Rubber Producers' Pool—London Press Comment (S. F. P. Jan. 8, '27.)

The Problem of Singapore—Naval Base there or in Australia ? (S. F. P. Jan. 13, '27.)

Beperking van de Ananas-productie (S. Hb. Jan. 17, '27.)

Perak Development—Progress of Hydro-Electric Scheme Preliminaries (S. F. P. Jan. 14, '27.)

蘭 領 東 印 度

Communist Revolt Spreads Through Java (N. Y. T. Nov. 17, '26.)

All Red Leaders Held in Javanese Prisons (N. Y. T. Nov. 22, '26.)

Java Holds Rebel Chief (N. Y. T. Nov. 26, '26.)

Degroei van Java's Bevolking (K. S. Dec., '26.)

Enkel opmerkingen naar aanleiding van het Jaarverslag van de Javasche Bank over het Boekjaar 1925—1926 (K. S. Dec., '26.)

De Suikerproductie van Oogstjaar 1926 (S. i. N. I. No. 7, '27.)

Het Klimaat van Ned-Indië (H. N. v. d. D. Feb. 8, '27.)

Advance of the Java Tea Industry (F. E. R. Jan., '27. P. 28.)

De Haven van Sabang (I) (S. Hb. Jan. 11, '27.)

Plannen tot Exploitatie van de Visscherij in Indië (H. N. v. d. D. Jan. 12, '27.)

De Belasting op de Vervoermiddelen (S. Hb. Jan. 12, '27.)

Een Economische Overeenkomst Tusschen de Sovjets en Japan ? (S. Hb. Jan. 13, '27.)

De Toestand op Koepang (S. Hb. Jan. 13, '27.)

Volksraad-verkiezingen (H. N. v. d. D. Jan. 14, '27.)

De Banka-tinwinning (H. N. v. d. D. Jan. 15, '27.)

Het Vischerij Probleem (H. N. v. d. D. Jan. 15, '27.)

Gasoline and Kerosene Trade of Sumatra (Com. R. No. 3, Jan. 17, '27. P. 171.)

Het Slotbedrijf van de Nieuw-Guinea-Expeditie (S. Hb. Jan. 18, '27.)

De Statistische Welvaart-Commissie (H. N. v. d. D. Jan. 19, '27.)

De Oorlogsbegrooting en Legeruitbreiding (S. Hb. Jan. 19, '27.)

Ontwikkeling van Bedrijfsvorm (S. Hb. Jan. 19, 20, 21, '27.)

Havenwezen in 1928, (S. Hb. Jan. 19, '27.)

Een Maritiem punt van Internationale Beteekenis, de haven van Sabang (II) (S. Hb. Jan. 19, '27.)

Statistiek van de Intergewestelijke Handelsbeweging der Buitenbezittingen over het Eerste Halfjaar 1926 (H. N. v. d. D. Jan. 21, '27.)

Sumatra's Recent Commercial Expansion (Com. R. No. 4, Jan. 24, '27. P. 204.)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Answer Made to Thompson Suggestions (P. H. Feb. 3, '27.)

Many Members of Congress Coming to P. I. this Year (P. H. Feb. 5, '27.)

Malaria Work in Full Swing (P. H. Feb. 9, '27.)

Chinese Bank Makes Profit of P. 239.000.000 (P. H. Feb. 18, '27.)

National Bank Buys Echaus Interest in Binalbagan Estate (P. H. Feb. 19, '27.)

Means of Bettering Hemp Industry are Suggested (P. H. Feb. 19, '27.)

佛 領 印 度 支 那

Indo-China. By G. W. Sheppard (C. R. Vol. LVII. No. 12, Dec., '21. P. 862.)

La politique du Japon (Le J. Jan. 20, '27.)

Hollandsche Cultuur-menschen in Indo-China (H. N. v. d. D. Jan. 21, '27.)

Le Developpement économique de nos Colonies (F. I. Jan. 29, '27.)

L'enseignement technique et la mise en valeur de l'Indochine (F. I. Jan. 29, '27.)

La Situation des Chinois en Cochinchine (le C. S. Jan. 31, '27.)

Le Régime des concessions en Indochine (le C. S. Jan. 31, Feb. 1, '27.)

French Co-operation in Indo-China (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 10, Feb. 5, '27. P. 258.)

Programme pour les Colonies (le C. H. Feb. 7, '27.)

Mise en valeur du Haut-Tonkin (le C. S. Feb. 7, 8, '27.)

Les Funérailles de l'empereur du Japon (le C. S. Feb. 7, 8, '27.)

Le Gouvernement étudie le relèvement des soldes indigènes (le C. S. Feb. 8, '27.)

L'Indochine doit-elle se lancer dans la culture du coton ? (le C. S. Feb. 8, '27.)

Capitaux et Colonies (le C. S. Feb. 9, '27.)

Au Laos. L'assemblée Consultutive Indigène (A. T. Feb. 9, '27.)

Le Contrôle des valeurs coloniales (le C. S. Feb. 10, '27.)

Les Métis dans nos colonies (le C. S. Feb. 11, '27.)

L'activité financière aux Colonies (le C. H. Feb. 11, '27.)

暹 羅

Mining in Siam (R. No. 21, July., '26. P. 329.)

Report on a Tour of Botanical Section in the Circles of Chantaburi and Prachinburi (R. No. 21, 22, July, Oct., '26. P. 337, 387.)

The Siam Market (R. No. 21, 22, July, Oct., '26. P. 318, 393.)

Review of the Teak Market (R. No. 22, Oct., '26. P. 379.)

Report on the Co-operative Movement in Siam (R. No. 22, Oct., '26. P. 405.)

Timber Market During the June Quarter, '26 (R. No. 22, Oct., '26. P. 426.)

The Mineral Market for the Months of April, May, June, '26 (R. No. 22, Oct., '26. P. 432.)

The Rice Crop of Siam for the Year 1925—26 (R. No. 22, Oct., '26. P. 443.)

The Foreign Commerce of Siam for the Months of April, May, June (R. No. 22, Oct., '26. P. 449.)

A Year's Exports (1926) (B. T. Jan. 19, '27.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

The Water Supply of Hongkong (F. E. R. Jan., '27. P. 38.)

The Special Aims of the Hongkong University (H. D. P. Jan. 12, '27.)

How the Pirates Prey Upon Shipping (H. D. P. Feb. 1, '27.)

Chinese in the Caribbean (H. D. P. Feb. 16, '27.)

Finance Committee-Supplementary Expenditure for 1927 (H. D. P. Feb. 18, '27.)

比 律 賓

Gen. Wood Enlarges His Authority (N. Y. T. Nov. 10, '26.)

Wood Order Jolts Filipino Leaders (N. Y. T. Nov. 11, '26.)

Filippino Body Here Accuses Gen. Wood (N. Y. T. Nov. 17, '26.)

Thompson Returns with Call Far End of Philippine Feud (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

Many Big Obstacles to Filippinos' Aims (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

Competition in the Philippine Islands (Com. R. No. 52, Dec. 27, '26. P. 834.)

Plant to Open Farm Banks in P. I. Hits Snag (P. H. Jan. 4, '27.)

Fuga Deal is Intended to Cause Fright (P. H. Jan. 5, '27.)

New Committee Won't Control Local Issues (P. H. Jan. 7, '27.)

Shadow Boxing in P. I. Debate Seen in House (P. H. Jan. 8, '27.)

Trinidad Says Sugar of Islands Out of Danger (P. H. Jan. 8, '27.)

National Coal—Government Firm has no Market for Product (P. H. Jan. 9, '27.)

Investment in 1926 Greater than in 1925 (P. H. Jan. 11, '27.)

Coal Company Case Heard by Supreme Court (P. H. Jan. 12, '27.)

Rubber Men to Convene—All Interested in Financing Rubber Production to Take Up Thompson Report (P. H. Jan. 13, '27.)

Firestone. Jr. Tells Why P. I. not Selected (P. H. Jan. 14, '27.)

Important Law Book Now Ready (P. H. Jan. 19, '27.)

Capital Say in P. I., Says Firestone Jr. (P. H. Jan. 19, '27.)

Friendship of P. I. and U. S. is being Sought (P. H, Jan. 22, '27.)

Workers out as Result of Lack of Fund (P. H. Jan. 23, '27.)

United States Trade in Rubber Manufactures with the Philippines. (Com. R. No. 4, Jan. 24, '27. P. 228.)

Demurrer to be Filed by Quezon Group (P. H. Jan. 26, '27.)

Malaria Work Systematized (P. H. Jan. 26, '27.)

Farm Bank to be Organized (P. H. Jan. 29, '27.)

Japanese Chamber Being Organized P. H. Jan. 29, '27.)

Colonel Thompson's Philippine Report Full Text) (C. H. Vol. XXV. No. 5, Feb., '27. P. 722.)

Envoy's Full Statement is Released Here (P. H. Feb. 1, '27.)

Quezon Stands by Protective Shipping Laws (P. H. Feb. 3, '27.)

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

China's Exports to U. S. for 1926 (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 9, Jan. 29, '27. P. 234.)

China's Exports to the Philippines (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 9, Jan. 29, '27. P. 234.)

Who's Who in China—Mr. Liang Yueng-li (梁鋆立) (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 9, Jan. 29, '27. P. 241.)

Salt Revenue Financial Results for 1926 (C. E. B. No. 310, Jan. 29, '27. P. 52.)

Farms and Farming at Tanyang (丹陽) Kiangsu. (C. E. B. No. 310, Jan. 29, '27. P. 58.)

Summary of Strike in Shanghai in December (C. E. B. No. 310, Jan. 29, '27. P. 59.)

The Powers and China (R. G. No. 5, Jan. 31, '27. P. 22.)

Modern Banditry in Honan (河南) (N. C. D. N. Jan. 31, Feb. 2, 5, 7, 10, 12, 16, 18, '27.)

Sericulture in Wusih (無錫) in Kiangsu (江西) (C. E. J. Vol. I. No. 2, Feb., '27. P. 142.)

Sugar Business in Shanghai (C. E. J. Vol. I. No. 2, Feb., '27. P. 160.)

Agriculture in Hupeh (湖北) (C. E. J. Vol. I. No. 2, Feb., '27. P. 166.)

The Trade of China. By Dr. F. Otte (C. E. J. Vol. I. No. 2, Feb., '27. P. 193.)

The Shanghai Gold Stock Exchange. By E. Kann (C. E. J. Vol. I. No. 2, Feb., '27. P. 201.)

Labor Conditions in Chekiang (浙江) (C. E. J. Vol. I. No. 2, Feb., '27. P. 216.)

The Dai Fook (臺伏) Dollar of Foochow (福州) (C. E. J. Vol. I. No. 2, Feb., '27. P. 127.)

China Abrogating Unfair Treaties with the Powers. By Y. Kwang-Sheng. (C. H. Vol. XXV. No. 5, Feb., '27. P. 697.)

U. S. Participation in China's Textile Trade. By B. Y. Lee (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 10, Feb. 5, '27. P. 257.)

Bolshevik Romance and Reality. By Victor Chernov (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 10, Feb. 5, '27. P. 254.)

Origin and Aims of the Nationalist Party. By Chang Wei Chiu (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 10, Feb. 5, '27. P. 252.)

Wenchow Oranges (C. E. B. No. 311, Feb. 5, '27. P. 67.)

Match Factories in Tientsin (C. E. B. No. 311, Feb. 5, '27. P. 74.)

Silkworm Raising in Chekiang Province (C. E. B. No. 311, Feb. 5, '27. P. 72.)

Silk Filatures in Shanghai (C. E. B. No. 311, Feb. 5, '27.)

Hunan Under the Bolsheviks (N. C. D. N. Feb. 8, '27.)

Neutralization of Shanghai not an American Scheme but Chinese (N. C. D. N. Feb. 9, '27.)

Railway Control by Powers China's Only Hope—Reds and Militarists Impartially Denounced (N. C. D. N. Feb. 10, '27.)

Lime Burning in Nanchang an Kingtehchem (景德鎮) (C. E. B. No. 312, Feb. 12, '27. P. 87.)

Tea Trade in Peking (C. E. B. No. 312, Feb. 12, '27. P. 84.)

Silk Filatures and Weaving Factories in Chekiang (C. E. B. No. 312, Feb. 12, '27. P. 81.)

Special Area in Hankow (C. E. B. No. 312, Feb. 12, '27. P. 79.)

China in 1926 (N. C. D. N. Feb. 14, 16, '27.)

Chinese Christians and the Kuomingtang Move (N. C. D. N Feb. 15, '27.)

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

How Canton and the Soviet Got Together. By Fritz M. Wirkowski (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 6, Jan. 8, '27. P. 145.)

What is Behind the 'New' British Policy ? (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 6, Jan. 8, '27. P. 141.)

The Question of Forests and Floods. By D. Y. Lin, M. F. (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 6, Jan. 8, '27. P. 147.)

Who's Who in China—Judge C. H. Chang (張正學) (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 6, Jan. 8, '27. P. 161.)

U. S. Export Trade in Rubber Goods with China Grows in 1926. (Com. R. No. 2' Jan. 10, '27. P. 91.)

Caravan Transport Across Mongolia (Com. R. No. 2, Jan. 10, '27. P. 78.)

Great Britain and China (C. E. T. No. 3308, 3309, 3310, Jan. 13, 20, 27, '27.)

Industrial Machinery Market of China (From Commerce Reports). By W. H. Rastall (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 7, Jan. 15, '27. P. 177.)

Last Year a Banner One for Silk Trade. By Paul K. Whang (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 7, Jan. 15, '27. P. 175.)

Last Year a Bad One for the Cotton Trade. By B. Y. Lee (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 7, Jan. 16, '23. P. 174.)

The Exploiters of the System of Extraterritoriality (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 7, Jan. 15, '27. P. 171.)

What the Cantonese Have Gotten Out of Russia ! By Fritz M. Witkowski (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 7, Jan. 15, '27. P. 173.)

…'s Who in China—Mr. Wang Yin-tai (王蔭泰) (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 7, Jan. …, '27. P. 186.)

Events in China (R. G. No. 3, Jan. 17, '27. P. 23.)

The Powers and China (C. E. T. No. 3309, Jan. 20, '27. P. 41.)

Can the Powers Keep Their "Rights" in China ? (From the New Republic, N. Y.) (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 8, Jan. 22, '27. P. 201.)

New Kuomintang Rules Regulating Strikes (C. W. R. Vol. XXXIX No. 8, Jan. 22, '27. P. 206.)

Industrial Nantungchow (From the Chinese Economic Bulletin) (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 8, Jan. 22, '27. P. 207.)

Great Britain and China (R. G. No. 4, Jan. 24, '27. P. 25.)

Road Transportation in South China (Com. R. No. 4, Jan. 24, '27. P. 213.)

Chinese Abroad (C. E. T. No. 3310, Jan. 27, '27. P. 61.)

The Defence of Shanghai (C. E. T. No. 3310, Jan. 27, '27. P. 55.)

Engineering Progress in Shanghai (E. E. No. 1, Jan. 27, '27. P. 16.)

Chinese Nationalist Policy and Mr. Chen (陳…) (C. E. T. No. 3310, Jan. 27, '27. P. 55.)

The Element of Fear in Sino-Foreign Relations (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 9, Jan. 29, '27. P. 221.)

British Holders of Chinese Government Bonds (From the London Times Trade and Engineering Supplement for December 18, 1926) (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 9, Jan. 29, '27. P. 225.)

China Uses Much American Timber. (By Geo. W. Missemer (C. W. R. Vol. XXIX. No. 9, Jan. 29, '27. P. 230.)

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

The New Yunnan Kopei Railway. By E. P. Williams, Jr. (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 3, Dec. 18, '26. P. 68.)

Vast Economic Penetration Follows "Friendship" Policy. By B. Y. Lee (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 3, Dec. 18, '26. P. 60.)

Why Sun Chuan-fang is Losing Out. By B. L. Cheu (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 3, Dec. 18, '26. P. 59.)

Why American Trade in China will Grow. By Geo. W. Missemer (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 3, Dec. 18, '26. P. 62.)

The Future of the French Concession. By Geo. W. Missemer (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 3, Dec. 18, '26. P. 72.)

Silk Filatures in Shanghai (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 3, 4. Dec. 18, 25, '26. P. 75, 94.)

The Passing of Peking as China's Capital (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 4, Dec. 25, '26. P. 87.)

Canton's Promise and Performance. By Charles Dailey (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 4, Dec. 25, '26. P. 88.)

The New Strong Man of China. By Lewis S. Gannett. (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 4, Dec. 25, '26. P. 90.)

Decline of British Textile Trade in China. By B. Y. Lee (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 4, Dec. 25, '26. P. 92.)

Aluminum's Opportunity in China. By Geo. W. Missemer (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 4, Dec. 25, '26. P. 94.)

The National Movement in China. By R. F. Johnston, C. B. E. (Q. R. No. 391, Jan., '27.)

The State of China (F. E. R. Jan., '27. P. 12.)

Industrial Machinery Market of China. (F. E. R. Jan., '27. P. 30.)

America's Tobacco Trade in China Grows. By Geo. W. Missemer (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 5, Jan. 1, '26. P. 126.)

Bolshevizing the Yale-in-China College. By Charles Dailey (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 5, Jan. 1, '27. P. 116.)

Japanese Responsible for Decreasing British Trade in China (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 5, Jan. 1, '27. P. 124.)

The Bolshevik Bogey in China (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 5, Jan. 1, '27. P. 122.)

Senator Borah's Appeal for Justice for China (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 5, Jan. 1, '27. P. 120.)

British Claim Loans Not Imperialistic (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 5, Jan. 1, '27. P. 117.)

Recommendation of the Shanghai Traffic Commission (Com. R. No. 1, Jan. 3, '27. P. 46.)

Life in China (C. E. T. No. 3307, Jan. 6, '27. P. 10.)

The Powers and China (C. E. T. No. 3307, Jan. 6, '27. P. 11.)

Hongkong Trade-Japanese Competition in Cotton Goods (S. F. P. Jan. 8, '27.)

'Native' Banks Still Powerful in Chinese Trade By B. Y. Lee (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 6, Jan. 8, '27. P. 146.)

Chinese Egg Products Trade Growing. By Geo. W. Missemer (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 6, Jan. 8, '27. P. 158.)

List of Chinese Internal Loans Outstanding on January 1, 1927. By E. Kann (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 6, Jan. 8, '27. P. 149.)

Registration of Christian Schools in Canton. By Y. L. Lee (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 6, Jan. 8, '27.)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Uoung China is Deeply Interested in Foreign Books on Biography, History and Science. By Virginia Smith Cowper (C. W. R. Dec. 4, '26.)

An Achievement in Municipal Ownership (C. W. R. Dec. 4, '26.)

Pootung Presents Striking Contrast to Shanghai with its Many Industrial Plants. By Verne Dyson (C. W. R. Dec. 4, '26.)

Shanghai Needs a Great Increase in the Use of Power Directed Instead of Exerted by Human Beings. By G. W. Philleo (C. W. R. Dec. 4, '26.)

Shanghai Department Stores have Unique History of Their Founding. By David Au (C. W. R. Dec. 4, '26.)

Life Insurance in China Presents Many Complicated Problems. By A. J. Hughes (C. W. R. Dec. 4, '26.)

Shanghai—"The Paris of Asia is a Haven of Pleasure for Thousands of Tourists." By Geo. J. McCarthy (C. W. R. Dec. 4, '26.)

The Historic Shanghai. May 30 Affair and What has Happened Since in International Relations. By H. F. MacNair (C. W. R. Dec. 4, '26.)

Twenty-Three Years of the Motor Car in Shanghai Indicate Great Progress. By Verne Dyson (C. W. R. Dec. 4, '26.)

Many Recreation Parks Add Beauty and Provide Breathing-Space for Shanghai's Growing Population. By Louise B. Wilson (C. W. R. Dec. 4, '26.)

How Greater Shanghai Appears from a Modern Industrial Standpoint. By B. Y. Lee (C. W. R. Dec. 4, '26,)

Great Progress is Evident in Construction Methods in Shanghai Machinery Replacing Man-Power. By A. Q. Adamson (C. W. R. Dec. 4, '26.)

How Shanghai Influences the World's Prices for Gold and Silver. By E. Kann (C. W. R. Dec. 4, '26.)

A Consideration of Shanghai Present Day Real Estate—the Position in 1926. By J. S. Potter (C. W. R. Dec. 4, '26.)

Shanghai Thirty Year Ago-a Retrospect and an Optimistic Glimpse Into the Future. By Capt. Robert Dollar (C. W. R. Dec. 4, '26.)

Keeping the Melting Pot Cool is the Chief Problem of International Shanghai. By Hsu Yuan (C. W. R. Dec. 4, '26.)

Shanghai from a Historical Standpoint. (C. W. R. Dec. 4, '26.)

The Building of "Greater Shanghai" (C. W. R. Dec. 4, '26.)

Shanghai the 'Mecca' for Chinese' Bankers (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 2, Dec. 11, '26. P. 31.)

The Question of Feeding China's Millions'. By Walter H. Mallory (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 2, Dec. 11, '26. P. 32.)

The Chinese Enigma. By W. J. Hall (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 2, Dec. 11, '26. P. 35.)

Chinese Farmers Discover the Modern Pump By Jameson Y. Chang. (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 2, Dec. 11, '26.)

Shanghai to Have "Big-Small" Money. By Geo. W. Missemer (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 2, Dec. 11, '26. P. 42.)

Foreign Silk Firms and Chinese Producers. By Paul K. Whang (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 2, Dec. 11, '26. P. 42.)

Developments in the China Situation for the Past Week. (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, Dec. 11, 18, 25, '26. Jan. 1, 8, 15, 22, 29, Feb. 5, '27.)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

The Soybean as Human Food. By A. A. Horvoth (Continued from No. 1.) (C. E. J. Vol. I. No. 2, Feb., '27. P. 175.)

Fallacies of Racial Inferiority. By Franz Boas (C. H. Vol. XXV. No. 5, Feb., '27. P. 676.)

The Progress of Rubber (N. C. D. N. Feb. 1, '27.)

Moderne Geologische Denkbeelden (S. Hb. Feb. 2, '27.)

Internationale Rubber-tentoonstelling te Parijs (S. Hb. 2, '27.)

France and the Problem of the Pacific. By Senator Anatole de Monzie (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 10, Feb. 5, '27. P. 262.)

De Rubber-tentoonstelling te Parijs (H. N. v. d. D. Feb. 7, '27.)

The Oil Market in 1926 (N. C. D. N. Feb. 14, '27.)

Silver and Gold Markets in 1926 (N. C. D. N. Feb. 16, '27.)

亞 細 亞

General

Mineral Resources of the Far East. Fy C. K. Leith (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 3, Dec. 18, '26. P. 62.)

The Institute of Pacific Relation (K. S. Dec., '26.)

Butter and Cheese Trade of the Far East (Com. R. No. 52, Dec. 27, '26. P. 808.)

The New East : The New Political Organization of the Caucasus and Central Asia (A. R. Vol. XXIII. No. 73, Jan., 26. P. 109.)

日 本

Japan has New Land Law (N. Y. T. Nov. 4, '26.)

Japan Works Hard to Recoup Losses (N. Y. T. Nov. 14, '26.)

Christianity in Japan (C. R. Vol. LVII. No. 12, Dec., '26. P. 839.)

Japan en de Engelsche Vlootbasis te Singapore (S. Hb. Jan. 10, 12, '27.)

Japan's Struggling Labor Movement. By William A. Neiswanger (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 7, Jan. 15, '27. P. 180.)

Japan's Production and Exports of Cotton Yarn and Cloth (Com. R. No. 4, Jan. 24, '27. P. 220.)

De Regeeringstijd van den Overleden Japanschen Keizer en de Thans Opgetreden Kezer (S. Hb. Jan. 24, '27.)

Japan's Marine-politiek (S. Hb. Feb. 1, 2, 3, 4, '27.)

支 那 及 香 港

Borah Demands Justice for China ; Warns the Powers (N. Y. T. Nov. 17, '26.)

The Caribbean Chinese (N. Y. T. Nov. 21, '26.)

12 Nations Warn China Real Reform Must Come Before They Give Relief (N. Y. T. Nov. 29, '26.)

All Evaluation of Life for the Chinese Student. By Clarence O. Wheeler (C. R. Vol. LVII. No. 12, Dec., '26. P. 853.)

China and Leprosy. By James E. Lee (C. R. Vol. LVII. No. 12, Dec., '26. P. 856.)

Some Christian Offerings to China. By Frank Rawlinson (C. R. Vol. LVII. No. 12, Dec., '26. P. 883.)

Manufacturing of Hosiery has been Stimulated Greatly through Introduction of Machinery By Tong Younglee (C. W. R. Dec. 4, '26.)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

■世 界■

General

Hard Leather Vest Duce Wore Deflected Bullet. It is Sait (N. Y. T. Nov. 2, '29.)

Nears Perfection in Measuring Light (N. Y. T. Nov. 9, '26.)

Flexner Dissents on Sleep Sickness (N. Y. T. Nov. 10, '26.)

Ask Research Fund for Study of Coal (N. Y. T. Nov. 16, '26.)

Tells of a Process of Liquefying Coal (N. Y. T· Nov. 17, '26.)

Sees World's Food in Coal and Wood (N. Y. T. Nov. 18, '26.)

Huge Oil Supply Seen in Soft Coal (N. Y. T. Nov. 19, '26.)

Reports World Timber Nearing Exhaustion (N. Y. T. Nov. 19, '26.)

Economic Committee End Geneva Labors (N. Y. T. Nov. 20, '26.)

Women to Seek a Cure for War (N. Y. T. Nov. 28, '26.)

Coal is to Give No Gasoline and a New Fuel (N. Y. T. Nov. 28, '26.)

Demands of Allies are Sent to Berlin (N. Y. T. Nov. 29, '26.)

Civil Body Seeks Solution on Arms (N. Y. T. Oov. 29, '26.)

Pritchett Reports Zionism Will Fail (N. Y. T. Nov. 29, '29.)

Arms Discussion Advanced One Step (N. Y. T. Nov. 30, '26.)

The Church of the Future—A Living Fellowship. H. T. Hodgkin (C. R. Vol. LVII. No. 12, Dec., '26. P. 845.)

The Amazing Adventures of Silver. By J. Laurence Laughlin (C. W. R. Vol. XXXIX. No. 2, Dec. 11, '26. P. 44.)

International Industrial Combinations (Com. R. No. 52, Dec. 27, '26. P. 798.)

The Origins of the War. By Major K. N. Colvile (Q. R. No. 491, Jan., '27.)

The State and Modern Democracy. By G. W. Thomson (Q. R. No. 491, Jan., '27.)

Foreign Trade Review and Outlook for 1927 (Com. R. No. 1, Jan. 3, '27. P. 13.)

Rubber Industry in 1926 (C. E. T. No. 3307, Jan. 6, '27. P. 6.)

Rubber in 1926 and 1927 (C. E. T. No. 3307, Jan. 6, '37. P. 1.)

Europa en het Oost (S. Hb. Jan. 8, '27.)

American—Australian Leather Trade Improves During 1926 Com. R. No. 2, Jan. 10, '27. P. 102.)

International Trade in 10 Months of 1926 (Com. R. No. 3, Jan. 17, '26. P. 143.)

International Trade in Salt (Com. R. No. 3, Jan. 17, '27. P. 147.)

Olie uit Steenkool ende Rentabiliteitsvraag (S. Hb, Jan. 17, '27.)

Belangrijke Problemen in de Rubbercultuur (H. N. v. d. D. Jan. 25, '27.)

Omzetting van Steenkool en Bruinkool in Petroleum en Benzine (S. Hb. Jan. 26, '27.)

Oceanografische Expeditie (S. Hb. Jan. 27, '27.)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支那南洋其他海外
重要記事索引

臺灣總督官房調査課

■ 新聞雜誌略號一覽表 ■

A. R.	Asiatic Review (Vol. XXIII. No. 73, Jan., '27.)
A. T.	L'avenir du Tonkin (Jan. 8—Feb. 9, '27.)
B. T.	Bangkok Times (Jan. 11—Feb. 10, '27.)
C. E. B.	The Chinese Economic Bulletin (No. 310, Jan. 20—No. 312, Feb. 12, '27.)
C. E. J.	Chinese Economic Journal (No. 2, Feb., '26.)
C. E. T.	China Express and Telegraph (No. 3307, Jan. 6—No. 3310, Jan. 27, '27.)
C. H.	Current History (Vol. XXV. No. 5, Feb., '27.)
Com. R.	Commerce Reports (No. 52, Dec. 27, '26.—No. 4, Jan. 17, '27.)
C. R.	Chinese Recorder (Vol. LVII. No. 11, Dec., '26.)
C. W. R.	China Weekly Review (Dec. 4, '26.—Vol. XXXIX. No. 10, Feb. 5, '27.)
E. E.	Eastern Engineering (No. 1, Jan. 27, '27.)
F. E. R.	Far Eastern Review (No. 1, Jan., '27.)
F. I.	France-Indochine (Jan. 10—Feb. 9, '27.)
H. D. P.	Hongkong Daily Press (Jan. 3—Feb. 18, '27.)
H. N. v. d. D.	Het Nieuws van den Dag (Jan. 8—Feb. 8, '27.)
K. S.	Koloniale Studië (Dec., '26.)
le C. H.	Le Courrier d' Haiphong (Jan. 13—Feb. 11, '27.)
le C. S.	Le Courrier Saigonnais (Dec. 25, '26—Jan. 31, '27.)
L. N. e. H.	Landbouw, Nijverheid en Handel (Jan. 14, '27.—Feb. 4, '27.)
le T.	Le Temps (Jan. 20, '27.)
N. C. D. N.	North China Daily News (Jan. 18—Feb. 18, '27.)
N. Y. T.	New York Times (Nov. 1—30, '26.)
P. H.	Philippine Herald (Jan. 6—Feb. 19, '27.)
Q. R.	Quarterly Review (No. 491, Jan., '27.)
R.	Record (No. 21, July—No. 22, Oct., '26.)
R. G.	Rangoon Gazette (No. 2, Jan. 10—No. 5, Jan. 31, '27.)
S. F. P.	Singapore Free Press (Jan. 7—14, '27.)
S. i. N. I.	Suikerindustrië in Ned-Indie (No. 1, '27.)
T. O. I.	Times of India (No. 1, Jan. 1—No. 4, Jan. 22, '27.)

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN